

旭第二宿舎建設工事

令和7年3月

株式会社 桑田建築設計事務所

意匠図

図面番号	図面名称
A-01	図面リスト
A-02	特記仕様書（1）
A-03	特記仕様書（2）
A-04	特記仕様書（3）
A-05	特記仕様書（4）
A-06	特記仕様書（5）
A-07	特記仕様書（6）
A-08	特記仕様書（7）
A-09	特記仕様書（8）
A-10	案内図、配置図
A-11	敷地求積図
A-12	面積表（建築面積・延べ面積）
A-13	各室面積表
A-14	仕上表・主要構造部耐火性能図
A-15	各階平面図・屋根伏図
A-16	立面図
A-17	断面図
A-18	各階天井伏図
A-19	矩計図 1
A-20	矩計図 2
A-21	屋外階段 1 詳細図
A-22	屋外階段 2 詳細図
A-23	平面詳細図 1
A-24	平面詳細図 2
A-25	展開図
A-26	建具配置図
A-27	建具表 1
A-28	建具表 2
A-29	家具キープラン・家具詳細図
A-30	屋根詳細図
A-31	断熱範囲図
A-32	倉庫棟 基礎伏図・平面図・屋根伏図・立面図
A-33	倉庫棟 仕上表・建具表・詳細図
A-34	外構図 1
A-35	外構図 2
A-36	仮設計画図
A-50	地盤面算定図
A-51	法チェック図
A-52	採光換気計算
A-53	倉庫棟 壁量計算
A-54	倉庫棟 4 分割法計算
A-55	倉庫棟 N値計算
A-56	消防無意階算定

構造図

[illegible]

[illegible]

[illegible]

				設計者等表示欄 (設計者等表示欄は建築士法に基づき、建築士等がその業務に必要な表示行為を行う場合等に作成する。)		工事名 旭第二宿舍建設工事		A 05	
						図 名 建築工事特記仕様書 (4) R7.11		製 図 日 年 月 日 . .	
								千葉県	

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項
16 建築 工事	○ 15. 重量シャッター	・シャッターの種類： ○ 管理用シャッター（耐風圧強度（ ）N/m ² ） ○ 外壁用防火シャッター（耐風圧強度（ ）N/m ² ） ○ 屋内用防火シャッター ○ 防煙シャッター ・外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度：○（ ）N/m ² ・開閉方式による種類：※ 電動式（手動併用）、○ 手動式 ・急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所： ○ 建具表による、○（ ） ・障害物感知装置を設けた電動式シャッターの設置箇所： ○ 建具表による、○（ ） ・危害防止機構を設けた屋内用防火シャッターもしくは防煙シャッターの設置箇所 ○ 建具表による、○（ ） 機構 a) 危害防止装置 b) 「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」（昭和48年12月28日建設省告示第2563号）に定める基準に適合するもの ・管理用シャッターのシャッターケース：※ 設ける、○ 設けない ただし、外壁用防火シャッター、屋内用防火シャッター及び防災シャッターには設けること ・スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ○ JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） ○ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） めっきの付着量 ※ Z12またはF12、○（ ） ・ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質： ステンレス鋼板 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1、○（ ）	(16.11.2、3)	16 建築 工事	○ 19. ガラスブロック	表面形状 呼び寸法 厚さ 色調 ○ 125×125 80 ○ クリア ○ 160×160 95 ○ クリア ○ 200×200 125 ○ 乳白 ○ 320×320 95 ○ クリア ○ 250×125 80 ○ クリア ○ 320×160 95 ○ 乳白 目地幅(mm) 平積み 曲面積み 外側 ※ 8 ～15 内側 ※ 15 ～25 ※ 16.4.5(2) ※														

20

ユニット及びその他の工事

○ 23. 流し台ユニット

ユニット分類		寸法(mm)		備考
	W	D	H	
○ 流し台	○ 1,200	○ 550	○ 800	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
	○ 1,500	○ 600	○ 850	
	○ 1,800	○ 650	○	
	○	○	○	
○ コンロ台	○ 600	○ 550	○ 620	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
	○	○ 600	○ 670	
	○	○ 650	○	
	○	○	○	
○ つり戸棚	○ 1,200	○ 450	○ 500	市販品
	○ 900	○	○ 700	
	○	○	○	
	○	○	○	
○ 水切り	○ 1,200	—	—	市販品 ステンレス製 ○ 1段式、○
	○ 900			
	○ 600			
	○			

・品質・性能：JIS A 4420による
・形状：☒ 図示、○（）

○ 24. 旗竿

材質	形式	高さ(mm)	操作方法	固定方法	備考
○ アルミニウム合金製	○ テーパー式		○ ハンドル式	○ 埋込式	
	○ 同一断面式			○ ロープ式	

○ 25. 旗竿受金物

○ 26. 車止め支柱

○ 27. フェンス

形式	材質	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
○ 上下式鎖内蔵式	○ 標準品	○ ステンレス製	
○	○ スプリング式	○	
○			

フェンスの種類○ ビニル被覆エキスパンドフェンス、○ 樹脂塗装メッシュフェンス
○ 鋼管フェンス、○ アルミフェンス、○（）
高さ○ 図示、○

○ 28. プレキャストコンクリート

・コンクリートの設計基準強度：☒ 水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m³を満足する調合強度
○ 図示
・配筋：☒ 配筋を定めた計算書を監督職員に提出する、○ 図示
・取付け方法：☒ 図示、○（）
☒ 図示、○（）

(20. 3. 3、4)

(20. 4. 2、3)

○ 29. 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

材質	種類	質量区分	備考
○ 間知石	○ 花こう岩 ○ 凝灰岩	—	—
○ コンクリート間知ブロック	—	○ A ○ B	

・積み方：☒ 谷積み、○ 布積み
・目塗り：○ 図示、○（）
・伸縮調整目地：材質☒ 図示、○（）
厚さ○ 図示、○（）

(20. 4. 2、3)

○ 30. 鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	JISによる種類
○ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	○ 1種、○ 2種、○ 3種
○ 鋼製物品棚		○ 4種、○ 5種、○ 6種、○
○		

○ 31. 屋内掲示板

・枠の材質：☒ アルミニウム製、○（）
・表面の材質：☒ 塩ビ発泡シート張り、○（）

○ 32. 洗面カウンター

○ 33. 防煙垂れ壁

・材質：○ メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）、○ 人工大理石
・奥行き(mm)：○ 約 450、○ 約 600

・固定式：

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
○ 網入り磨板ガラス	☒ 6.8	☒ 500	アルミ製枠付き
○ 網入り磨板ガラス	○	○	

・可動式：

種類	材質	高さ(mm)	備考
○ 垂直降下式（巻取り型）	不燃布（不燃認定品）	☒ 500	ガイドレール
		○ 800	☒ 固定式（壁埋込型） ○ 可動式（天井収納型）
○ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	☒ 500	表面仕上げ
		○ 800	☒ 天井材張り
○		○	○

降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

○ 34. 屋外掲示板

・照明器具：☒ 有り、○ 無し
・施設：☒ 有り、○ 無し

● 35. 収納家具

・材質、形状、寸法：☒ 図示、○（）
・合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量：☒ F☆☆☆☆、○（）
・壁等に固定する家具：☒ 固定方法、寸法は家具表による、○ 下表による

家具名称	設置場所	固定方法	備考
吊戸棚	トイレ	● 壁固定（図示） ○ 床固定（図示）	
下足入	玄関	● 壁固定（図示） ○ 床固定（図示）	
収納棚	玄関	○ 壁固定（図示） ● 床固定（図示）	
棚	洗面脱衣室	● 壁固定（図示） ○ 床固定（図示）	

軽量鉄骨壁下地等への補強 ☒ 図示、○（）
収納物の散乱防止措置（ラッチ機構、ロック機構等） 調する
地震力に対する安全性
設計用震度 性能
設計用水平震度（K_H）設計用震度の地震による引抜き力に対して、固定金具に生じる応力度が所定の応力度内にあり、有害な残留ひずみが生じないものとする。
☒ 1.0
○ 2.0
設計用鉛直震度（K_V）設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。
なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。
所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む）が定める値とする。

21

排水工事

● 1. 屋外雨水排水

(21. 2. 1、2) (表 21. 2. 1、2)

・排水管用材料：

材質	管の種類	形状	呼び径	備考
○ 遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管（1種）	○ B形管	☒ 図示、○	
			○ RF-VP [図]	☒ 図示、○
○ 硬質ポリ塩化ビニル管	○ RS-VU [図]		☒ 図示、○	
	○ VP		☒ 図示、○	
	○ VU		☒ 図示、○	
	○		☒ 図示、○	

・基礎の厚さ及び種類：○ 図示、○（）
・硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料：☒ 接着剤、○ ゴム輪
・側溝の形状及び寸法：○ 図示、○（）
・排水樹、ふたの種類：○ 図示、○（）
・砂地業に用いる材料（6. 4. 2(2)）：○ シルト、○ 山砂、○ 川砂、○ 砕砂
・砂利地業に用いる材料（6. 4. 2(1)）：○ 再生クラッシュラン [図]、○ 切込砂利、○ 切込碎石
・現場打ちの場合のコンクリート：種類 ☒ 普通コンクリート、○（）
設計基準強度 ☒ 18N/mm²、○（）
スランプ ☒ 15cm又は18cm、○（）
・現場打ちの場合の鉄筋：種類の記号 ☒ SD295A、○（）
・排水樹が現場打ちの場合の足掛け物：材料 ○ ステンレス製（幅400mm、径22mm）
○ 防錆処理を行った鋼製（径22mm）
○ 合成樹脂被覆加工されたもの（径19mm）
・凍上抑制層の厚さ：○ 図示、○（）
・凍上抑制層に用いる材料：○（）
(砂を用いる場合の砂の粒度試験 ○ 行う、○ 行わない)

(21. 2. 1)

・鉄筋製マンホールふた：

種類	適用荷重	鍵	備考
○ 水封形簡易密閉形（パッキン式）	○ T-2 用	○ 有り ○ 無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会 SHASE-S209による
○ 密閉形（テーパー・パッキン式）	○ T-6 用		
○ 中ふた付き密閉形（テーパー・パッキン式）	○ T-20用		
○			

(21. 2. 1)

・鋼製：

形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	垂鉛めっき（付着量）	上面形状
○ 受枠付き、ボルト固定	○ 溝ふた（横断用）	○ 歩行用	○ 細目	—	○ 凹凸形
○	○ 溝ふた（側溝用）	○ T-2 用	○ 普通目	—	○ 平形
		○ T-6 用	○ 細目		
		○ T-14用			
		○ T-20用			

・ステンレス製：

形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	垂鉛めっき（付着量）	上面形状
○ 受枠付き、ボルト固定	○ 溝ふた（横断用）	○ 歩行用	—	—	○ 凹凸形
○	○ 溝ふた（側溝用）	○ T-2 用	—	—	○ 平形
		○ T-6 用			
		○ T-14用			
		○ T-20用			

(品質・性能及び試験方法) 建築材料等品質性能表による

(21. 3. 1、2) (表21. 3. 1)

・街きよ、縁石、側溝：

種類	形状、寸法
○ 縁石	☒ 図示、○
○ L 形側溝	☒ 図示、○
○ U 形側溝	☒ 図示、○
○ U 形側溝ふた	☒ 図示、○
○	☒ 図示、○

・砂地業の材料：○ シルト、○ 山砂、○ 川砂、○ 砕砂
・砂利地業に用いる材料：○ 再生クラッシュラン [図]、○ 切込砂利、○ 切込碎石
・砂利地業の厚さ：☒ 100 (mm)、○ 図示
・現場打ちの場合のコンクリート：種類 ☒ 普通コンクリート、○（）
設計基準強度 ☒ 18N/mm²、○（）
スランプ ☒ 15cm又は18cm、○（）
・現場打ちの場合の鉄筋：種類の記号 ☒ SD295A、○（）
・凍上抑制層の厚さ：○ 図示、○（）
・凍上抑制層に用いる材料：○（）
(砂を用いる場合の砂の粒度試験 ○ 行う、○ 行わない)

(21. 2. 1)

・埋戻し土：☒ B種、○（）

22

舗装工事

● 1. 路床

(22. 2. 2、3、5) (表22. 2. 1)

・路床の材料：

種別	材料	厚さ(mm)	
○ 盛土	○ A種、○ B種、○ C種、○ D種	○ 図示	
	○ 建設汚泥から再生した処理土 [図]	○	
	○ 再生クラッシュラン [図]、○ クラッシュラン	○ 図示	
	○ 切込み砂利	○	
○ 凍上抑制層	○ 砂（標準仕様書表21. 2. 2による）	○	
	○	○	
○ フィルター層	○ 砂（標準仕様書表22. 2. 3(3)による）	○ 図示	
○		○	

(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験)
・行う
・行わない
・路床安定処理：安定処理の方法 ○ 置き換え工法、○ 安定処理工法
路床安定化処理用添加材料
種類 ○ 普通ポルトランドセメント、○ 高炉セメントB種 [図]
○ フライアッシュセメントB種
○ 生石灰（○ 特号、○ 1号）、○ 消石灰（○ 特号、○ 1号）
○ 固化剤（○ セメント系、○ 石灰系）
添加量 kg/m³（目標QGR ○ 3以上、○（））
安定処理工法に関する試験
安定処理土のCBR試験（配合試験含む） ○ 行う、○ 行わない
(安定処理のCBR試験、配合試験は「舗装調査・試験法便覧」（安定処理土のCBR試験方法（JGS 0811準拠））、「舗装施工便覧」（5-1-4(1)）による）
六価クロム溶出試験 ○ 行う、○ 行わない
・路床置換処理：置換厚 ☒ 図示、○（）
置換材料の種類、品質 ☒ 図示、○（）
・不織布（ジオテキスタイル）：単位面積質量 ○ 60g/m²以上、○（）
厚さ(mm) ○ 0.5～1.0、○（）
引張強さ ○ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上、○（）
透水係数 ○ 1.5×10⁻⁴cm/sec以上、○（）
・試験
路床土の支持力比（CBR）試験 ○ 行う（箇所）
現場CBR試験（現場密度） ○ 行う（箇所）
路床締固めの試験 ○ 行う（箇所）
○ 行わない

(22. 3. 2、3、5) (表 22. 3. 1)

・路盤の構成及び厚さ：☒ 図示、○（）
・路盤材料の種類（標準仕様書表22. 3. 1による種別）：

砕石	○ クラッシュラン ○ 粒度調整砕石
再生材	○ 再生クラッシュラン [図] ○ 再生粒度調整砕石 [図]
鉄鋼スラグ	○ クラッシュラン鉄鋼スラグ [図] ○ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ [図]

(22. 4. 2～6) (表22. 4. 4)

・アスファルト舗装の構成及び厚さ：☒ 図示、○（）
・舗装の平坦性：☒ 通行の支障となる水たまりを生じない程度、○（）
・材料：アスファルト ○ 再生アスファルト [図]
(標準仕様書表22. 4. 1による種類 ○ 60～80、○ 80～100)
○ ストレートアスファルト
○ 道路用砕石
○ アスファルトコンクリート再生骨材 [図]
・加熱アスファルト混合物等の種類（配合は標準仕様書表22. 4. 4による）：○ 密粒度アスファルト混合物 (13)
○ 細粒度アスファルト混合物 (13)
○ 密粒度アスファルト混合物 (13F)
・試験
アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 行う、○ 行わない

(22. 5. 2～4、6) (表22. 5. 1、3)

・コンクリート舗装の構成及び厚さ：

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	○ 車路、駐車場	☒ 図示、○	☒ 図示
	○ 歩行者用通路	☒ 図示、○	☒ 70、○

・舗装の平坦性：☒ 通行の支障となる水たまりを生じない程度、○（）
・材料：コンクリート ☒ 普通コンクリートで標準仕様書表22. 5. 1による
○ 以下による
コンクリートの種類（）
設計基準強度 (N/mm²)（）
所定スランプ (cm) ☒ 8、○（）
粗骨材の最大寸法 (mm)（）
早強ポルトランドセメント ○ 使用する、○ 使用しない
注目地材料 ☒ 低弾性タイプ、○ 高弾性タイプ
アスファルト乳剤
目地 ☒ 標準仕様書 表22. 5. 3及び図22. 5. 1による
○ 以下による
種類（）
間隔（m程度ごと）
構造 ○ 図示による、○（）

(22. 6. 2～4)

○ 加熱系カラー舗装
構成及び厚さ ☒ 図示、○（）
加熱系混合物結合材 ○ アスファルト混合物
○ 石油樹脂系混合物（顔料添加量 %）
添加材
着色骨材（）
自然石（）
○ 常温系カラー舗装
工法 ○ ニート工法、○ 塗布工法
着色部の下部 ○ アスファルト舗装、○ コンクリート舗装
・舗装の平坦性：☒ 通行の支障となる水たまりを生じない程度、○（）

22

舗装工事

● 6. 透水性アスファルト舗装

(22. 7. 2、3、6)

・舗装の構成：☒ 図示、○（）
・舗装の平坦性：☒ 著しい不陸がないもの、○（）
・材料：骨材 ○ 道路用砕石
○ アスファルトコンクリート再生骨材 [図]
(標準仕様書表22. 4. 1による種類 ○ 60～80、○ 80～100)
・試験：開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 行う、○ 行わない
砂の粒度試験 ○ 行う、○ 行わない
○ 透水性コンクリート舗装：コンクリート舗装に対する基準値

項目	基準値
最大粒径 (mm)	13
空隙率 (%)	20以上
透水係数 (cm/s)	0.01以上
目地の間隔	版厚の20倍程度

構成、厚さはコンクリート舗装による
不織布（ジオテキスタイル）
敷設位置 ☒ フィルター層と路床の間に敷設、○ 図示
○ 透水性コンクリート平板舗装舗装 (22. 8. 2、3)
透水性コンクリート平板舗装は、ブロック系舗装による
○ 透水性インターロッキングブロック舗装 (22. 8. 2、3)
透水性インターロッキングブロック舗装は、ブロック系舗装による

○ 7. 半たわみ性舗装

区分	種類	厚さ(mm)
表層	半たわみ性舗装用アスファルト混合物Ⅰ型 (13)	40
基層	再生粗粒度アスファルト混合物 (20)	40

・試験：半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 行う、○ 行わない
・材料
浸透用セメントミルクの標準的な性状

項目	性状	試験方法
フロー値 (P-ロート) 砂	10 ～ 14	舗装調査・試験法便覧 (C041)
圧縮強度 (7日養生) MPa	9.8 ～ 29.4	JIS R 5201
曲げ強度 (7日養生) MPa	2.0以上	舗装調査・試験法便覧 (C042)

・配合：半たわみ性舗装用アスファルト混合物の標準配合

ふるいの呼び名	ふるいの通過質量百分率 (%)
19 mm	100
13.2 mm	95 ～ 100
4.75 mm	10 ～ 35
2.36 mm	5 ～ 22
600 μm	4 ～ 15
300 μm	3 ～ 12
75 μm	1 ～ 6
アスファルト量 (%)	3.0 ～ 4.5

半たわみ性舗装用アスファルト混合物のマーシャル安定度試験に対する基準値

項目	基準値
密度 (g/cm ³)	1.90以上
安定度 (kN)	2.94以上
フロー値 (1/100cm)	20～40
空隙率 (%)	20～28
突き固め回数 (回)	50

・施工：アスファルト混合物等の施工は、標準仕様書22. 4. 5による。
浸透用セメントミルクの施工は、(1) から (5) による。
(1) 浸透用セメントミルクの製造は、一般に移動式ミキサーによって行うが、工事規模が大きい場合には専用の移動式や固定式の混合プラントを用いることもある。
(2) 浸透用セメントミルクの施工は、一般に舗装体表面の温度が50℃程度以下になってから行う。その場合、舗装体にごみ、泥、水などが残っていないことを確認する。
浸透作業は、一般に振動ローラー等により行う。
(3) セメントミルクが舗装表面に残っていると、路面のすべり抵抗値を低下させることがあるので、舗装表面の骨材の凹凸が現れる程度にセメントミルクをゴムレーキ等で除去する。特にすべり止め対策を必要とするところは、粒砂の使用及び余剰セメントミルクのよりいっそうの除去や、材料や施工法等で対処するか、場合によっては施工後ショットブラスト等で表面を粗くすることが必要である。
(4) 交通開放までの一般的な養生期間は、下記に示すとおりである。

セメントミルクの種類	養生期間
普通タイプ	約3日
早強タイプ	約1日
超速硬タイプ	約3時間

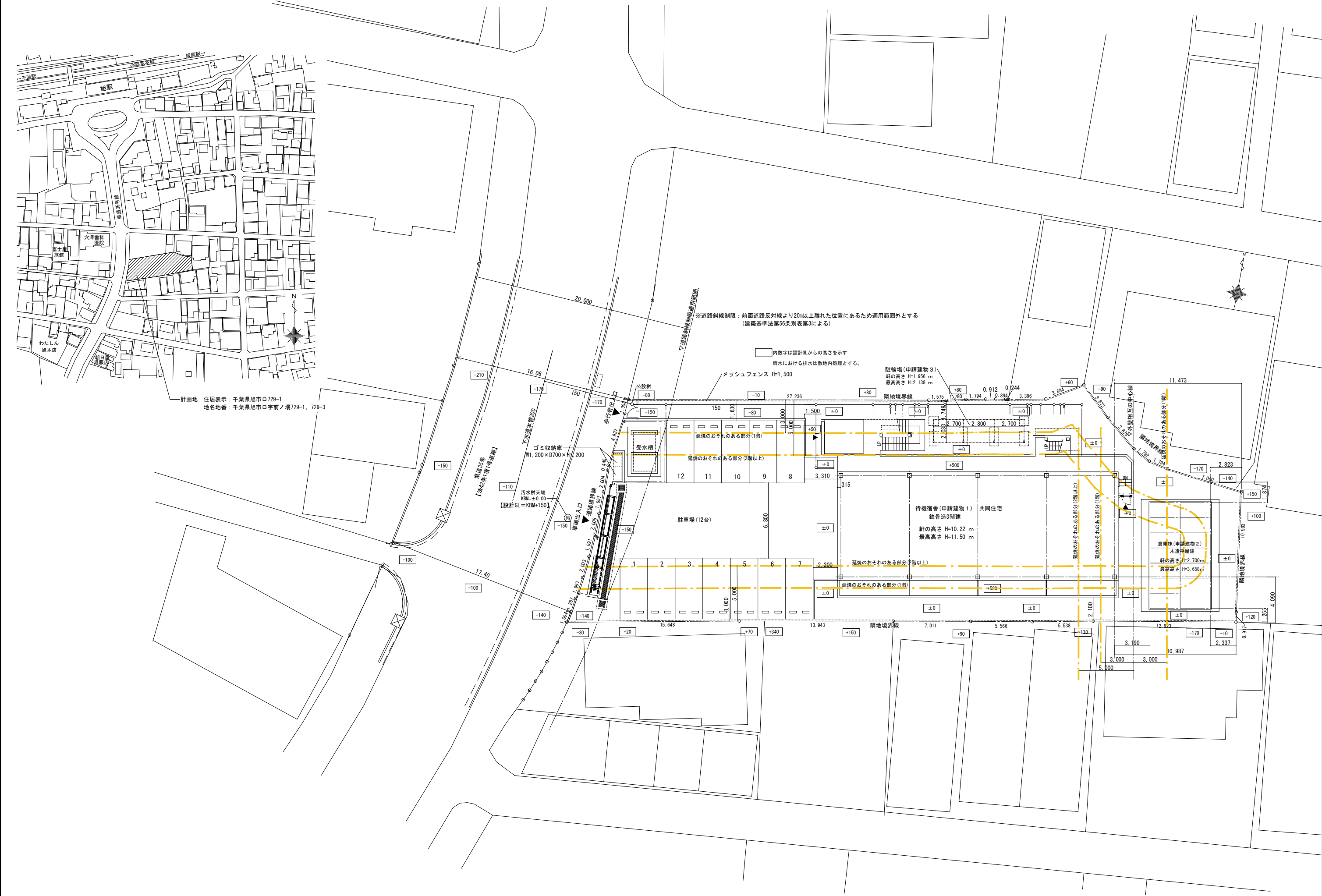
(5) 浸透用セメントミルクを注入する前に交通開放すると、骨材の剥奪や飛散、またはごみ、泥等による汚れが生じることがあるので、基本的に注入前に交通解放は行わないようにする。
締固め度 標準仕様書22. 4. 2(2)による
舗装厚さの許容差 標準仕様書22. 4. 2(3)による
舗装の平坦性 通行の支障となる水たまりを生じない程度

設計者等表示欄

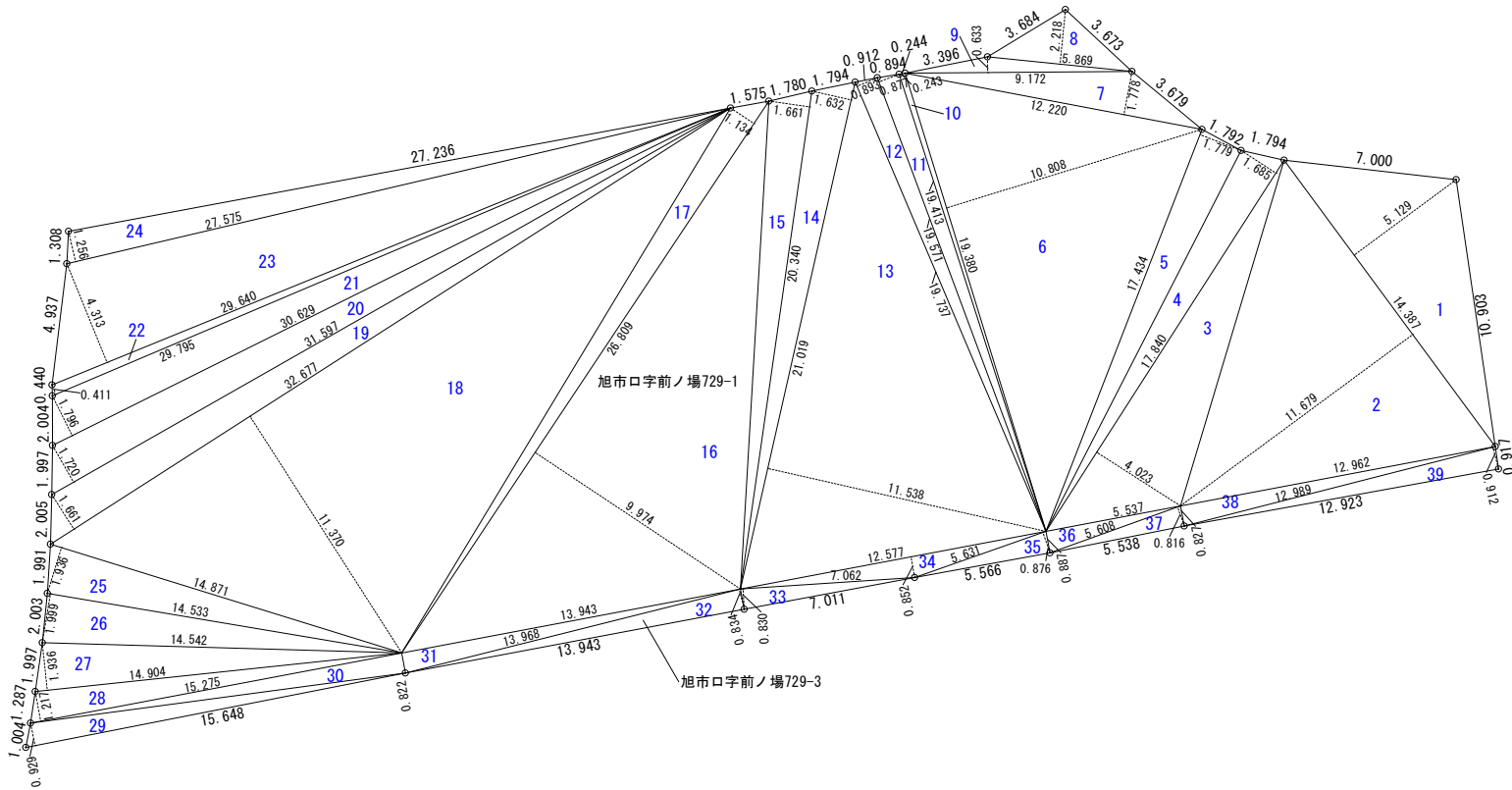
(設計者等表示欄は建築士法に基づき、建築士等がその業務に必要な表示行為を行う場合等に作成する。)

工事名 旭第二宿舍建設工事

図 名 建築工事特記仕様書（7） R7. 11 製 図 年 月 日 . . 千葉県



計画地 住居表示：千葉県旭市口729-1
地名地番：千葉県旭市口字前ノ場729-1、729-3



◇敷地面積求積表						
地番	番号	底辺	高さ	倍面積	面積	
729-1	1	14.387	5.129	73.790923	36.895462	
	2	14.387	11.679	168.025773	84.012887	
	3	17.840	4.023	71.770320	35.885160	
	4	17.840	1.685	30.060400	15.030200	
	5	17.434	1.779	31.015086	15.507543	
	6	19.380	10.808	209.459040	104.729520	
	7	12.220	1.778	21.727160	10.863580	
	8	5.869	2.218	13.017442	6.508721	
	9	9.172	0.633	5.805876	2.902938	
	10	19.413	0.243	4.717359	2.358680	
	11	19.571	0.877	17.163767	8.581884	
	12	19.737	0.893	17.625141	8.812571	
	13	21.019	11.538	242.517222	121.258611	
	14	21.019	1.632	34.303008	17.151504	
	15	20.340	1.661	33.784740	16.892370	
	16	26.809	9.974	267.392966	133.696483	
	17	26.809	1.134	30.401406	15.200703	
	18	32.677	11.370	371.537490	185.768745	
	19	32.677	1.661	54.276497	27.138249	
	20	31.597	1.720	54.346840	27.173420	
	21	30.629	1.796	55.009684	27.504842	
	22	29.795	0.411	12.245745	6.122873	
	23	29.640	4.313	127.837320	63.918660	
	24	27.575	1.256	34.634200	17.317100	
	25	14.871	1.936	28.790256	14.395128	
	26	14.533	1.999	29.051467	14.525734	
	27	14.904	1.936	28.854144	14.427072	
	28	15.275	1.217	18.589675	9.294838	
	29	15.648	0.929	14.536992	7.268496	1,043.875474
729-3	30	15.275	0.822	12.556050	6.278025	
	31	13.943	0.822	11.461146	5.730573	
	32	13.968	0.834	11.649312	5.824656	
	33	7.062	0.830	5.861460	2.930730	
	34	12.577	0.852	10.715604	5.357802	
	35	5.631	0.876	4.932756	2.466378	
	36	5.537	0.887	4.911319	2.455660	
	37	5.608	0.816	4.576128	2.288064	
	38	12.962	0.827	10.719574	5.359787	
	39	12.989	0.912	11.845968	5.922984	
敷地面積合計					51.883155	51.88
					1,095.75 (㎡)	

待機宿舎 床面積
(申請建物 1)

1階

Yb
Ya
Y3
Y2
Y1

Xa Xb

2,280

7

8

9

2,900

1,535

425

160

245

9,305

9,200

465

5,360

3,255

530

3,255

5,360

3,255

530

1,750

530

3,255

3

4

5

6

1

24,800

25,330

X1 X5

2・3階

Y3
Y2
Y1

1,535

425

160

245

9,305

9,200

465

530

3,255

5,360

3,255

530

3,255

5,360

3,255

530

1,960

2

3

4

5

1

24,800

25,330

X1 X5

	番号	計算式				
住戸部分	1	25.330	×	9.305	= 235.695650	
	2	0.530	×	0.425	= 0.225250	
	3	5.360	×	0.425	= 2.278000	
	4	0.530	×	0.425	= 0.225250	
	5	5.360	×	0.425	= 2.278000	
	6	0.530	×	0.425	= 0.225250	
	合計					240.927400
住戸部分面積					240.92 (㎡)	
共用部分	7	2.280	×	2.900	= 6.612000	
	8	2.280	×	1.535	= 3.499800	
	9	1.750	×	0.425	= 0.743750	
	合計					10.855550
	共用部分面積					10.85 (㎡)
1階床面積		240.92 + 10.85		=	251.77 (㎡)	

番号	計算式				
1	25.330	×	9.305	=	235.695650
2	0.530	×	0.425	=	0.225250
3	5.360	×	0.425	=	2.278000
4	0.530	×	0.425	=	0.225250
5	5.360	×	0.425	=	2.278000
6	0.530	×	0.425	=	0.225250
合計					240.927400
2階・3階床面積					240.92 (㎡)

3階床面積	(240.92)	240.92
2階床面積	(240.92)	240.92
1階床面積	(240.92)	251.77
延べ面積	(722.76)	733.61 (㎡)

Architectural floor plan of a building with dimensions and area calculations. The plan includes a large central area labeled 'A' and several smaller rooms labeled 'B', 'C', 'D', 'E', 'F', 'G', and 'H'. Dimensions are provided in meters (m) and millimeters (mm). The total area is calculated as 24,800 m².

Dimensions and Area Calculations:

- Overall Dimensions:**
 - Width: 24,800 mm (24.8 m)
 - Depth: 9,200 mm (9.2 m)
- Room Dimensions and Areas:**
 - Room A: 24,800 mm x 9,200 mm = 228,160 m²
 - Room B: 24,800 mm x 1,000 mm = 24,800 m²
 - Room C: 24,800 mm x 1,000 mm = 24,800 m²
 - Room D: 2,000 mm x 1,000 mm = 2,000 m²
 - Room E: 2,000 mm x 1,000 mm = 2,000 m²
 - Room F: 2,000 mm x 1,000 mm = 2,000 m²
 - Room G: 2,000 mm x 1,000 mm = 2,000 m²
 - Room H: 2,000 mm x 1,000 mm = 2,000 m²
- Total Area:** 24,800 m²

番号	計算式			
A	25.330	×	9.730	= 246.460900
B	25.330	×	0.730	= 18.490900
C	25.330	×	1.535	= 38.881550
D	0.200	×	0.470	= 0.094000
E	3.340	×	1.800	= 6.012000
F	1.950	×	1.000	= 1.950000
G	2.280	×	2.900	= 6.612000
H	0.200	×	2.900	= 0.580000
合計				319.081350
建築面積				319.08 (㎡)

(申請建物2)

計算式			
5,460	×	9,555	= 52,170,300
合計			
倉庫棟床面積			52.17 (㎡)
倉庫棟建築面積			52.17 (㎡)

申請建物 3)

The diagram shows a rectangular building footprint. To the left of the rectangle, there is a vertical dimension line with the value 2.083. Below the rectangle, there is a horizontal dimension line with the value 8.200.

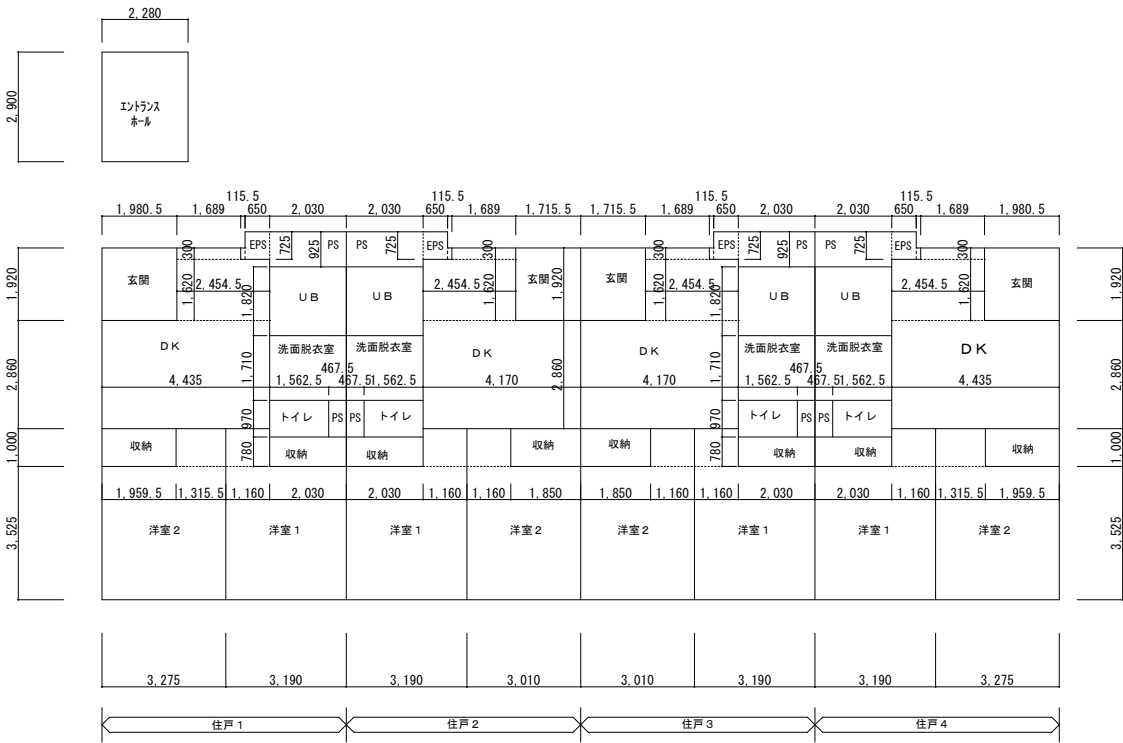
計算式					
200	×	2.083	=	17.080600	
				17.080600	
築面積				17.08 (㎡)	

□延べ面積 ※()内数値は容積率算定用床面積を示す

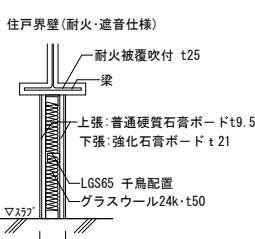
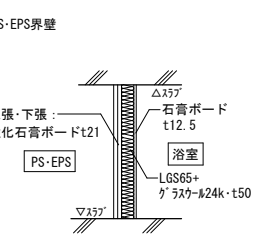
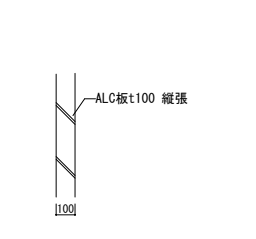
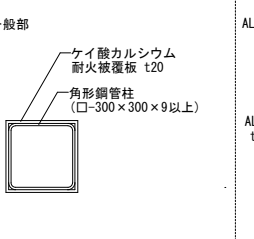
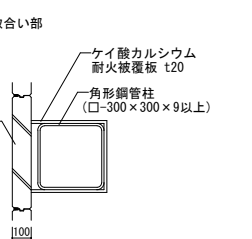
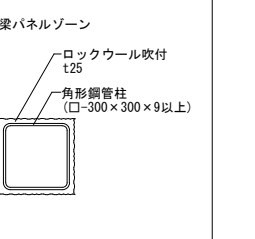
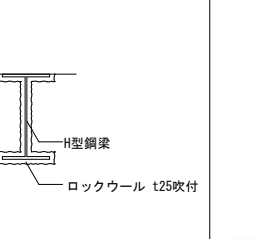
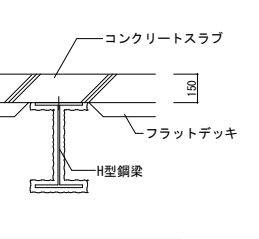
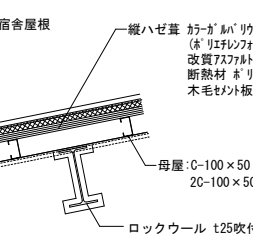
待機宿舎(申請建物１)	(722.76)	733.61
倉庫棟(申請建物２)		52.17
駐輪場(申請建物３)	(0.00)	17.08
延べ面積合計	(774.93)	802.86(㎡)
容積率	774.93 ÷ 1,095.75 = 0.7072	70.72% < 400%

□建築面積

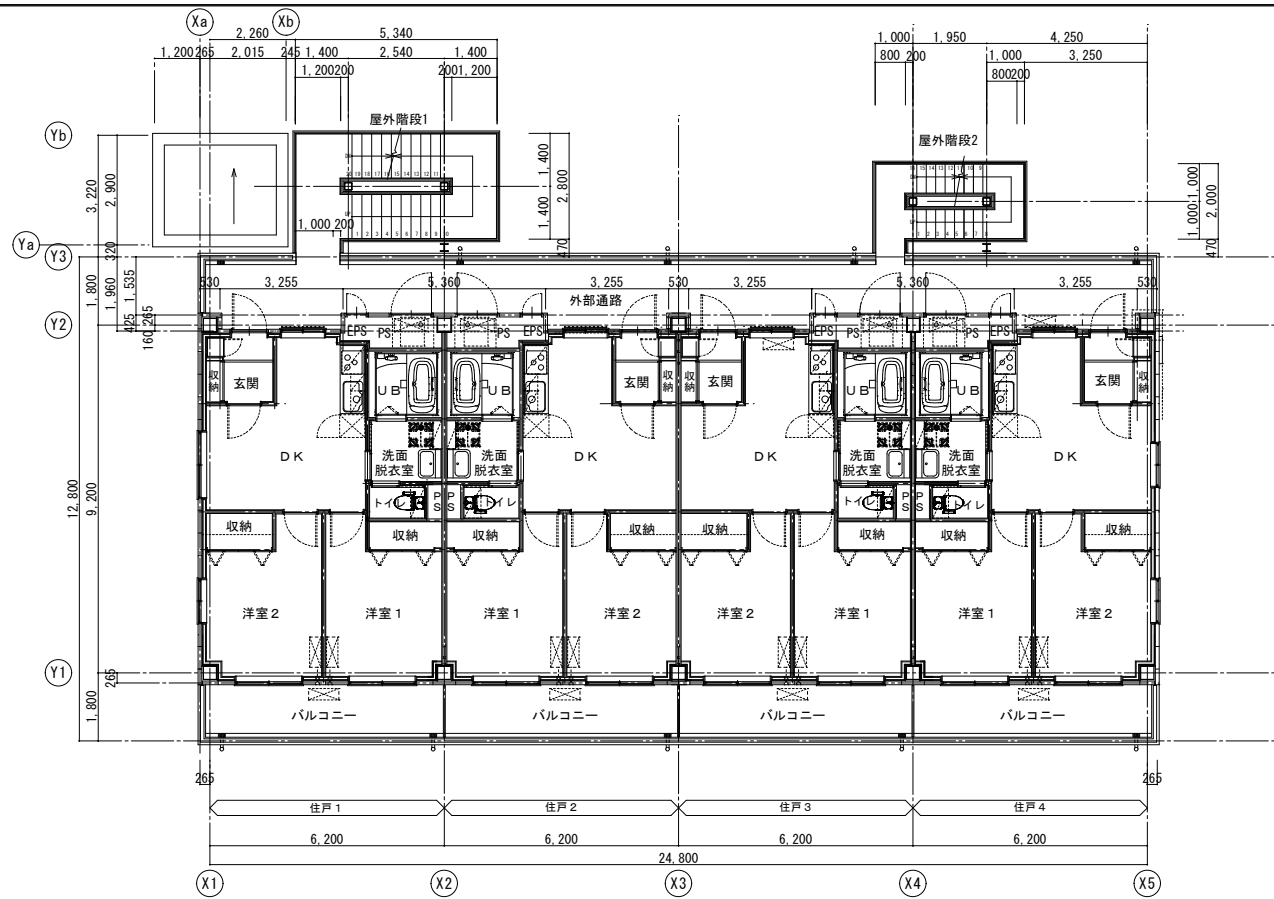
待機宿舎(申請建物１)	319.08
倉庫棟(申請建物２)	52.17
駐輪場(申請建物３)	17.08
建築面積合計	388.33(㎡)
建ぺい率	388.33 ÷ 1,095.75 = 0.3543 35.43% < 80%



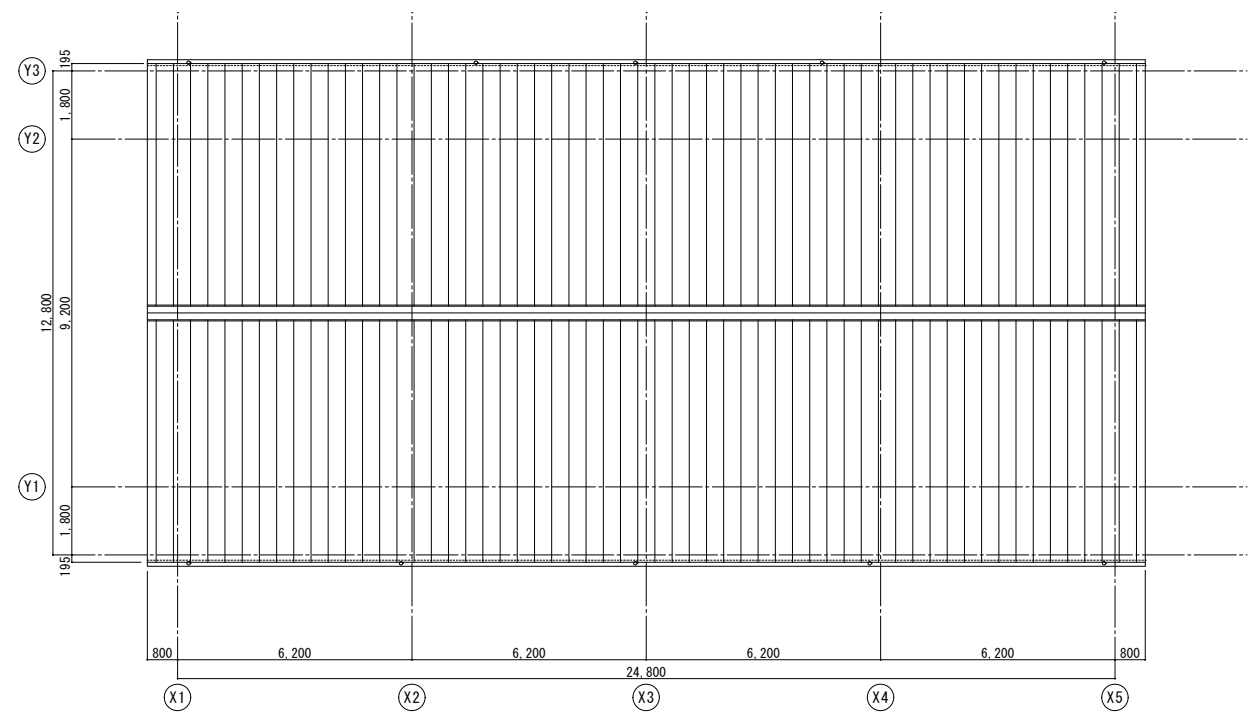
□各室床面積求積表					(単位：㎡)	
	室名	計算式			合計	室面積
住戸1 住戸4	洋室2	3.2750	×	3.5250	= 11.544375	
		1.3155	×	1.0000	= 1.315500	12.859875
	洋室2収納	1.9595	×	1.0000	= 1.959500	
						1.95
	洋室1	3.1900	×	3.5250	= 11.244750	
		1.1600	×	1.0000	= 1.160000	12.404750
	洋室1収納	2.0300	×	0.7800	= 1.583400	
						1.58
	DK	4.4350	×	2.8600	= 12.684100	
		2.4545	×	1.6200	= 3.976290	
		1.6890	×	0.3000	= 0.506700	17.167090
	玄関	1.9805	×	1.9200	= 3.802560	3.80
	UB	2.0300	×	1.8200	= 3.694600	3.69
	洗面脱衣室	2.0300	×	1.7100	= 3.471300	3.47
住戸2 住戸3	洋室1	3.1900	×	3.5250	= 11.244750	
		1.1600	×	1.0000	= 1.160000	12.404750
	洋室1収納	2.0300	×	0.7800	= 1.583400	
						1.58
	洋室2	3.0100	×	3.5250	= 10.610250	
		1.1600		1.0000	= 1.160000	11.770250
	洋室2収納	1.8500		1.0000	= 1.850000	
						1.85
	DK	4.1700	×	2.8600	= 11.926200	
		2.4545	×	1.6200	= 3.976290	
		1.6890	×	0.3000	= 0.506700	16.409190
	玄関	1.7155	×	1.9200	= 3.293760	3.29
	UB	2.0300	×	1.8200	= 3.694600	3.69
	洗面脱衣室	2.0300	×	1.7100	= 3.471300	3.47
共用部	エントランスホール	2.2800	×	2.900	= 6.612000	
						6.61

外部仕上表																										
部位			仕上			部位			仕上			部位		仕上												
屋根	大屋根	カラーガルバリウム鋼板t0.4 縦ハゼ葺き(※リフレフォームt2.0裏貼)、改質アスファルトルーフィングt1.0 ポリスチレンフォームt40、高圧木毛セメント板t40			外部通路	軒天井	無石綿ケイカル板t6.0 EP-G			屋外階段 1 屋外階段 2	鉄骨階段	ササrah:ｽﾌｰﾙPL-12×30 段板:ｽﾌｰﾙPL-6 溶融亜鉛めっき 踏面、踊場:ﾓﾙﾀﾙt40下地 防滑性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt2.5張(ﾀｲﾔｰﾌﾗｯｼｭ100×100×3.2φ入) 段鼻/ｽﾄｯﾌﾟ:ｽﾃﾝﾚｽ製#35 ﾋﾞﾆﾙﾔｲﾅ入 手摺・支柱:ｱﾙﾐ型材、合わせガラスFL4+FL4														
		軒先伸縮唐草水切、棟包み、ケラバ唐草水切、幕板 母屋: C-100×50×20×2.3@606、2C-100×50×20×2.3@1820 <td colspan="3">床</td> <td colspan="3">防滑性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt2.5 (屋外対応品)</td>					床					防滑性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt2.5 (屋外対応品)														
	軒天	無石綿ケイカル板t6.0、EP-G 一部有孔ケイカル板t6.0 EP-G SUSﾏｯｼｭ裏打				手摺(2.3階)	笠木:アルミ型材 90×35、手摺:合わせガラス FL4+FL4 支柱:アルミ型材 80×22@1000			外部建具	スチール製建具	※建具表による														
	ﾄﾝﾄﾞﾗﾝｽﾎｰﾙ屋根	ＱＬﾚｰﾌﾟ(ＱＬ-99-50-12Y)、断熱材t50、塩ビシート防水 立上り: C-75×45×15、硬質木毛セメント板t15、断熱材t25、塩ビシート防水 笠木: アルミ製押出型材				侵入防止柵(1階)	支柱: アルミ型材 50×50@1,000 タテ格子: アルミ型材 20×40@120				アルミ製建具	※建具表による														
						その他	消火器ボックス、消火器(ABC粉末消火器10型)2ヶ所×3＝6ヶ所			その他	倉庫棟	※倉庫棟詳細図による														
樋	軒樋	落葉除け一体型樋 カラーガルバリウム鋼板t0.5 吊り金具、落し口共			ﾊﾞﾙｺﾆｰ	軒天井	無石綿ケイカル板t6.0 EP-G 下り壁:ALC板t50横張 防水形複層塗材E、胴縁C-100×50×20×2.3@600				門扉	※外構図による														
	竖樋	VP75φ ステンレス製樋み金物@1,200、中継ドレイン共					床			タテ格子フェンス			支柱: アルミ型材 60×60@1,000 タテ格子: アルミ型材 30×50@83													
外壁	一般部	ALCパネルt100縦張り、防水形複層塗材 E				手摺	笠木:アルミ型材 90×35、手摺:合わせガラス FL4+FL4 支柱:アルミ型材 80×22@1000																			
	外巾木	合板型枠コンクリート打渡し (誘発目地切@3000内外)、外装薄塗材 E				その他	隔て壁 (アルミ枠・フレキシブルボードEP-G) 物干し金物(アルミ製 2本1組)16戸×2＝32ヶ所																			
内部仕上表																										
階	室名	床			巾木	壁		天井				備考	室名													
		床高	下地	仕上		仕上	下地	仕上	下地	仕上	廻縁			天井高												
共用部	ﾄﾝﾄﾞﾗﾝｽﾎｰﾙ	SL+10	コンクリート金ゴテ	防滑性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt2.5	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100	LGS65+石膏ボード (9.5+12.5)	EP塗	LGS+石膏ボード (12.5)	ロックウール吸音板 (9)	塩ビ製	OH=2,540	集合郵便受: 前入前出仕様(12戸+共用1) カメラ付集合玄関機(電気設備工事)	ﾄﾝﾄﾞﾗﾝｽﾎｰﾙ													
共通 101 ～ 304	玄関	SL+100	モルタル金ゴテt30	磁器質50角タイル張 (施釉)	石巾木 H=100	LGS65+石膏ボード (9.5+12.5)	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ (準不燃)	LGS+石膏ボード (9.5)	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ (準不燃)	－	OH=2,400	上框 (H=50) 下足入、収納棚	玄関													
	D K	SL+200	乾式置床+床下地パネルt20	積層フローリングt12 UV塗装	木製巾木 H=60	LGS65+石膏ボード (9.5+12.5) グラスウールt50・24K充填	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ (準不燃) 一部メラミン化粧板 (不燃)	LGS+石膏ボード (9.5)	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ (準不燃)	－	OH=2,400	流し台、I Hコンロ (2口+ｼﾞｬﾝﾌﾟｲﾝﾄｰﾀｰ)、吊り戸棚、水切棚、レンジフード、カーテンボックス、カーテンレール (ダブル)、扉掛け 設備機器用スリーブ (75φ) 樹脂キャップ付、冷暖房機器取付用下地合板t12 (捨張) 給気用スリーブ (100φ)、丸型レジスター (100φ) 屋内樹脂製・屋外SUS製	D K													
	洋室1・洋室2	SL+200	乾式置床+床下地パネルt20	積層フローリングt12 UV塗装	木製巾木 H=60	LGS65+石膏ボード (9.5+12.5) グラスウールt50・24K充填	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ (準不燃)	LGS+石膏ボード (9.5)	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ (準不燃)	－	OH=2,400	設備機器用スリーブ (75φ) 樹脂キャップ付、冷暖房機器取付用下地合板t12 (捨張) 給気用スリーブ (100φ)、丸型レジスター (100φ) 屋内樹脂製・屋外SUS製 カーテンボックス、カーテンレール (ダブル)、扉掛け	洋室1・洋室2													
	収納	SL+200	乾式置床+床下地パネルt20	積層フローリングt12 UV塗装	木製巾木 H=60	LGS65+石膏ボード (9.5)	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ (準不燃)	LGS+石膏ボード (9.5)	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ (準不燃)	－	OH=2,400	枕板、ステンレス製ハンガーパイプ (32φ)	収納													
	洗面脱衣室	SL+200	乾式置床+床下地パネルt20 普通合板 t12	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt2.0	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=60	LGS65+石膏ボード (9.5+12.5) グラスウールt50・24K充填	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ (準不燃)	LGS+石膏ボード (9.5)	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ (準不燃)	－	OH=2,350	洗面化粧台、棚板、タオル掛け 洗濯機ﾊﾞﾝ(設備工事)	洗面脱衣室													
トイレ	SL+200	乾式置床+床下地パネルt20 普通合板 t12	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt2.0	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=60	LGS65+石膏ボード (9.5+12.5) グラスウールt50・24K充填	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ (準不燃)	LGS+石膏ボード (9.5)	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ (準不燃)	－	OH=2,350	吊り戸棚、天井点検口(3階住戸のみ) 衛生陶器、二連紙巻器(設備工事)	トイレ														
浴室	SL±0	コンクリート金ゴテ	直押え	－		LGS65+石膏ボード (12.5)	直仕上	－	直天井	－	－	ユニットバス (UB1616-2室天井換気扇共)	浴室													
PS・EPS	SL±0	コンクリート金ゴテ	直押え	－		LGS65+強化石膏ボード (21+21)	直仕上	－	直天井	－	－		PS・EPS													
内部仕上の略号・種類・認定番号 (参考)																										
略号	種類	認定番号	略号	種類	認定番号	略号	種類	略号	種類	特記事項																
GB-R9.5	せっこうボード	QM-9828	GB-P9.5	吸音用あなきせっこうボード	QM-9827	RC	鉄筋コンクリート	SOP	合成樹脂調合ペイント塗り	1. 居室・天井裏・小屋裏等の仕上材は「規制対象外建築建材」(ホルムアルデヒド発散等級F☆☆☆☆)を使用する。 2. 下地材・仕上塗料・接着剤は「規制対象外建築建材」(ホルムアルデヒド発散等級F☆☆☆☆)を使用する。 3. クロルビリホスを添加した建築建材は使用しない。 4. 石綿含有建材は使用しない。 5. 仕上塗料はTVOC(揮発性有機化合物)1%未満の材料を使用する。 6. 錆止塗料は鉛・クロム化合物を含まない(無鉛)ものを使用する。 7. 壁・梁型・天井等の石膏ボードは捨張を除き、継目処理法とする。 8. 内部床において、仕上材料の変わる部分については、特記なき限り見切材を設けること。その場合、仕上取り合いに段差を生じさせないこと。 (ステンレス目地棒 6×12程度) 9. 延焼のおそれのある部分にある給気口はFD付とする。																
GB-R12.5・15	せっこうボード	NM-8619	GB-H9.5・12.5・15	硬質せっこうボード	NM-9645	VB	ﾋﾞﾆﾙ巾木	CL	クリアーラッカー塗り																	
GB-F12.5・15・21	強化せっこうボード	NM-8615	DR9・12	ロックウール化粧吸音板	NM-8599	WB	木製巾木	NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り																	
GB-D9.5(壁)	化粧せっこうボード	QM-9824	ケイカル板	けい酸カルシウム板	NM-8578 (≥t=5)	LGS	軽量鉄骨天井下地、軽量鉄骨壁下地	DP	耐候性塗料塗り																	
GB-D12.5(壁)	化粧せっこうボード	NM-0128	化粧ケイカル板	化粧けい酸カルシウム板	NM-8579 (≥t=6)	GW	グラスウール	EP-G	つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り																	
GB-S9.5・12.5	ｼｰｼﾞﾝｸﾞ`せっこうﾎｰﾄﾞ` (準不燃)	QM-0898	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ	QM-9405			EP	合成樹脂調合エマルジョンペイント塗り																	
GB-NS12.5	ｼｰｼﾞﾝｸﾞ`せっこうﾎｰﾄﾞ` (不燃)	NM-9639	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ (不燃)	不燃壁紙	NM-9899			FE	フタル酸樹脂エナメル塗り																	
GB-D9.5(天井)	化粧せっこうボード	QM-0524	S O P ・ E P 等	塗装	NM-8585			UC	ウレタン樹脂ワニス塗り																	
GB-NC9.5(天井)	不燃積層せっこうボード	NM-1864						OS	オイルステイン塗り																	
GB-NC9.5(壁)	不燃積層せっこうボード	NM-0441						WP	木材保護塗料塗り																	
主要構造部耐火性能																										
間仕切壁 (1時間)			外壁 (1時間)			柱 (1時間)			梁 (1時間)						床 (1時間)			屋根(30分)								
 住戸界壁(耐火・遮音仕様) 耐火被覆吹付 t25 上張:普通硬質石膏ボードt9.5 下張:強化石膏ボードt21 LGS65 千鳥配置 グラスウール24k・t50 1時間耐火: FP060NP-0383 遮音構造: S01-0112 ㈱吉野石膏 A-2000-W1同等品			 PS-EPS界壁 上張・下張: 強化石膏ボードt21 PS-EPS LGS65+ｸﾞﾗｽｳｰﾙ#24k・t50 1時間耐火: FP060NP-0071 ㈱吉野石膏 Sﾀｰﾎｰﾙ両面張り仕様同等品			 一般部 ケイ酸カルシウム耐火被覆板 t20 角形鋼管柱 (□-300×300×9以上) 1時間耐火: FP060CN-9445 ㈱日本インシュレーション タイカライト1号 同等品			 ALC板取合い部 ケイ酸カルシウム耐火被覆板 t20 角形鋼管柱 (□-300×300×9以上) 1時間耐火: FP060CN-9414 ㈱日本インシュレーション タイカライト1号 同等品			 柱梁パネルゾーン ロックウール吹付 t25 角形鋼管柱 (□-300×300×9以上) 1時間耐火: FP060CN-9460			 H型鋼梁 ロックウール t25吹付 1時間耐火: FP060BM-9408			 コンクリートスラブ フラットデッキ H型鋼梁 1時間耐火 平成12年建設省告示第1399号 第3-二			 宿舍屋根 縦ハゼ葺 ｶﾎﾞｰﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.4 (※リフレフォームt2.0裏貼) 改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞt1.0 断熱材 ｾﾘｭｰﾐﾌｫｰﾑt40 木毛セメント板t40 ロックウール t25吹付 30分耐火: FP030RF-1945(2) 元旦ビユーティ工業㈱ TRX-3同等品			 ﾄﾝﾄﾞﾗﾝｽﾎｰﾙ屋根 塩ビシート防水 断熱材t50 ＱＬﾚｰﾌﾟ ＱＬ-99-50-12Y 30分耐火: FP030RF-0327 JFE建研 ＱＬﾚｰﾌﾟ ＱＬ-99-50-12Y		
桑田建築設計事務所 A.KUWATA ARCHITECT & ASSOCIATES									桑田一級建築士事務所 一般建築士 No.128994 安達文策		7・3・	旭第二宿舍建設工事		A-14												
									S=NoScale		仕上表、主要構造部耐火仕様図															

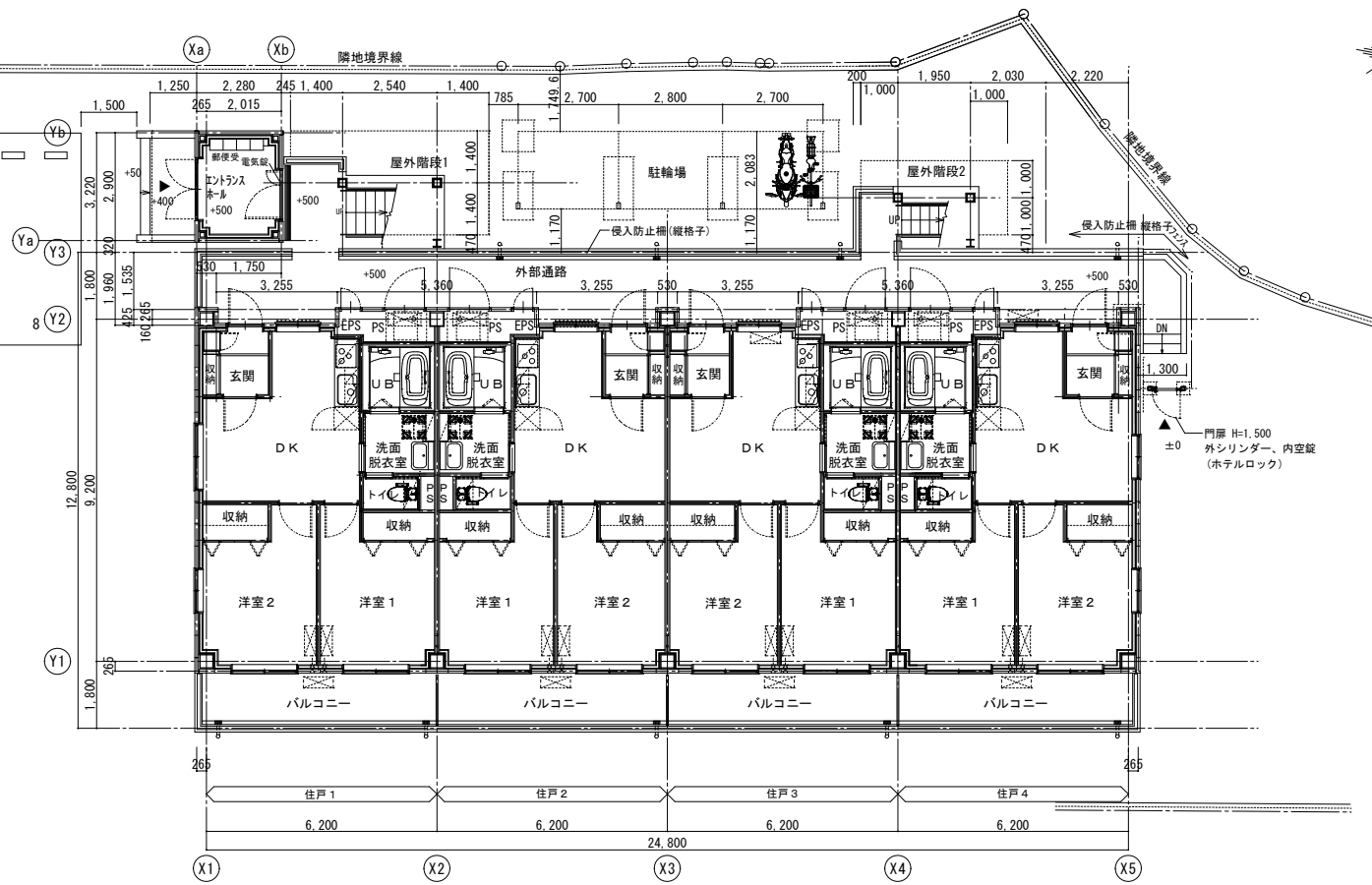
ver.20.06.12



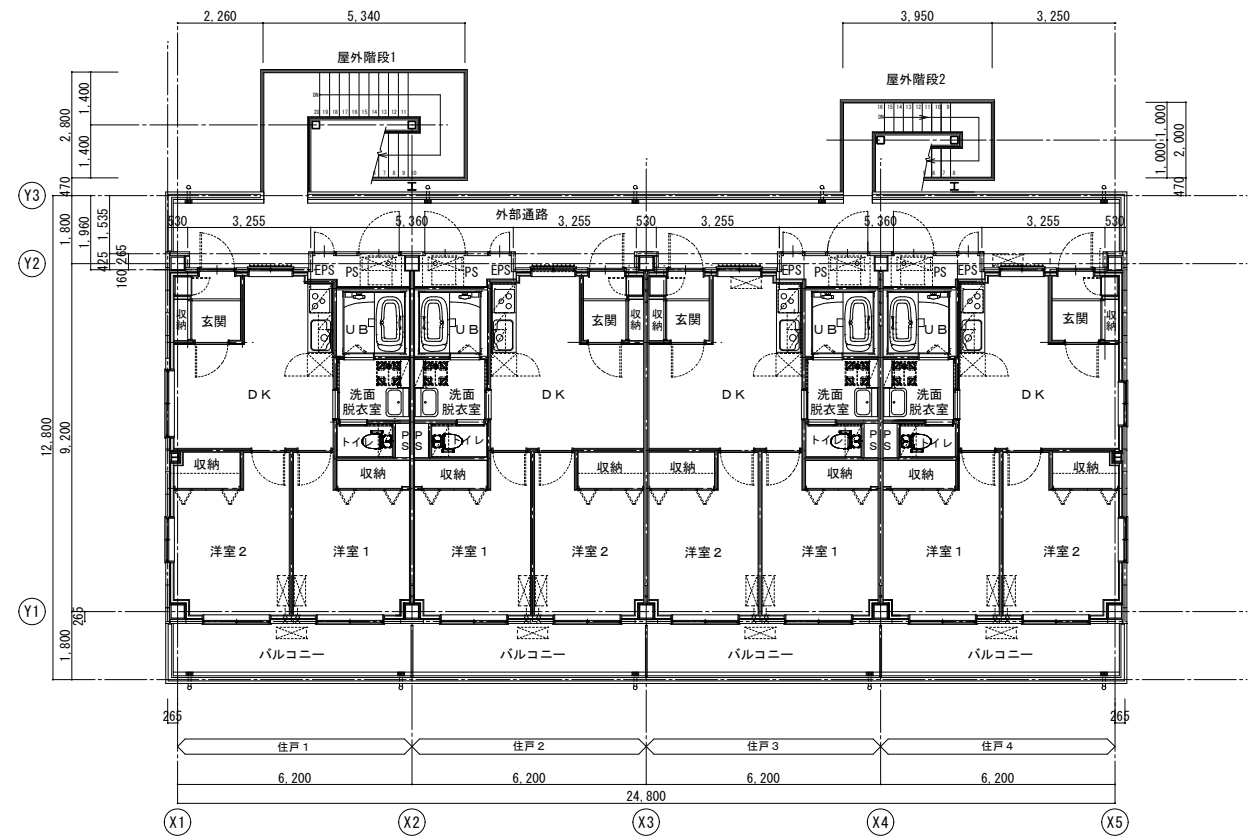
2階平面図 S=1:100



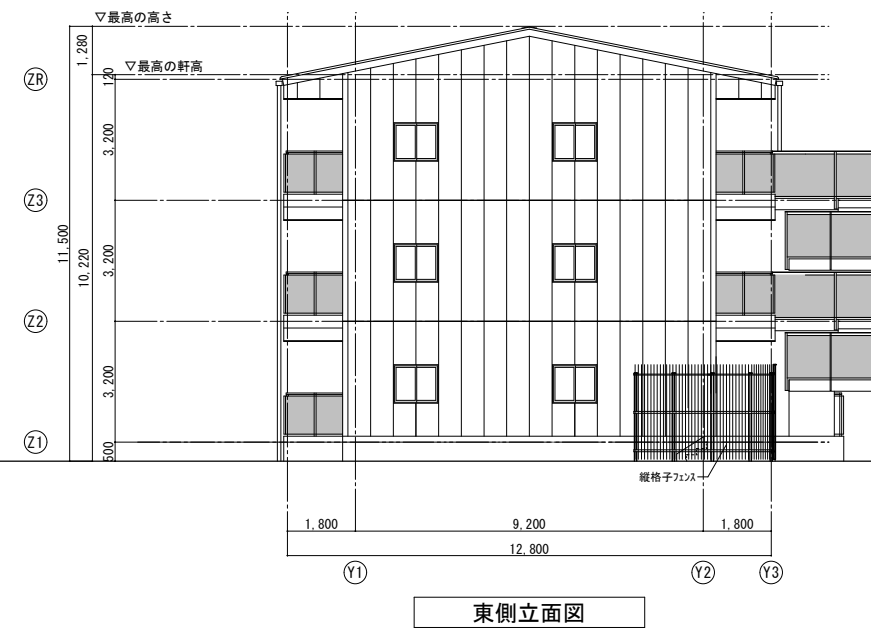
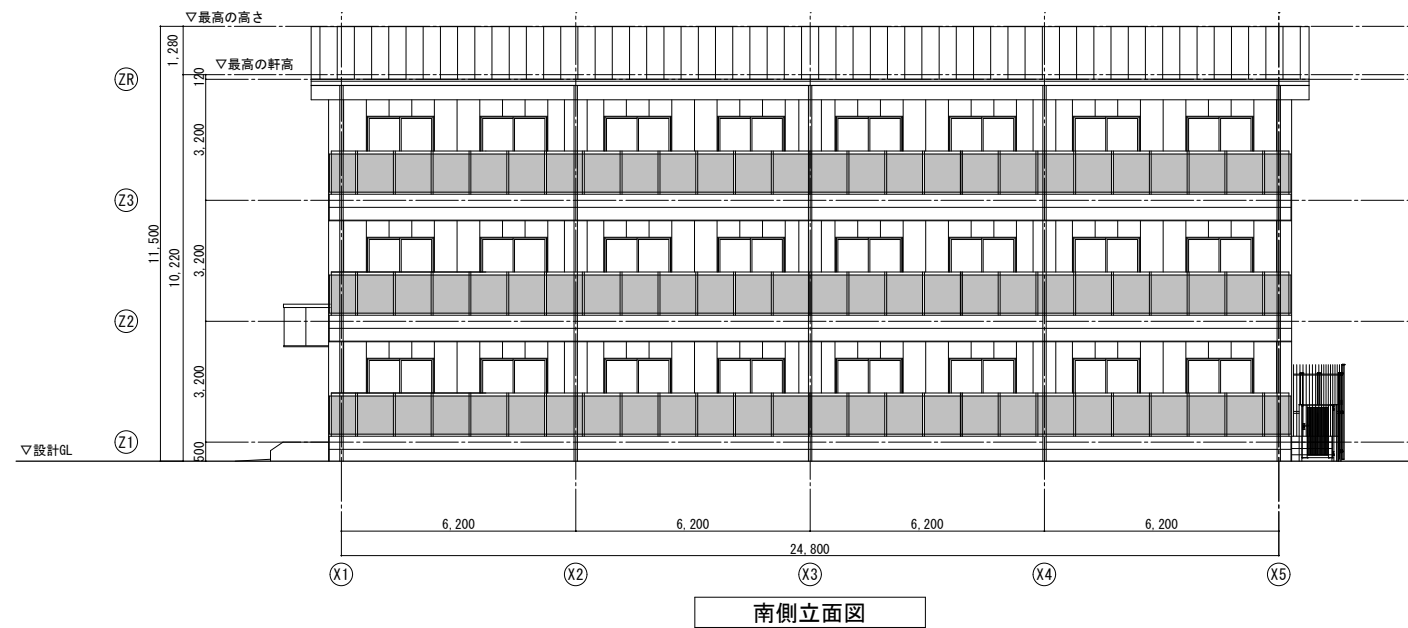
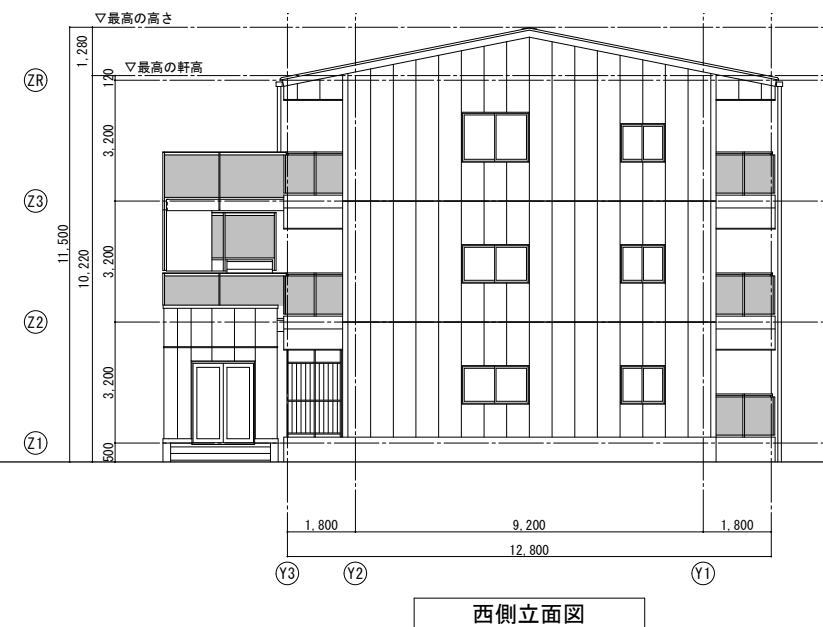
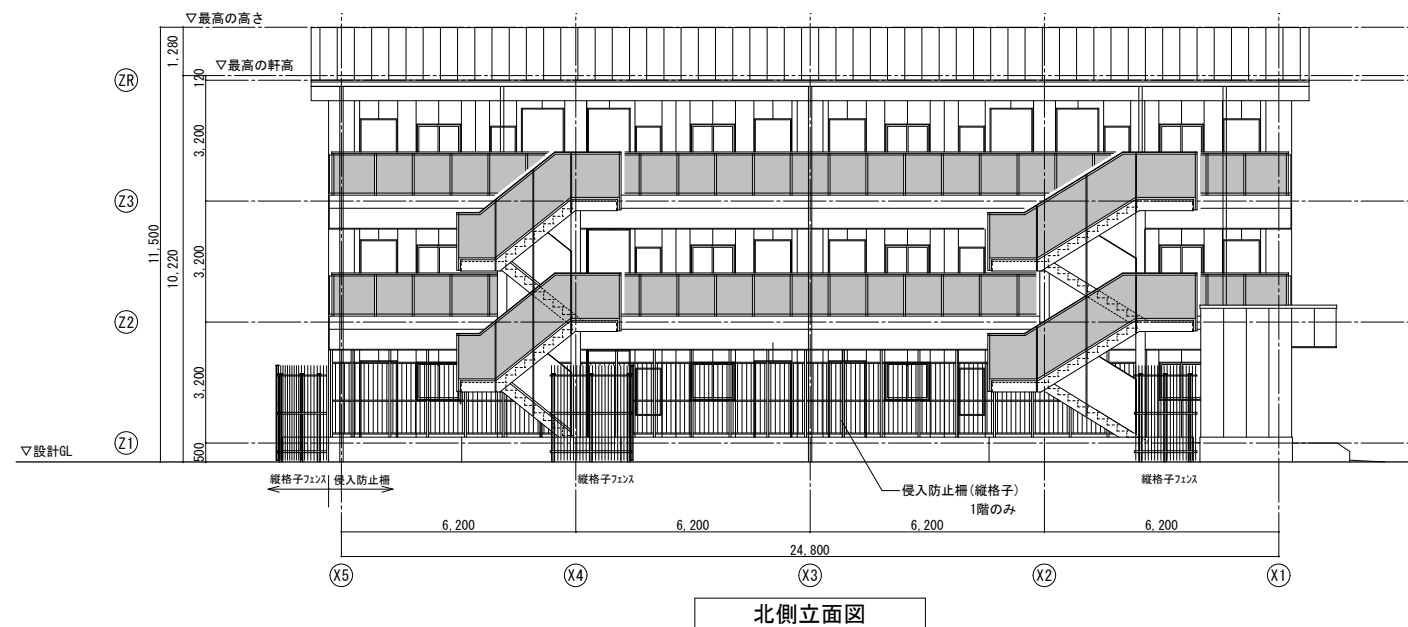
屋根伏図 S=1:100



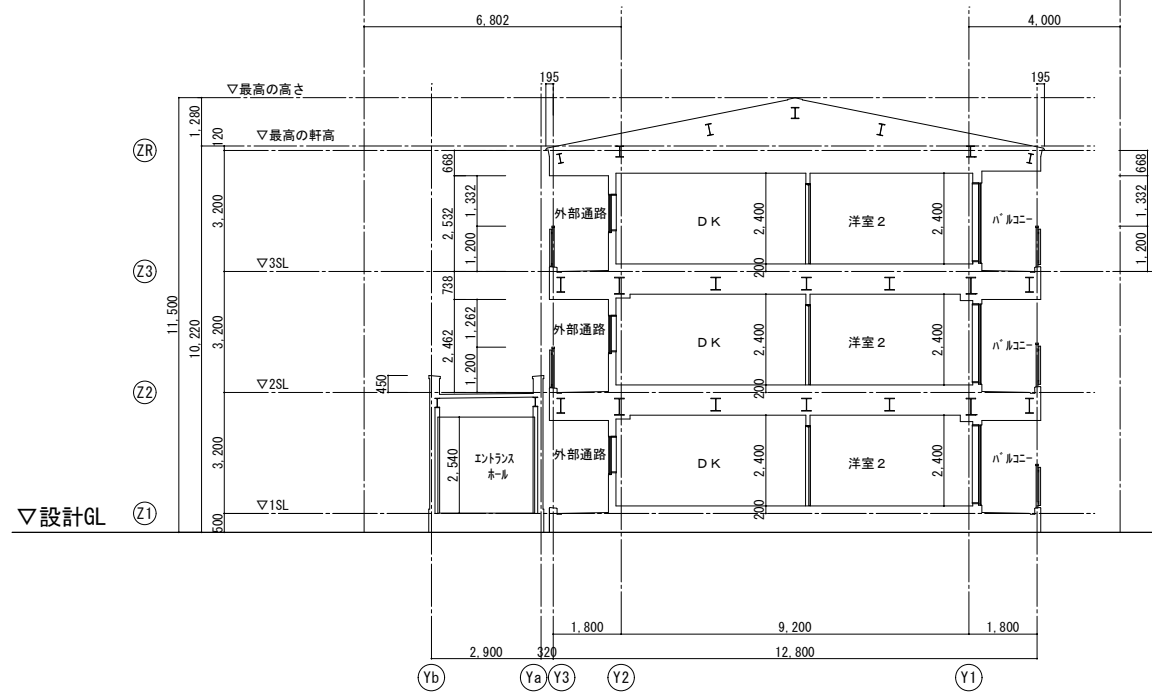
1階平面図 S.1=100



3階平面図 S=1:100

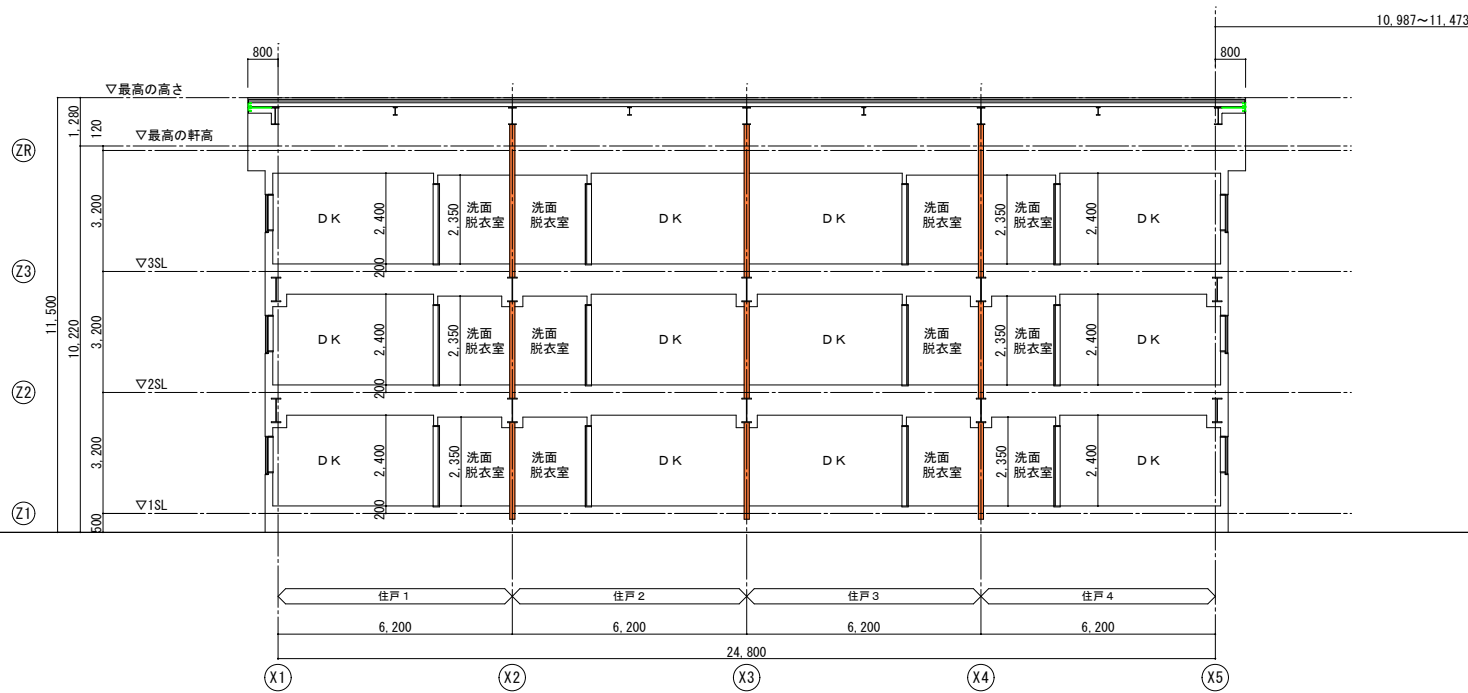


※隣地斜線制限
基準高さ31m+傾斜勾配2.5
(商業地域)



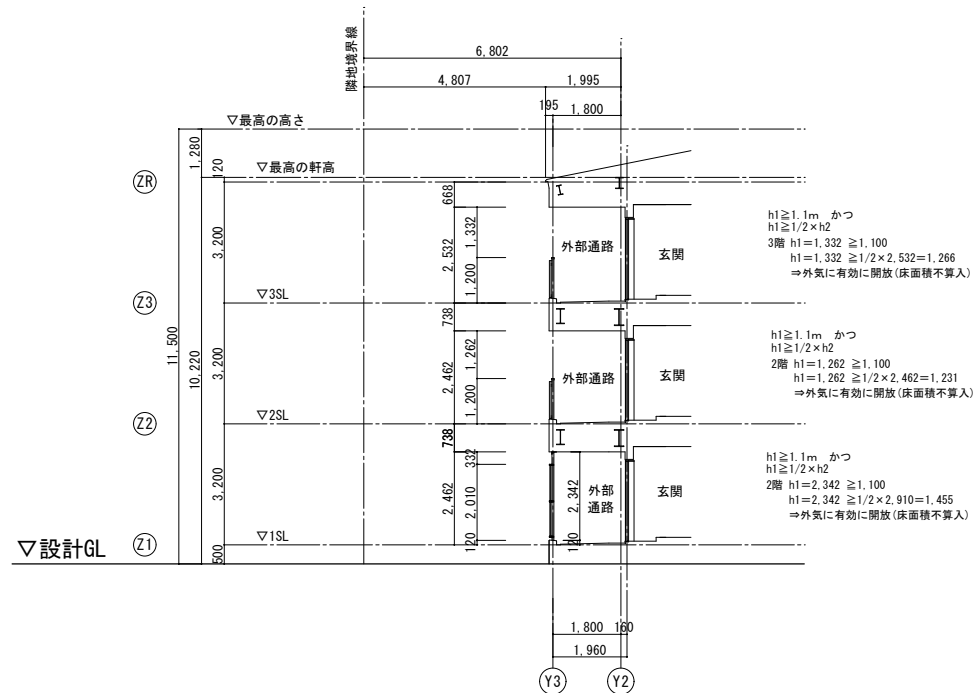
A-A' 断面図

※隣地斜線制限
基準高さ31m+傾斜勾配2.5
(商業地域)

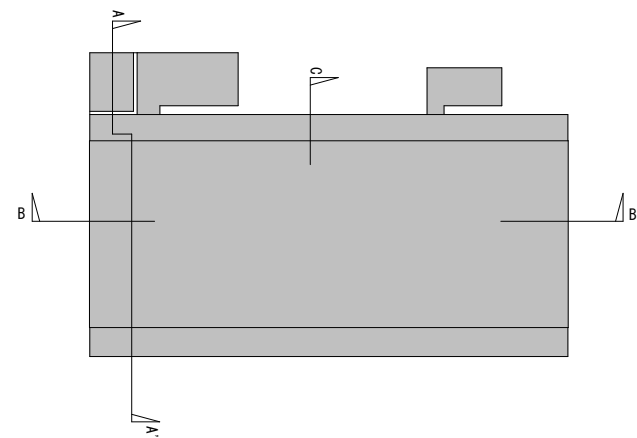


B-B' 断面図

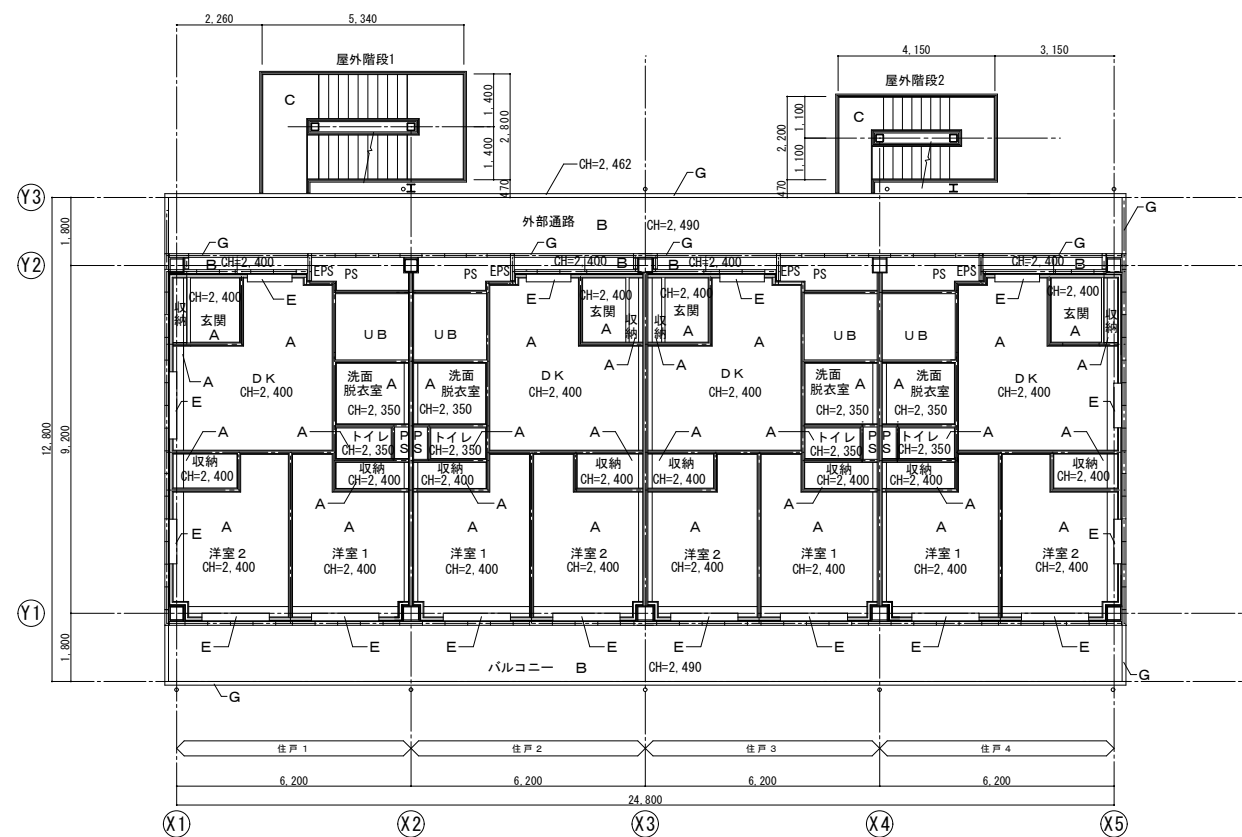
凡例
…防火上主要な間仕切壁(1時間耐火構造)を示す
(屋根裏まで隙間無く埋めること)



C 断面図



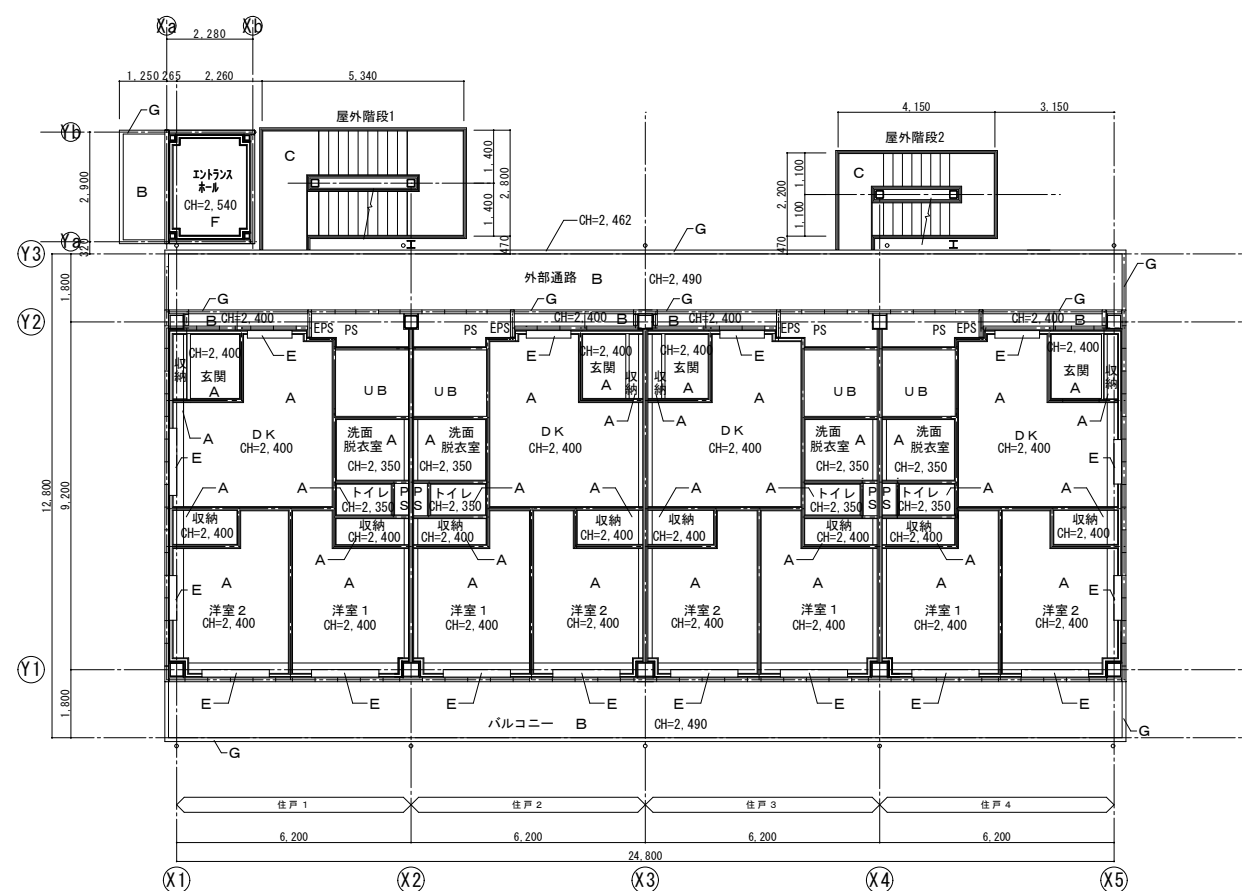
断面図キープラン



2階天井伏図 S. 1:100

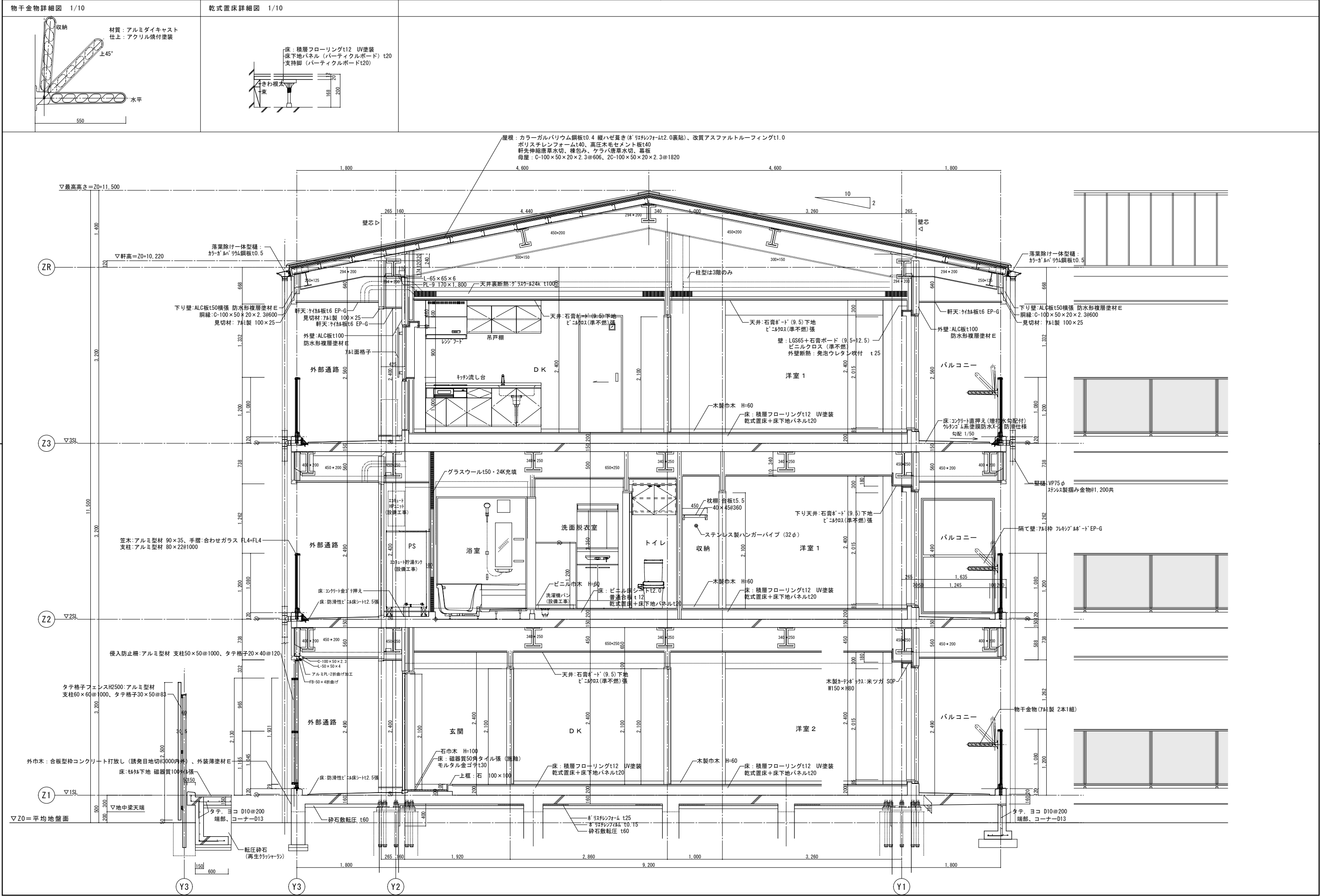


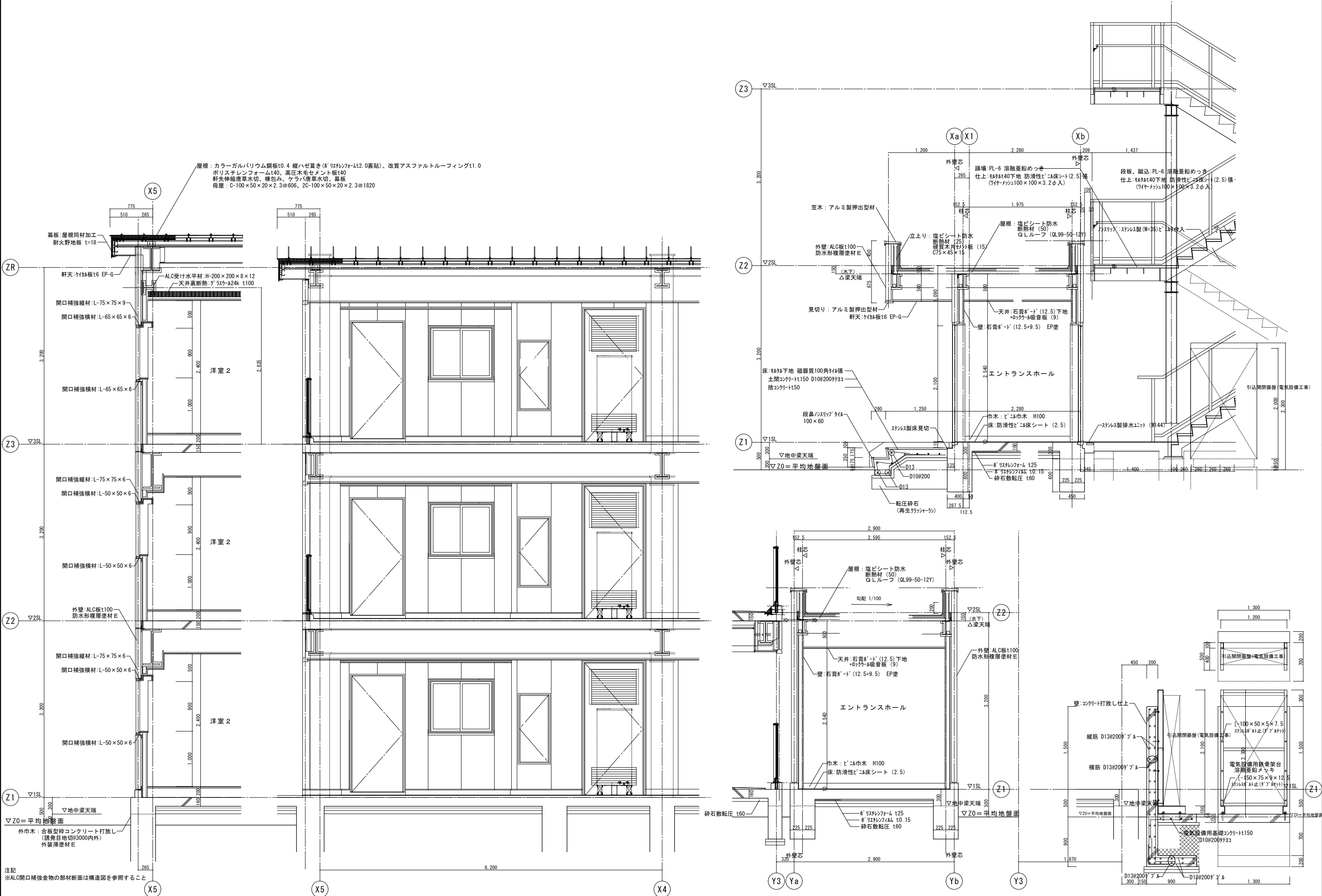
3階天井伏図 S. 1:100



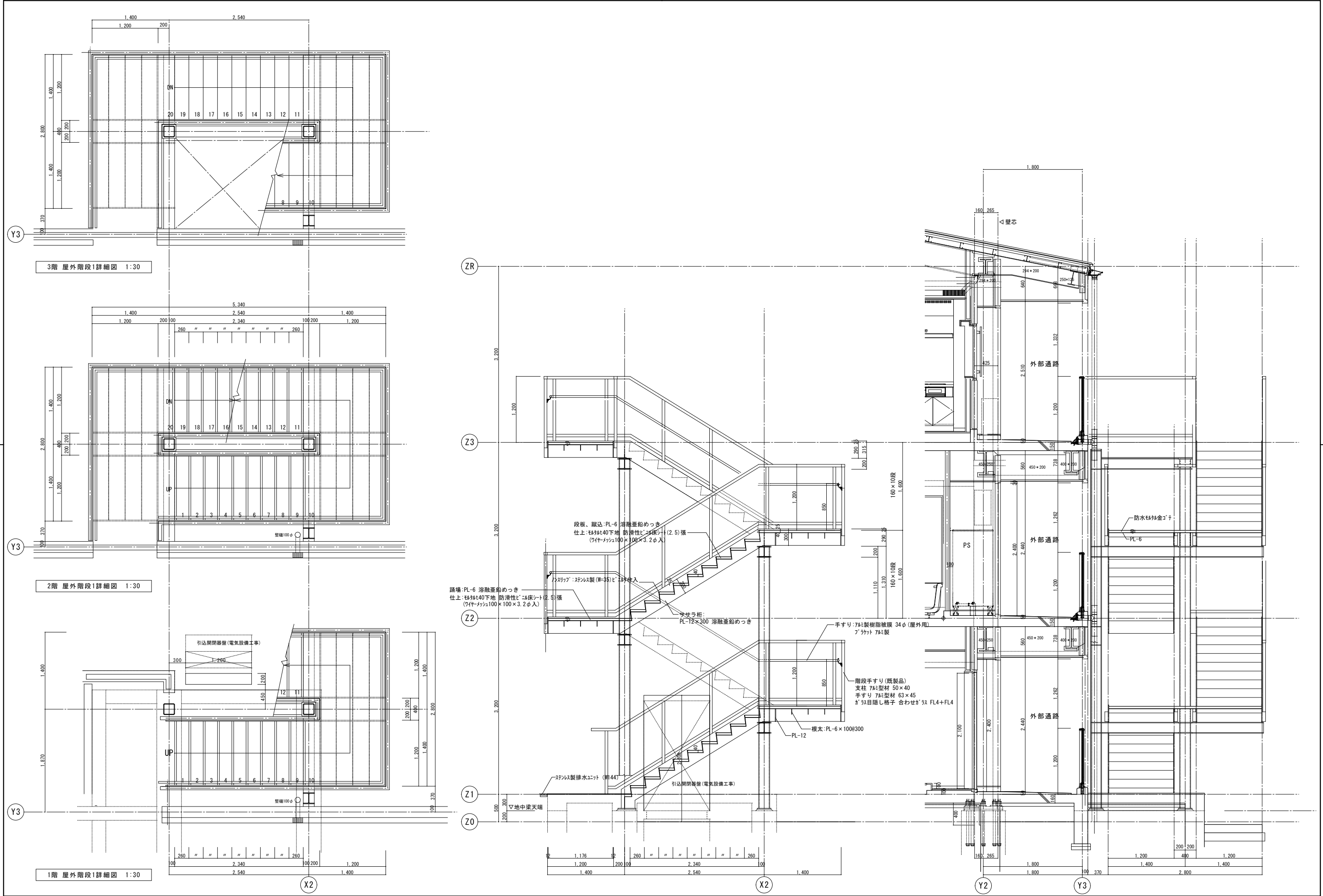
1階天井伏図 S. 1:100

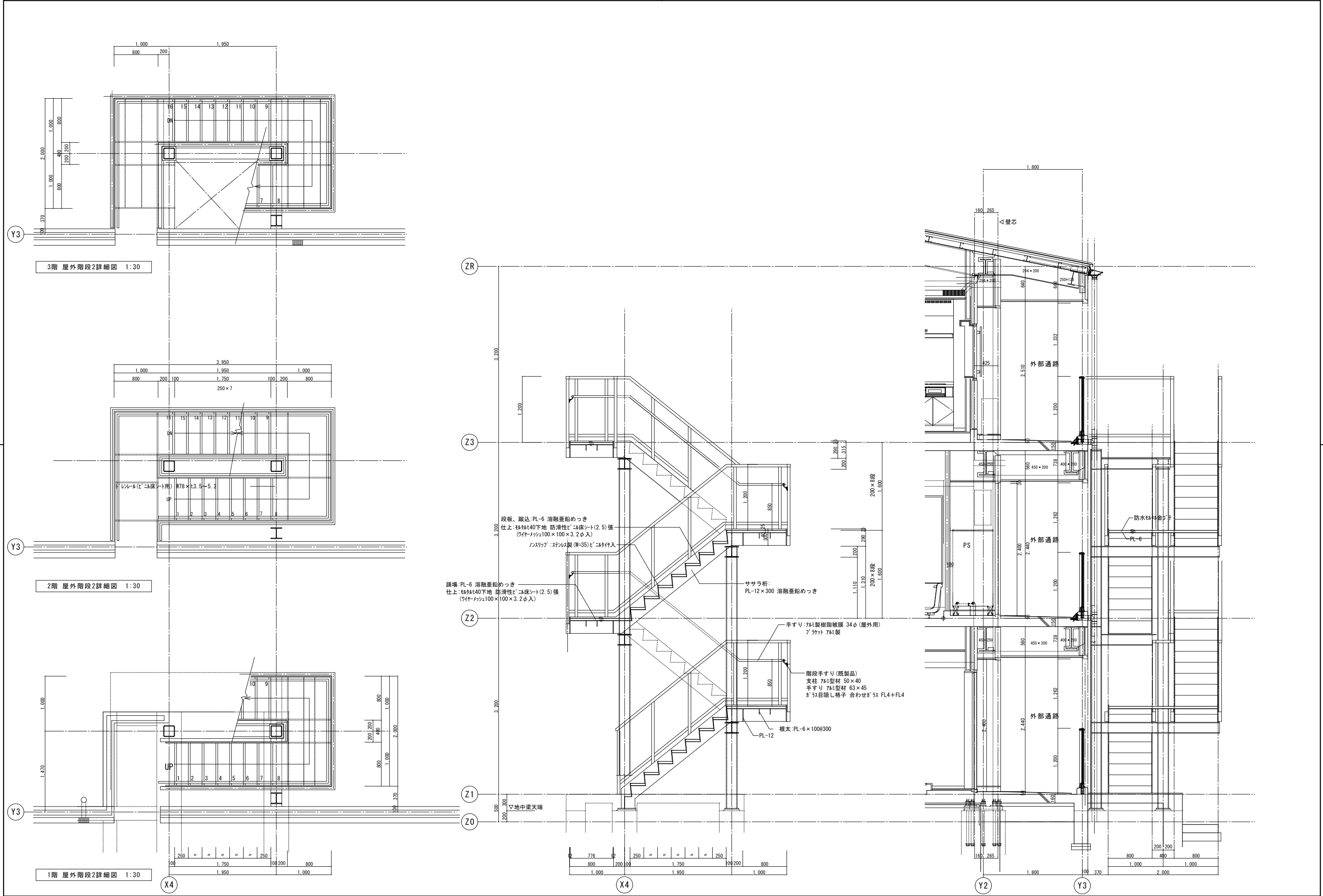
凡例	
A	GB-Rt9.5+ビニルクロス(準不燃)
B	無石綿ケイカル板t6.0 EP-G
C	鉄骨段裏表し 溶融亜鉛メッキ
E	カーテンボックス:米ツガ SOP W150×H80
F	GB-Rt9.5+ロックウール吸音板t9
G	見切材:アルミ製 100×25
有孔ケイカル板t6.0 EP-G SUSメッシュ裏打	
開口補強300×300:各住戸 洗面脱衣室、トイレ 2×16=32ヶ所	
天井点検口450角(額縁タイプ):3階各住戸トイレ 4ヶ所	

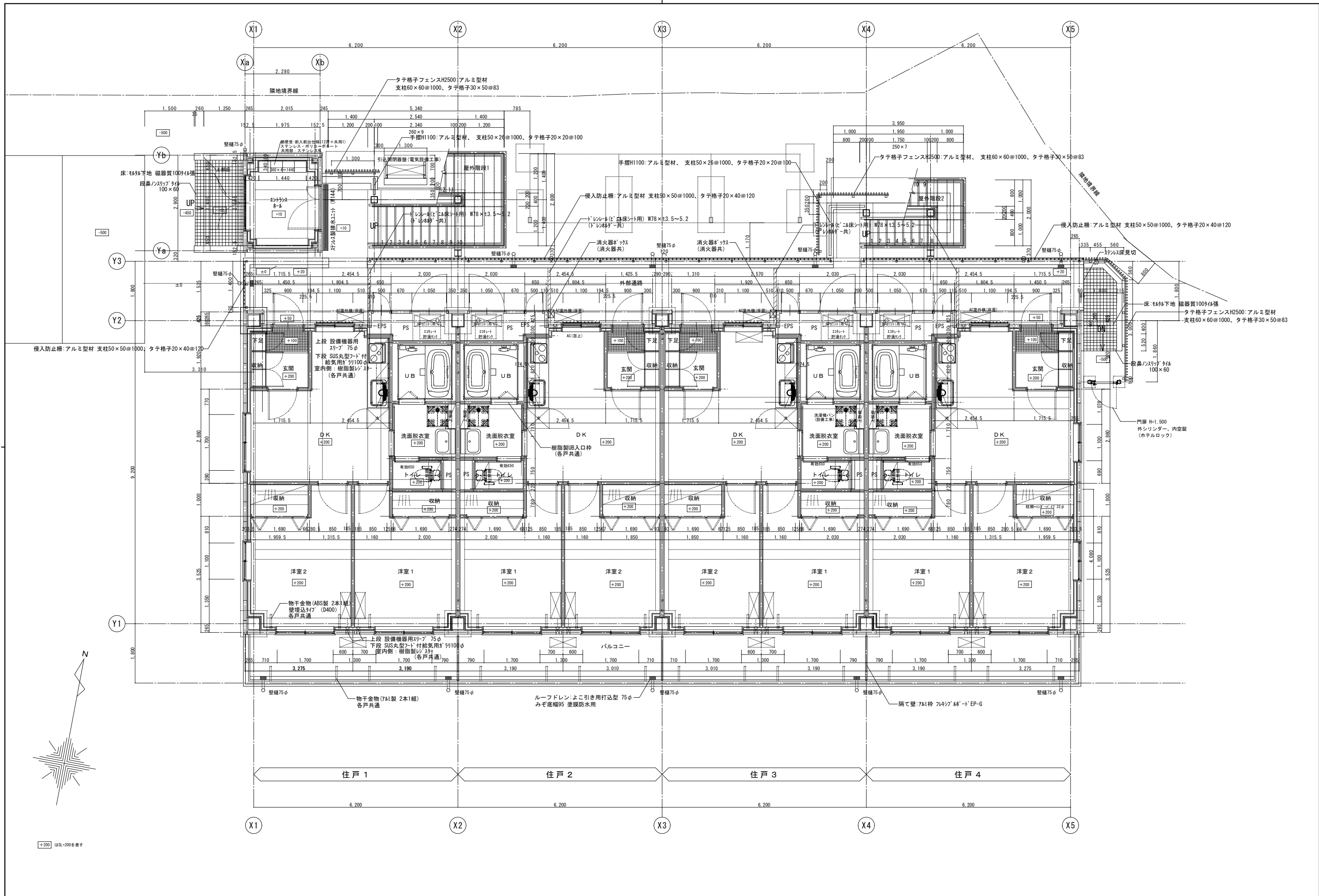


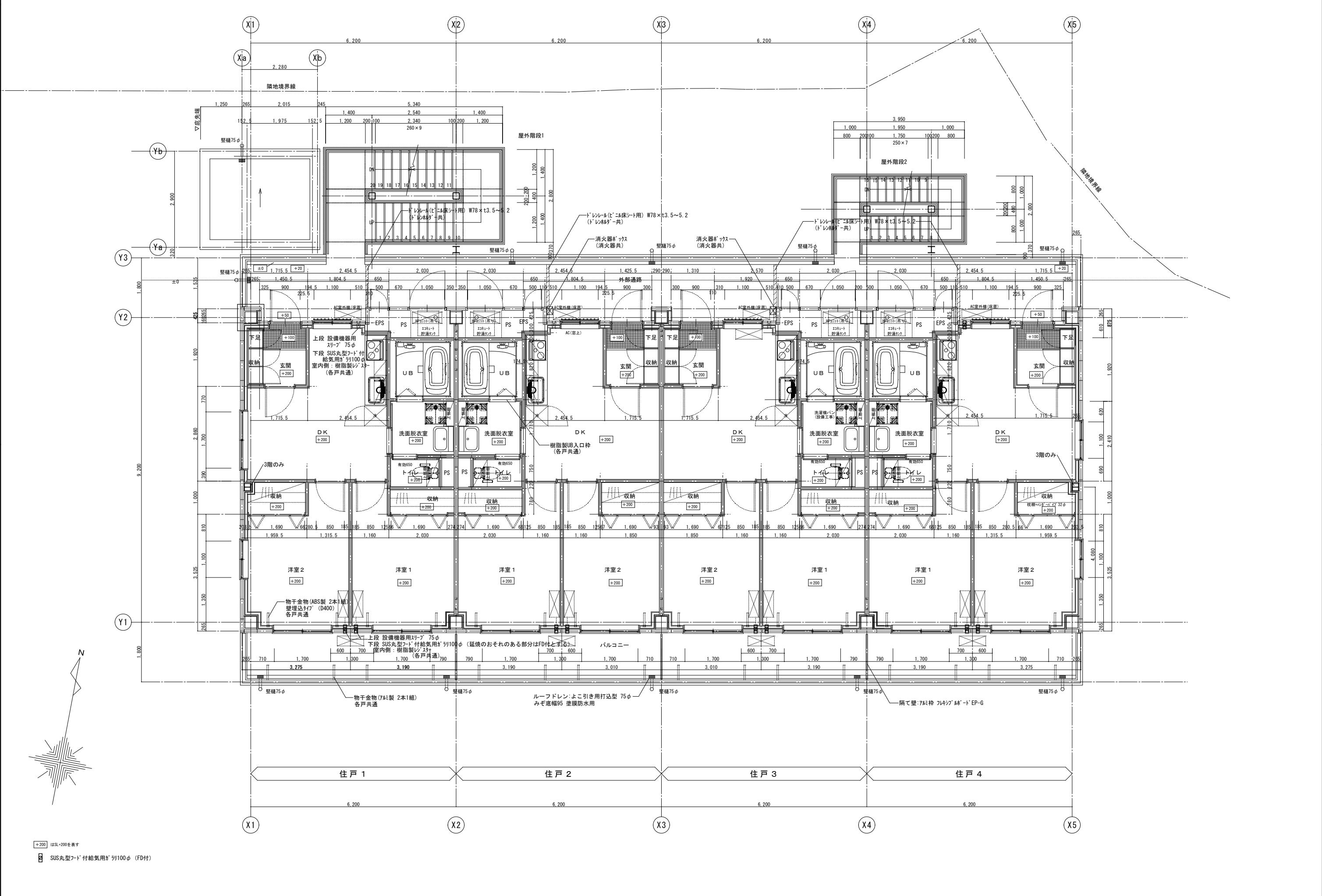


注記
※ALC開口補強金物の部材断面は構造図を参照すること









±200 はSL+200を表す
SUS丸型フード付給気用ダクト100φ (FD付)

桑田建築設計事務所
A.KUWATA ARCHITECT & ASSOCIATES

県下一級建築士事務所
一級建築士 No.128994
安達文策

7・3・
(A1) S=1:50
(A3) S=1:100

旭第二宿舍建設工事
平面詳細図2 (2階～3階住戸)

A-24

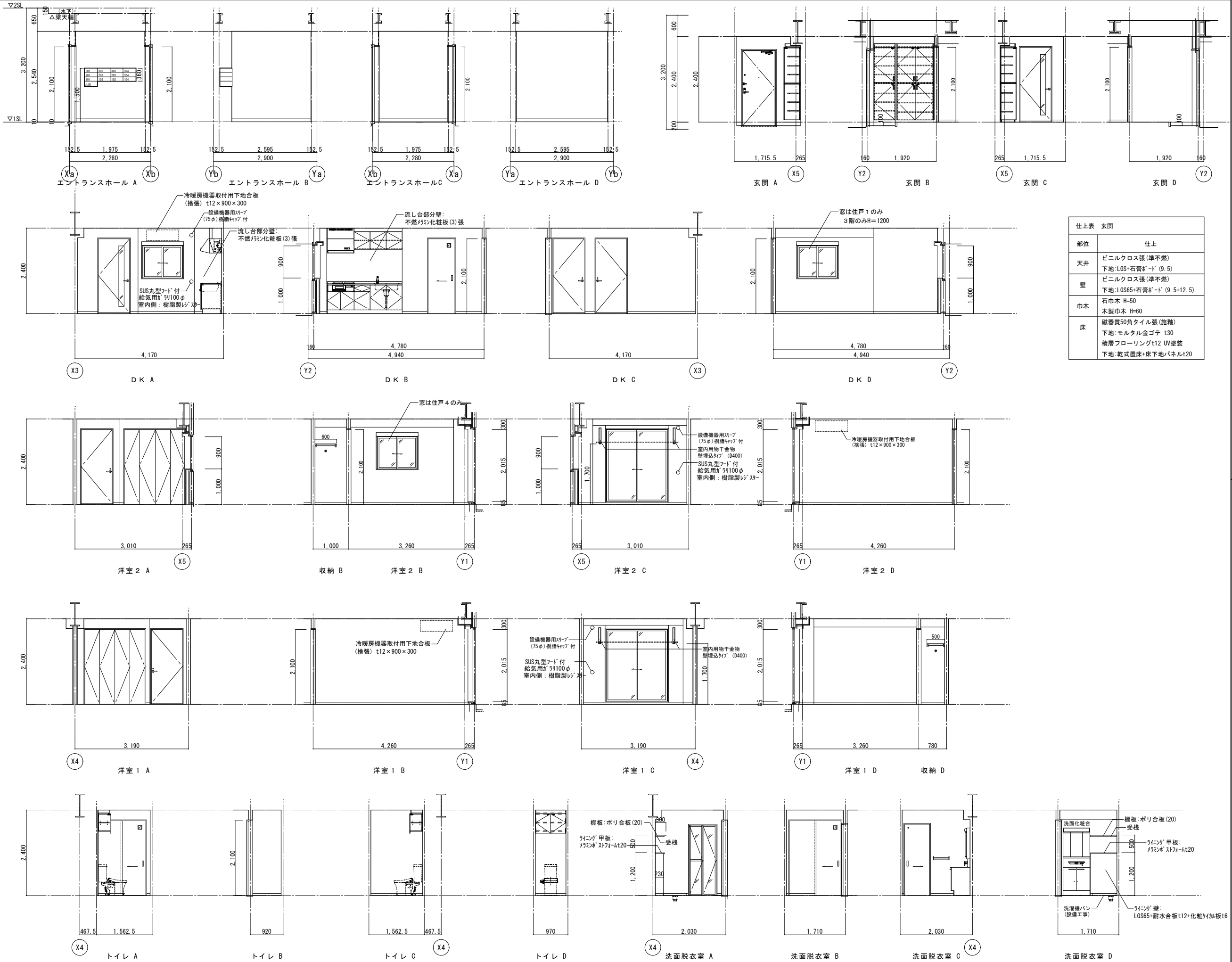
仕上表 エントランスホール	
部位	仕上
天井	ロックウール吸音板 (9) 下地: LGS+石膏板・ド (12.5.5)
壁	珪藻土 下地: LGS65+石膏板・ド (9.5+12.5)
巾木	ビニル巾木 H=100
床	防滑性ビニル床シート t2.5 下地: コンクリート金ゴテ

仕上表 DK	
部位	仕上
天井	ビニルクロス張 (準不燃) 下地: LGS+石膏板・ド (9.5)
壁	ビニルクロス張 (準不燃) 一部不燃パシニ化粧板 (3) 張 下地: LGS65+石膏板・ド (9.5+12.5)
巾木	木製巾木 H=60
床	積層フローリング t12 UV塗装 下地: 乾式置床+床下地パネル t20

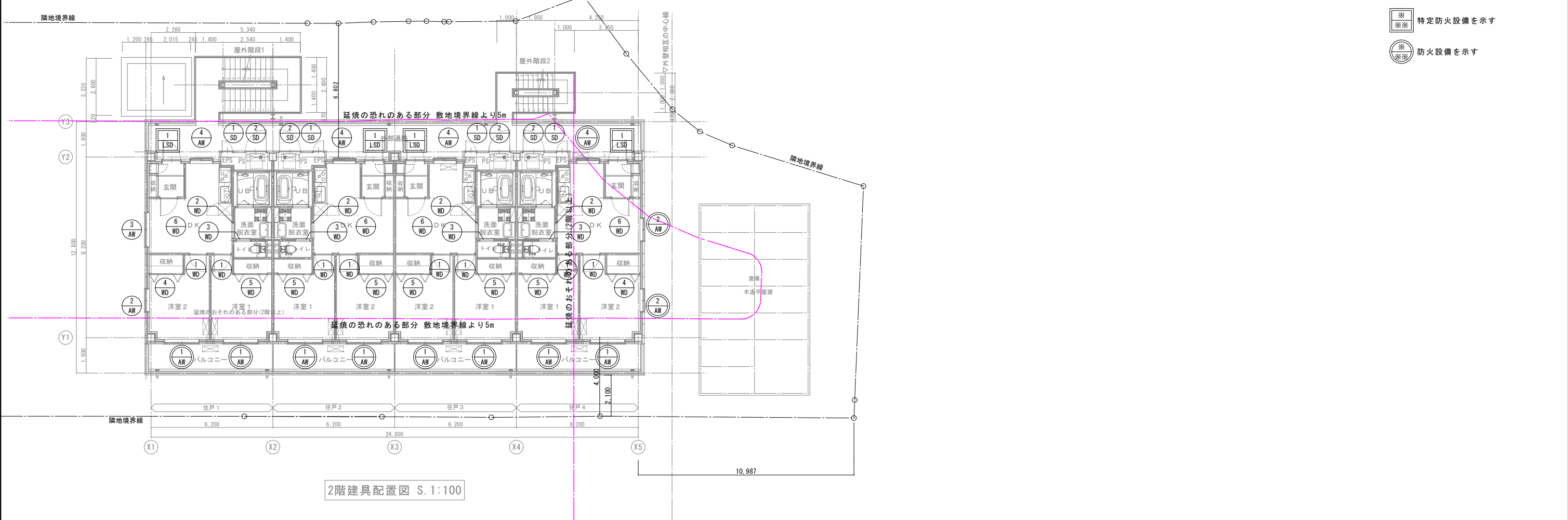
仕上表 洋室1・洋室2	
部位	仕上
天井	ビニルクロス張 (準不燃) 下地: LGS+石膏板・ド (9.5)
壁	ビニルクロス張 (準不燃) 下地: LGS65+石膏板・ド (9.5+12.5)
巾木	木製巾木 H=60
床	積層フローリング t12 UV塗装 下地: 乾式置床+床下地パネル t20

仕上表 収納	
部位	仕上
天井	ビニルクロス張 (準不燃) 下地: LGS+石膏板・ド (9.5)
壁	ビニルクロス張 (準不燃) 下地: LGS65+石膏板・ド (9.5)
巾木	木製巾木 H=60
床	積層フローリング t12 UV塗装 下地: 乾式置床+床下地パネル t20

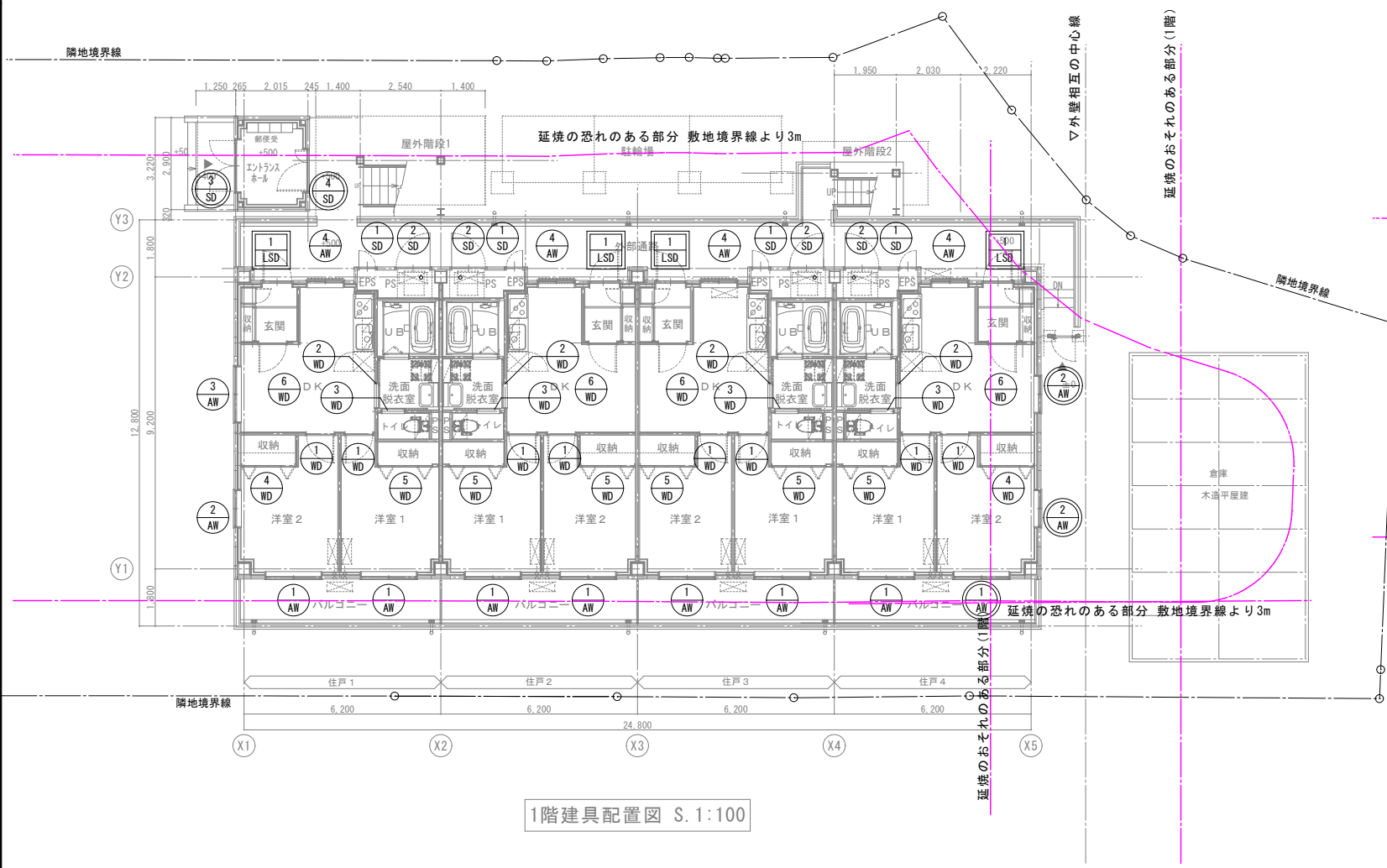
仕上表 トイレ・洗面脱衣室	
部位	仕上
天井	ビニルクロス張 (準不燃) 下地: LGS+石膏板・ド (9.5)
壁	ビニルクロス張 (準不燃) 下地: LGS65+石膏板・ド (9.5+12.5) ガラス・t50・24充填
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ビニル床シート t2.0 下地: 乾式置床+床下地パネル t20 普通合板 t12



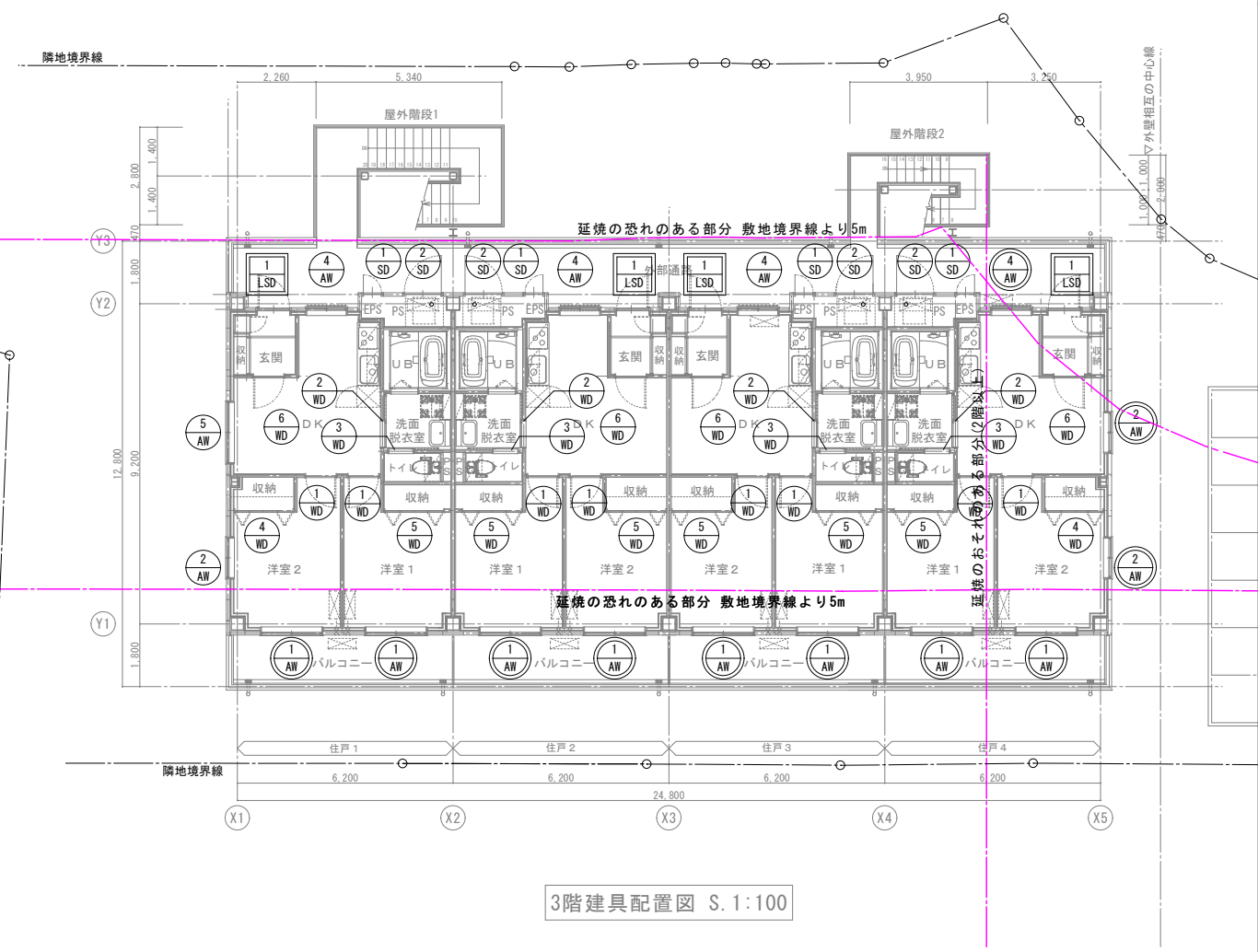
仕上表 玄関	
部位	仕上
天井	ビニルクロス張 (準不燃) 下地: LGS+石膏板・ド (9.5)
壁	ビニルクロス張 (準不燃) 下地: LGS65+石膏板・ド (9.5+12.5)
巾木	石巾木 H=50 木製巾木 H=60
床	磁器質50角タイル張 (施釉) 下地: モルタル金ゴテ t30 積層フローリング t12 UV塗装 下地: 乾式置床+床下地パネル t20



2階建具配置図 S. 1:100

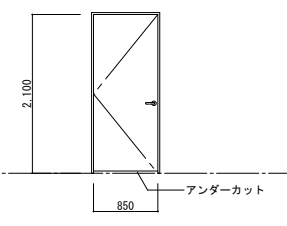
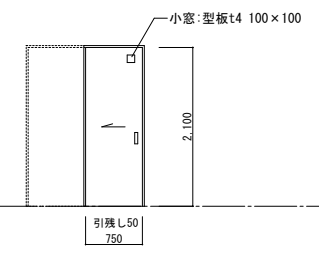
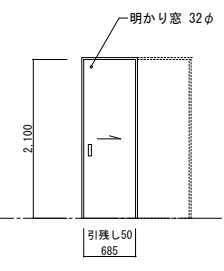
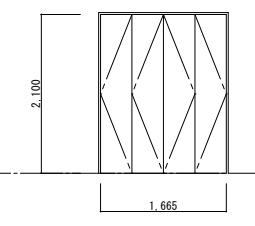
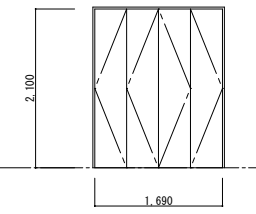
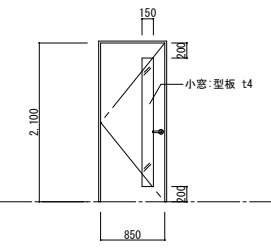


1階建具配置図 S. 1:100



3階建具配置図 S. 1:100

①AW数量×7		S=1/50	②AW数量×3		S=1/50	③AW数量×2		S=1/50	④AW数量×10		④AW数量×2	S=1/50
取付場所	洋室1 洋室2		DK 洋室2			住戸1 DK (1階、2階)			DK			
名 称	アルミ製引違い窓		アルミ製引違い窓			アルミ製引違い窓			アルミ製引違い窓			
見 込	70		70			70			70			
材質・仕上げ	着色陽極酸化塗装複合被膜 (B-2種)		着色陽極酸化塗装複合被膜 (B-2種)			着色陽極酸化塗装複合被膜 (B-2種)			着色陽極酸化塗装複合被膜 (B-2種)			
ガラス	一般サッシ：FL5+A6+Low-E5 防火設備：PW6.8+A6+Low-E5		一般サッシ：FL5+A6+Low-E5 防火設備：PW6.8+A6+Low-E5			一般サッシ：FL5+A6+Low-E5			一般サッシ：FW6.8+A6+Low-E5 防火設備：FW6.8+A6+Low-E5			
付属金物	鍵付きクレセント、網戸、アルミ水切り、補助錠 付属品金物一式		鍵付きクレセント、網戸、アルミ水切り、補助錠 付属品金物一式			鍵付きクレセント、網戸、アルミ水切り、補助錠 付属品金物一式			鍵付きクレセント、網戸、アルミ水切り、補助錠 付属品金物一式			
備 考	②防火設備を示す 認定番号：EB-3170-1		②防火設備を示す 認定番号：EB-3389						②防火設備を示す 認定番号：EB-3389			
⑤AW数量×1		S=1/50	①LSD数量×12		S=1/50	①SD数量×12		S=1/50	②SD数量×12			S=1/50
取付場所	住戸1 DK (3階)		玄関			EPS			PS			
名 称	アルミ製引違い窓		軽量鋼製ドア			鋼製点検口			鋼製点検口			
見 込	70		42			25			25			
材質・仕上げ	着色陽極酸化塗装複合被膜 (B-2種)		表面材：化粧鋼板 t0.6 芯材：ハニカムコア			熔融亜鉛メッキ鋼板t1.2 防錆塗装の上DP塗装			熔融亜鉛メッキ鋼板t1.2 防錆塗装の上DP塗装			
ガラス	一般サッシ：FL5+A6+Low-E5											
付属金物	鍵付きクレセント、網戸、アルミ水切り、補助錠 付属品金物一式		レバーハンドル錠、DC、戸当り、ステンレス沓摺、ドアガード、ドアスコープ 付属品金物一式			平面ハンドル、丁番、戸当りゴム、煽り止めチェーン、本締錠 付属品金物一式			平面ハンドル、丁番、戸当りゴム、煽り止めチェーン、本締錠 付属品金物一式			
備 考			④特定防火設備を示す 特定防火設備：H12年建告1369号									
③SD数量×1		S=1/50	④SD数量×1		S=1/50							
取付場所	エントランスホール		エントランスホール									
名 称	鋼製両開きドア		鋼製親子ドア									
見 込	100		100									
材質・仕上げ	熔融亜鉛メッキ鋼板t1.6 防錆塗装の上DP塗装		熔融亜鉛メッキ鋼板t1.6 防錆塗装の上DP塗装									
ガラス	防火設備：PW6.8		防火設備：PW6.8									
付属金物	引き棒、本締錠、DC、戸当り、ステンレス沓摺、フランス落し 付属品金物一式		引き棒、電気錠、DC、戸当り、ステンレス沓摺 付属品金物一式									
備 考	②防火設備を示す											

①WD数量 × 24S=1/50		②WD数量 × 12S=1/50		③WD数量 × 12S=1/50		④WD数量 × 6S=1/50	
							
取付場所	洋室1 洋室2	洗面脱衣室		トイレ		洋室1 洋室2	
名 称	木製片開き戸	木製片引き吊り戸		木製片引き吊り戸		木製折れ戸	
見 込	36	36		36		36	
材質・仕上げ	MDF 化粧シート張	MDF 化粧シート張		MDF 化粧シート張		MDF 化粧シート張	
ガラス		型板 t4					
付属金物	レバーハンドル、丁番、戸当り、シリンダー錠、サムターン 付属品金物一式	引手、上吊りレール、ガイドレール 付属品金物一式		引手、上吊りレール、ガイドレール、明かり窓、表示付き錠錠 付属品金物一式		ハンドル、上吊りレール、ガイドレール 付属品金物一式	
備 考	建具枠：MDF 化粧シート張 枠見込129	建具枠：MDF 化粧シート張 枠見込129		建具枠：MDF 化粧シート張 枠見込129		建具枠：MDF 化粧シート張 枠見込100	
⑤WD数量 × 18S=1/50		⑥WD数量 × 12S=1/50					
							
取付場所	洋室1 洋室2	D K					
名 称	木製折れ戸	木製片開き戸					
見 込	36	36					
材質・仕上げ	MDF 化粧シート張	MDF 化粧シート張					
ガラス		型板 t4					
付属金物	ハンドル、上吊りレール、ガイドレール 付属品金物一式	レバーハンドル、丁番、戸当り 付属品金物一式					
備 考	建具枠：MDF 化粧シート張 枠見込100	建具枠：MDF 化粧シート張 枠見込129					
取付場所							
名 称							
見 込							
材質・仕上げ							
ガラス							
付属金物							
備 考							

家具共通仕様		「図面中に特記なき所は下記の仕様とする。」		F-1	吊戸棚	トイレ／計12ヶ所			
1 本体・棚板 室内VOC（ホルムアルデヒド等）の低減効果と抗菌機能を持った可視光増感型触媒を工業的に配合した両面メラミン化粧パーティクルボード（ユニボードビュアHi）厚さ20mm、F☆☆☆☆を使用する。 上記材料は、JIS-A5908適合、18タイプ（曲げ強さ18N/平方ミリメートル以上）とし、JISマーク認定の国内工場での生産品、且つグリーン購入法適合品とする。 基材は、千葉県産材を含む国産材混合（配合率20％）とし、合法性木材認定事業者取り扱い品を使用する。 2 木口処理 躯体からの水分浸入を防ぐために、本体は背面も含めてフラットエッジ（ABS製樹脂をホットメルト継付）加工とする。 開き扉はセフティーエッジ（ABS製 厚さ3mm ホットメルト継付）加工とする。 3 表面処理 本体・棚板・建具等は使用時の擦り傷の発生を抑制するために鉛筆硬度 9H 以上の表面材を使用する。 本体色については色見本帳（45色以上）を提出の上決定する。 4 裏板 ポリエステル化粧合板 F☆☆☆☆ 厚さ4mmを使用し、 片面フラッシュ（450mm ピッチ以内に格子状縦横構造）とする。 5 本体組立て 組立ては、製作工場での木製ダボ組接合とし、接合部のノックダウン金物は使用不可とする。 6 巾木・台輪 ポリエステル化粧合板仕上げ F☆☆☆☆（塗装不要）とする。 7 建具 板戸は、くるといよほぞ引き防止のため、かまち組み等は不可とし1枚物とする。 メンテナンスが容易な樹脂成型（ABS製）の押縁で固定する。 8 把手・蝶番 樹脂成型品（ABS製）の把手・引手を使用する。 蝶番は、メンテナンスが容易なキャッチ機構付110°開きゼンシスヒンジ（ソフトクローズ機構付）を使用する。 11 棚板受け 安全で外れにくいネジ込み式で、錆びにくいステンレス製ダボ φ8-M6を使用する。 棚板は外れ止めシャクリ加工を施す。 12 特記事項 環境配慮及び品質確保のため、取り扱いにはISO 14001、製作はISO 9001 取得企業とする。 製作にあたり、事前に製品の品質証明書及び材料及ば接着剤の安全データシートを提出し、素材・金物の承認を受ける。 室内空気清浄保持のために、学校環境衛生基準に対して参考となる類似製品のVOC測定データを提出する。 13 施工 家具取付は、安全のため壁や床に耐震固定を施す。		【木口詳細】 フラットエッジ 木口：ABSシート t0.45 ホットメルト継付 面々メラミン化粧パーティクルボード （ユニボードビュアHi）t20 木口：ABSシート t3 ホットメルト継付 面々メラミン化粧パーティクルボード （ユニボードビュアHi）t20		【開き扉詳細】 扉木口 詳細図 キャッチ機構付ゼンシスヒンジ110°開き用蝶番（ソフトクローズ機構付） 扉木口：セフティーエッジ 調整ネジ タッピングネジ 側板 側板取り付け インサートネジ 仕切板 皿ボルト 中仕切取り付け 把手（樹脂成型品）詳細図				※ 扉木口：セフティーエッジ	
家具キープラン 1/100				F-2	下足入れ	玄関／計12ヶ所			
				F-4	棚	洗面脱衣室／計12ヶ所			

ver. 20.06.12

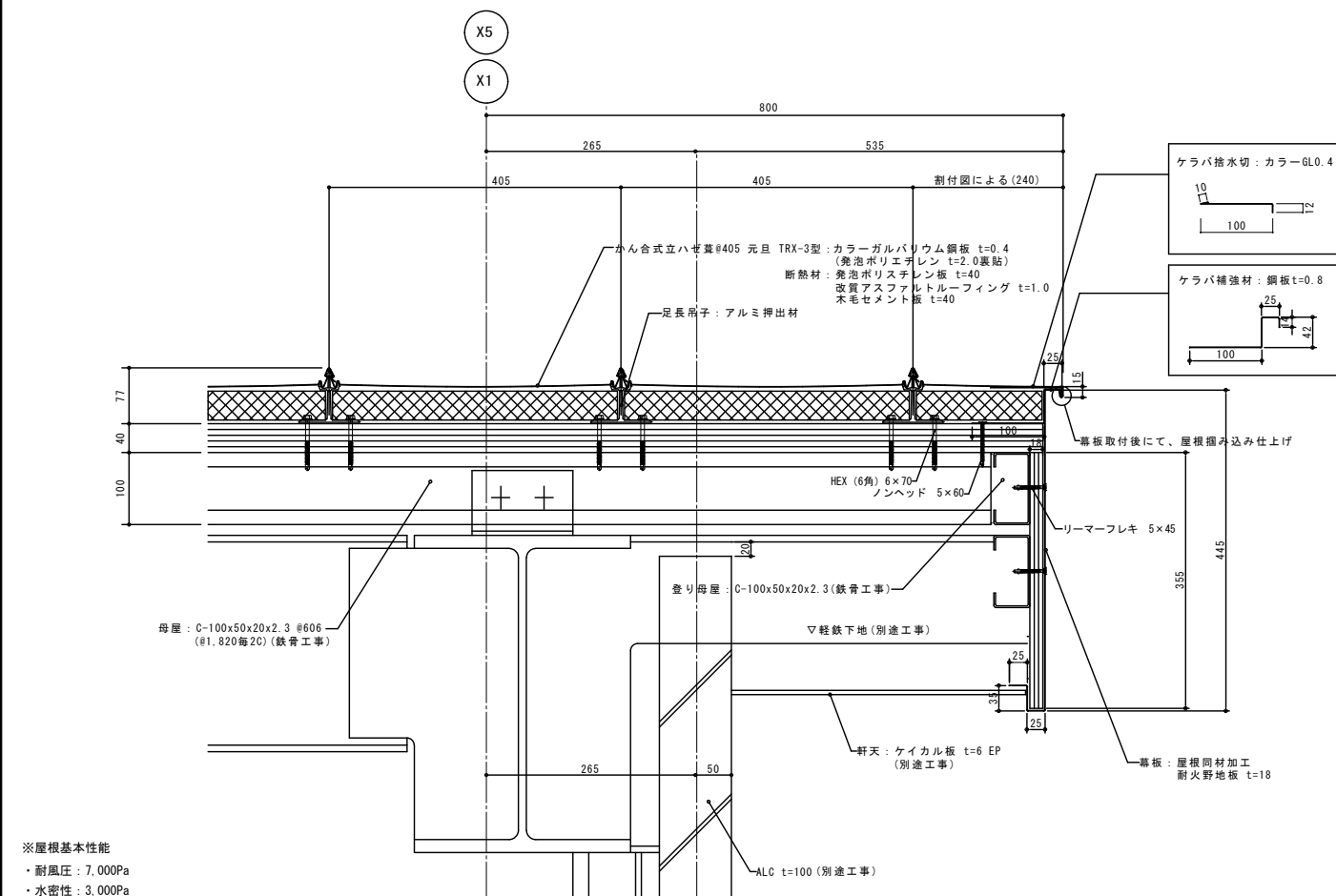
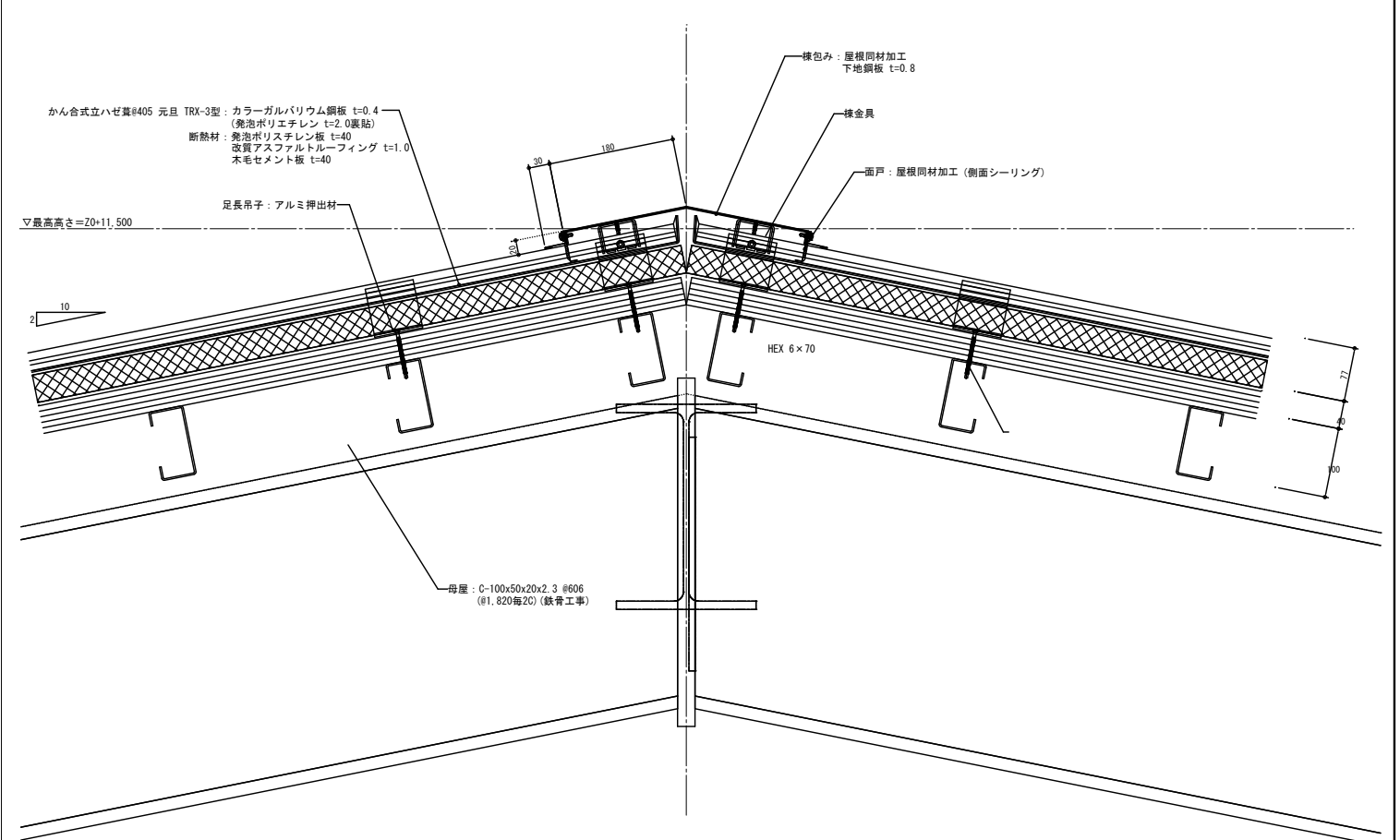
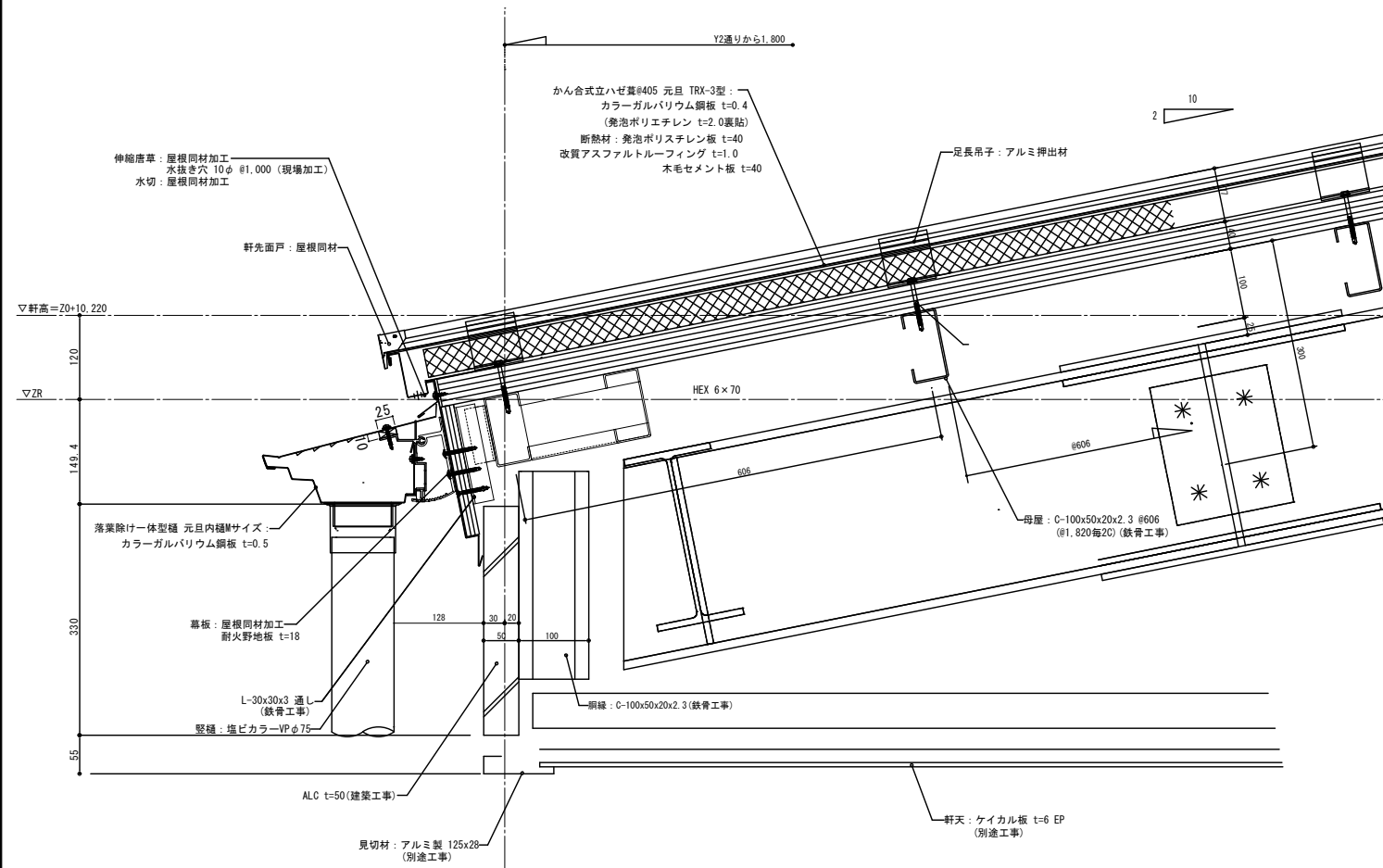
桑田建築設計事務所
A.KUWATA ARCHITECT & ASSOCIATES

桑田一敏建築士事務所
一般建築士 No.126964
安達文豪

7・3・
(A1) S=1: 20
(A3) S=1: 40

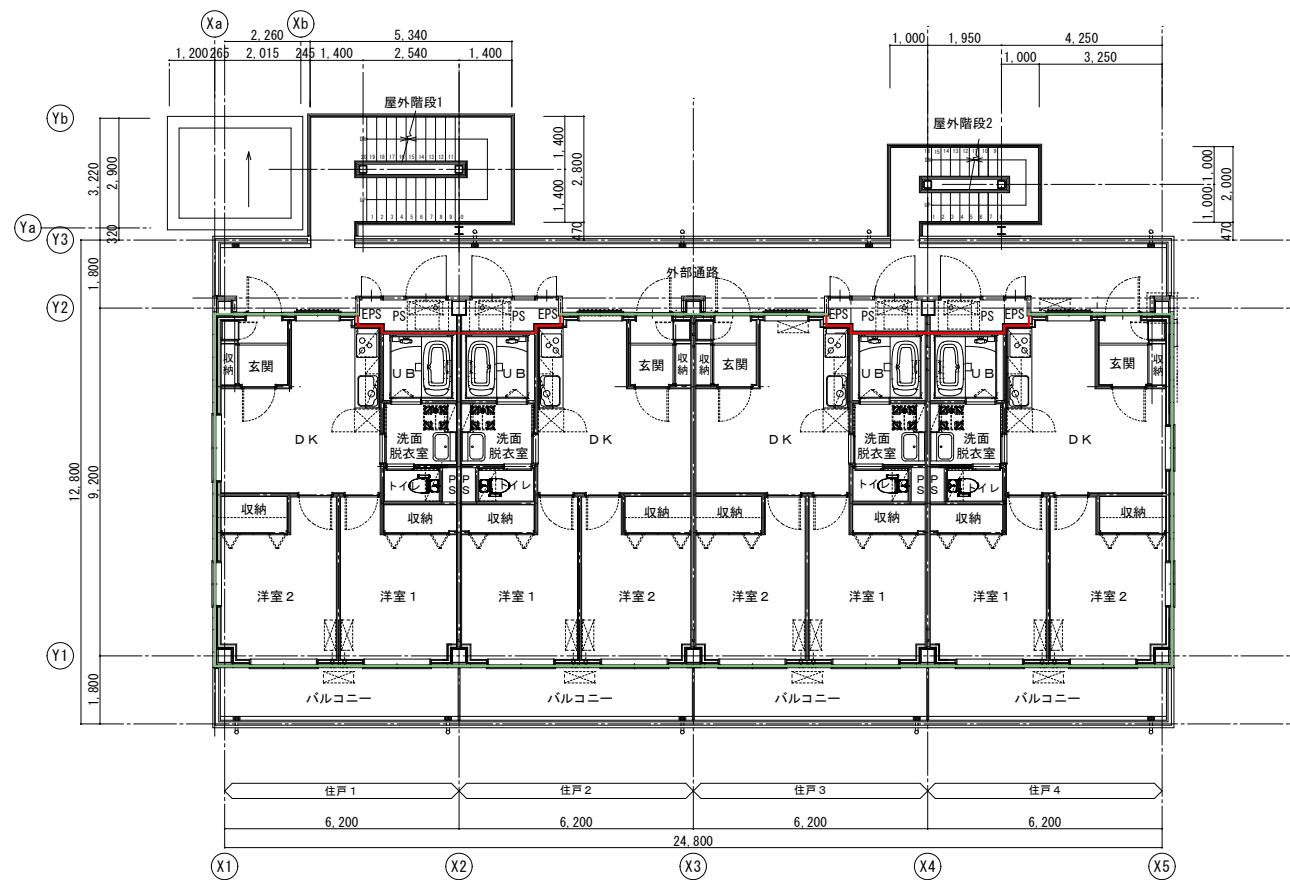
旭第二宿舍建設工事
家具キープラン・家具詳細図

A-29

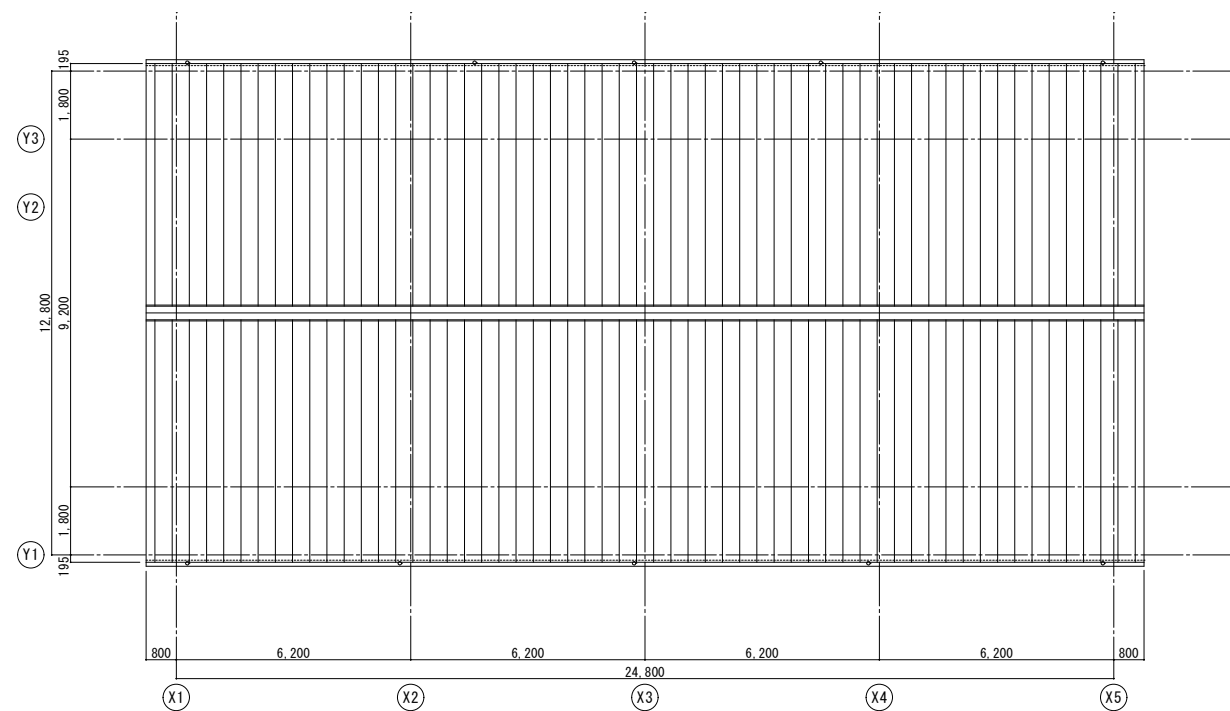


※屋根基本性能

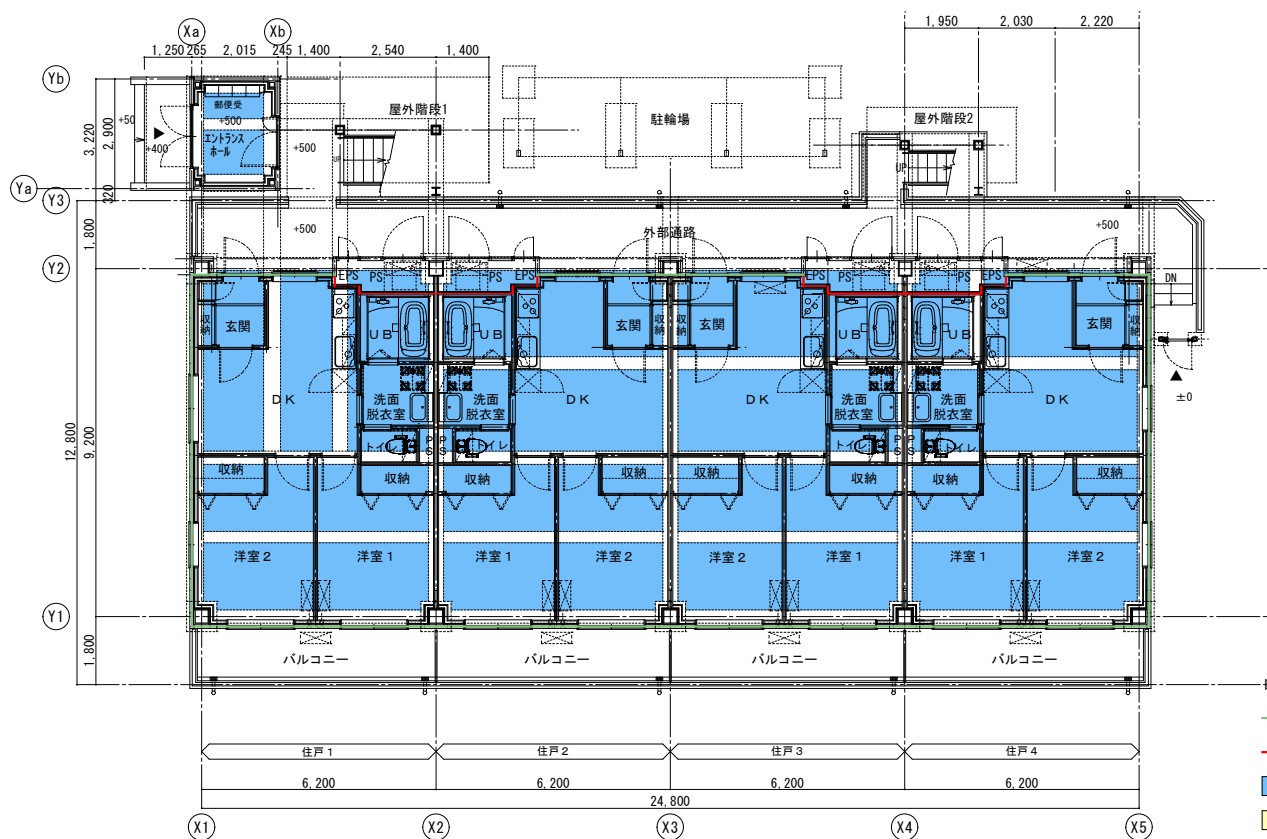
- ・耐風圧：7,000Pa
- ・水密性：3,000Pa



2階平面図 S=1:100



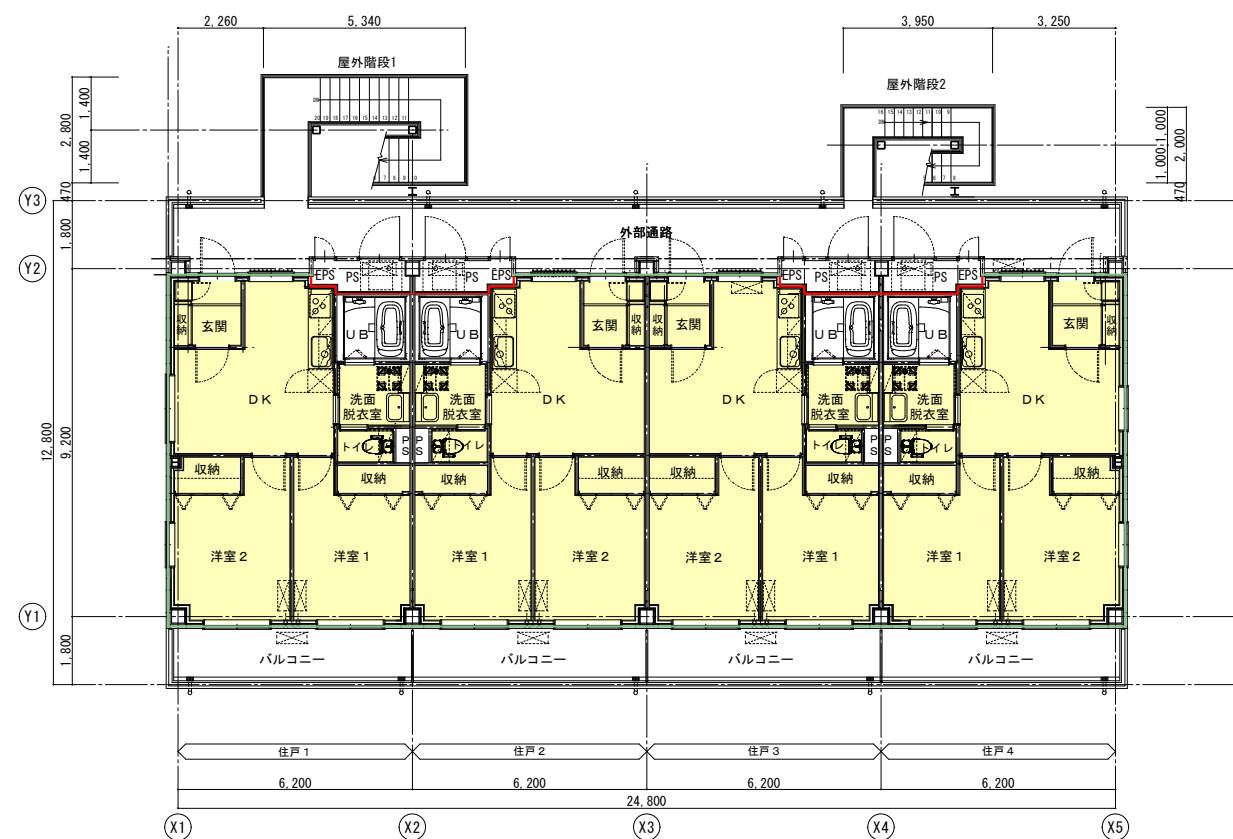
屋根伏図 S=1:100



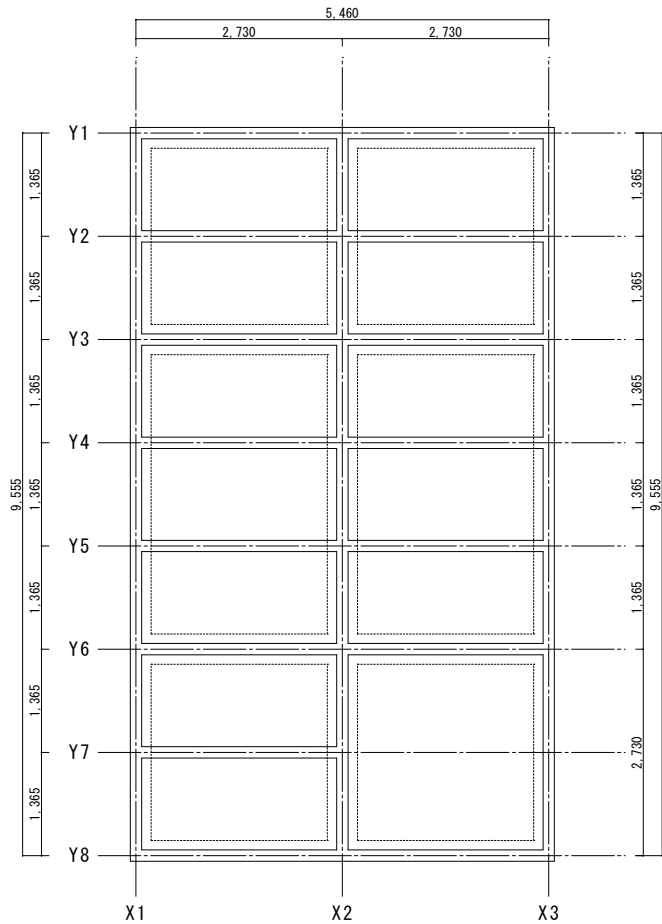
1階平面図 S.1=100

断熱範囲 凡例

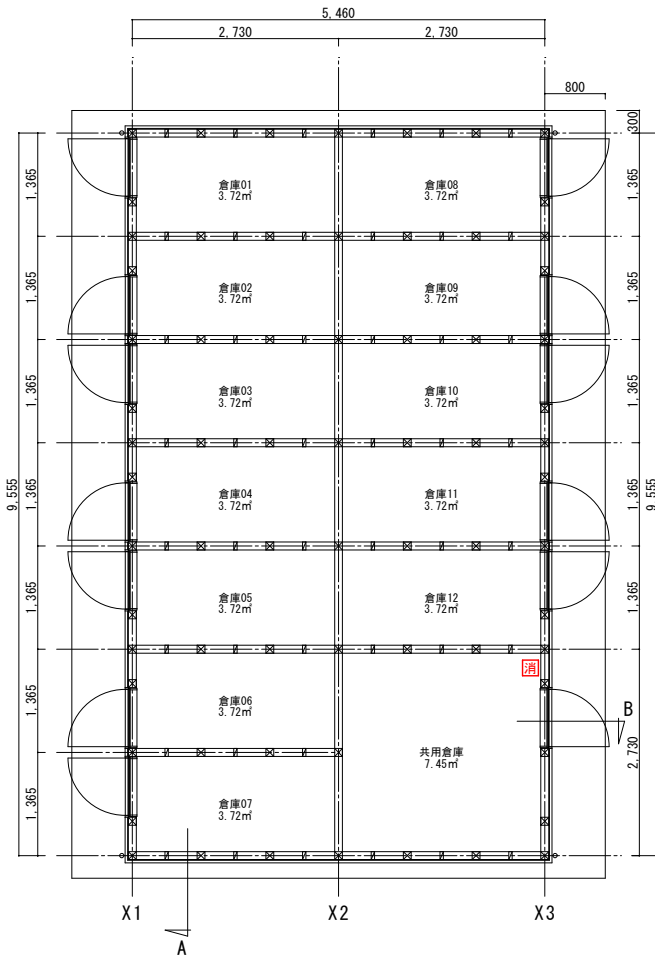
- 外壁断熱:発泡ウレタ吹付 t25
- 外壁断熱:グラスウール t50 24kg/m3
- 床下断熱:発泡ウレタ t25
- 天井裏断熱:グラスウール t24kg t100



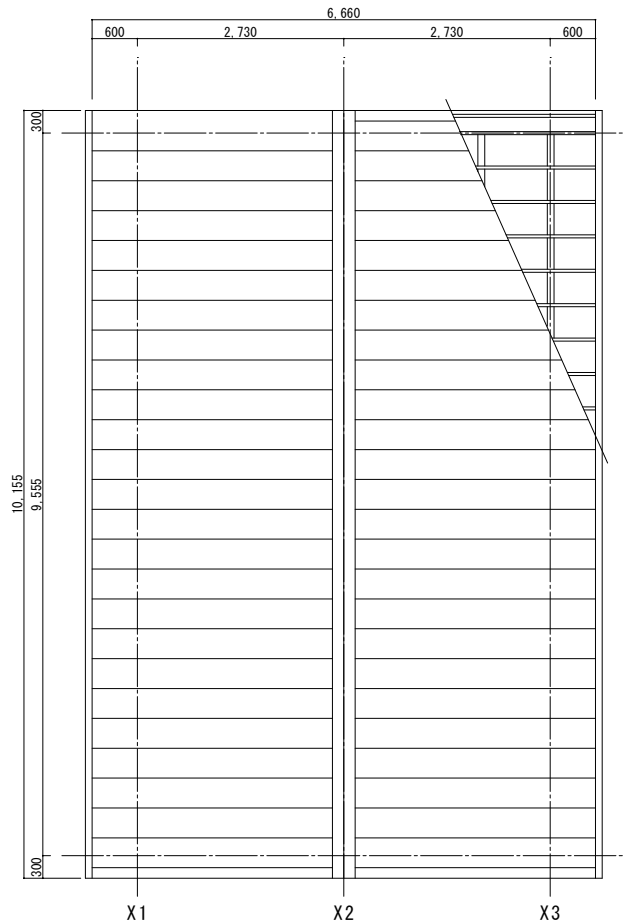
3階平面図 S=1:100



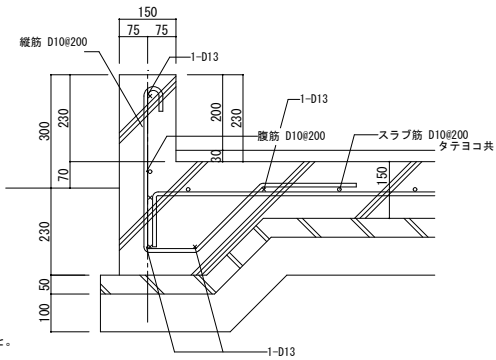
基礎伏図 S=1:50



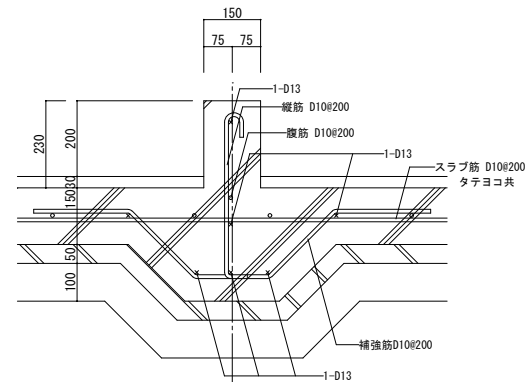
平面図 S=1:50



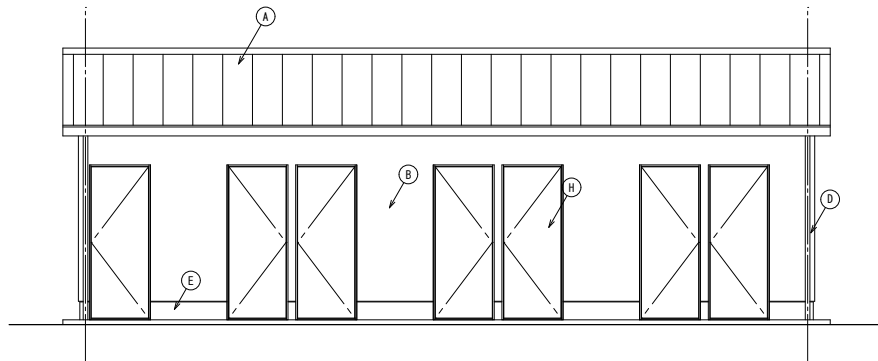
屋根伏図 S=1:50



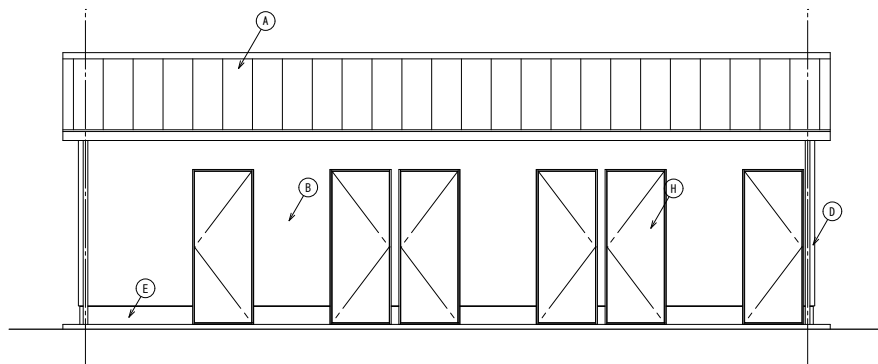
基礎端部詳細図 S=1:10



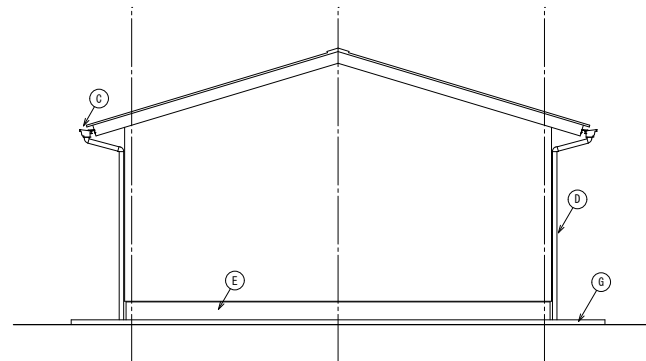
基礎中央部詳細図 S=1:10



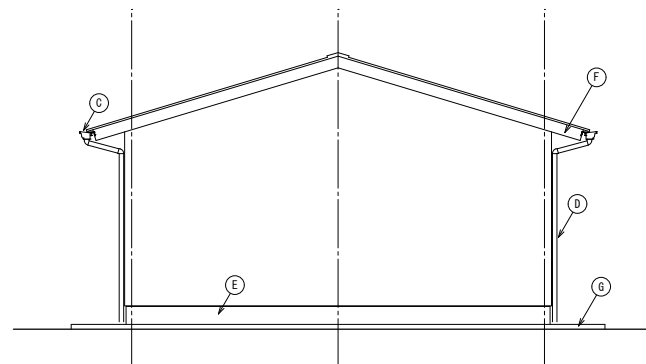
西側立面図 S=1:50



東側立面図 S=1:50



北側立面図 S=1:50



南側立面図 S=1:50

A 屋根:ガルバリウム鋼板 t=0.4 縦置き	E 基礎:刷毛引き仕上
B 外壁:防火サイディング t=14	F 軒天:ケイ酸カルシウム板 t=10
C 軒樋:硬質塩化ビニル樹脂製	G 犬走:金網仕上
D 堅樋:φ60	H 防火戸:防火ドア (防火設備)

■内外部仕上表

外 部 仕 上			
屋 根	ガルバリウム鋼板 t=0.4 縦書き/アスファルトルーフィング940/野地板 t=12/垂木 40×60@455 スタイロフォーム t=30	大 走	コンクリート金鍍仕上
外 壁	防火サイディング t=14/銅線 t=18/透湿防水シート t=0.16/構造用合板 t=9 認定番号 PQ030BE-9201	樋	軒樋：硬質塩化ビニル樹脂製 壁樋：VP管 Φ60
開 口 部	防火ドア（防火設備） 認定番号 EB-1559	軒 先	ガルバリウム鋼板 t=0.4 巻き/木下地
軒 天	ケイ酸カルシウム板 t=10/木下地 認定番号 QF030RS-0192	水 切 り	土台水切り：アルミニウム
基礎立上り	コンクリート打放し補修		

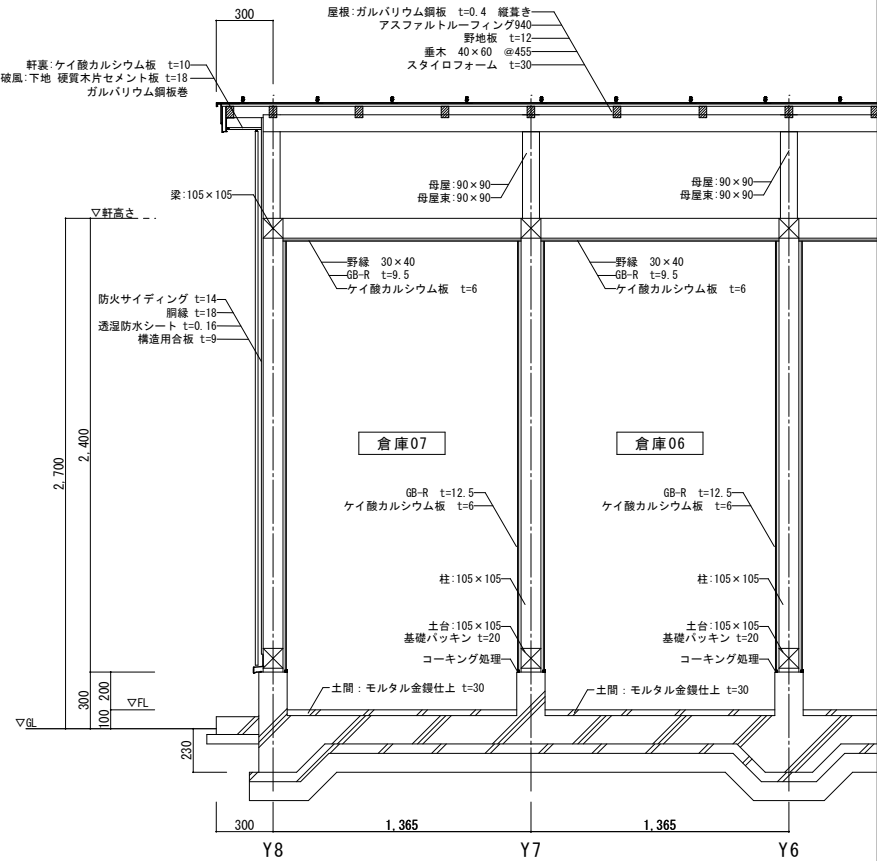
内 部 仕 上												
室 名	下地	床	仕上高	巾 木	下地	壁	下地	天 井	天井見切	天井高	備 考	室 名
倉庫01～12	C	コンクリート金鍍仕上	1FL±0		M	GB-R t=12.5 +ケイ酸カルシウム板 t=6 +EP塗装	M	GB-R t=9.5 +ケイ酸カルシウム板 t=6 +EP塗装		2480		倉庫01～12
共用倉庫	C	コンクリート金鍍仕上	1FL±0		M	GB-R t=12.5 +ケイ酸カルシウム板 t=6 +EP塗装	M	GB-R t=9.5 +ケイ酸カルシウム板 t=6 +EP塗装		2480		共用倉庫

■構造概要

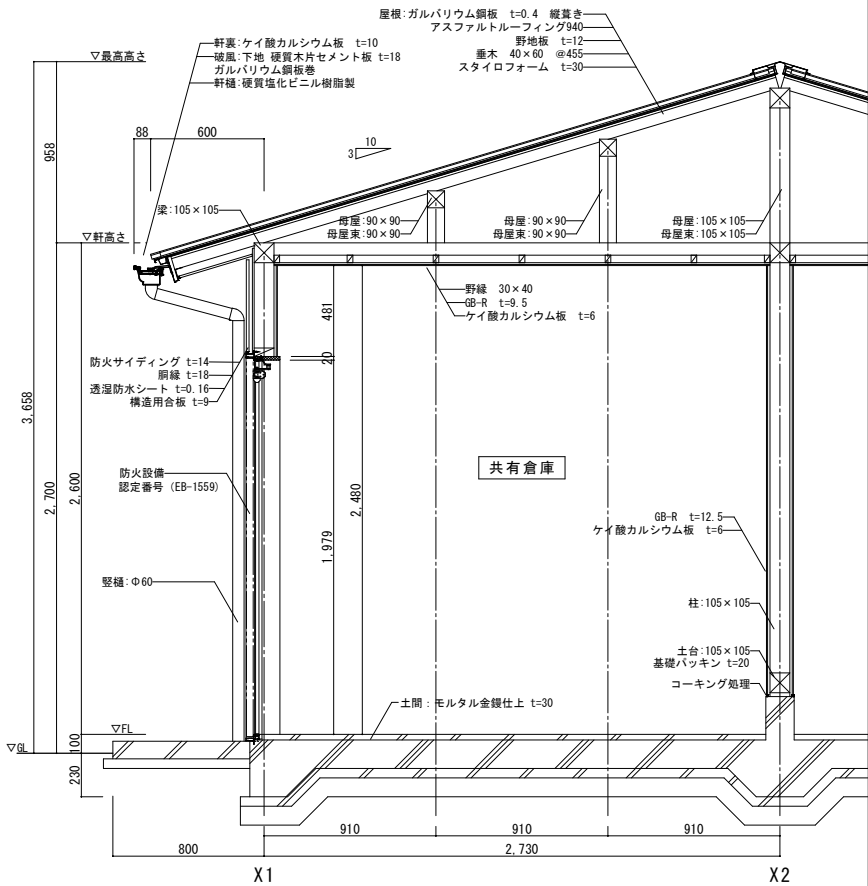
名 称	仕 様	備 考
土 台	桧 105mm×105mm	
軀 体	木造軸組工法 平屋建て	
土 台	桧 105mm×105mm	
柱	杉 105mm×105mm	
梁・桁	米松 105mm×105mm	
母 屋	杉 105mm×105mm	
	杉 90mm×90mm	
間 柱	杉 30mm×105mm	
	杉 45mm×105mm	
基 礎	べた基礎 根入れ深さ：230mm 立上り高さ：230mm 底盤厚さ：150mm	
地 業	砕石、ランマー締め	

■建具表

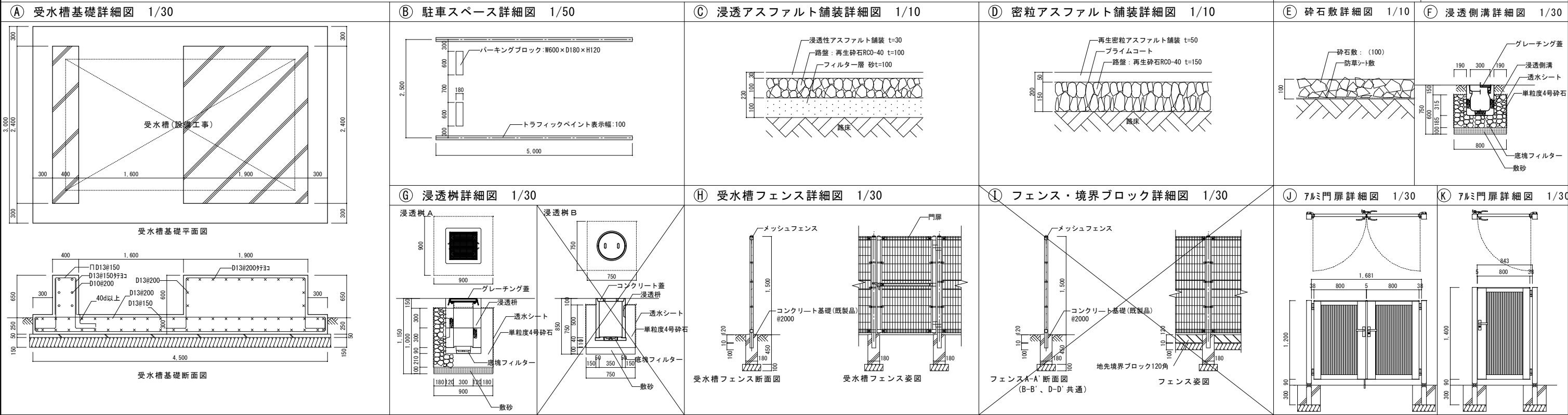
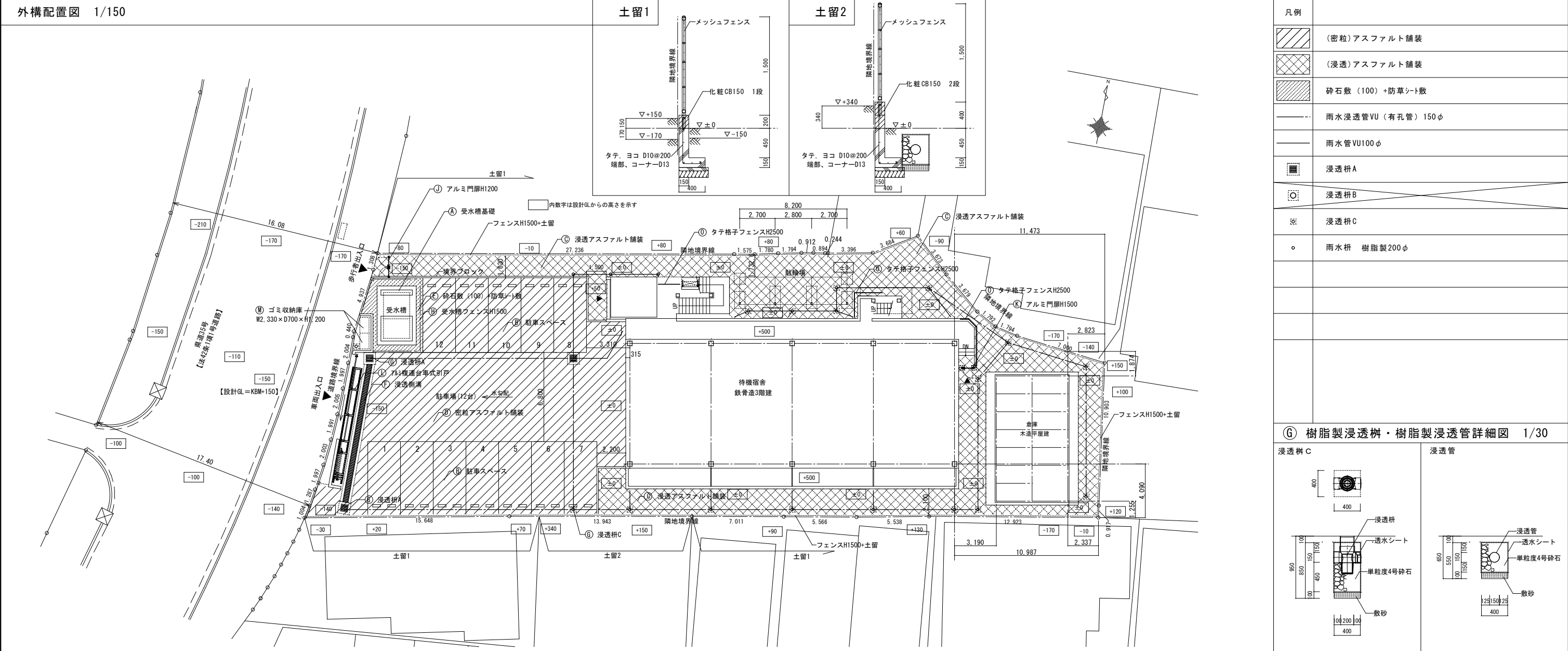
	取付場所	各倉庫出入口
	名 称	防火ドア
	見 込	扉：36
	材 質 仕 上 げ	表面材：ポリエステル系カラー鋼板 パネル芯材：ペーパーハニカムコア
	付属金物	レバーハンドル/サムターン/ドアクローザー/シリンダー
	備 考	



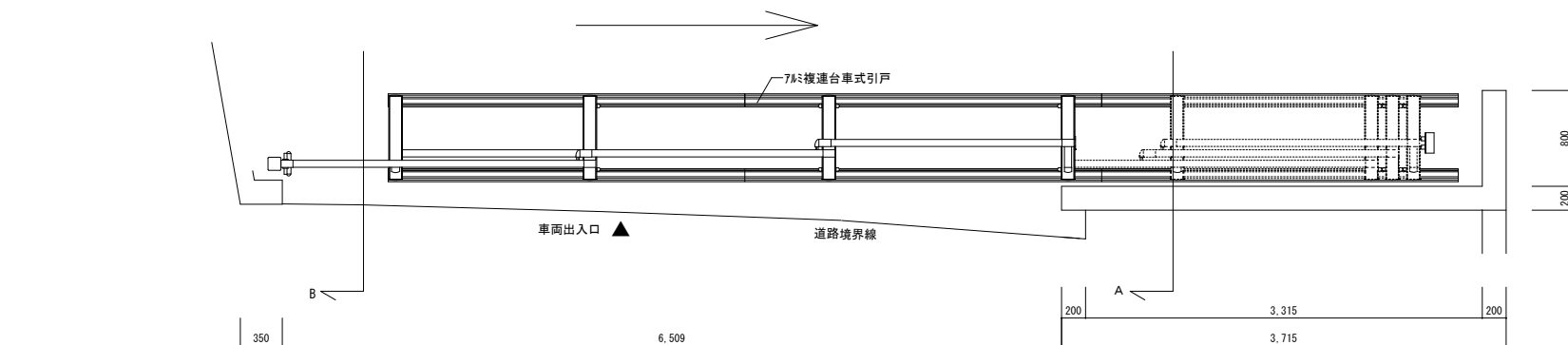
A断面詳細図 S=1:20



B断面詳細図 S=1:20

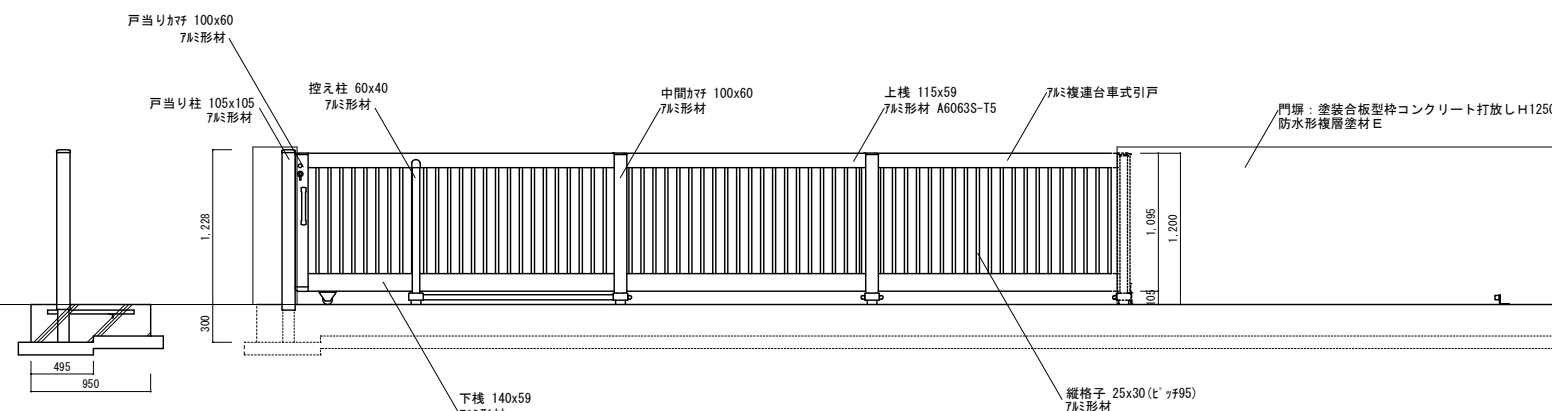


① アルミ複連台車式引戸廻り詳細図 1/30

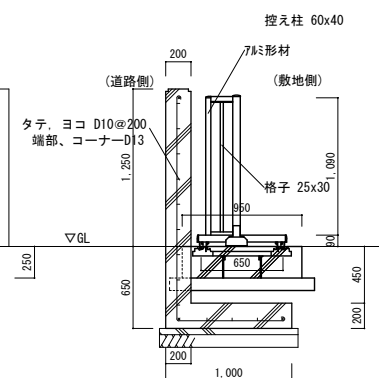


部 材 名	外径x厚さ	材 質	表面処理・塗装
上 棧	115x59	7A形材 JIS H 4100 A6063S-T5	陽極酸化塗装複合皮膜
下 棧	140x59		
戸当りナット	100x60		
中間ナット	100x60		
中 棧	70x53		
縦格子	25x30		
戸当り柱	105x105		
控え柱	60x40		
レール			
		アルミ材 SUS304 + 7A形材 JIS H 4100 A6063S-T5	陽極酸化塗装複合皮膜
レール部のカット類		アルミ材 SUS304	

※レール部の材質はアルミ（SUS304）とする (寸法単位:mm)

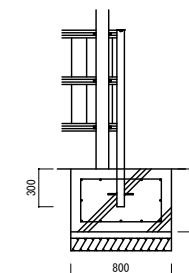
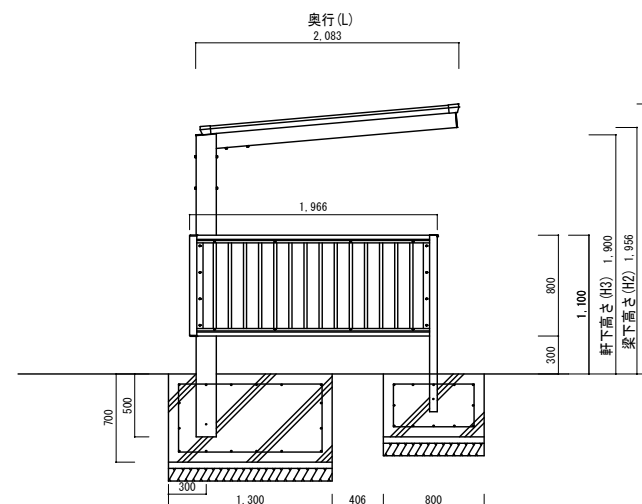
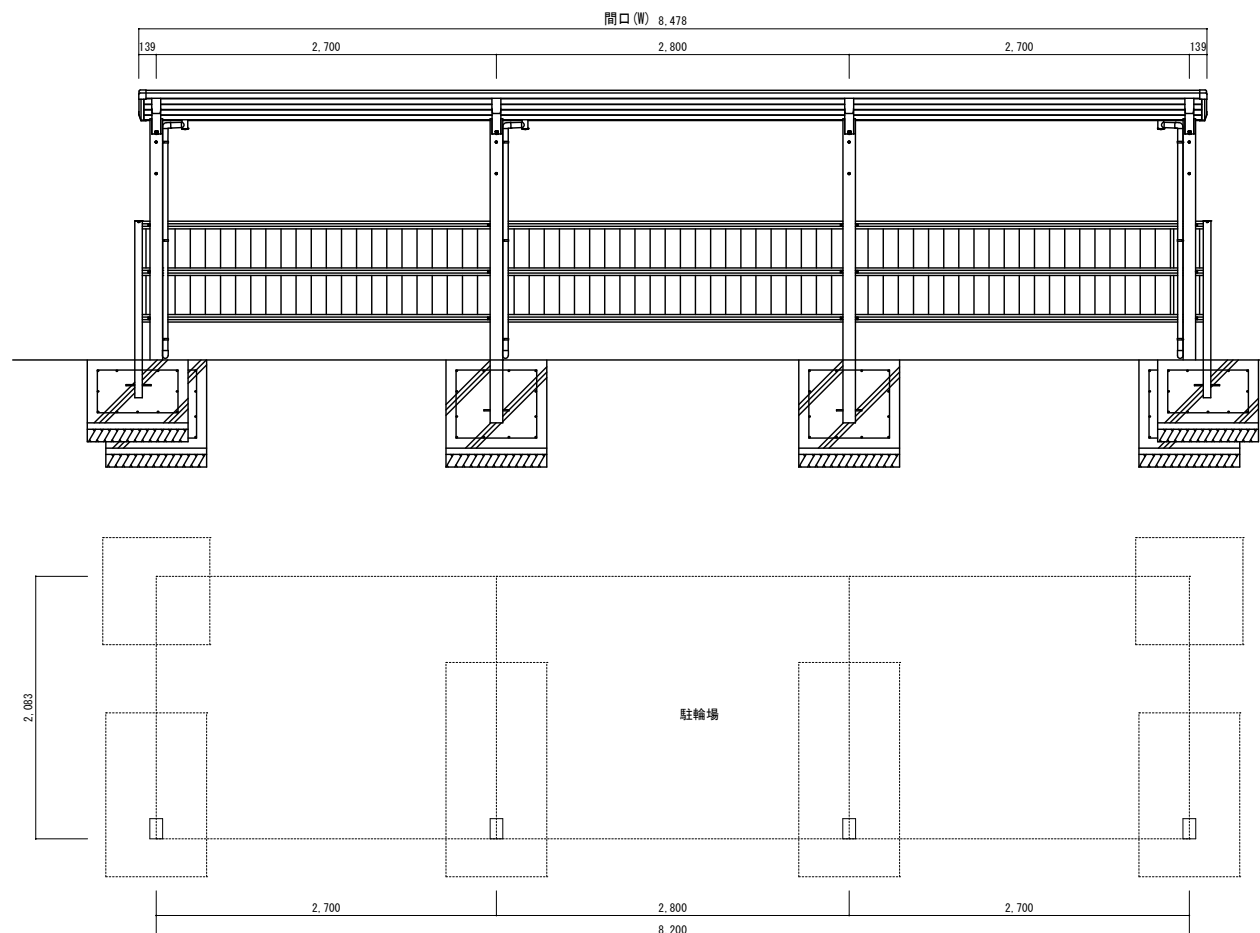


B 断面図



A 断面図

④ 駐輪場詳細図 1/30

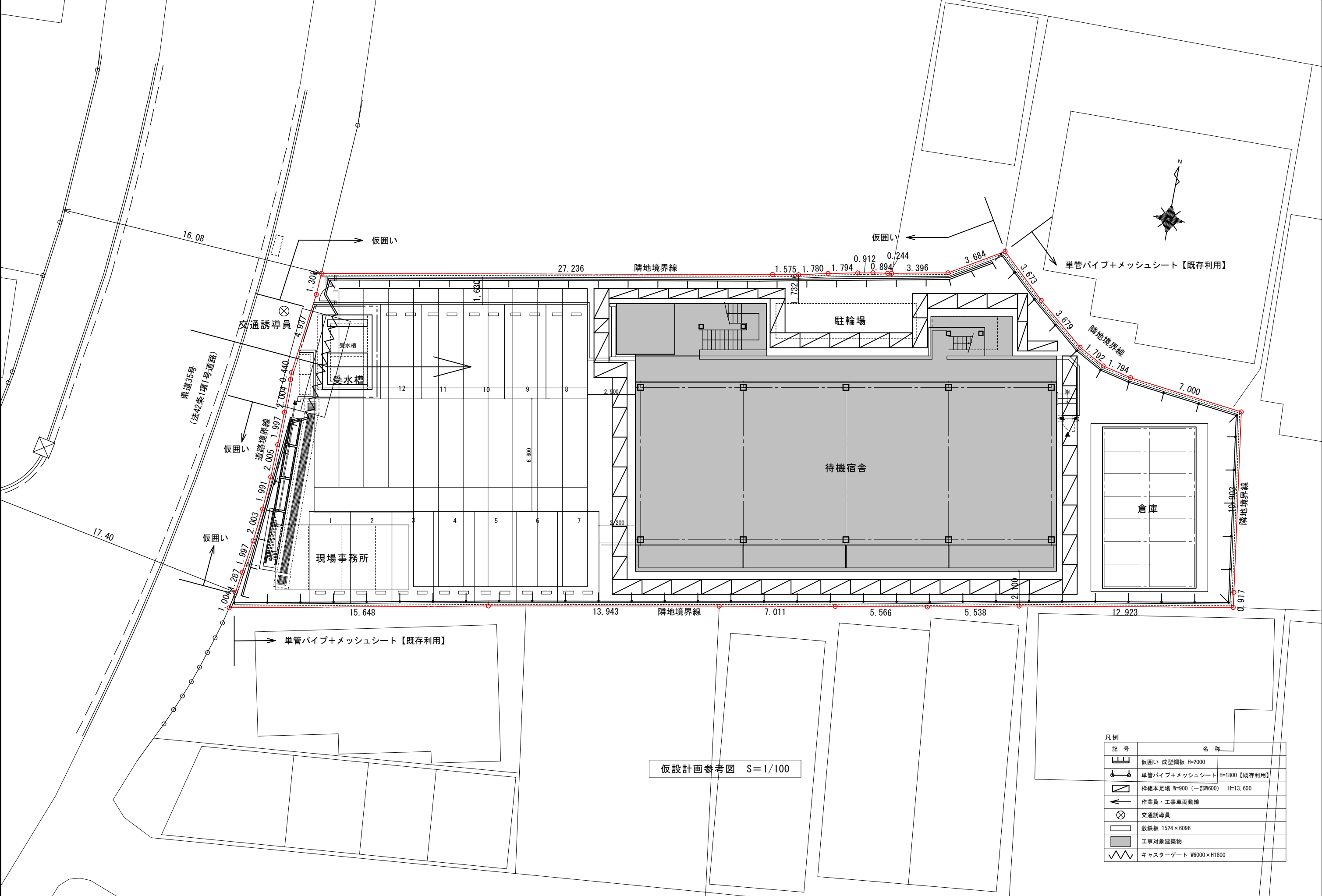


主 要 部 材	仕 様 (材 質・塗 装)
ボルト・ナット・座金	ステンレス
サイドパネル 中棧	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
サイドパネル 上下棧	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
サイドパネル コーナ部材	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
サイドパネル前柱	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
アルミ形材屋根 サイドパネル	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
縦樋	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
端部屋根押え	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
側枠	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
後枠	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
前枠	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
母屋	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
昇り梁	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
支柱	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材

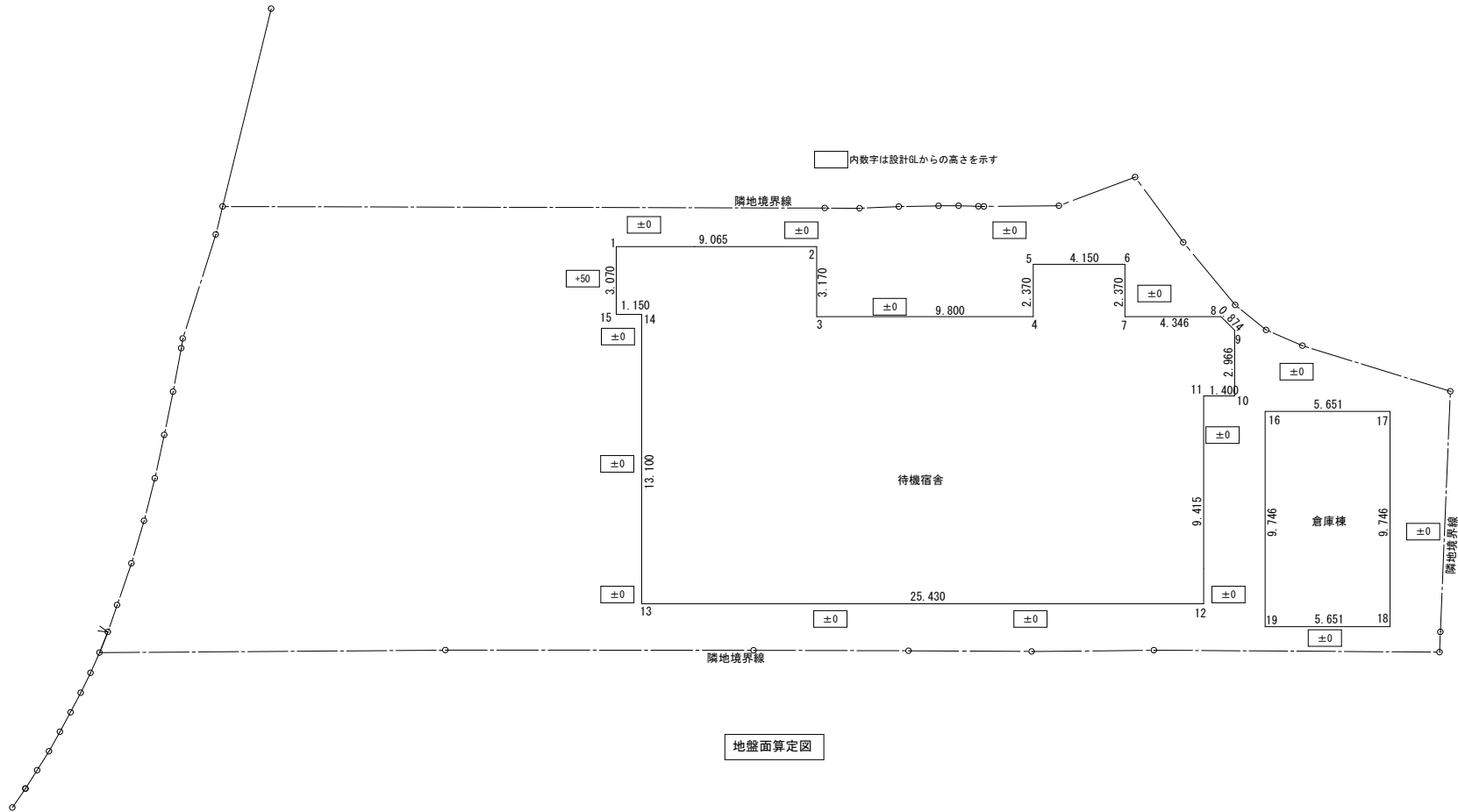
耐風圧強度 $V0=38\text{m/s}$ 、積雪荷重 900N/m^2

構造：アルミニウム合金造

(建築基準法対応 国土交通省告示408・409・410(750)号)



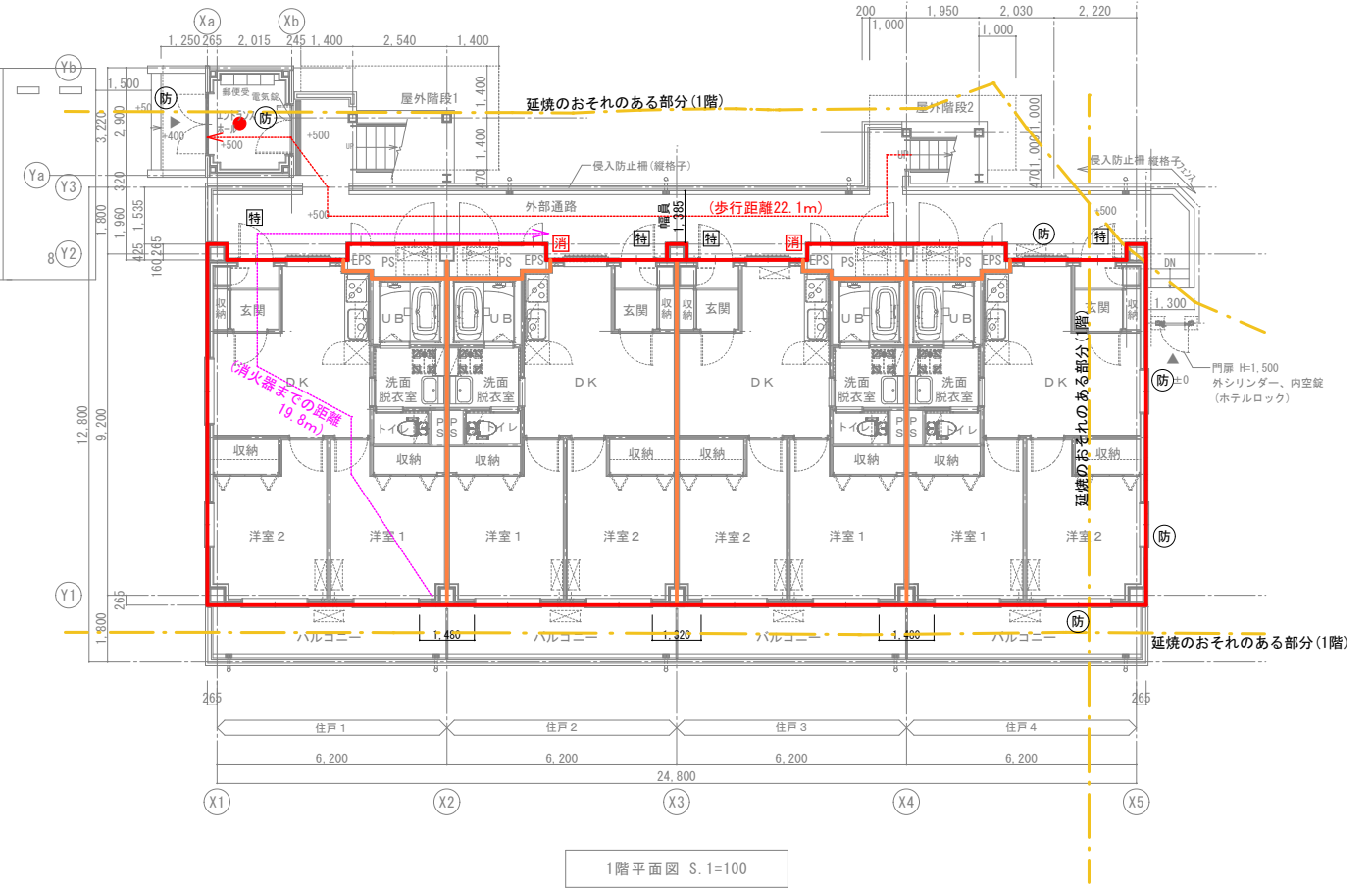
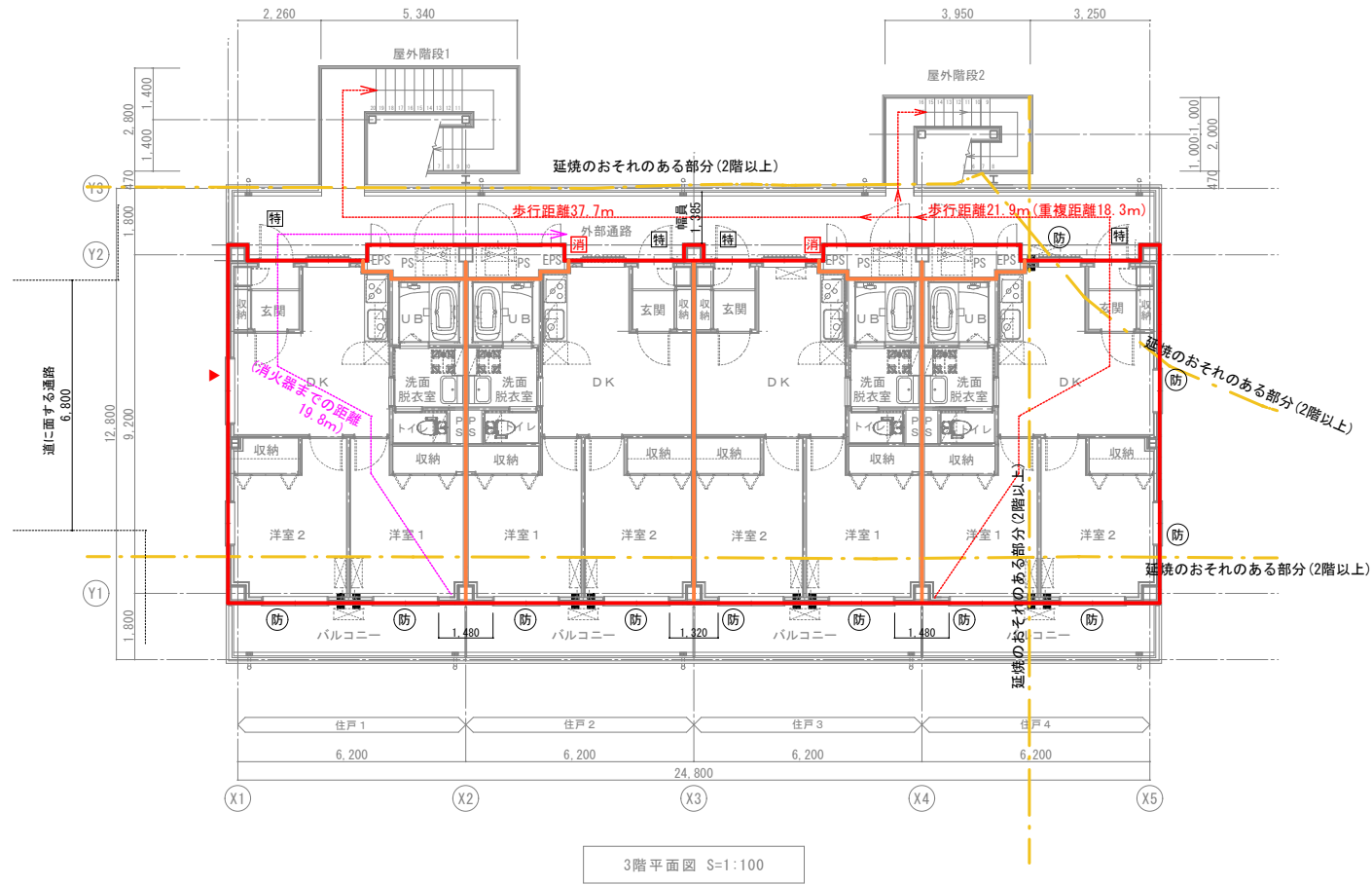
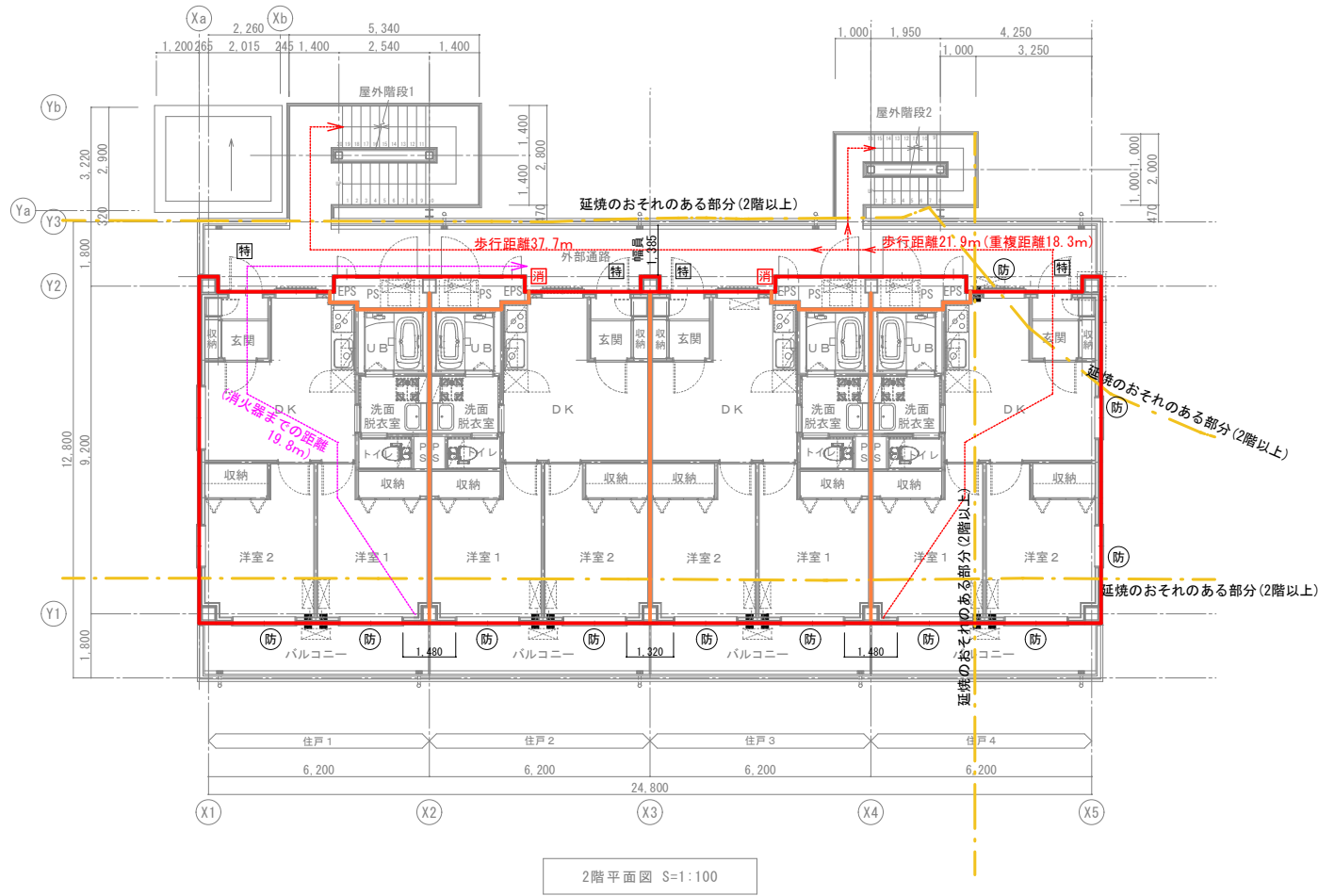
記号	名称
	仮囲い 成型鋼板 H=2000
	単管パイプ+メッシュシート H=1800【既存利用】
	桟組本足場 W=900 (一部W600) H=13,600
	作業員・工事車両動線
	交通誘導員
	敷鉄板 1524×6096
	工事対象建築物
	キャスターゲート W6000×H1800



□地盤面算定表			
	周長	接地面積	
1-2	9.065 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 9.065	= 0.000000
2-3	3.170 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 3.170	= 0.000000
3-4	9.800 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 9.800	= 0.000000
4-5	2.370 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 2.370	= 0.000000
5-6	4.150 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 4.150	= 0.000000
6-7	2.370 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 2.370	= 0.000000
7-8	4.346 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 4.346	= 0.000000
8-9	0.874 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 0.874	= 0.000000
9-10	2.966 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 2.966	= 0.000000
10-11	1.400 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 1.400	= 0.000000
11-12	9.415 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 9.415	= 0.000000
12-13	25.430 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 25.430	= 0.000000
13-14	13.100 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 13.100	= 0.000000
14-15	1.150 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 1.150	= 0.000000
15-1	3.070 m	(0.050 + 0.050) × 0.5 × 3.070	= 0.153500
16-17	5.651 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 5.651	= 0.000000
17-18	9.746 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 9.746	= 0.000000
18-19	5.651 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 5.651	= 0.000000
19-16	9.746 m	(0.000 + 0.000) × 0.5 × 9.746	= 0.000000
合計	123.470 m	0.153500 m ²	

平均地盤面 = $\frac{\text{接地面積}}{\text{全周長}} = \frac{0.153500\text{m}^2}{123.470\text{m}} = 0.00124 \approx 0.0010 \text{ m}$

$0.0010 \text{ m} \approx 0.00 \text{ m} \rightarrow \text{設計GL } \pm 0\text{mm}$



- 凡例
- ▲ …代替進入口を示す
 - 特 …特定防火設備
 - 防 …防火設備
 - 消 …消火器
 - …防火区画
 - …防火上主要な間仕切り壁(1時間耐火構造)
 - …非常用照明を示す
 - …FD付給気口位置を示す(延焼のおそれのある部分)
- ※排煙設備は建築基準法施行令126条の2第1項1号に適合するため設置免除

屋外階段1

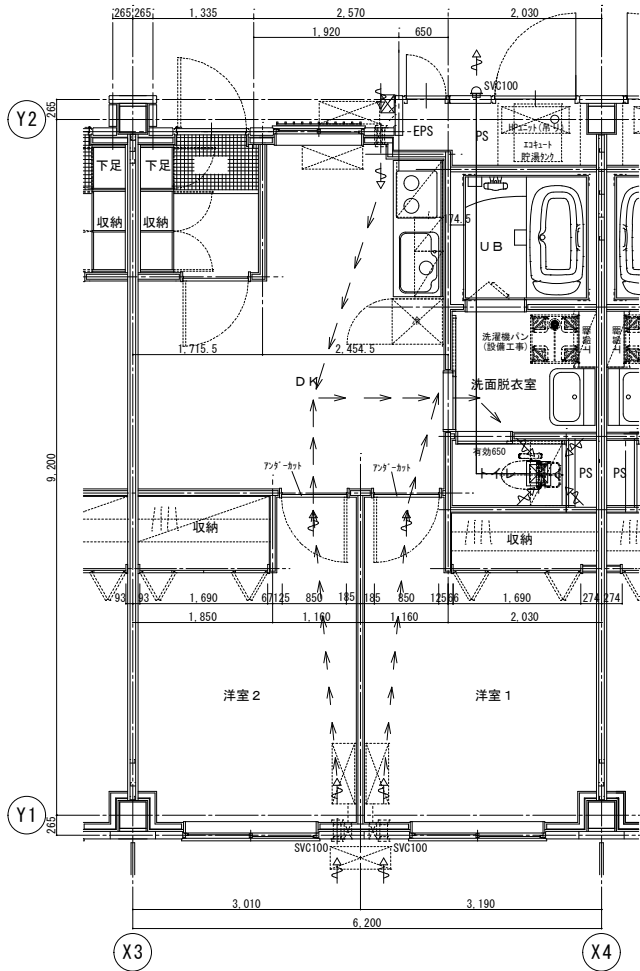
有効幅員	1200mm (750mm以上)
蹴上	160mm (220mm以下)
踏面	260mm (210mm以上)
踊場位置	1.60mごと (4.00m以内)
踊場有効幅	1200mm (750mm以上)
手摺	片側連続手摺：スチール製34φ 手摺の出幅：100mm以下

屋外階段2

有効幅員	800mm (750mm以上)
蹴上	200mm (220mm以下)
踏面	250mm (210mm以上)
踊場位置	1.60mごと (4.00m以内)
踊場有効幅	800mm (750mm以上)
手摺	片側連続手摺：スチール製34φ 手摺の出幅：100mm以下

				採光面積算定(窓の有効面積＝採光補正係数×窓の実面積)											換気面積算定																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
階数	住戸	室名	室面積	係数	必要 採光面積	建具記号	W	×	H	箇所	面積	採光補正 係数	有効 採光面積	合計	判定	係数	必要 換気面積	建具記号	W	×	H	建具 倍率	箇所	面積	有効 換気面積	判定	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
1F	住戸1	洋室2	12.85	1/7	1.835	AW-1	1.700		2.015	1	3.425	1.000	3.425	6.395	○	1/20	0.642	AW-1	1.700		2.015	1/2	1	1.712	2.207	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
						AW-2	1.100		0.900	1	0.990	3.000	2.970					AW-2	1.100		0.900	1/2	1	0.495																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		洋室1	12.40	1/7	1.771	AW-1	1.700		2.015	1	3.425	1.000	3.425	3.425	○	1/20	0.620	AW-1	1.700		2.015	1/2	1	1.712	1.712	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		DK	17.16	1/7	2.451	AW-3	1.700		0.900	1	1.530	3.000	4.590	4.590	○	1/20	0.858	AW-3	1.700		0.900	1/2	1	0.765	1.260	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
																		AW-4	1.100		0.900	1/2	1	0.495																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		住戸2	洋室1	12.40	1/7	1.771	AW-1	1.700		2.015	1	3.425	1.000	3.425	3.425	○	1/20	0.620	AW-1	1.700		2.015	1/2	1	1.712	1.712	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	洋室2	11.77	1/7	1.681	AW-1	1.700		2.015	1	3.425	1.000	3.425	3.425	○	1/20	0.588	AW-1	1.700		2.015	1/2	1	1.712	1.712	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	DK	16.40	1/7	2.342	AW-4	1.100		0.900	1	0.990	3.000	2.970	2.970	○	1/20	0.820	AW-4	1.100		0.900	1/2	1	0.495	0.495	×	機械換気とする																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	住戸3	洋室1	12.40	1/7	1.771	AW-1	1.700		2.015	1	3.425	1.000	3.425	3.425	○	1/20	0.620	AW-1	1.700		2.015	1/2	1	1.712	1.712	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		洋室2	11.77	1/7	1.681	AW-1	1.700		2.015	1	3.425	1.000	3.425	3.425	○	1/20	0.588	AW-1	1.700		2.015	1/2	1	1.712	1.712	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		DK	16.40	1/7	2.342	AW-4	1.100		0.900	1	0.990	3.000	2.970	2.970	○	1/20	0.820	AW-4	1.100		0.900	1/2	1	0.495	0.495	×	機械換気とする																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	住戸4	洋室1	12.40	1/7	1.771	AW-1	1.700		2.015	1	3.425	1.000	3.425	3.425	○	1/20	0.620	AW-1	1.700		2.015	1/2	1	1.712	1.712	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											

□機械換気の検討



住戸2・3 DKは自然換気NGのため機械換気対応とする
室面積：DK 16.40㎡、洗面脱衣室 3.47㎡、トイレ 1.51㎡ (合計21.38㎡)

設備図 (M-06、M-13図) の24時間換気設備 (トイレ換気扇) 及びシックハウス換気対策換気計算書より設計換気風量：100m3/h ①

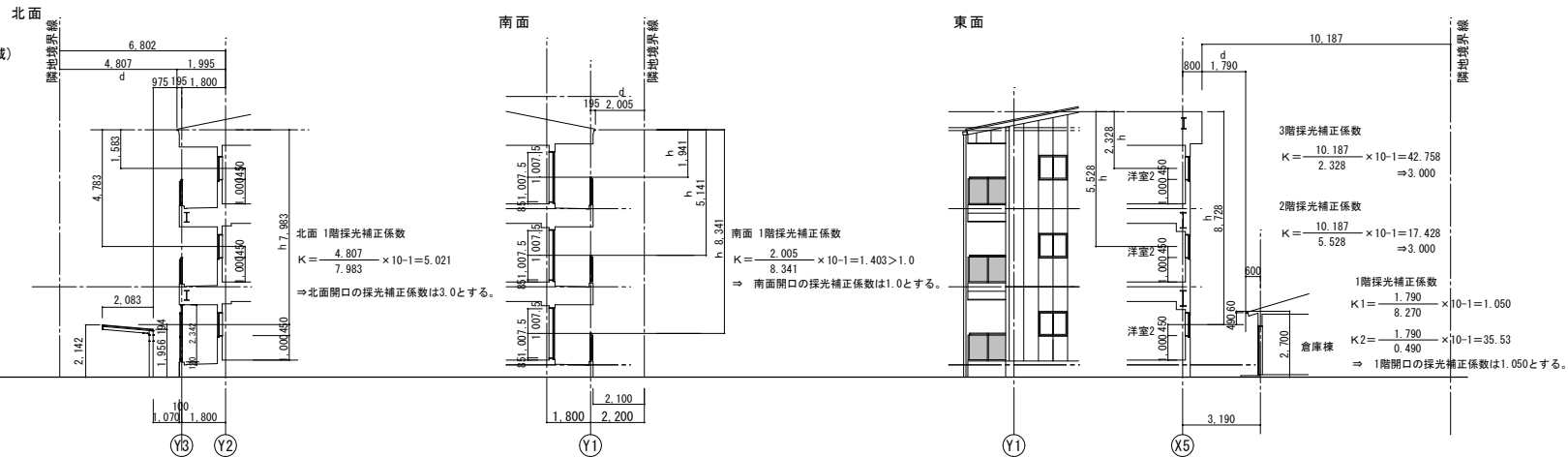
DKの機械換気による必要換気量：
$$V = \frac{20 \times (Af - 20 \times W)}{N} = \frac{20 \times (21.38 - 20 \times 0.495)}{10} = 22.96 \text{ m}^3/\text{h} \quad \text{---} \text{②}$$

上記より 必要換気量 22.96m3/h < 100m3/h ∴ OK

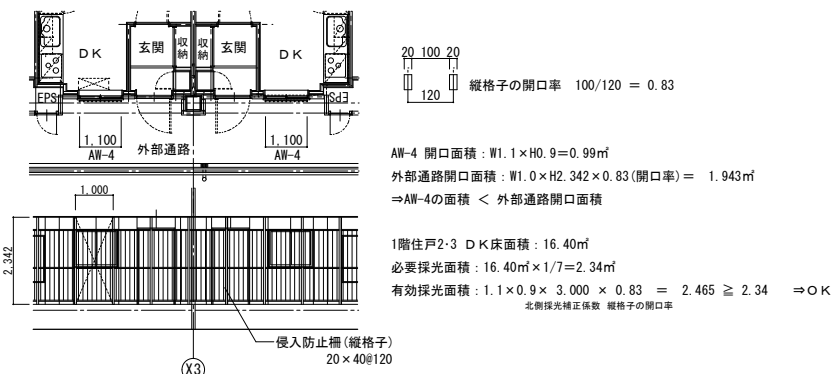
Af：(DK+洗面脱衣室+トイレ)の室面積
N：一人当たり専有面積=21.38/2=10.69㎡ ⇒ 10㎡
(2人使用とする)
W：DKの窓(AW-4)による有効換気面積

□採光補正係数の検討

採光補正係数 $K = \frac{d}{h} \times \alpha - \beta$ $\alpha=10, \beta=1$ (商業系地域)
西側に面する開口部は道路境界線からの離隔が十分に確保できるため $K=3.0$ とする。



1階住戸2・3 DKの採光検討



■床面積計算表

5.460 × 9.555 = 52.1703 52.17 m²

■X方向見附面積計算表

記号	計算式	面積 (m ²)
A	9.742 × 1.044	10.170648
B	10.155 × 0.964	9.78942
小 計		19.960068
合 計		19.96

■Y方向見附面積計算表

記号	計算式	面積 (m ²)
A	5.647 × 1.140	6.43758
B	2.824 × 0.847 ÷ 2	1.195964
C	2.824 × 0.847 ÷ 2	1.195964
小 計		8.829508
合 計		8.82

■面材耐力壁仕様

材種名	壁倍率	面材厚 (mm)	規 格	釘打ち方法	
				種 類	間隔 (mm)
構造用合板 (大壁) 2.5倍	2.5	9.0	合板の日本農林規格	NS0	150以下

■X方向存在壁量

壁種類	壁倍率	壁長 (mm)	存在壁量 (mm)
構造用合板	2.5	7,280	18,200.0
存在壁量合計 (mm)			18,200.0

…G

■Y方向存在壁量

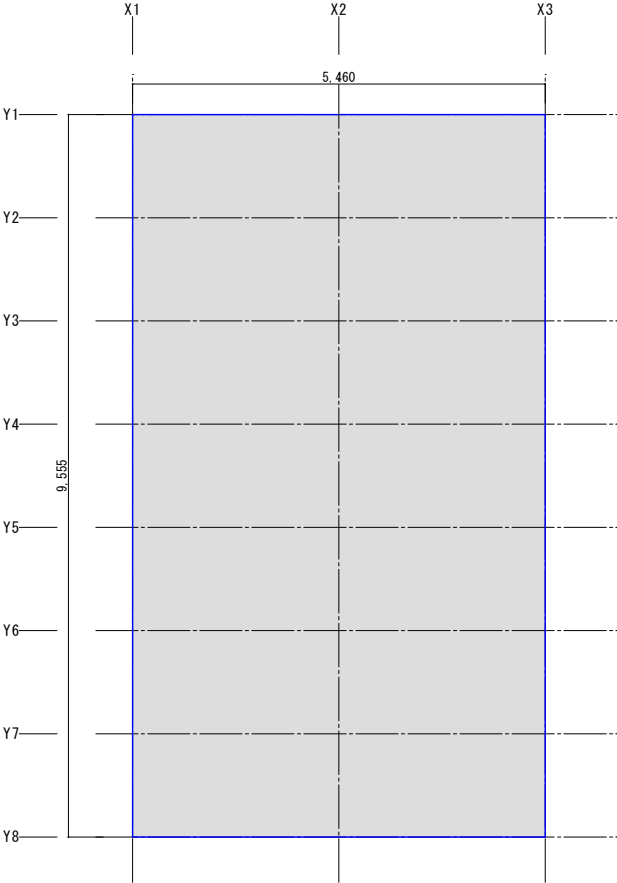
壁種類	壁倍率	壁長 (mm)	存在壁量 (mm)
構造用合板	2.5	10,920	27,300.0
存在壁量合計 (mm)			27,300.0

…G

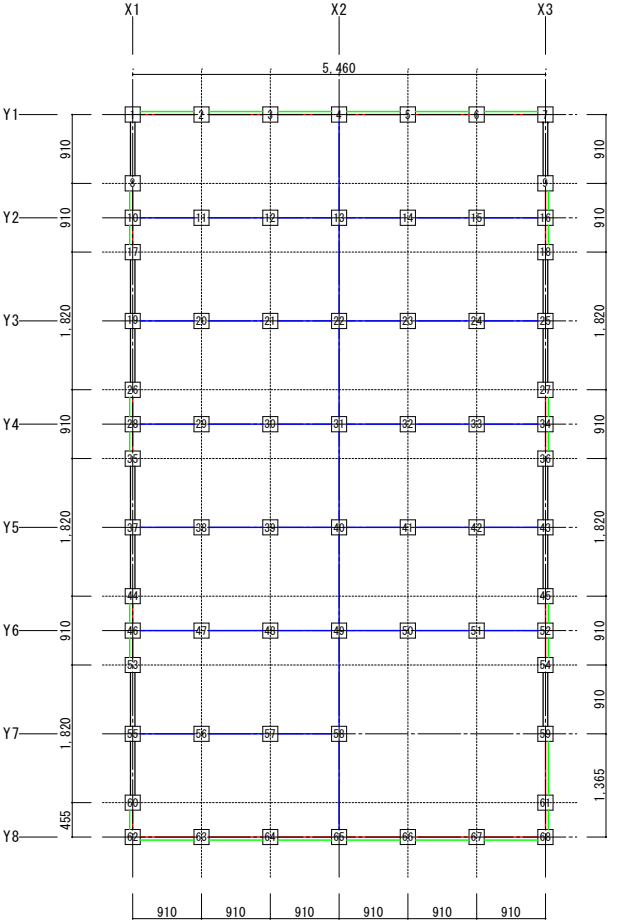
■壁量計算判定

階・方向	地 震 力			風 圧 力			存在壁量 (cm)	判 定		壁量計算判定
	床面積 (㎡)	係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)	見付面積 (㎡)	係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)		地震力	風圧力	
	A	B	C=A×B	D	E	F=D×E		G	G≥C=○	
X方向	52.17	11	573.87	19.96	50	998	1820.0	○	○	適合
Y方向	52.17	11	573.87	8.82	50	441	2730.0	○	○	適合

■床面積根拠図

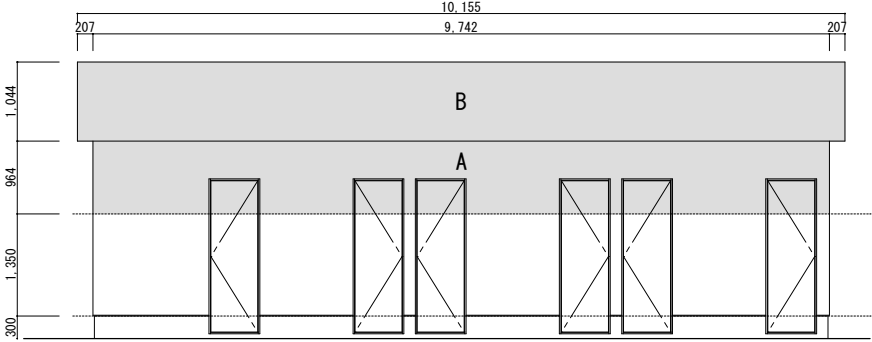


■耐力壁図

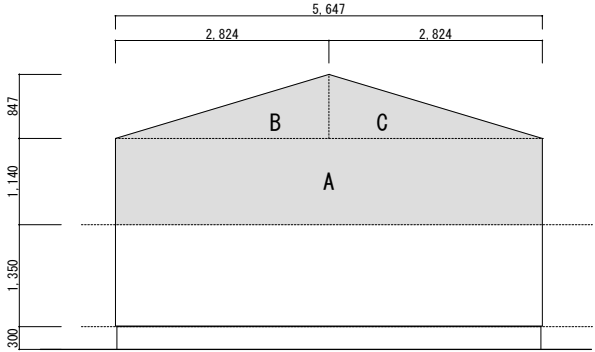


- 凡例
- n : 柱
 - : 面材耐力壁
 - : 一般壁
 - : 開口部

■X方向見附面積根拠図



■Y方向見附面積根拠図



■床面積根拠図 1：50

■区画別床面積

区画	縦(m)	横(m)	床面積(m ²)
A	23.888	1.365	32.607
B	23.888	2.730	65.214
C	23.888	1.365	32.607
D	47.774	1.365	65.212
E	47.774	2.730	130.423
F	47.774	1.365	65.212
G	23.888	1.365	32.607
H	23.888	2.730	65.214
I	23.888	1.365	32.607

■四分割対象面積

階	方向	位置	計 算 式	面積(m ²)
1	X	上	(A + B + C)	130.428
		下	(G + H + I)	130.428
	Y	右	(C + F + I)	130.428
		左	(A + D + G)	130.428

■1階X方向存在壁量 (cm)

上	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
	Y1	227.5	227.5	227.5	227.5	227.5						1365.0
	Y2											
上壁量合計												1365.0

下	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
	Y7											
	Y8	227.5	227.5	227.5	227.5	227.5						1365.0
下壁量合計												1365.0

■1階Y方向存在壁量 (cm)

左	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
	X3	113.75	227.5	227.5	227.5							796.25
右壁量合計												796.25

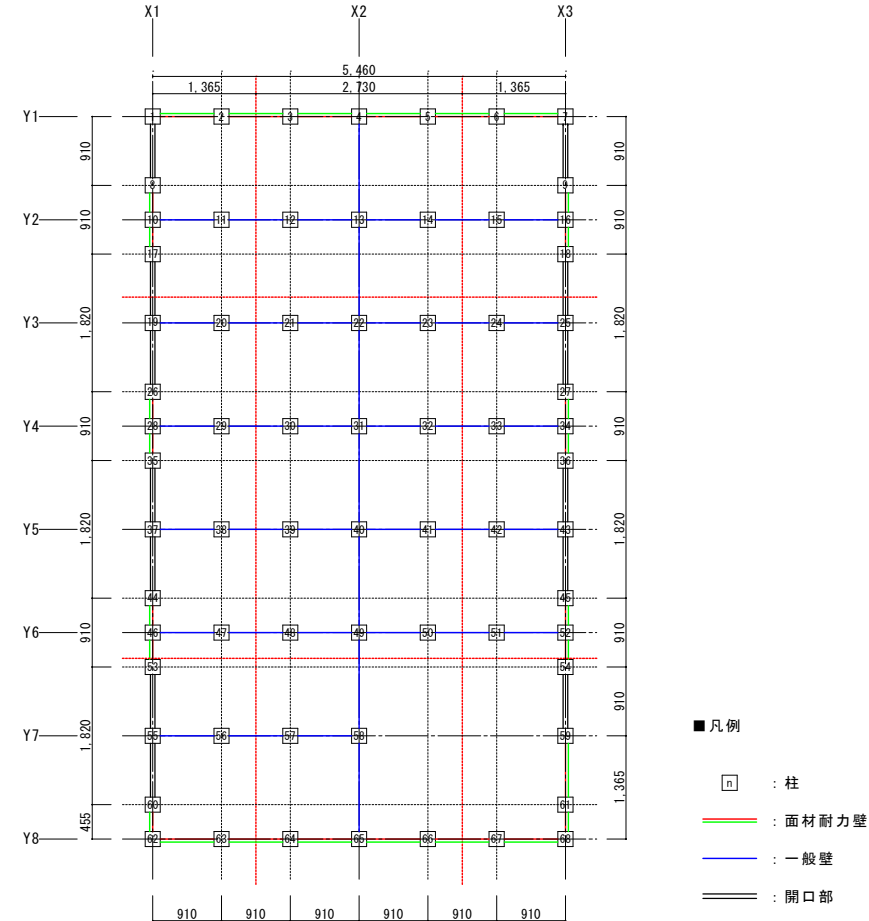
右	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
	X1	113.75	227.5	227.5	227.5							1023.75
左壁量合計												1023.75

■判定

階	方向	位置	有効面積 (m ²)	壁量係数 (cm/m ²)	地盤割増	必要壁量 (cm)	存在壁量 (cm)	壁量充足率	充足率判定	壁率比	壁率比判定	判定
			①	②	③	④=①×②×③	⑤	⑥=⑤÷④	⑥>1.00	⑦=⑥小÷⑥大	⑦≥0.5	AorB=○
	X	上	130.428	11	1.0	1434.708	1365.0	0.95	×	1.0	○	○
		下	130.428	11	1.0	1434.708	1365.0	0.95	×			
	Y	右	130.428	11	1.0	1434.708	1023.75	0.71	×	0.77	○	○
		左	130.428	11	1.0	1434.708	796.25	0.55	×			

四分割法判定・・・適合

■耐力壁図 1：50



■凡例

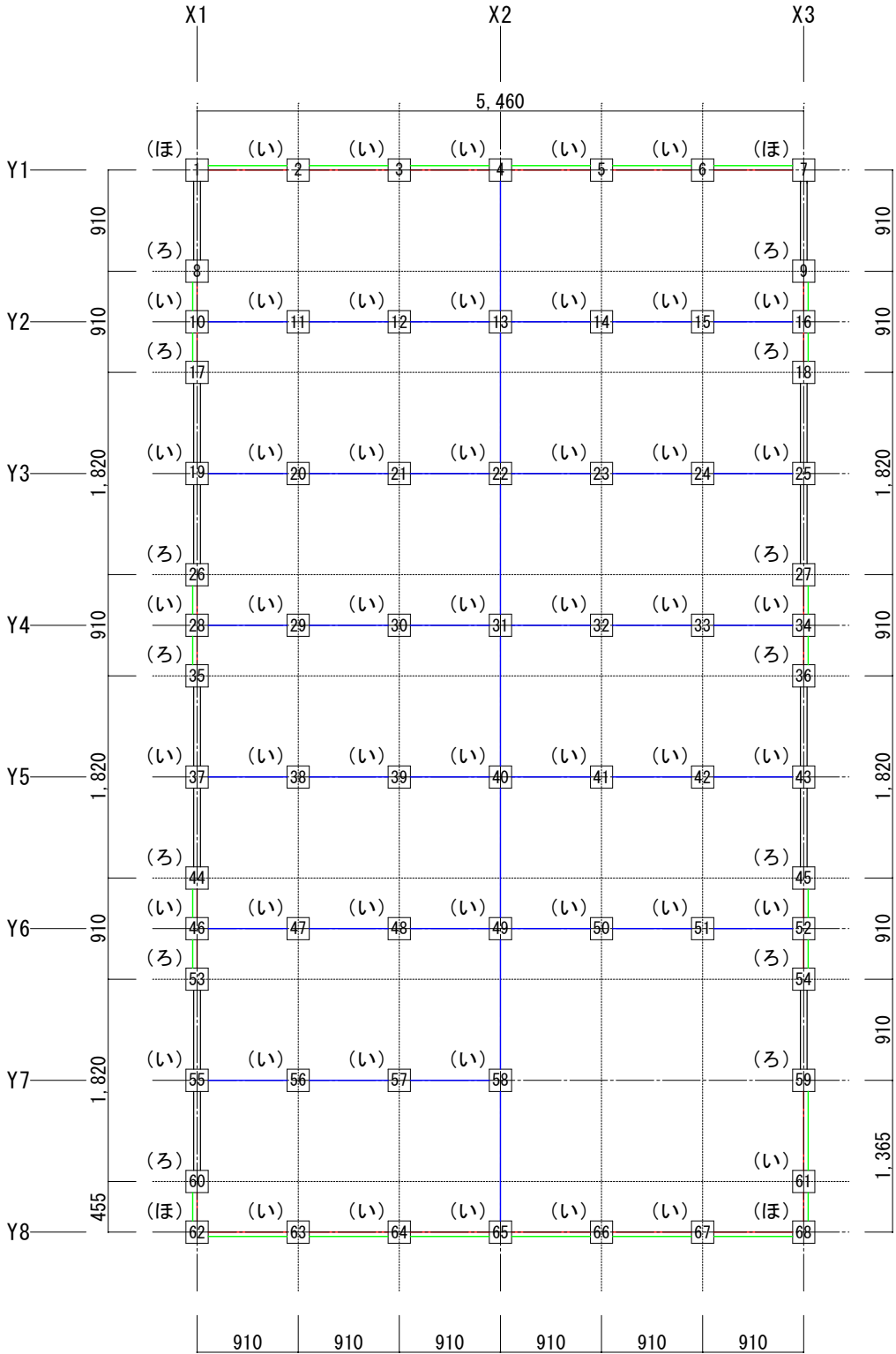
- n : 柱
- : 面材耐力壁
- : 一般壁
- : 開口部

■柱頭柱脚金物算定表

柱	方向	柱状況	1階			A1	B1	L	N	接合金物	
			パターン	補正値						柱頭	柱脚
1	X	出隅	2.5□	0.0	0.0	2.5	0.8	0.4	1.6		
	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.4	-0.4	ほ	ほ
2	X	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
3	X	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
4	X	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
5	X	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
6	X	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
7	X	出隅	2.5□	0.0	0.0	2.5	0.8	0.4	1.6		
	Y	出隅	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.4	-0.4	ほ	ほ
8	Y	他柱	0.0	2.5□	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
9	Y	他柱	0.0	2.5□	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
10	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
11	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
12	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
13	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
14	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
15	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
16	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
17	Y	他柱	2.5□	0.0	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
18	Y	他柱	2.5□	0.0	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
19	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
20	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
21	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
22	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
23	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
24	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
25	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
26	Y	他柱	0.0	2.5□	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
27	Y	他柱	0.0	2.5□	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
28	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
29	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
30	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
31	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
32	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
33	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
34	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
35	Y	他柱	2.5□	0.0	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
36	Y	他柱	2.5□	0.0	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
37	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
38	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
39	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
40	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
41	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
42	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
43	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
44	Y	他柱	0.0	2.5□	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
45	Y	他柱	0.0	2.5□	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
46	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
47	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
48	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
49	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
50	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
51	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
52	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
53	Y	他柱	2.5□	0.0	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
54	Y	他柱	2.5□	0.0	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
55	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
56	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
57	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
58	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
59	X	他柱	2.5□	0.0	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
60	X	他柱	2.5□	0.0	0.0	2.5	0.5	0.6	0.65	ろ	ろ
61	X	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
62	X	出隅	2.5□	0.0	0.0	2.5	0.8	0.4	1.6		
	Y	他柱	2.5□	0.0	0.0	2.5	0.8	0.4	1.6	ほ	ほ
63	X	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
64	X	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
65	X	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
	Y	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6		
66	X	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
67	X	他柱	2.5□	2.5□	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.6	い	い
68	X	出隅	2.5□	0.0	0.0	2.5	0.8	0.4	1.6		
	Y	出隅	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.4	-0.4	ほ	ほ

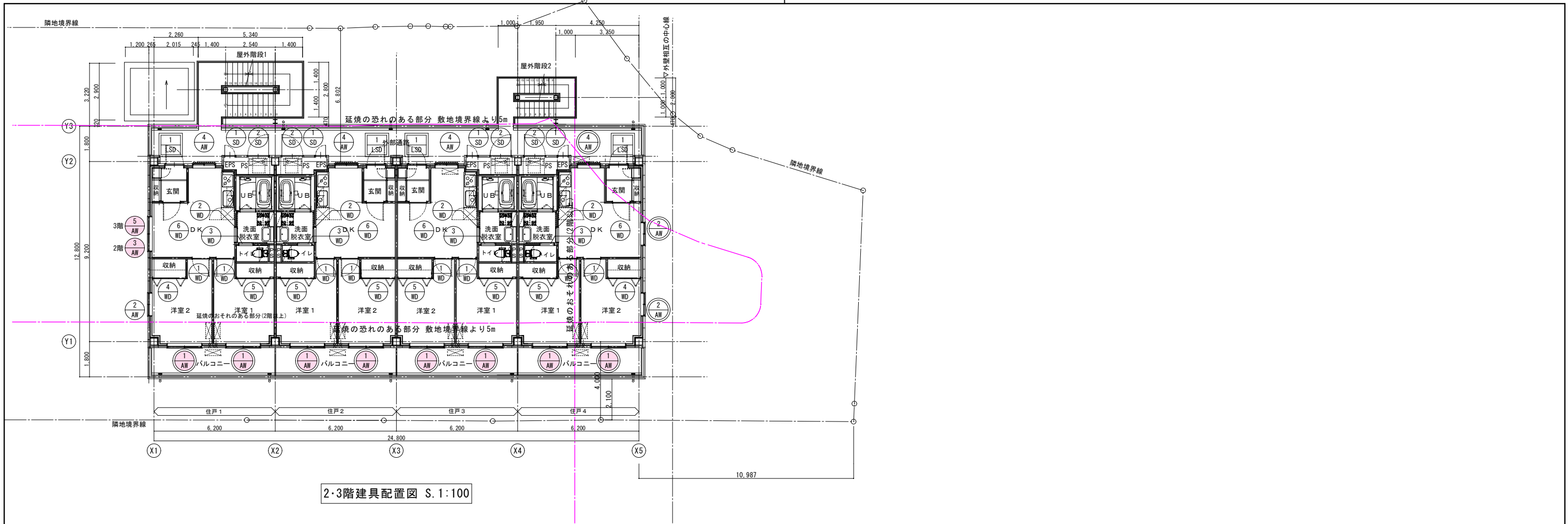
・「パターン」・・・柱両側の耐力壁の取り付けを表しています。
□：面材耐力壁

■柱頭柱脚金物算定平面図 1：30

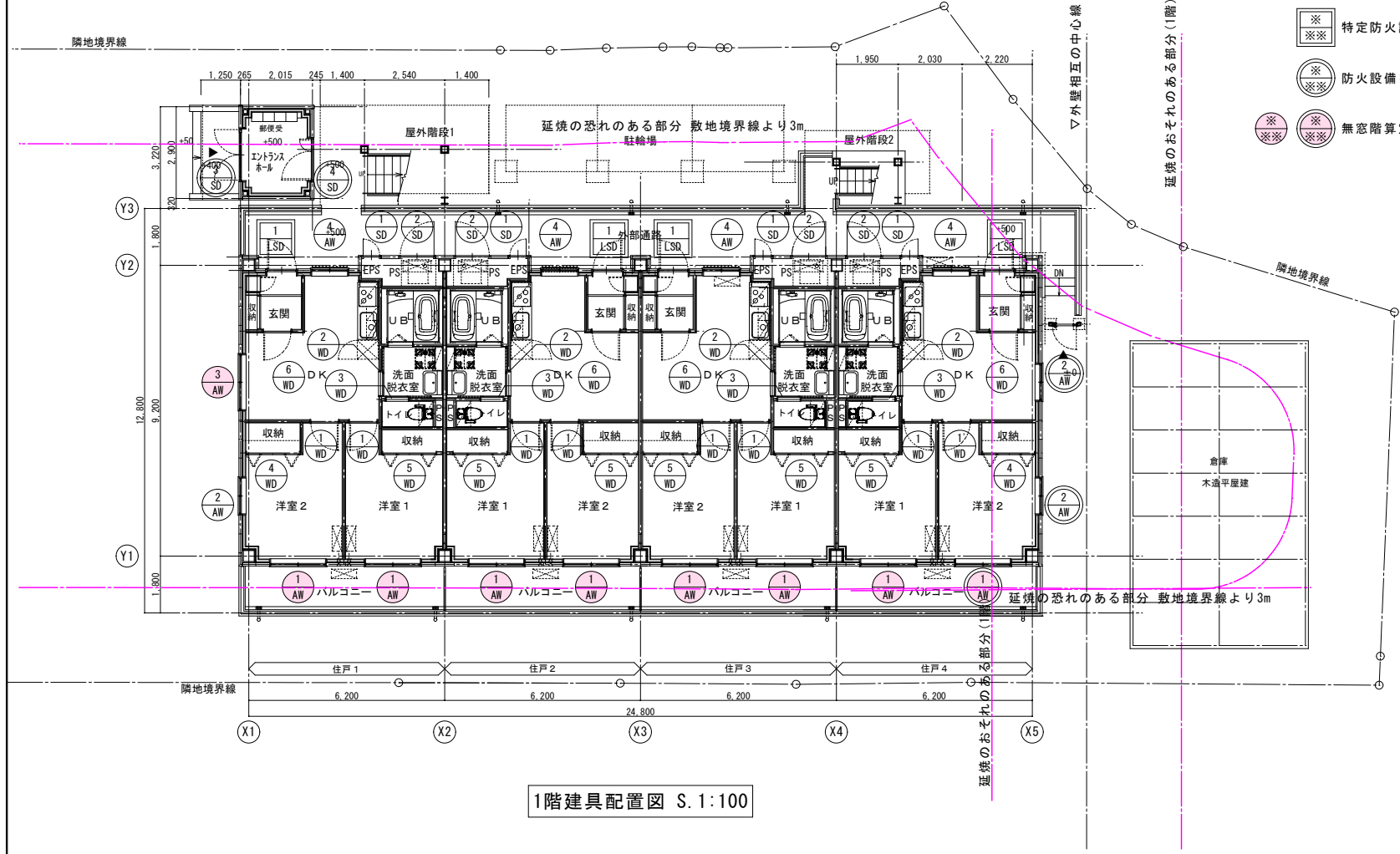


■使用金物一覧表

N値	告示表三	金物名
0	い	短ほぞ差し又はかすがい打ち
≤0.65	ろ	長ほぞ差し込み栓又はかど金物OP・L
≤1.0	は	かど金物OP・L又は山形プレートVP
≤1.4	に	羽子板ボルト又は短ざく金物（スクリュ－釘なし）
≤1.6	ほ	羽子板ボルト又は短ざく金物（スクリュ－釘あり）
≤1.8	へ	引寄せ金物HD-B10（S-HD10）
≤2.8	と	引寄せ金物HD-B15（S-HD15）
≤3.7	ち	引寄せ金物HD-B20（S-HD20）
≤4.7	り	引寄せ金物HD-B25（S-HD25）
≤5.6	ぬ	引寄せ金物HD-B15（S-HD15）×2個



2・3階建具配置図 S.1:100



1階建具配置図 S.1:100

- ※ 特定防火設備を示す
- ※ 防火設備を示す
- ※ 無窓階算定開口部を示す

無窓階判定表											(単位：㎡)	
階数	床面積	必要開口面積 (床面積×1/30)	建具記号	W	×	H	個数	硝子種類 厚さ	床からの高さ (m)	有効 窓面積	有効 開口面積	判定
1階	251.77	8.39		0.830		2.015	8	FL5+Low-E5 PW6.8+Low-E5	0.085	13.376	14.12	有窓階
				0.830		0.900	1	FL5+Low-E5	1.000	0.747		
2階	240.92	8.03		0.830		2.015	8	PW6.8+Low-E5	0.085	13.376	14.12	有窓階
				0.830		0.900	1	FL5+Low-E5	1.000	0.747		
3階	240.92	8.03		0.830		2.015	8	PW6.8+Low-E5	0.085	13.376	14.37	有窓階
				0.830		1.200	1	FL5+Low-E5	1.000	0.996		

構造設計標準仕様（１）

1 一般事項

- 1-1 共通仕様
- (1) 構造図面に記載された事項は、本仕様及び標準図に優先して適用する。
- (2) 構造図面、本仕様及び標準図に記載された事項以外は、以下によるものとし、これらの優先順位は次のとおりとする。
- ① 建築基準法、同施行令及び同告示
- ② 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(令和4年版)」(以下「標仕」)
- ③ 日本建築学会発行の「建築工事標準仕様書・同解説」及び「規準」
- (3) 建築基準法第37条に定められている部位に用いる材料は、同法に基づきJIS規格品、JAS規格品又は国土交通大臣の認定を受けたもの(以下「認定材料」)とする。
- 1-2 特記仕様
- (1) ■印は本工事の適用箇所を示す。
- (2) ●印は本工事の使用材料を示す。
- (3) (. . .)内の表示番号は「標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

2 設計条件

- 2-1 積雪荷重
- ・垂直積雪量（建設省告示第1455号による d の値）
- d=0.30m □
- ・積雪の単位荷重（建築基準法施行令86条の値）
- 20N/m²/cm □
- ・屋根形状係数（建築基準法施行令86条の μ b の値）
- μ b=1.00 □
- ・特定緩勾配屋根の割増し（国土交通省告示第 594号による α の値）
- α = ■対象外
- 2-2 風圧力
- ・地表面粗度区分（建設省告示第1454号による区分）
- 区分Ⅰ □区分Ⅱ ■区分Ⅲ □区分Ⅳ
- ・風速（建設省告示第1454号による V₀ の値）
- V₀= 38.0m/s（地方の区分(5)）
- 2-3 地震力
- ・地域係数（建設省告示第1793号による Z の値）
- Z=1.0 □Z=0.9 □Z=0.8
- ・地盤種別（建設省告示第1793号による分類）
- 第一種地盤 ■第二種地盤 □第三種地盤
- ・重要度係数（「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準及び同解説 令和3年版」による地震力の割増し率）
- I=1.00 □I=1.25 □I=1.50
- 2-4 設計ルート
- ・X方向〔ルート3〕, Y方向〔ルート3〕
- 2-5 層間変形角の制限
- ・一次設計時（中地震）
- 1/200 □
- ・保有水平耐力時（大地震）
- 1/100 □1/200

3 使用材料

- 3-1 杭
- 「杭工事特記仕様」による。
- 3-2 コンクリート
- | 種別 | 使用 | 設計基準強度 | 規格 | スランプ値 | 気乾単位容積質量 | 適用箇所 |
|----------|----|---------------------------------------|-----------|-------|------------------------|-------------------------------------|
| 普通コンクリート | ● | F _C = 18 N/mm ² | JIS A5308 | 15 cm | 2.3t/m ³ 程度 | 捨てコンクリート、土間コンクリート |
| | | F _C = 21 N/mm ² | | 18 cm | | 3～1階(単位水量上限175kg/m ³ 以下) |
| | ● | F _C = 24 N/mm ² | | 18 cm | | |
| | | F _C = 27 N/mm ² | | 18 cm | | |
| | | F _C = 30 N/mm ² | | 18 cm | | |
| 軽量コンクリート | | F _C = 18 N/mm ² | JIS A5308 | 21 cm | 2.0t/m ³ 以下 | |
- 3-3 鉄筋
- | 種別 | 使用 | 材質 | 規格 | 適用箇所 |
|-----------|----|-------------------------|-----------|---------|
| 異形鉄筋 | ● | SD295 | JIS G3112 | D10～D16 |
| | ● | SD345 | | D19～D25 |
| | | SD390 | | |
| 丸鋼 | | SR235 | JIS G3112 | |
| 溶接金網 | | WFP 又は WFC | JIS G3551 | |
| 高強度せん断補強筋 | | 785 N/mm ² 級 | 認定材料 | |
| 開先付き異形棒鋼 | | 390 N/mm ² 級 | 認定材料 | |
- 3-4 鋼材
- | 種別 | 使用 | 材質 | 規格 | 適用箇所 |
|----|--------|--------------|-----------|-------|
| 鋼材 | ● | SM400A, B, C | JIS G3136 | 詳細図参照 |
| | ● | SM490B, C | JIS G3136 | 詳細図参照 |
| | | SM490A | JIS G3106 | |
| | ● | SS400 | JIS G3101 | 詳細図参照 |
| | ● | BCR295 | 認定材料 | 詳細図参照 |
| | | TSC295 | 認定材料 | |
| | | BCP235B, C | 認定材料 | |
| | | STKM400B | JIS G3475 | |
| | | STKM490B | JIS G3475 | |
| | | STK400 | JIS G3444 | |
| | ● | STKR400 | JIS G3466 | 詳細図参照 |
| | ● | SNR400B | JIS G3138 | 詳細図参照 |
| ● | SSC400 | JIS G3350 | 詳細図参照 | |
- ※ ベースバック(大臣認定品)又は同等品については採用する工法の仕様による。

- 3-5 ボルト
- | 種別 | 使用 | 材質 | 規格 | 適用箇所 |
|------------|----|---------------------------|-----------|------|
| 高カボルト | ● | F10T | JIS B1186 | |
| | ● | F8T相当
(溶融亜鉛めっき高カボルト) | 認定材料 | |
| トルシア形高カボルト | ● | S10T | 認定材料 | |
| 六角ボルト | ● | 鋼製：強度区分4.6 | JIS B1180 | |
| 六角ナット | ● | 鋼製：強度区分5 | JIS B1181 | |
| 平座金 | ● | 鋼製：硬さ区分200 | JIS B1256 | |
| 頭付スタッド | ● | シリコンキルド鋼
又は
アルミキルド鋼 | JIS B1198 | |
- 3-6 アンカーボルト
- | 種別 | 使用 | 材質 | 規格 | 適用箇所 |
|-------------------|----|------------|-----------|------------|
| 構造用
アンカーボルトセット | | ABR400 | JIS B1220 | |
| | | ABR490 | | |
| | | ABM400 | JIS B1221 | |
| | | ABM490 | | |
| アンカーボルト | ● | SS400 | JIS G3101 | 二次部材のアンカー部 |
| | | SNR400B | JIS G3138 | |
| | | SNR490B | | |
| 六角ナット | ● | 鋼製：強度区分5 | JIS B1181 | |
| 平座金 | ● | 鋼製：硬さ区分200 | JIS B1256 | 二次部材のアンカー部 |
| 定着板 | ● | SS400 | JIS G3101 | 二次部材のアンカー部 |
- ※ ベースバック(大臣認定品)又は同等品については採用する工法の仕様による。

4 地盤調査

- 4-1 地盤調査資料
- 有（■敷地内 □近隣）
- ボーリング調査 ■標準貫入試験 □平板載荷試験 ■孔内水平載荷試験 □PS検層 □常時微動測定
- 地下水調査 ■土質試験（物理） ■土質試験（力学） □その他（ ）
- 無
- 4-2 地盤調査の実施
- 有 地業工事に先立ち、下記の地盤調査を行い、必要に応じて設計の見直しを行う。
- ボーリング調査（位置：、箇所数：箇所）
- 標準貫入試験（位置：、箇所数：箇所）
- 平板載荷試験（位置：、箇所数：箇所）
- 三軸圧縮試験（位置：、箇所数：箇所）
- 圧密試験（位置：、箇所数：箇所）
- 無

5 地業工事

- 5-1 基礎種別
- 杭基礎
- 「杭工事特記仕様」による。
- 直接基礎（ ）
- 5-2 砂利及び捨てコンクリート地業
- 砂利地業
- ・砂利地業の材料 ■再生クラッシュラン □切込砂利又は切込碎石（4.6.2）
- ・厚さ ■60mm □（4.6.3）
- 捨てコンクリート地業
- ・厚さ ■50mm □（4.6.4）
- 5-3 □改良地業
- 深層混合処理工法（建設技術審査証明書等を取得している工法）
- 5-4 その他
- 地盤調査、試験杭及び試掘の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ又は形状等を変更する場合は、監督職員の指示による。
- 杭等の施工誤差に伴う検討（構造計算等）に要する費用は、請負者の負担とする。

杭打工事特記仕様

1 一般事項

- 1-1 共通仕様
- 1) 本図及び設計図に記載なき事項は、「公共建築工事標準仕様書(令和4年版)」(以下「標仕」)による。
- 2) 杭の施工は評定等取得時の施工要領等の規定に準じて行う。
- 1-2 特記仕様
- 1) ■印は本工事の適用箇所を示す。
- 2) ●印は本工事の使用材料を示す。
- 3) (. . .)内の表示番号は「標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

2 工法・支持力算定式

- 工 法
- 先端支持力係数 $\alpha \geq 400$ 確保可能なプレボーリング拡大根固め工法(砂質地盤)
- 支持力算定式
- $Ra=1/3 \{ \alpha \cdot N \cdot Ap + (\beta \cdot \bar{N}s \cdot Ls + \gamma \cdot qu \cdot Lc) \psi \}$: 長期
- $\alpha \geq 400, \quad \beta = \gamma = 0$ (周面摩擦は考慮しない)

3 支持地盤

- 設計GLー18.13 m以深でN値 ≥ 50 の細砂層(As3層)

4 杭 種

4-1 杭 ○印は本工事の使用材質を示す。

種 別	使用	材 料	規 格	材 質
場所打ち杭		コンクリート	JIS A5308	Fc=21 Fc=24 Fc=27 Fc=30 (N/mm ²)
		鉄 筋	JIS G3112	D16以下:SD295A D19以上:SD345 D29以上 : SD390
		鋼 管	JIS A5525に適合	SKK400相当 SKK490相当 t=
既製杭	鋼管杭	鋼 管	JIS A5525	SKK400 SKK490 t=
		鋼 管	400N級 (490N級)	(規格: JIS A5525 又は JIS G3444)
	S C杭	コンクリート	JIS A5372に適合	Fc=80 (Fc=105) Fc=122.5 又は 123 (N/mm ²)
	PHC杭		JIS A5373	設計基準強度 Fc=85 (Fc=105) Fc=122.5 又は 123 (N/mm ²) 種 別 A種 B種 C種
CPRC杭			コピタ型	設計基準強度 Fc=85 Fc=105 (N/mm ²) 種 別 I種 II種 III種 IV種 V種 VI種
				設計基準強度 Fc=85 Fc=105 Fc=122.5 又は 123 (N/mm ²) 種 別 A種 B種 C種
S T杭			JIS A5373	

※既製コンクリート杭は、継手の引張強度が杭材の100% (T100) を満足する製品とする。

4-2 基礎種別

- 杭基礎
- 既製コンクリート杭
- ・先端部の形状
- 開放型 □半開放型 □閉塞型 (平たん型又は凹型)
- ・根固め液及び杭固定液の管理試験
- 「標仕」4.3.4(6) (a)による □工法で定められた条件
- ・杭の継手
- 溶接継手 ■無溶接継手 (認定又は評定工法)
- ・杭頭の処理
- 切断しない □切断する
- ・杭頭の養生
- 有 (根巻き部中詰めコンクリートの打設に配慮して、セメントミルク (周辺固定液等) を除去しやすいように杭頭部を養生 (例: ミルクトレール) すること)
- 無
- 鋼管杭
- ・杭の継手
- 溶接継手 □
- ・杭頭の処理
- 切断しない □切断する
- 場所打ちコンクリート杭
- ・鉄筋の最小かぶり厚さ
- 100mm □
- ・鉄筋かごの補強
- 図示 □
- ・鉄筋の断ごとの継手
- 図示 □「標仕」表5.3.2Iによる
- ・セメントの種類
- 普通ポルトランドセメント □高炉セメントB種
- ・コンクリートの種別
- A 種 □B 種 □工法で定められた条件の値
- ・スランプ
- 18cm □
- ・構造体補正強度 (S)
- 3N/mm² □ N/mm² □工法で定められた条件の値
- ・孔壁測定
- 行う (箇所) □行わない

5 試験杭

- 試験杭の位置は「基礎伏図」による。
- 試験杭は、1-1 1)以外に工法で定められた条件に基づいて行う。

6 杭の施工精度

- 水平方向: 100mm
- 上下方向: 50mm
- 支持層への根入れ長さは、採用する工法で定められた条件による。
- フーチングの施工
- ・水平方向の施工誤差が 100mm 以内の場合、フーチングの平面位置は設計図通りとする。
- ・上下方向の施工誤差が 50mm 以内の場合、フーチングのレベルは実際の杭頭位置に合わせて変更する。
- 杭の施工誤差が上記の施工精度 (許容値) を超えた場合の対応は、監督職員の指示による。
- なお、これにかかる費用は全て工事請負業者の負担とする。

7 特殊な材料・工法

- 本建物に使用する特殊な材料、工法は、下記に示すもの (又は同等品) とする。

種 別	使用	工 法 名、材 料 名 等	認定・評価等の番号	適 用 箇 所
杭材				
杭工法	●	先端支持力係数 $\alpha \geq 400$ の認定工法 (メーカー指定なし)		
杭頭半剛接合	●	F.T.Pile構法	BCJ評定-FD0141-06	
無溶接継手	●	T・P JOINT	BCJ評定-FD0183-08	

- 特殊な材料、工法については、認定・評定等取得時の規定 (仕様書、指針、要領書等を含む) に準拠して施工すること。

8 その他

- 地盤調査、試験杭及び試験の結果により、杭長、杭種を変更する場合は、監督職員の指示による。
- 杭等の施工誤差が許容値を超えたことに伴う検討 (構造計算等) に要する費用は、請負者の負担とする。

配筋標準図(1)

1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

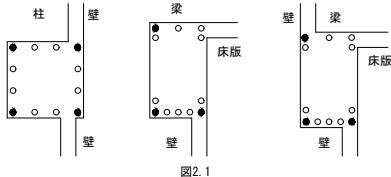
折曲げ 角 度	折曲げ図 (余長)	折曲げ内法直径(D)		
		SD295A SD295B、SD345		SD390
		D16 以下	D19 ～ D38	D19 ～ D38
180°		3d 以上	4d 以上	5d 以上
135°				
90°				
135° 及び 90° (幅止め筋)				

1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長は 4d 以上とする。
2. 90° 未満の折曲げの内法直径は特記による。

2 異形鉄筋の末端部

(a) 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- (1) 柱の四隅にある主筋(図2.1の●)で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合
(2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端(図2.1の●)にある場合(基礎梁を除く)



- (3) 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
(4) 杭基礎のベース筋
(5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3 継手及び定着

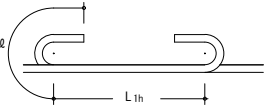
(a) 鉄筋の重ね継手

- (1) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(2) 鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の 種 類	コンクリートの 設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)	L _{1h} (フックあり)
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

- (注) 1. L₁、L_{1h}: フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
2. フックありの場合のL_{1h}は、図3.1に示すようにフック部分 ℓ を含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。



(3) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上(軽量骨材を使用する場合は 50d 以上)と表3.1の重ね継手の長さのうち大きい値とする。

(4) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。
ただし、スラブ筋で D16 以下の場合及び壁筋の場合は除く。

表3.2 隣り合う継手の位置

重 ね 継 手	フックあり の場合	L _{1h}	
		a=0.5L _{1h}	a≧0.5L _{1h}
溶 接 継 手	フックなし の場合	L ₁	L ₁
		a=0.5L ₁	a≧0.5L ₁
溶 接 継 手	-	ガス圧接継手・溶接継手	
		a	a≧400mm
機 械 式 継 手	-	カップラー	
		a	a≧400mm, かつ、a≧(b+40)mm

(b) 鉄筋の定着

(1) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の 種 類	コンクリートの 設計基準強度 F _c (N/mm ²)	直線定着の長さ				フックあり定着の長さ			
		L ₁	L ₂	L ₃	L _{3h}	L _{1h}	L _{2h}	L _{3h}	L _{3h}
SD295	18	45d	40d	35d	30d	35d	30d	30d	30d
	21	40d	35d	30d	25d	30d	25d	25d	25d
	24, 27	35d	30d	25d	20d	25d	20d	20d	20d
	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d	25d	20d	20d	20d
SD345	18	50d	40d	35d	30d	35d	30d	30d	30d
	21	45d	35d	30d	25d	30d	25d	25d	25d
	24, 27	40d	35d	30d	25d	30d	25d	25d	25d
	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d	25d	20d	20d	20d
SD390	21	50d	40d	35d	30d	35d	30d	30d	30d
	24, 27	45d	40d	35d	30d	35d	30d	30d	30d
	30, 33, 36	40d	35d	30d	25d	30d	25d	25d	25d

- (注) 1. L₁、L_{1h}: 2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2. L₂、L_{2h}: 割製破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3. L₃ : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L_{3h} : 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分 ℓ を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

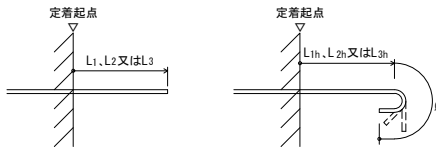


図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

(2) 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(i)、(ii)及び(iii)をすべて満足するものとする。
(i) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
(ii) 余長は 8d 以上
(iii) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さは表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
※ 梁主筋の柱内定着長さについては、40d(軽量コンクリートの場合は、50d)と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

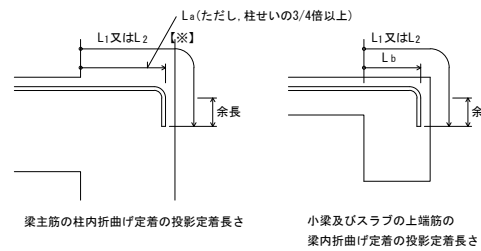


図3.3 折曲げ定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の 種 類	コンクリートの 設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L _a	L _b
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

- (注) 1. L_a : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。
(基礎梁、片持梁、片持小梁及び片持スラブを含む。)
2. L_b : 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
(片持梁、片持小梁及び片持スラブを除く。)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

(3) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
なお、L₂ 及びL₃ は表3.3の(注)による。

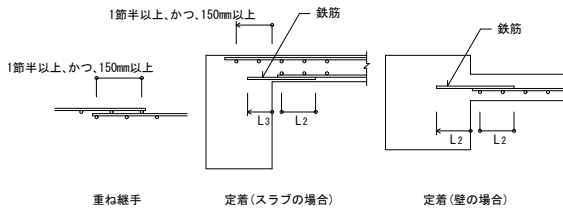


図3.4 溶接金網の継手及び定着

(4) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

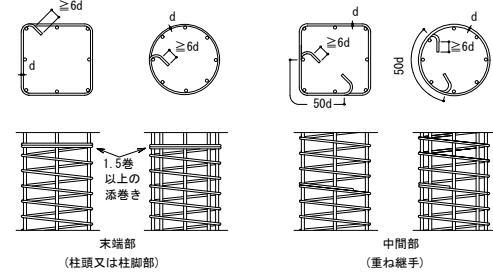


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

(a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
ただし、柱及び梁の主筋に D29 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ(単位:mm)

構造部分の種類		最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上がりあり 20 仕上がりなし 30
	柱、梁、耐力壁	屋内 仕上がりあり 30 仕上がりなし 30
		屋外 仕上がりあり 30 仕上がりなし 40
		擁壁、耐圧スラブ 40
	柱、梁、スラブ、壁	40
	基礎、擁壁、耐圧スラブ	60
土に接する部分	煙突等高熱を受ける部分	60

- (注) 1. 普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
2. 「仕上がりあり」とは、モルタル塗り等の仕上がりのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上塗材、塗装等)のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含めない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

(d) 鉄筋相互のあき間は図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(2) 25mm
(3) 隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1.5倍

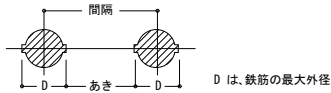


図4.1 鉄筋相互のあき

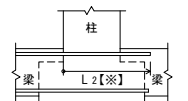
(e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。

(f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(c)による。

5.1 基礎梁

(a) 一般事項

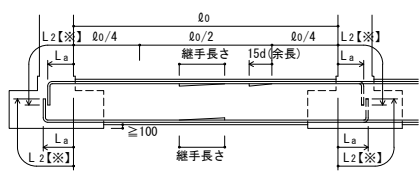
- (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
(2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b)(4)による。



※ 40d(軽量コンクリートの場合は、50d)と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.11による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)
※ 40d(軽量コンクリートの場合は、50d)と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

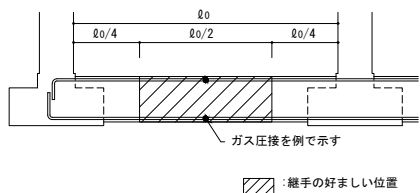
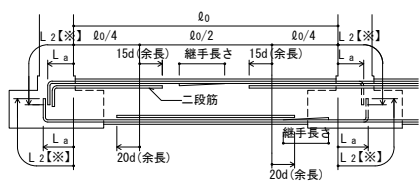


図5.2 主筋の継手、定着及び余長(その1)

(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。
ただし、耐圧スラブが付く場合は、(d)による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.11による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)
※ 40d(軽量コンクリートの場合は、50d)と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

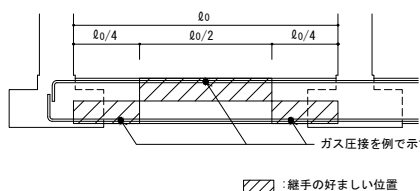
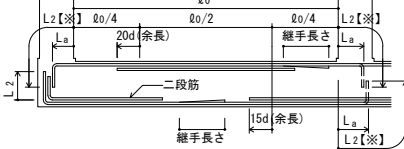


図5.3 主筋の継手、定着及び余長(その2)

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。
(耐圧スラブが付く場合を含む。)



- (注) 1. 図示のない事項は、7.11による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)
※ 40d(軽量コンクリートの場合は、50d)と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

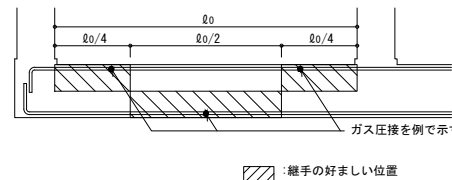


図5.4 主筋の継手、定着及び余長(その3)

5.2 基礎梁のあばら筋等

(a) 一般事項

- (1) あばら筋の後および間隔は、設計図による。
(2) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。
ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

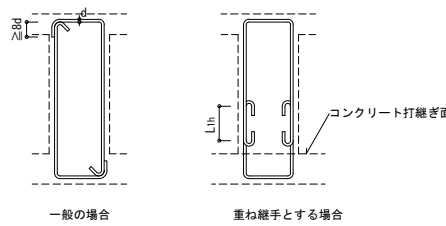


図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

(b) 腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は設計図による。

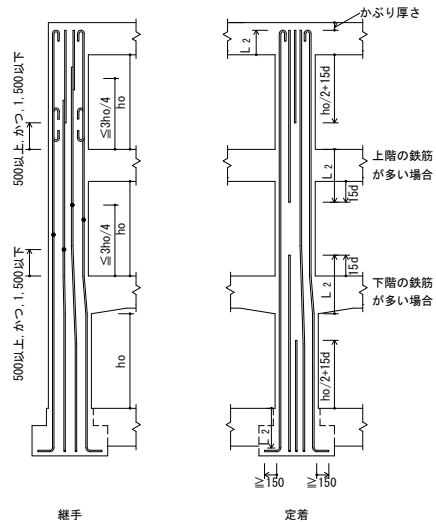
(c) あばら筋の割付けは、7.2(c)による。

配筋標準図(2)

6.1 柱

(a) 一般事項

- (1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_o/4$ (h_o は柱の内法高さ)以下とする。
- (2) 継手、定着及び余長は、図6. 1による。
ただし、柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合は、設計図による。



- 継手
- 定着
- (注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
2. 隣り合う継手の位置は、表3. 2[隣り合う継手の位置]による。
3. 継手及び定着は、すべての階に適用できる。

図6. 1 柱主筋の継手、定着及び余長

(b) 柱打増し部

- (1) 土に接する柱周囲の打増しは図6. 2による。

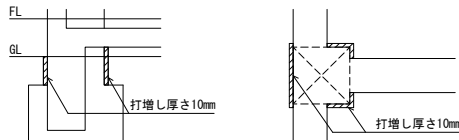


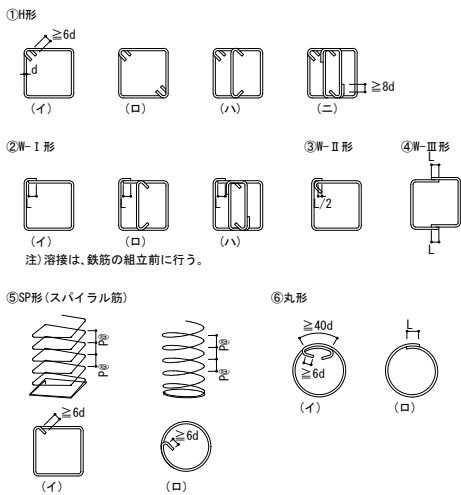
図6. 2 柱打増し部

6.2 帯筋

(a) 帯筋の種類及び間隔は、設計図による。

(b) 帯筋組立の形は図6. 3により、適用は設計図による。特記なき限りH形を標準とする。

- (1) H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
- (2) 溶接する場合の溶接長さ L は、両面フレア溶接の場合は $5d$ 以上、片面フレア溶接の場合は $10d$ 以上とする。
- (3) SP形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。

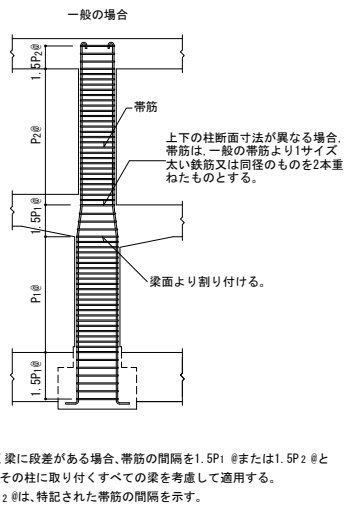


(注) ③W-II形、④W-III形は耐震改修工事のみ

図6. 3 帯筋組立の形

(c) フック及び継手の位置は交互とする。

(d) 帯筋の割付けは図6. 4とし、それ以外の場合は設計図による。



- (注) 柱に取り付け梁に段差がある場合、帯筋の間隔を $1.5P_1$ @または $1.5P_2$ @とする範囲は、その柱に取り付けすべての梁を考慮して適用する。
なお、 P_1 @、 P_2 @は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6. 4 帯筋の割付け

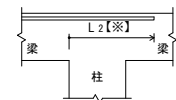
7.1 大梁

(a) 一般事項

- (1) 地中梁下の砂利地床厚及び捨てコンクリート地床厚は設計図による。

(b) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- (1) 継手中心位置は、次による。
上端筋: 中央 $\ell_o/2$ 以内
下端筋: 柱面より梁せい(D) 以上離し、 $\ell_o/4$ を加えた範囲以内
- (2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7. 3及び図7. 4による。
- (3) 梁筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が、同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7. 1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。



- ※ $40d$ (軽量コンクリートの場合は、 $50d$) と表3. 3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

図7. 1 梁主筋の梁内定着

(4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

- なお、定着の方法は3(b) (2) による。
- 上端筋: 曲げ降ろす
下端筋(一般): 原則、曲げ上げる。
下端筋(ハンチ付き): 原則、曲げ上げる。
- (5) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は設計図による。
(6) 段違い梁は、図7. 2による。

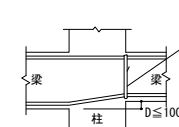
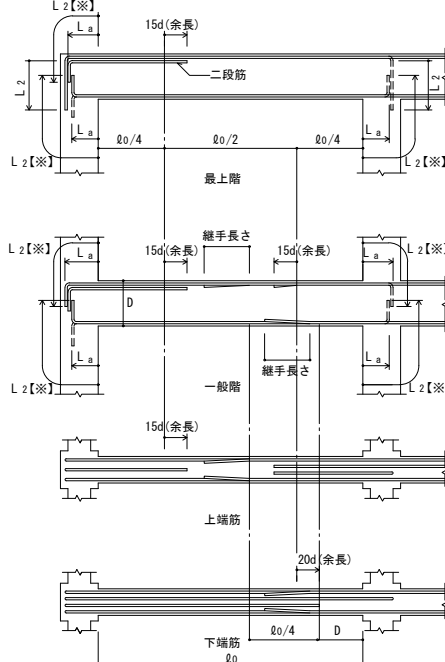


図7. 2 段違い梁

(c) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7. 3(a) による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合(基礎梁を除く)には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)
※ $40d$ (軽量コンクリートの場合は、 $50d$) と表3. 3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

図7. 3(a) 大梁の重ね継手、定着及び余長

(d) ハンチのない場合の継手位置は、図7. 3(b) による。

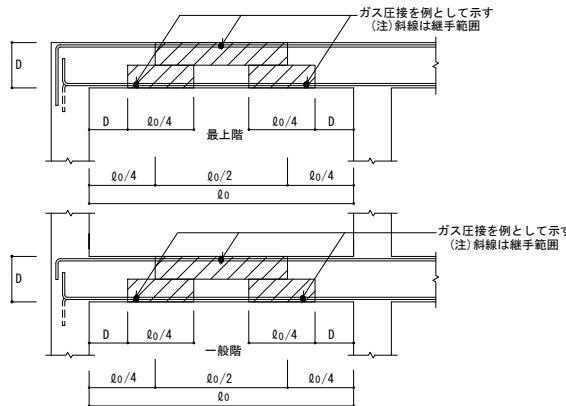
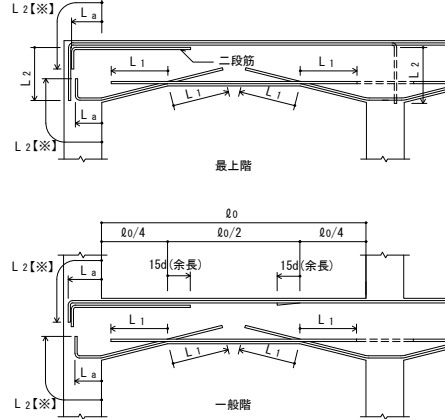


図7. 3(b) 大梁の継手位置

(d) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7. 4による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合(基礎梁を除く)には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、===== のように引き通すことができる。
4. 破線は、柱内定着を示す。
5. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)
※ $40d$ (軽量コンクリートの場合は、 $50d$) と表3. 3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

図7. 4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2 あばら筋等

(a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項

- (1) あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。
- (2) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7. 6による。
ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは設計図による。
- (3) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000程度とする。

(b) あばら筋組立の形及びフックの位置

- (1) 形は、図7. 5(イ)とする。
ただし、L形梁の場合は、(ロ) または(ハ)、T形梁の場合は(ロ) ~ (ニ) とすることができ。

(2) フックの位置

- (イ) の場合は交互とする。
- (ロ) の場合 L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
- (ハ) の場合は床版の付く側を 90° 折曲げとする。

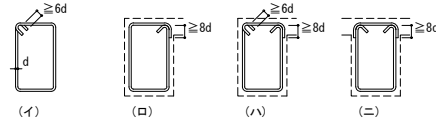
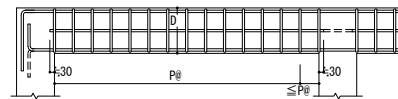


図7. 5 あばら筋組立の形

(c) あばら筋の割付け

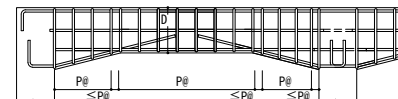
- (1) 間隔が一律でハンチのない場合は、図7. 6による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中の $P\ell$ は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7. 6 あばら筋の割付け(その1)

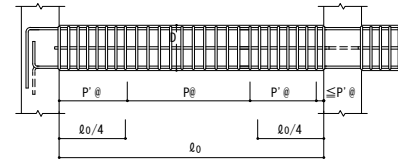
- (2) 間隔が一律でハンチのある場合は、図7. 7による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中の $P\ell$ は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7. 7 あばら筋の割付け(その2)

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7. 8による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中の $P\ell$ 、 $P'\ell$ は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7. 8 あばら筋の割付け(その3)

(d) 腹筋及び幅止め筋

- (1) 一般の梁は、図7. 9による。

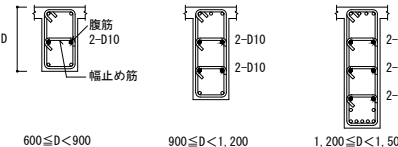
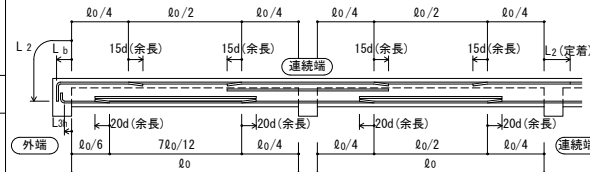


図7. 9 腹筋および幅止め筋

7.3 小梁

(a) 小梁主筋の継手、定着及び余長

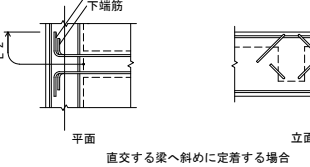
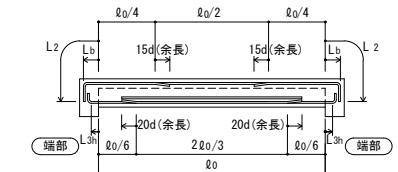
- (1) 連続小梁の場合は、図7. 10による。



- (注) 1. 図示のない事項は、5. 1及び7. 11に準ずる。
2. 印は、余長位置を示す。

図7. 10 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

(b) 単独小梁の場合は、図7. 11による。



- (注) 1. 図示のない事項は、5. 1及び7. 11に準ずる。
2. 印は、余長位置を示す。

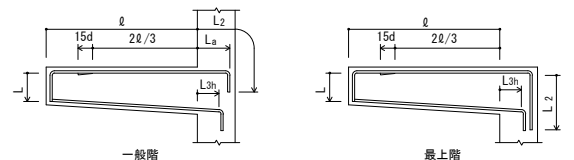
図7. 11 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

(c) あばら筋は、7. 2による。

7.4 片持梁

(a) 片持梁主筋の定着及び余長

- (1) 先端に小梁のない場合は、図7. 12による。

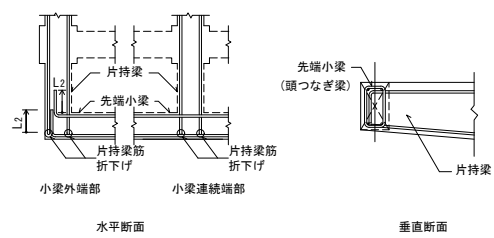


- (注) 1. 図示のない事項は、7. 11による。
2. 印は、余長位置を示す。
3. 梁主筋のみ込み長さ L は、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
4. 先端の折曲げの長さ L は、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

図7. 12 片持梁主筋の定着及び余長

配筋標準図(3)

(2) 先端に小梁がある場合は、図7. 13による。



- (注) 1. 図示のない場合は、(1)による。
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7. 13 片持梁主筋の定着

(b) あばら筋は、7. 2による。

8.1 壁

- (a) 一般事項
(1) 壁配筋の重ね継手及び定着の長さは、重ね継手長さを L_1 、定着長さを L_2 とする。
(2) 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000程度とする。

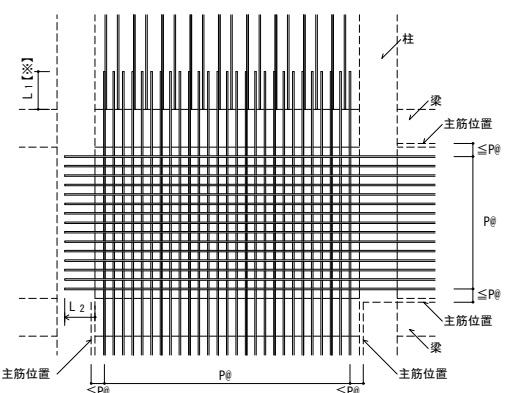


図8. 1 壁の配筋

※ 耐力壁については、40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3. 11に示すフックなし継手長さ L_1 のうち大きい値以上とする。

(b) 壁の配筋は表8. 11により、種別は設計図による。

表8. 1 壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	150
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	180
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(c) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8. 2により、種別は設計図による。

表8. 2 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別 (表10. 1)
KW1	縦筋 D13-200@ダブル	180	KA1 KA3
	横筋 D10-200@ダブル		
KW2	縦筋 D13-150@ダブル	200	KA2 KA4
	横筋 D10-200@ダブル		

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(d) 土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。

(d) 壁の交差部及び端部の配筋は、図8. 2による。

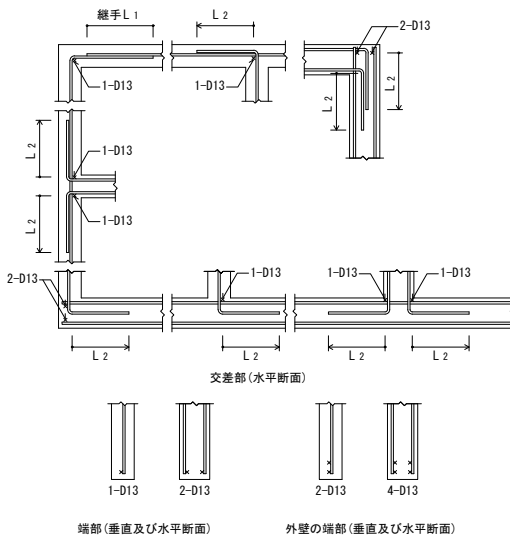


図8. 2 壁の交差部及び端部の配筋

8.2 一般壁の補強

- (a) 壁開口部の補強
(1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8. 3、B形は表8. 4とし、適用は設計図による。
なお、耐震壁の補強筋は、設計図による。

表8. 3 壁開口部補強筋 (A形)

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	1-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13

表8. 4 壁開口部補強筋 (B形)

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	2-D13	1-D13
W18, W20	4-D13	2-D13

(2) 壁開口部補強の定着長さは、図8. 3による。

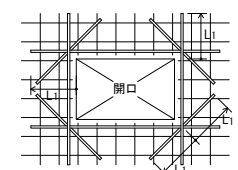


図8. 3 壁開口部補強筋の定着長さ

(b) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、設計図による。

8.3 壁の打増し補強

壁の打増し厚さ a が50mm以上の場合は、図8. 4による。

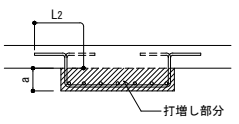


図8. 4 壁の打増し補強配筋

9.1 スラブ

- (1) 土間スラブ下の砂利地床厚及び捨てコンクリート厚は設計図による。
(2) 土間コンクリート補強筋 (D0) の配筋及びコンクリート厚さは設計図による。
(3) スラブの配筋 (S形配筋) は表9. 1及び図9. 1により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

表9. 1 S形配筋

配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 1	D13-100@	D13-100@
S 2	同 上	D13-150@
S 3	同 上	D10, D13-150@
S 4	D13-150@	D13-150@
S 5	同 上	D10, D13-150@
S 6	同 上	D10-150@
S 7	D10, D13-150@	D10, D13-150@

配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 8	D10, D13-150@	D10-150@
S 9	同 上	D10-200@
S10	D10, D13-200@	D10, D13-200@
S11	同 上	D10-200@
S12	同 上	D10-250@
S13	D10-200@	D10-200@
S14	同 上	D10-250@

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

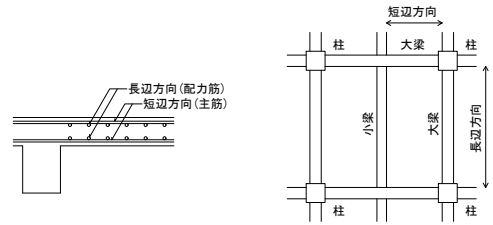


図9. 1 スラブの配筋

- (4) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
(5) 定着長さ及び受け筋は、図9. 2による。
ただし、引き通すことができない場合は、図9. 3により梁内に定着する。

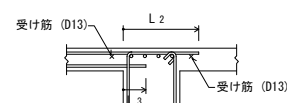


図9. 2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)

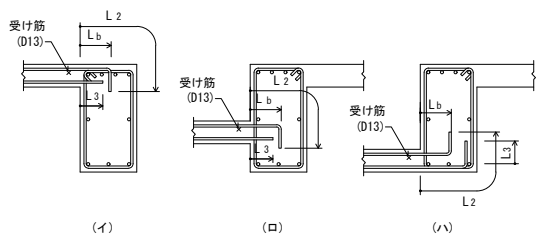


図9. 3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

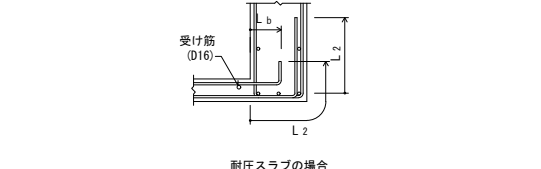


図9. 3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

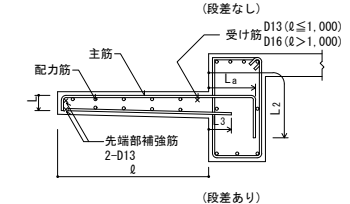
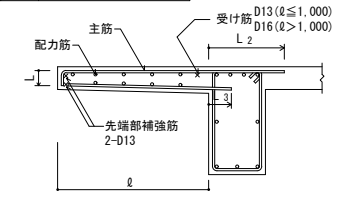
9.2 片持スラブ

- 片持スラブの配筋は、次による。
(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表9. 2並びに図9. 4及び図9. 5により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

表9. 2 CS形配筋

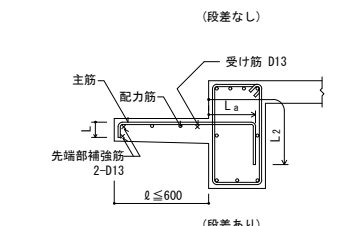
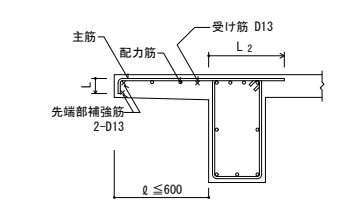
配筋種別	主筋
CS11	上 D13-100@ 下 D13-200@
CS12	上 D13-150@ 下 D13-300@
CS13	上 D10, D13-150@ 下 D10, D13-300@
CS14	上 D10, D13-200@ 下 D10-200@

配筋種別	主筋
CS15	上 D10-200@ 下 D10-400@
CS16	上 D10, D13-200@ 下 —
CS17	上 D10-200@ 下 —



(注) 1. 先端の折り曲げ長さ L は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9. 4 片持スラブの配筋 (CS11 からCS15)



(注) 1. 先端の折り曲げ長さ L は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9. 5 片持スラブの配筋 (CS16及びCS17)

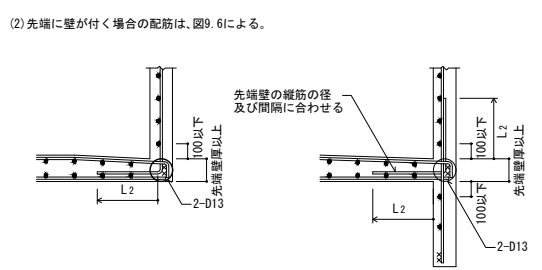


図9. 6 先端に壁が付く場合の配筋

(3) 出隅部

- (i) 補強の配筋は設計図により、配筋方法は、図9. 7による。
(ii) 出隅受け部分 (図9. 7の斜線部分) の補強筋は設計図による。

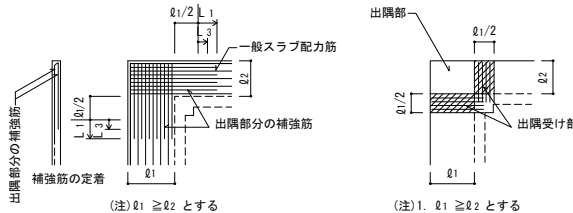


図9. 7 片持スラブ出隅部の補強配筋

9.3 スラブ等の補強

- (a) スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強は、特記による。構造図になれば (i) (ii) による。
(i) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合には、図9. 8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 ($L = 2L_1$) シングルを上下筋の内側に配筋する。

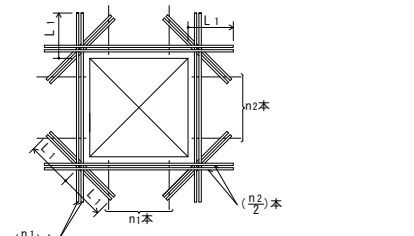


図9. 8 スラブ開口部の補強配筋

- (ii) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

(b) 屋根スラブの補強

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9. 9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

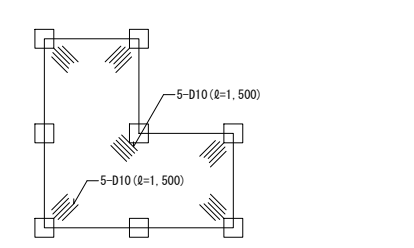


図9. 9 出隅及び入隅部の補強配筋

(c) 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は図9. 10による。
ただし、土間スラブとは、土に接するスラブで S形の配筋によるものをいう。

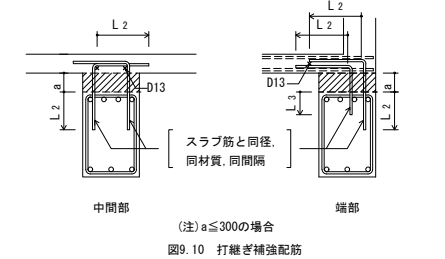


図9. 10 打継ぎ補強配筋

(d) 土間コンクリートの補強

土間コンクリートの補強筋は、設計図による。なお、基礎梁との接合部は、図9. 11による。

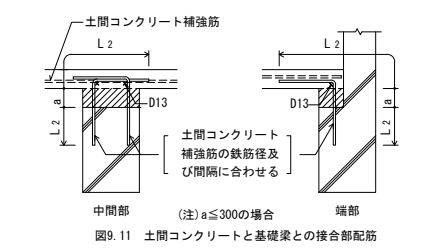


図9. 11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

配筋標準図(4)

9.4 段差のあるスラブ補強

150mm以下の段差のあるスラブは、図9.12による。

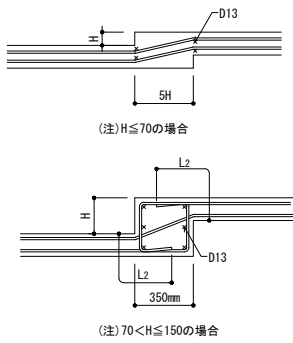


図9.12 段差のあるスラブの補強配筋

10.1 片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.11により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.1 片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

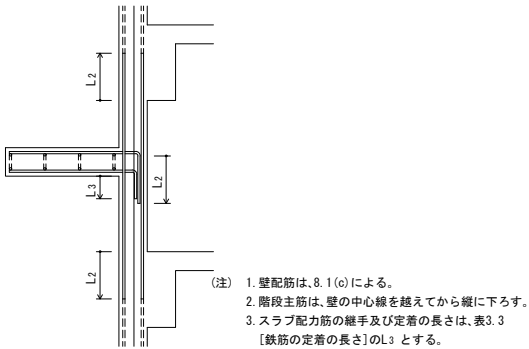


図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.2 二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13、D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

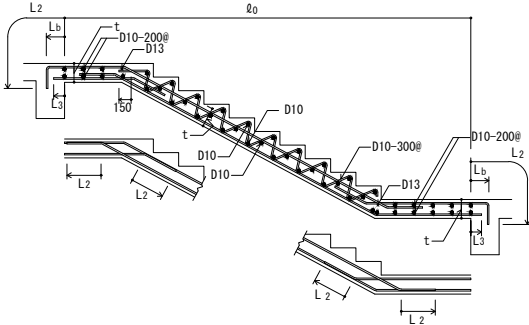
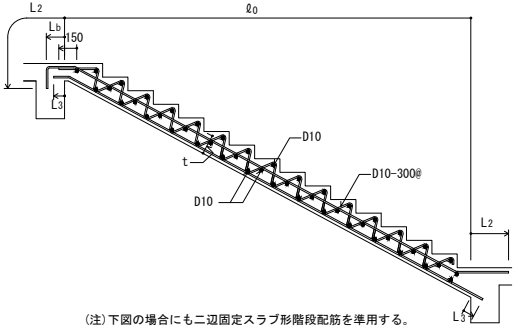


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)



(注)下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

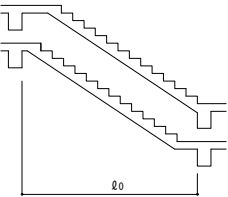


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

11.1 柱梁の増打部補強要領

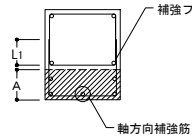
(a)一般要領

- 増打幅が 70mm を超える場合は、(b) により補強を行う。
- 増打幅が 70mm 以下の場合、梁、壁及びスラブ等の鉄筋の定着長さには、増打部分を除いて算定する。
- 増打幅が 70mm を超える場合で、(b) により増打部の補強を行う場合は、梁、壁及びスラブ等の鉄筋の定着長さには、増打部分を含めることが出来る。

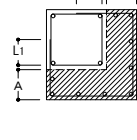
(b)増打部補強要領

<柱の増打補強要領>

(イ)



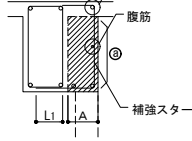
(ロ)



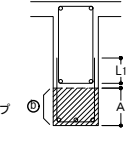
- 注) 1. 印は、増打部分を示す。
2. A は、増打幅を示す。
3. 軸方向補強筋は、表11.1 による。
4. 補強フープは、柱フープと同径、同ピッチとする。

<梁の増打補強要領>

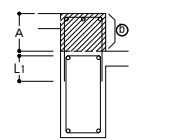
(イ)



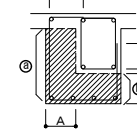
(ロ)



(ハ)



(ニ)



- 注) 1. 印は、増打部分を示す。
2. A は、増打幅を示す。
3. 軸方向補強筋は、表11.1 による。
4. 補強スターラップは、梁スターラップと同径、同ピッチとする。
5. 部には、梁と同径、同ピッチで腹筋を配筋する。
6. 部には、梁と同径の腹筋を #300 以下で配筋する。

<軸補強筋リスト>

Aの範囲	梁	柱
70<A≤200	D16 #200で割付	D16 #300で割付
200<A	D19 #200で割付	

<表 11.1>

- 注) 1. 軸方向補強筋の定着長さは、補強筋が D16 の場合は 20d とし、D19 の場合は主筋の定着方法に準じるものとする。
2. 増打部に耐力壁が取付く場合は、軸方向補強筋の径にかかわらず主筋の定着方法に準じるものとする。

12.1 その他

構造図面における鉄筋の表示記号は、下表 による。

記 号	・	×	▧	●	○	●	■	◎	◎	◎	◎
異形鉄筋名称	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41

溶接標準図（１）

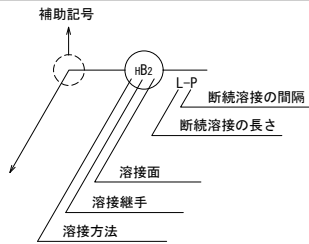
1 溶接方法・溶接継手及び溶接面の分類

分 類		記 号
溶接方法	被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接、セルフシールドアーク溶接	H
	サブマージアーク溶接	A
	アークスタッド溶接	SW
	エレクトロスラグ溶接	E
溶接継手	完全溶込み溶接	突合わせ継手
		T継手
		かど継手
	隅肉溶接	L
		F
	部分溶込み溶接	P
	部分溶込み溶接 形合せ	PF
溶 接 面	フラア溶接	FL
	片面溶接	1
	両面溶接	2

* 両面溶接とは、裏はつりの有無にかかわらず、鋼材の表側と裏側の両面より溶接を行うことをいう。

2 溶接の補助記号

区 分	補助記号
現 場 溶 接	▲
全 周 溶 接	○
全 周 現 場 溶 接	●



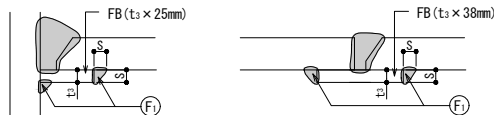
3 裏はつりと裏当て金

3-1 裏はつり

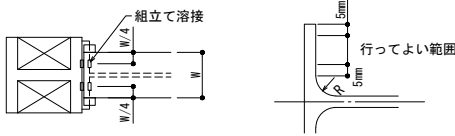
裏当て金のない場合は、表面より溶接を行ったのち、健全な溶着部分が現れるまで裏はつりを行い、裏はつり部を十分に清掃したのち溶接を行う。ただし、サブマージアーク溶接で溶接施工試験等により十分な溶込みが得られると判断・確認できる場合は、裏はつりを省略することができる。

3-2 裏当て金

(1) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は、原則としてフランジの内側に設置し、取付方法は、下図による。



(2) 裏当て金の組立溶接は接合部に悪影響を与えないように、エンドタブの位置または梁フランジ幅の1/4の位置に行うこととし、両端から 5mm 以内及びウェブフィレット部のR止まり部又は隅肉溶接止端部から5mm 以内の位置に行ってはならない。

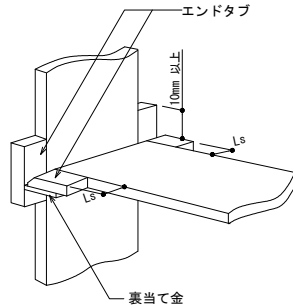


(3) 裏当て金の厚さ及び隅肉溶接のサイズは、下表に示す値とするほか、裏当て金の材質は、原則として母材と同等以上のものとする。

裏当て金の厚さ		溶接のサイズ	
溶接方法	t ₃ (mm)	裏当て金の厚さ	S (mm)
手 溶 接	6 以上	t ₃ ≤ 9 mm	5
半 自 動 溶 接	9 以上	t ₃ > 9 mm	9
自 動 溶 接	12 以上		

4 エンドタブ

(1) 完全溶込み溶接及び部分溶込み溶接の場合は、原則として、溶接の始端部及び終端部に適切な材質、形状、及び長さをもった鋼製エンドタブを用いる。ただし、鉄骨製作工場に十分な実績があり、かつ、溶接の品質が十分確保できると判断される場合は、監理者の承諾をうけて、その他の工法とすることができる。



エンドタブの長さ

溶接方法	Ls (mm)
手 溶 接	35 以上
半 自 動 溶 接	40 以上
自 動 溶 接	70 以上

(2) 固形タブの使用にあたっては、あらかじめ溶接技量付加試験を行い監理者の承諾を受ける。但し、AW検定協会の代替エンドタブ有資格者（工場、工事現場）又は、既に行った試験の結果により監理者が支障のないものと認めた場合は、この試験を省略することができる。

6 溶接継手の種類別開先標準

6-1 完全溶込み溶接

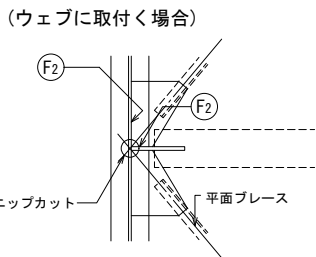
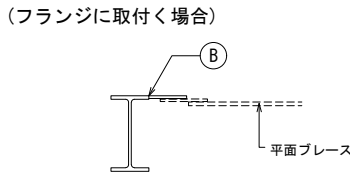
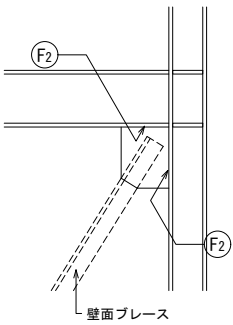
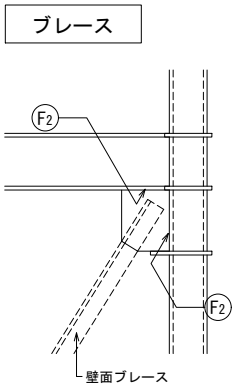
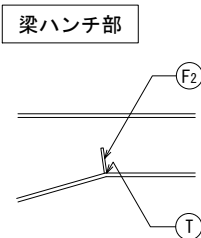
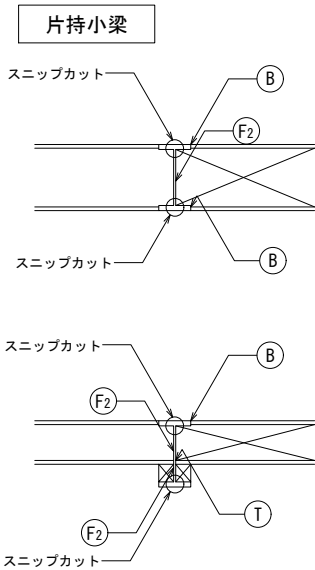
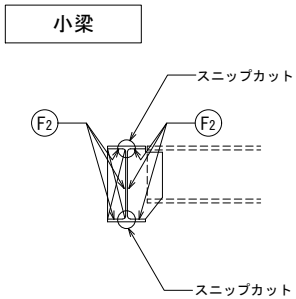
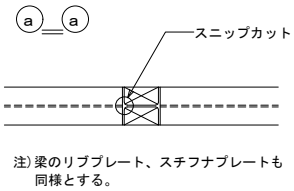
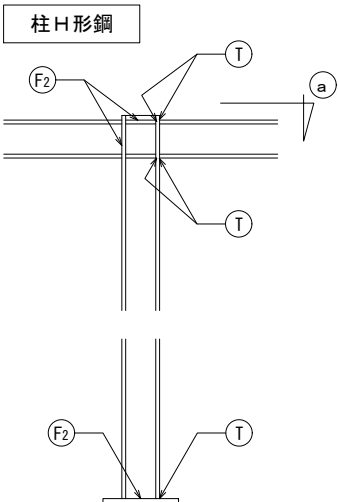
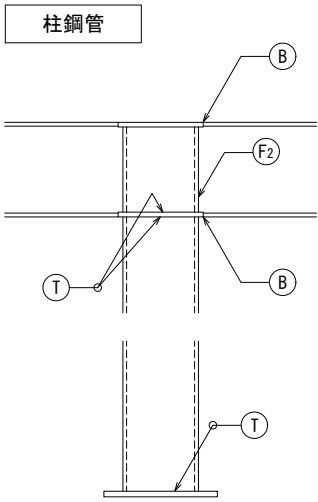
① 突合わせ継手（B）（単位：mm）		②-1 T継手（T）（単位：mm）		②-2 部材が直交しない場合（T）（単位：mm）		③ かど継手（L）（単位：mm）	
H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）	A（サブマージアーク溶接）	H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）	A（サブマージアーク溶接）	H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）	A（サブマージアーク溶接）	H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）	A（サブマージアーク溶接）
1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）
t ≤ 6	t ≤ 12	t ≤ 6	t ≤ 12	6 < t ≤ 40	6 < t ≤ 19	t ≤ 6	t ≤ 12
6 < t ≤ 19	12 < t ≤ 22	6 < t ≤ 19	12 < t ≤ 22		19 < t ≤ 40	6 < t ≤ 19	12 < t ≤ 19
19 < t ≤ 40	22 < t ≤ 40	19 < t ≤ 40	22 < t ≤ 40			19 < t ≤ 40	19 < t ≤ 40

溶接標準図（2）

6-2 隅肉溶接（F） （単位：mm）				6-3 部分溶込み溶接（P） （単位：mm）				6-4 部分溶込み溶接 レ形突合せ（PF） （単位：mm）																																																																	
H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）				H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）				H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）																																																																	
1（片面溶接）		2（両面溶接）		1（片面溶接）		2（両面溶接）		1（片面溶接）		2（両面溶接）																																																															
t ≤ 16		t ≤ 16		12 ≤ t ≤ 40		16 ≤ t ≤ 40		12 ≤ t ≤ 40		16 ≤ t ≤ 40																																																															
隅肉溶接のサイズ（S）は下表による。ただし、片面溶接の場合のサイズは S = t とする。 <table border="1"><tr><td>t</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>19</td><td>22</td><td>25</td><td>28</td><td>32</td><td>36</td><td>40</td></tr><tr><td>S</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>11</td><td>13</td><td>15</td><td>17</td><td>19</td><td>21</td><td>24</td><td></td><td></td></tr></table> （註）1. 隅肉溶接のサイズ（S）は、有効のど厚の和が板厚（t）と等しくなるように次式により求めたものである。 t ≤ 16mm の場合 S = t / √2 16mm < t ≤ 40mm の場合 S = t / √3 有効のど厚 √2/2 × S 有効のど厚 √3/2 × S （註）2. 設計図書（図面及び仕様書をいう。）に示す断続隅肉溶接の長さは、下図の有効長さ（L）とし、隅肉のサイズ（S）の 10 倍かつ 40mm 以上とする。ただし、有効長さは、ビードの始点（La）及びクレーター部（Lb）を除いた部分の長さとする。				t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40	S	3	4	5	6	7	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24			<table border="1"><tr><td>t</td><td>12</td><td>16</td><td>19</td><td>22</td><td>25</td><td>28</td><td>32</td><td>36</td><td>40</td></tr><tr><td>D</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>15</td><td>16</td></tr></table> 1/4 × t ≤ S ≤ 10 D1 = (t - 2) / 2 D2 = (t - 2) / 2 1/4 × t ≤ S ≤ 10 （註） 片面溶接を行なう場合には、原則として部分溶込み溶接を行わない側に隅肉溶接を行う。				t	12	16	19	22	25	28	32	36	40	D	10	11	12	13	13	14	15	15	16	1/4 × t ≤ S ≤ 10			
t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40																																																					
S	3	4	5	6	7	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24																																																							
t	12	16	19	22	25	28	32	36	40																																																																
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16																																																																
6-5 フレア溶接（FL） （単位：mm）				7 その他				7-5 貫通孔補強プレートの溶接																																																																	
H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）				7-1 スニップカット				7-3 回し溶接																																																																	
1（丸鋼等片面溶接）	2（丸鋼等両面溶接）	3（軽量形鋼V形溶接）	4（軽量形鋼レ形溶接）	溶接の交差部をスニップカット（Sc）で処理する場合の標準寸法は、鋼材の板厚に応じて下表に従うものとする。ただし、既製形鋼のスニップカットは Sc = r + 2 により求めるものとする。なお、スニップカット部は溶接により埋めるものとする。 <table border="1"><tr><td>t (mm)</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td><td>16以上</td></tr><tr><td>Sc (mm)</td><td>10</td><td>12</td><td>14</td><td>15</td></tr></table>				t (mm)	6	9	12	16以上	Sc (mm)	10	12	14	15	ガセットプレート、リブプレート、スチフナプレート等は、下図により回し溶接を行うこと。																																																							
t (mm)	6	9	12	16以上																																																																					
Sc (mm)	10	12	14	15																																																																					
				7-2 溶接部分の段差				7-4 バンドプレートの溶接																																																																	
		t ≥ 3 のとき S = t t < 3 のとき S = 3	t ≥ 3 のとき S = t t < 3 のとき S = 3	突合わせ溶接される部材の板厚が異なる場合の溶接部の形状は、次による。 （1）傾斜加工 クレーンガーダーのように低応力高サイクル疲労を受ける突合わせ溶接では、厚い方の材を1/2.5以下の傾斜に加工し、開先部分で薄い方と同一の高さにする。 （2）T継手に準じた余盛り 板厚差が薄い方の板厚の1/4を超える場合、又は10mmを超える場合は、T継手に準じた余盛りを設ける。 （3）なめらかに溶接 板厚差が薄い方の板厚の1/4以下の場合、かつ、10mm以下の場合は、溶接表面が薄い方の材から厚い方の材へなめらかに移行するように溶接する。				フランジプレート バンドプレート																																																																	

溶接標準図（3）

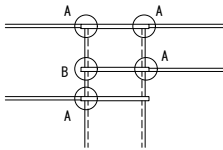
8 溶接要領図



註) 梁もしくは柱のいずれかの一边にしか取り付けられない場合は
突合せ溶接とする。(①)

9 注記

- 冷間成形角形鋼管の加工・施工方法は、「2018年版 冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」(独立行政法人建築研究所)による。
- スカラップは「ノンスカラップ」又は「改良型(複合円型)スカラップ」とし、下図による。
また、スカラップの形状は監理者の承諾を得ること。
- 本標準図と異なる開先形状とする場合は、監理者の承諾を得ること。
- その他
 - 溶接接合部は、所定の溶接強度を確保するため、割れ、内部欠陥など構造耐力上支障のある欠陥のないことの他、母材及び溶接部分の寸法精度については、告示 平12建告 第1464号 による。
 - 突合せ継手の食い違い及び仕口部のずれの検査方法及び補強方法等については「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル(独立行政法人建築研究所)」による。



A(上下フランジ部)：ノンスカラップ又は改良型(複合円型)スカラップ
B(中間部)：ノンスカラップ

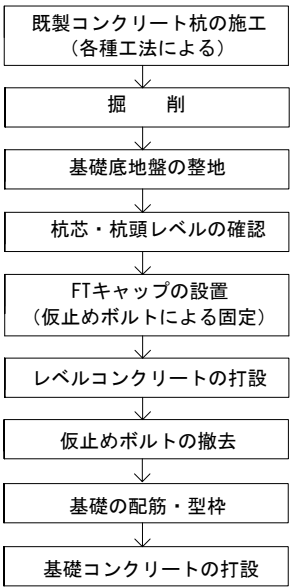
■構法概要

1. 本構法は、地震時の杭基礎の損傷低減を目的とした杭頭接合方法であり、既製コンクリート杭に用いる。
2. 杭頭を基礎（パイルキャップ）へ50～150mmの範囲で埋め込み、埋め込み部分において杭外周部とパイルキャップの界面にテーパ状のクリアランスを設ける。
3. 杭頭接合方法は、地震時に杭頭に引抜き力が作用しない箇所に適用する標準タイプと、引抜き力が作用する箇所にも適用できる引抜き対応タイプの2タイプがある。
※本建物は標準タイプを使用する。

■使用材料（適用範囲）

- ・杭：各種の既製コンクリート杭（PHC杭、SC杭、PRC杭、RC杭等）
- ・杭径：300mm～1200mm
- ・コンクリート（基礎（パイルキャップ）部）：普通コンクリート 設計基準強度：18～60 N/mm²
（法第37条第一号もしくは第二号に該当するコンクリート）

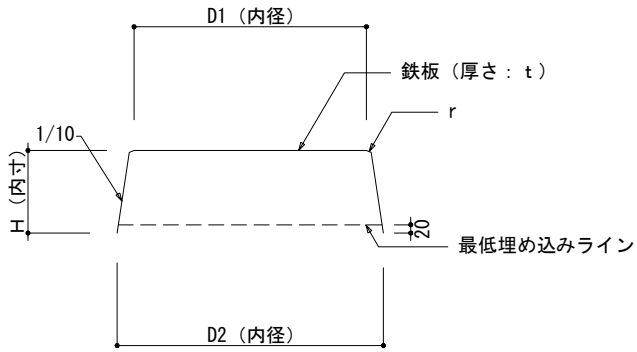
■施工手順



＊留意事項

- ・施工開始前に施工計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。
- ・F.T.Pile構法の施工は、FTキャップ設置前にパイルメーカーによる施工説明・指導を受けた後、実施する。
- ・FTPの刻印があるFTキャップ（テーパ型枠）を使用すること。
- ・FTキャップの受入時にはFTPの刻印と変形や損傷の有無を確認する。
- ・既製コンクリート杭の設置に先立ち、杭頭の端板のボルト孔に泥土が入らないように養生を行う。
- ・杭頭レベルの誤差が品質管理許容差を超えた場合には、工事監理者・設計者と協議のこと。
- ・FTキャップを設置する際は、杭周囲の碎石等のレベルが周辺よりも高くなっていないことを確認する。
- ・FTキャップ設置後に木槌等でFTキャップを軽打し、端板との間に小石・砂等により、浮き・隙間が生じていないか確認する。
- ・レベルコンクリート打設前にFTキャップの最低埋め込みラインが隠れるまで碎石または現地発生土に埋め込まれているか目視確認する。
- ・仮止めボルトは、レベルコンクリート硬化後に撤去する。
- ・FTキャップの上には原則として基礎配筋用のスパーサー等を置かないこと。
- ・施工完了後、施工結果を「施工チェックシート」に記録し、工事監理者に提出すること。

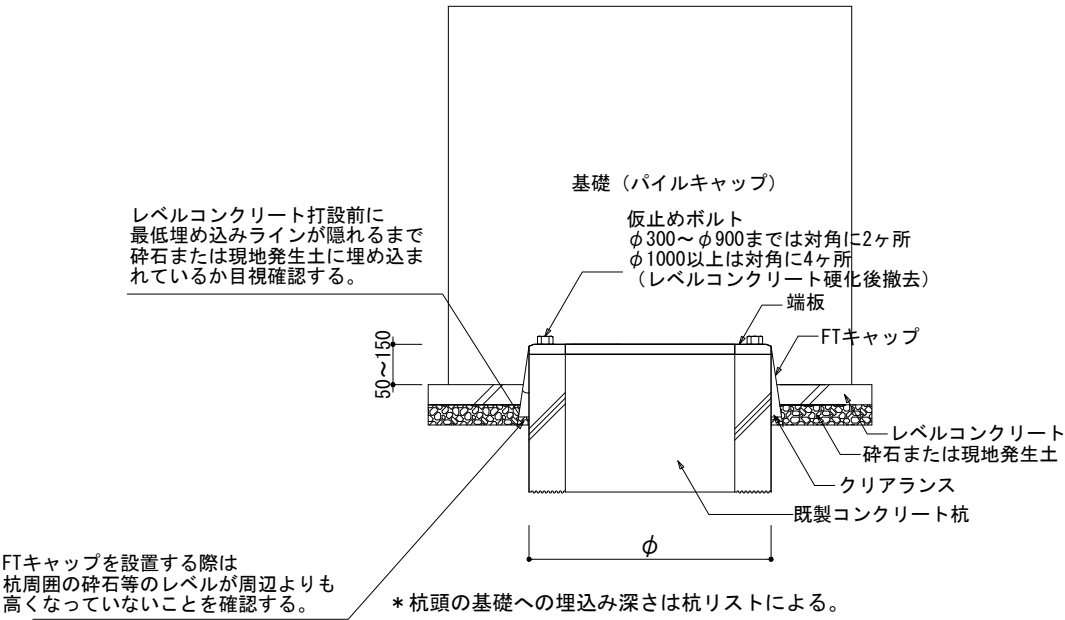
■FTキャップ（テーパ型枠）仕様

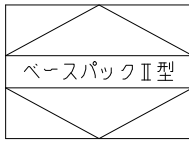


杭径：φ	鉄板厚さ：t (mm)	D1 (mm)	D2 (mm)	H (mm)	r (mm)	W (kg)
300	1.2	301	345	201	2.0	1.8
350	1.2	351	395	201	2.0	2.3
400	1.2	401	445	201	2.0	2.7
450	1.2	451	495	201	2.0	3.2
500	1.2	501	545	201	2.0	3.8
600	1.6	601	645	201	2.0	7.2
700	1.6	701	745	201	2.0	9.0
800	2.0	801	845	201	2.0	13.8
900	2.0	901	945	201	2.0	17.4
1000	2.3	1001	1045	201	2.0	23.9
1100	3.2	1101	1145	201	2.0	38.6
1200	3.2	1201	1245	201	2.0	44.3

- ＊FTキャップの品質管理は製作工場で行われているため、施工時には下記の確認を行う。
- ・FTキャップに「FTP」の刻印があること。
- ・FTキャップに変形や損傷がないこと。

■杭頭部詳細図





角形鋼管
F値295N/mm²以下
□-350×350 ~ □-550×550 用

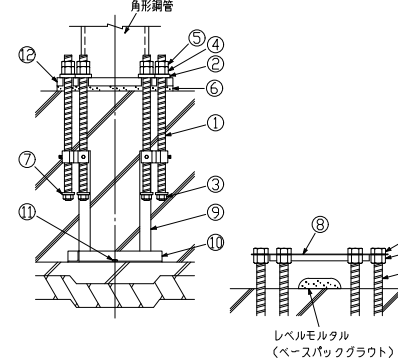
(一財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-19」(令和6年6月21日付)

ベースパック(Ⅱ型)柱脚工法設計標準図(参考図)

※ 本図は、「ベースパック柱脚工法」の仕様を示す。
使用する製品(材料)の認定・評定等取得時の規定(仕様書,指針,要領書等を含む)に準拠して施工すること。

1. 工法概要

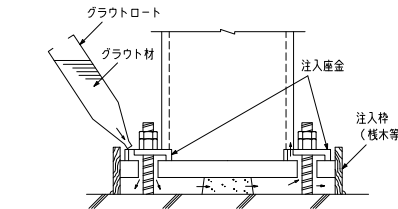
1.1 構成部材



- ①アンカーボルト
- ②注入座金
- ③Mナット
- ④Dナット
- ⑤Dナット(S)
- ⑥ベースパックグラウト(グラウト材)
- ⑦定着座金
- ⑧テンプレート
- ⑨フレームポスト
- ⑩フレームベース
- ⑪ステコンアンカー(コンクリートアンカー)
- ⑫ベースプレート

(注)上記①~⑫の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑧~⑪は現場状況により仕様異なる場合がある。
(注)アンカーボルト12本の場合はつなぎプレートが取り付く。

1.2 柱脚の定着方法概要



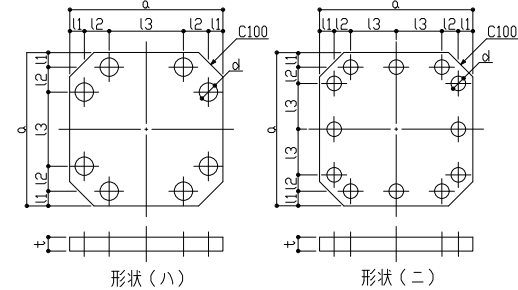
2. 柱

F値(N/mm ²)	鋼種	採用
235	BCP235 STKR400	
295	BCR295 JBRCR295 TSC295	●

3. 構成部材・寸法

3.1 ベースプレート

- 材質
SN490B【JIS G 3136】
BT-HT440B-SP【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
(建築構造用高溶接性高強度590N/mm²鋼材)



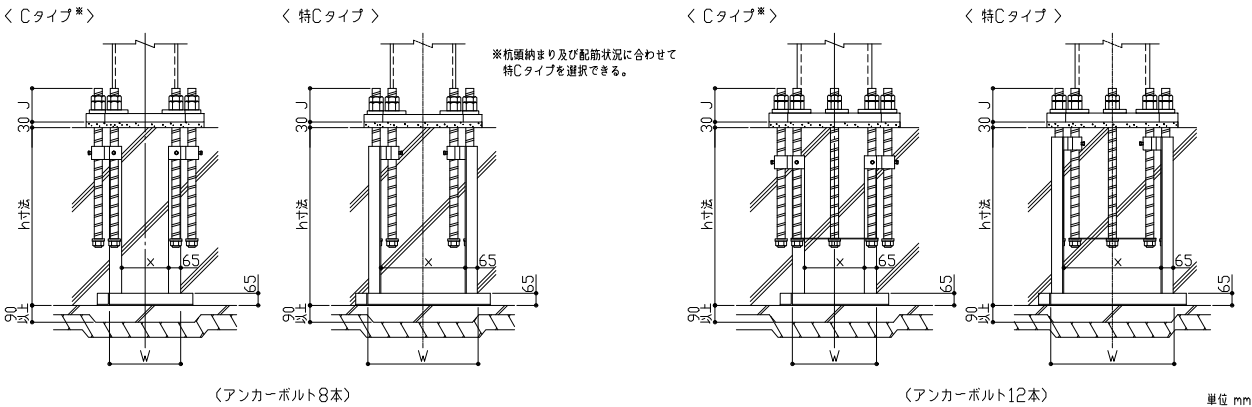
3.2 アンカーボルト(Dアンカーボルト)

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び	L	b	締結ねじd	基準強度(N/mm ²)
D38	850	46	M33	390
D41	900	49	M36	390
D41H	995	49	M36	490
D51	1110	57	M45	390
D51H	1215	57	M45	490

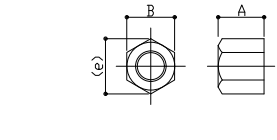
3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

- ベースパックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は下表に記載の値とする。



3.3 Mナット・Dナット

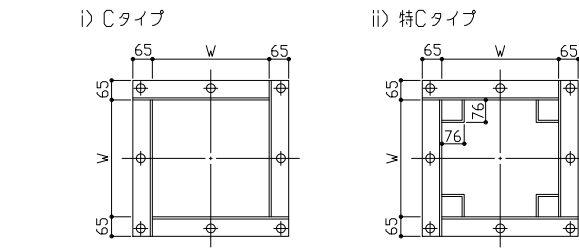
【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】



3.4 定着座金

適用アンカーボルト	g	t	d	材質
D38	65	12	37	SS400
D41,D41H	70	12	37	SS490
D51,D51H	85	12	46	SS490

3.6 フレームベース



呼び	A	B	(e)
Mナット	M33 26	50	58
	M36 29	55	64
	M45 36	70	81
Dナット	D38 45	65	75
	D41 48	70	80
	D51 60	80	92
Dナット(S)	D38 30	65	75
	D41 32	70	80
	D51 40	80	92

3.5 注入座金

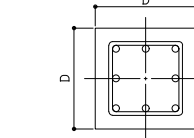
【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料,SS490】

記号	適用アンカーボルト	a	c	t	d
PD38	D38	96	122	20	43
PD41	D41,D41H	100	127	20	46
PD51	D51,D51H	110	140	20	58

4. コンクリート柱型

4.1 形状・材質

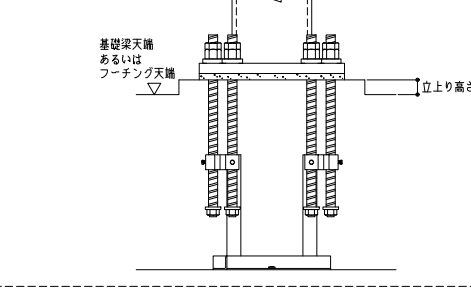
- 形状
形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。



- コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は下表に記載の値とする。
- 鉄筋
SD295(D13,D16)
SD345(C22,D25)

4.3 基礎立上がり

- 基礎立上がり高さは50mm以下とする。



4.4 特記事項 上記内容によらない場合は下記による。

- 採用
□ 下表標準柱型寸法からの変更あり(「柱型寸法最大・最小値一覧」による)
- 下表標準配筋仕様からの変更あり
- 立上り筋に頂部フックが必要

5. 工場製作(溶接)

■組立

- ベースプレートの中心線(かき線)に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法(完全溶込み溶接)

- 完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の簡便標準 (JASS 6 鉄骨工事 2018年版より)

図	溶接方法	適用板厚 T(mm)	ルート間隔G(mm)		ルート面R(mm)		間先角度α(°)		溶接姿勢
			標準値	許容差	標準値	許容差	標準値	許容差	
	被覆アーク溶接	6~	7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:45	-25,+∞ (-5,+∞)	下向き
			9	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:35		
	ガスシールドアーク溶接	6~	6	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:45	-25,+∞ (-5,+∞)	下向き
			7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。

・2段階基準は「設備精度検査基準」に規定する許容差(上段:管理許容差、下段括弧内:限界許容差)を示す。

■ベースプレートの予熱

- 気温(鋼材表面温度)が5℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm)	
		40≤t≤50	50<t≤75
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	50℃	予熱なし
	BT-HT440B-SP	予熱なし	予熱なし
CO2ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし
	BT-HT440B-SP	予熱なし	予熱なし

※フラックス入りワイヤによるCO2ガスシールドアーク溶接の予熱温度は、低水素被覆アーク溶接に準じる。

- 検査方法: 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

- 施工管理: 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

6. 工事場施工

6.1 基礎工事

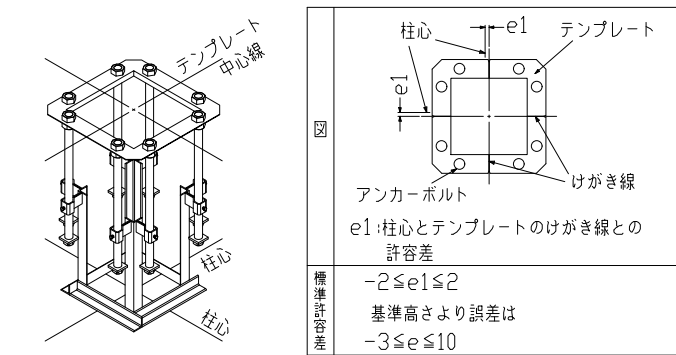
- 柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6.2 アンカーボルト据付け

- アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本(8本)で組立てを行う。

- フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

- 位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



6.3 配筋およびコンクリート打設

- 配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。

- コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6.4 建方

- レベルモルタルはベースパックグラウト(グラウト材)を使用し、大きさは右図による。

6.5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

- 本締めはグラウト材の充填前に、ダブルナットを標準とする。

- Dナット(S)による弛み止めは右図による。

6.6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

- グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

- グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

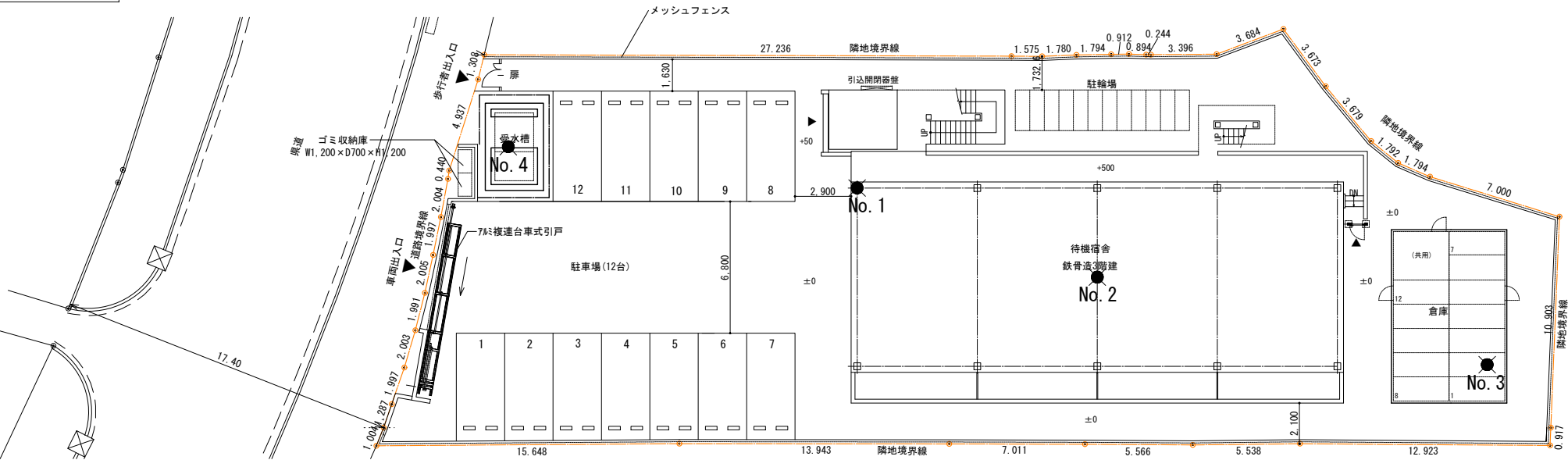
- 本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

- 本工法のうち6. 2アンカーボルト据付け及び6. 6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースパック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

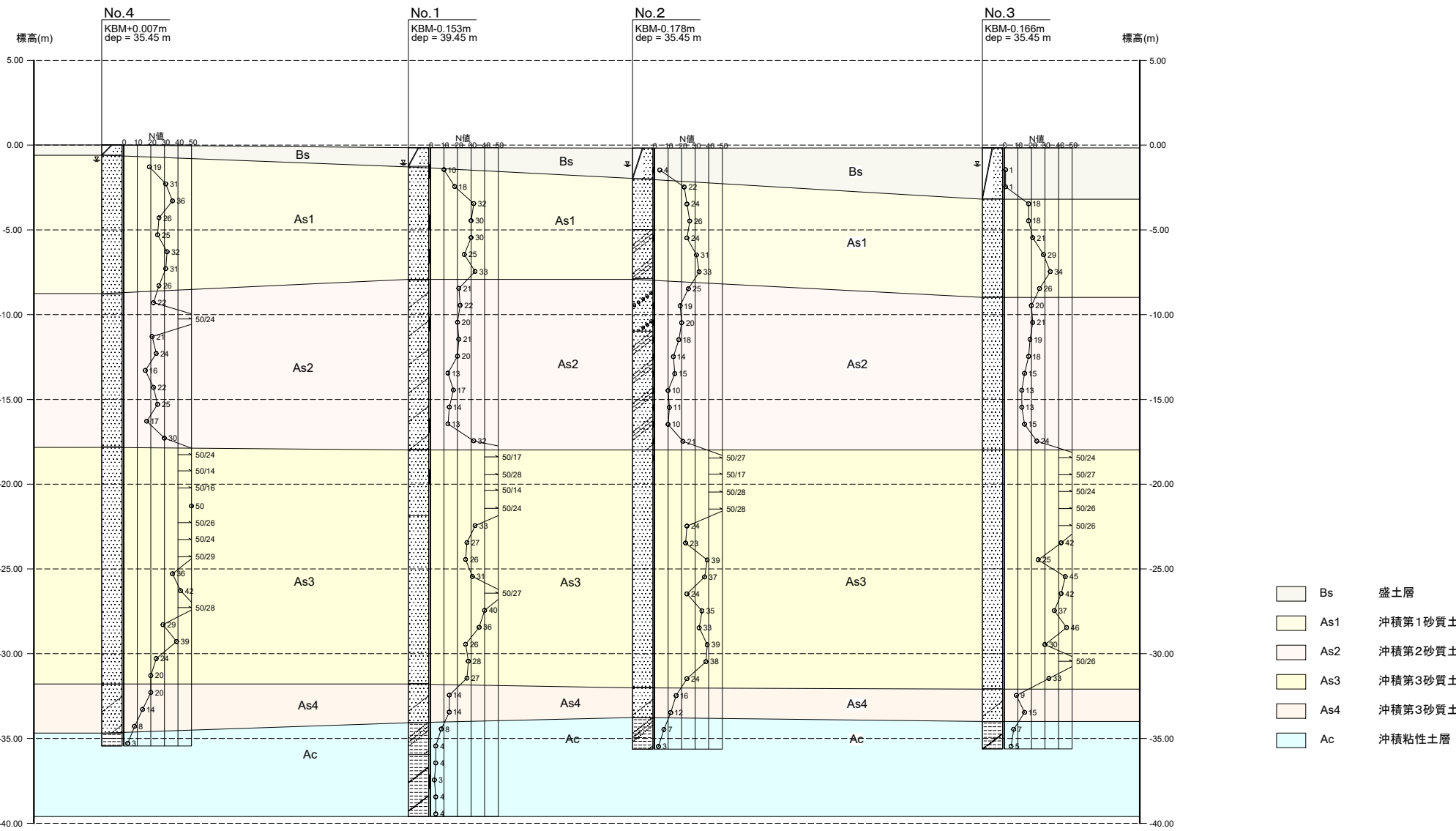
- ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

ボーリング柱状図(1)

調査位置図



推定地層断面図



ボーリング柱状図(2)

No. 1	(孔口標高 KBM-0.153m)
-------	-------------------

No. 1	(孔口標高 KBM-0.153m)
-------	-------------------

[illegible]

No. 2	(孔口標高 KBM-0.178m)
-------	-------------------

No. 2	(孔口標高 KBM-0.178m)
-------	-------------------

地質調査記録

深度 (m)	土質	色	対照	備考
0.00 ~ 1.80	細砂	暗灰色	中位の	
1.80 ~ 3.00	シルト質細砂	暗灰色	中位の	
3.00 ~ 4.50	シルト質細砂	暗灰色	中位の	
4.50 ~ 7.00	シルト質細砂	暗灰色	中位の	
7.00 ~ 10.00	シルト質細砂	暗灰色	中位の	
10.00 ~ 12.50	シルト質細砂	暗灰色	中位の	
12.50 ~ 17.00	シルト質細砂	暗灰色	中位の	
17.00 ~ 20.00	シルト質細砂	暗灰色	中位の	
20.00 ~ 23.00	シルト質細砂	暗灰色	中位の	
23.00 ~ 25.00	シルト質細砂	暗灰色	中位の	
25.00 ~ 27.00	シルト質細砂	暗灰色	中位の	
27.00 ~ 29.00	シルト質細砂	暗灰色	中位の	
29.00 ~ 31.00	シルト質細砂	暗灰色	中位の	
31.00 ~ 33.00	シルト質細砂	暗灰色	中位の	
33.00 ~ 35.00	シルト質細砂	暗灰色	中位の	

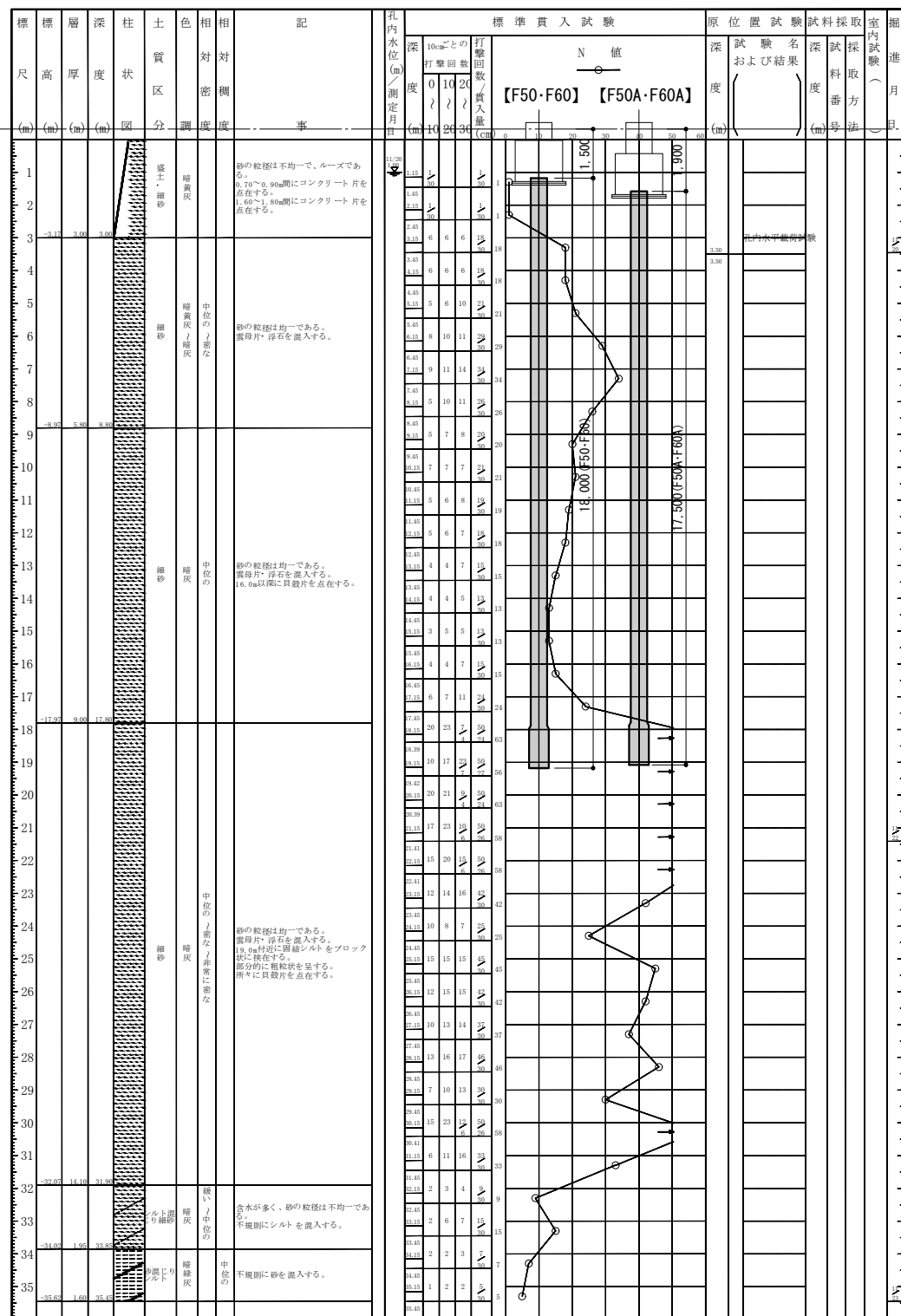
標準貫入試験結果

深度 (m)	N値 (F50-F60)	N値 (F50A-F60A)
0.00	1.50	1.50
1.80	1.50	1.50
3.00	1.50	1.50
4.50	1.50	1.50
7.00	1.50	1.50
10.00	1.50	1.50
12.50	1.50	1.50
17.00	17.50	17.50
20.00	1.50	1.50
23.00	1.50	1.50
25.00	1.50	1.50
27.00	1.50	1.50
29.00	1.50	1.50
31.00	1.50	1.50
33.00	1.50	1.50
35.00	1.50	1.50

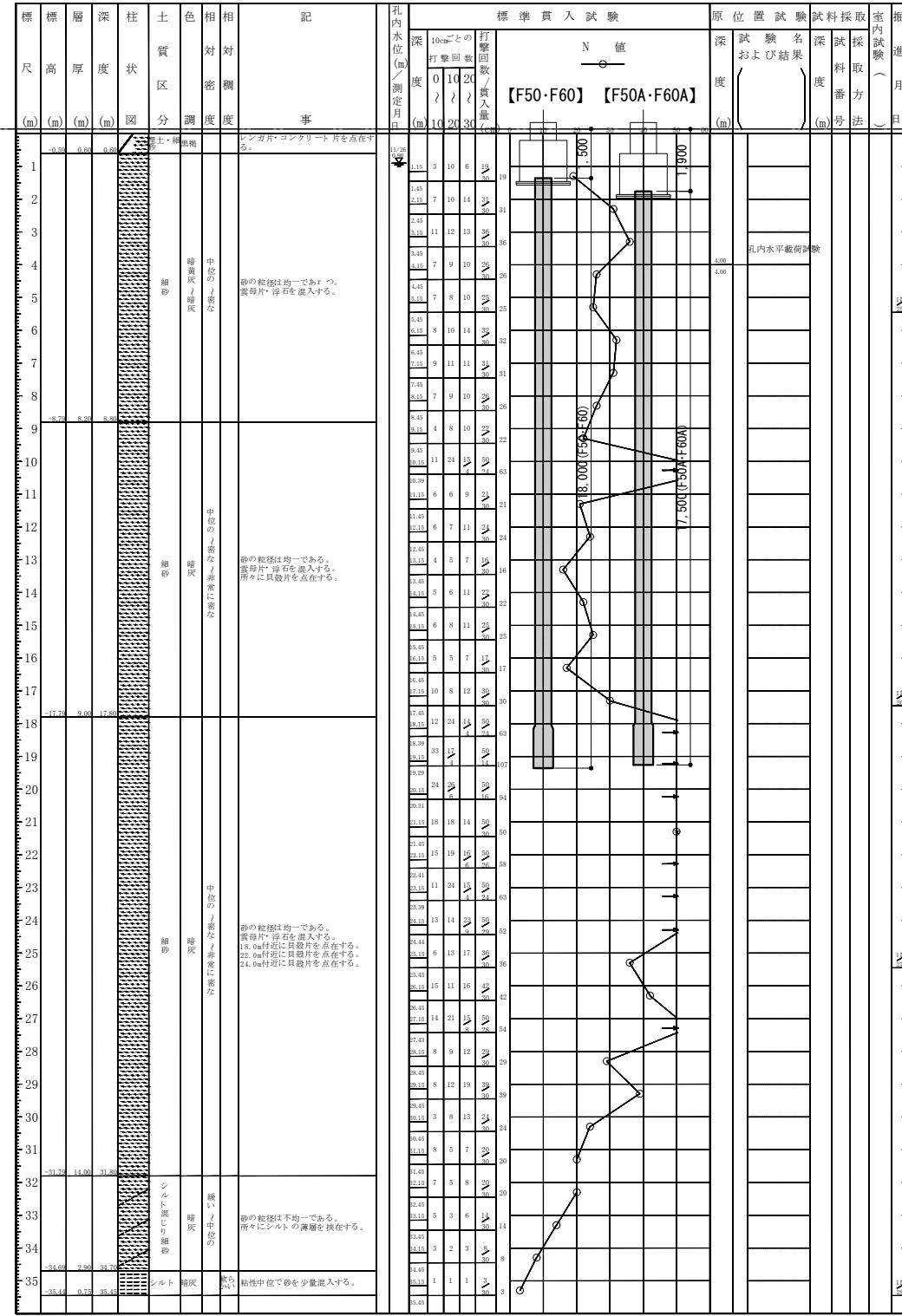
ボーリング柱状図(3)

No. 3 (孔口標高 KBM+0.166m)

▽ 設計GL
[KBM+0.15m]



No. 4 (孔口標高 KBM+0.007m)



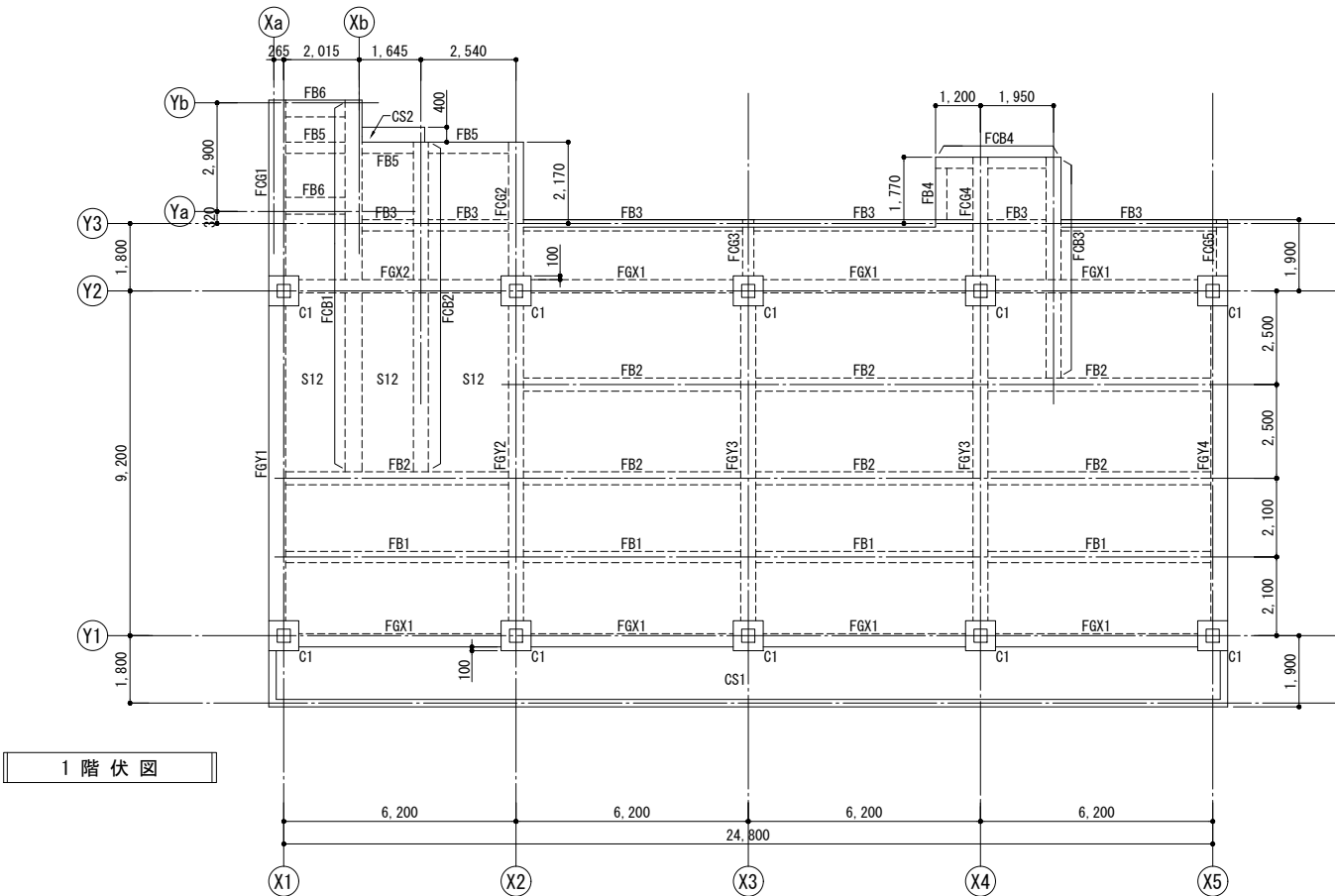
1 階 伏 図 共 通 事 項

1) (± n) 1FL からの梁天端位置を示す。特記なきは下記による。
FG, FCG, FCB, FB4~FB6: 1FL~300
FB1~FB3 : 1FL~160

2) (± n) 1FL からのスラブ天端位置を示す。
特記なきは 1FL±0 とする

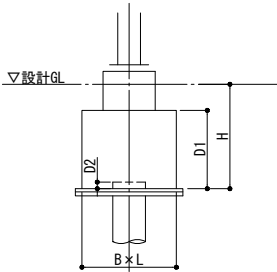
3) 特記なきスラブは S11 とする。

4) スラブ天端と梁天端位置が一致しない場合は、梁をスラブ天端まで増打する。



1 階 伏 図

杭リスト ※ 杭継手：無溶接継手「トリプルプレートジョイント(T.P. JOINT)」												
No.	軸部径	拡底径	杭種, <使用鋼材>, [杭長]		長期許容支持力	本数	フーチング形状 (mm)					
							B	L	D1	D2	H	
F50	500φ	600φ	上杭	SC杭 (105) <t= 6mm, 490N級> [L=5. 0m]	Ra= 1, 880kN/本	7	1, 450	1, 450	1, 200	100	1, 600	
			下杭	PHC杭 (105) <A種> [L=13. 0m]								
F50A	500φ	600φ	上杭	SC杭 (105) <t= 6mm, 490N級> [L=4. 5m]		1	1, 450	1, 450	1, 400	100	2, 000	
			下杭	PHC杭 (105) <A種> [L=13. 0m]								
F60	600φ	700φ	上杭	SC杭 (105) <t= 6mm, 490N級> [L=5. 0m]		Ra= 2, 560kN/本	1	1, 700	1, 700	1, 200	100	1, 600
			下杭	PHC杭 (105) <A種> [L=13. 0m]								
F60A	600φ	700φ	上杭	SC杭 (105) <t= 6mm, 490N級> [L=4. 5m]			1	1, 700	1, 700	1, 400	100	2, 000
			下杭	PHC杭 (105) <A種> [L=13. 0m]								



基礎・杭伏図 特 記 事 項

1) 工 法 先端支持係数 $\alpha \geq 40$ 確保可能なプレローリング拡大根固め工法 (砂質地盤)

2) 杭 種 既製コンクリート杭

3) 支持地盤 設計GL-18. 13 m以深でN値 ≥ 50 の細砂層 (As3層)

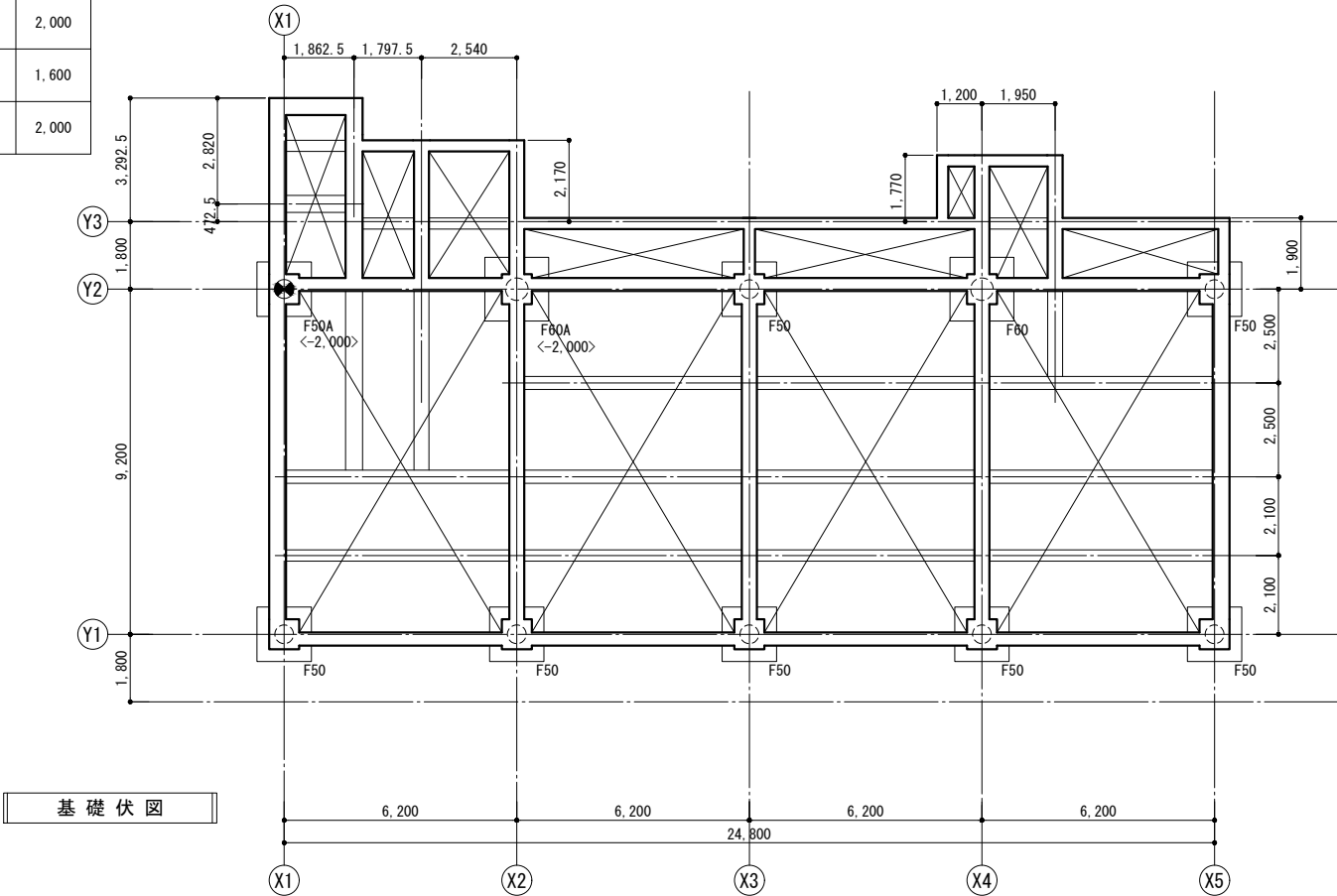
4) 杭頭位置 設計GL-1. 5m : F50, F60
設計GL-1. 9m : F50A, F60A

5) ▽ 柱芯・基礎芯位置を示す。
特記なきは 通芯=柱芯・基礎芯とする。

6) <±n> 1FLからのフーチング下端位置を示す。
特記なきは 設計GL-1, 600 とする

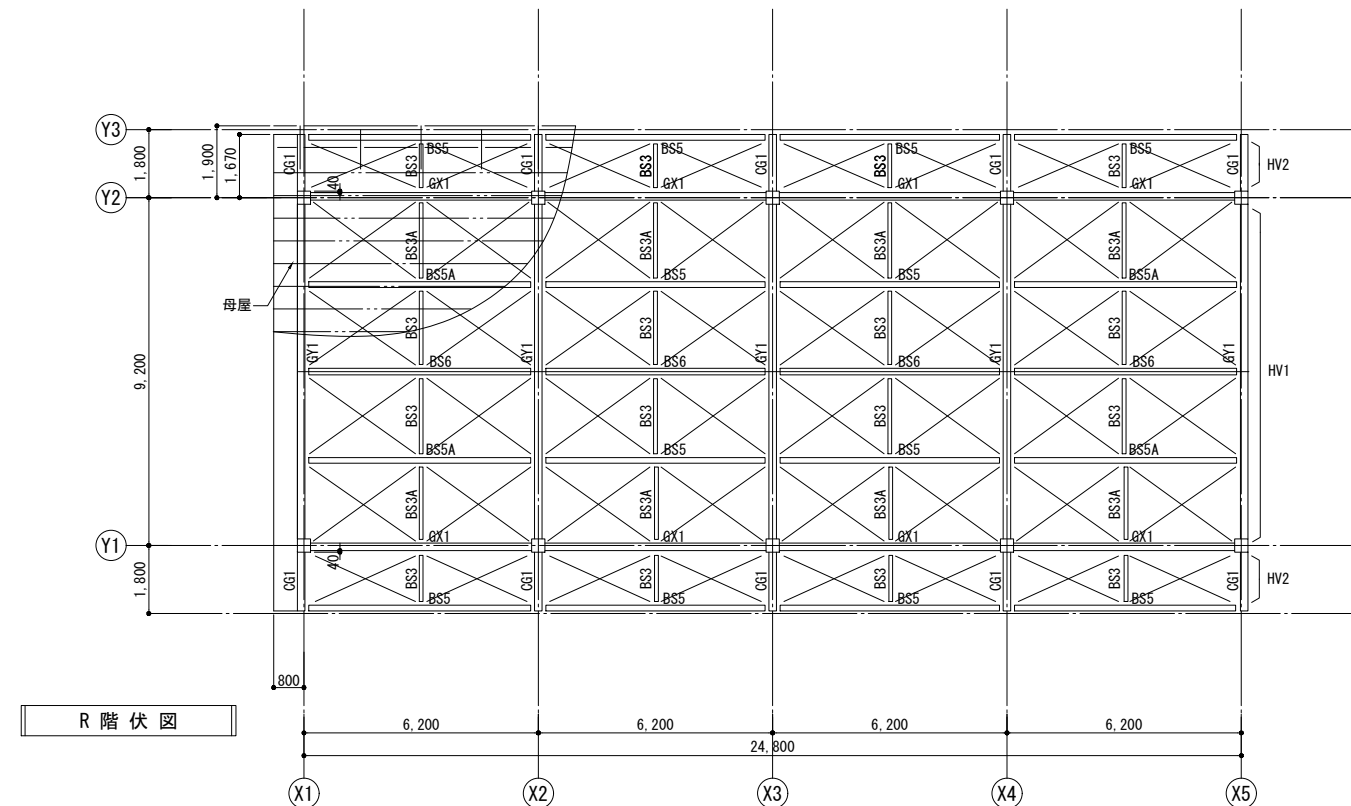
7) 埋め戻しを示す。

8) 試験杭を示す。
試験杭は工法で定められた条件に基づいて行うこと。

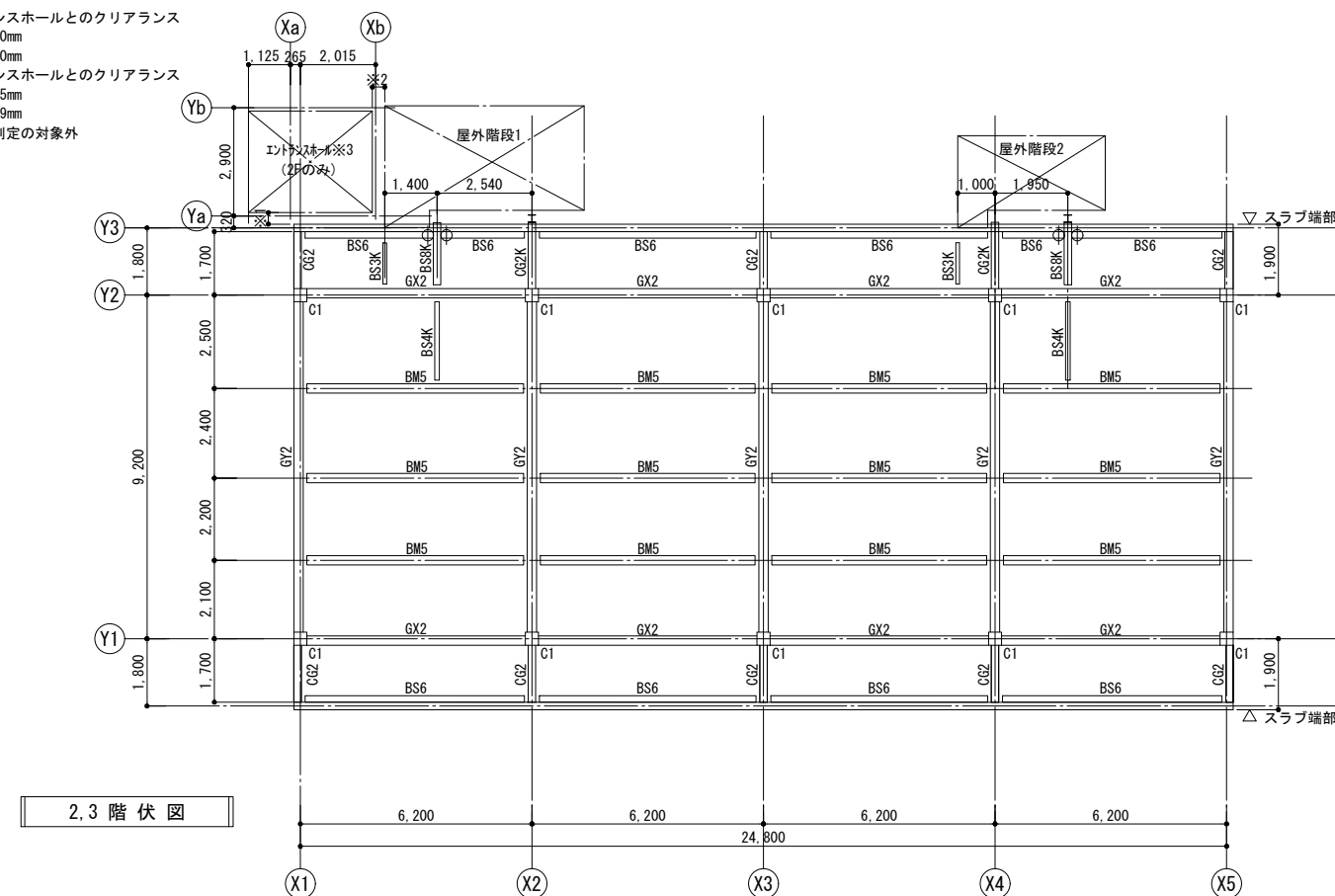


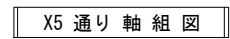
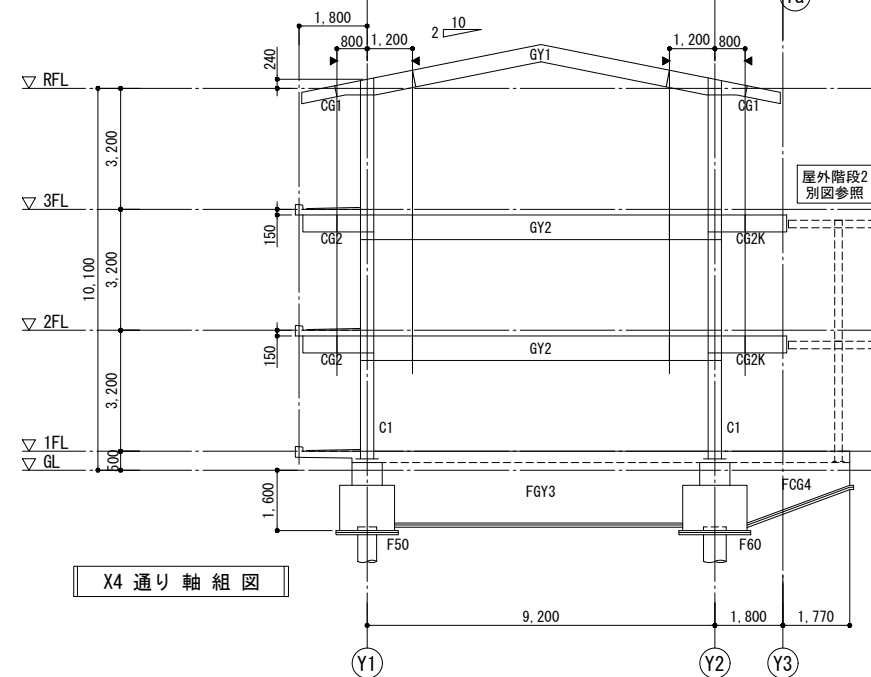
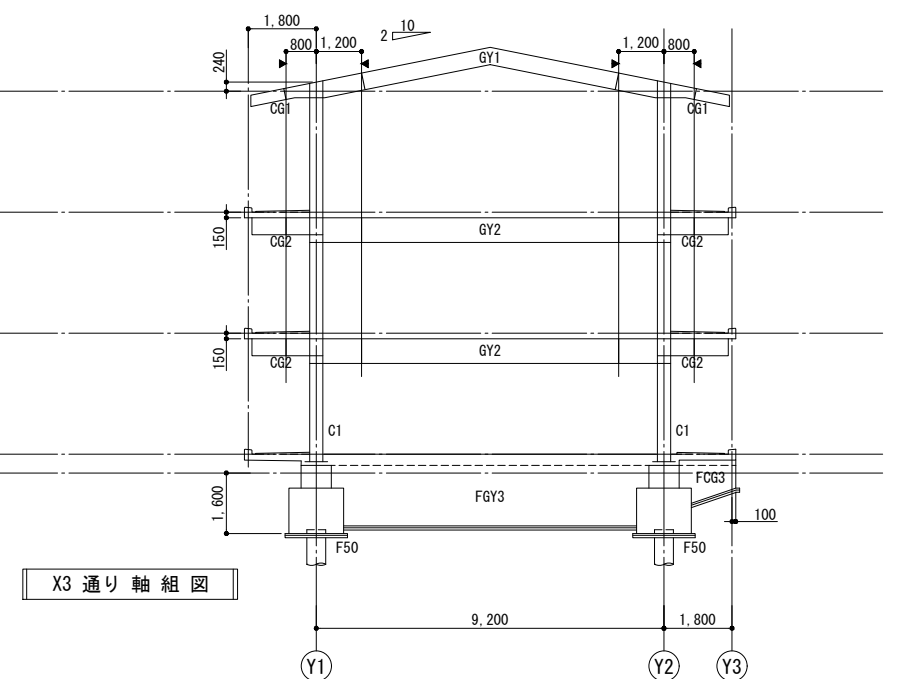
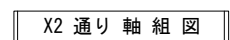
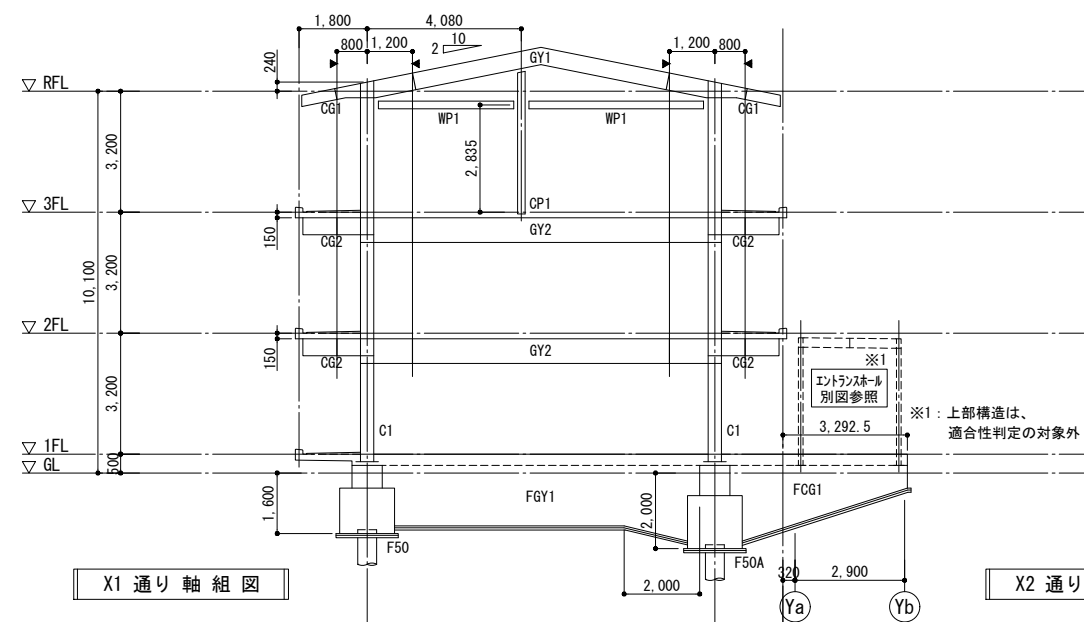
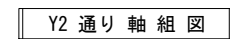
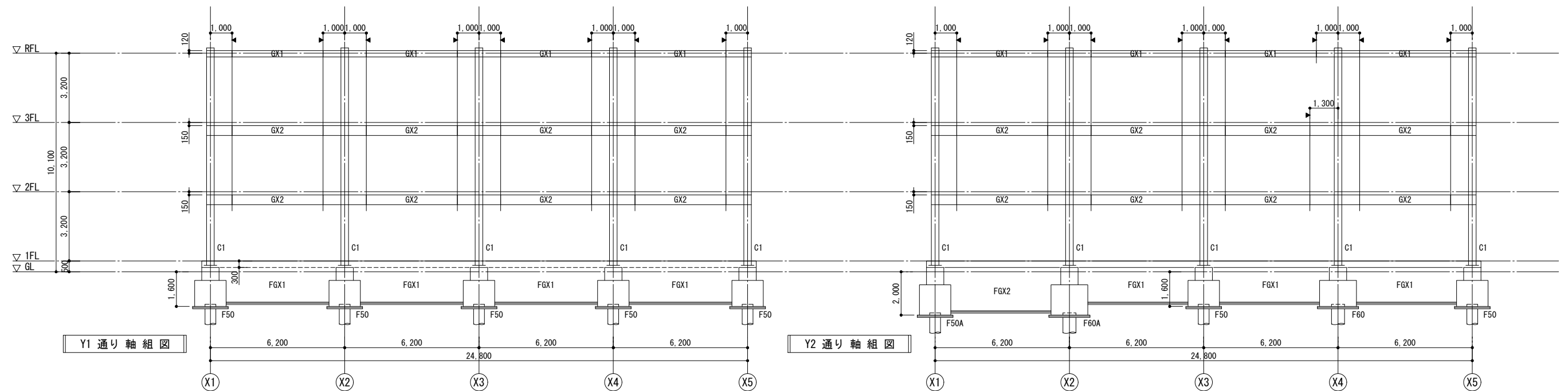
基 礎 伏 図

伏 図 共 通 事 項	
1)	(± n) nFL からの梁天端位置を示す。特記なきは下記による。 R 階 : 屋根勾配なりとする 2.3 階 : nFL - 150
2)	± n nFL からのスラブ天端位置を示す。特記なきは下記による。 2.3 階 : nFL ± 0
3)	特記なきスラブは S1 とする。
4)	⊕ 柱と接続しない梁の剛接合箇所を示す。



- ※1：建物本体とエントランスホールとのクリアランス
・構造（躯体面）：310mm
・意匠（仕上面）：170mm
- ※2：屋外階段とエントランスホールとのクリアランス
・構造（躯体面）：335mm
・意匠（仕上面）：109mm
- ※3：上部構造は、適合性判定の対象外





- 軸組図共通事項

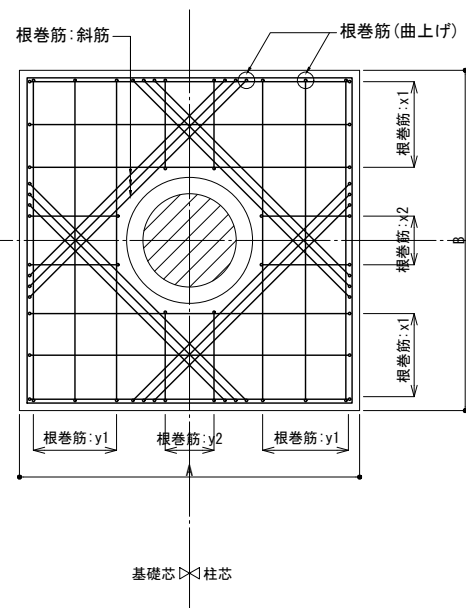
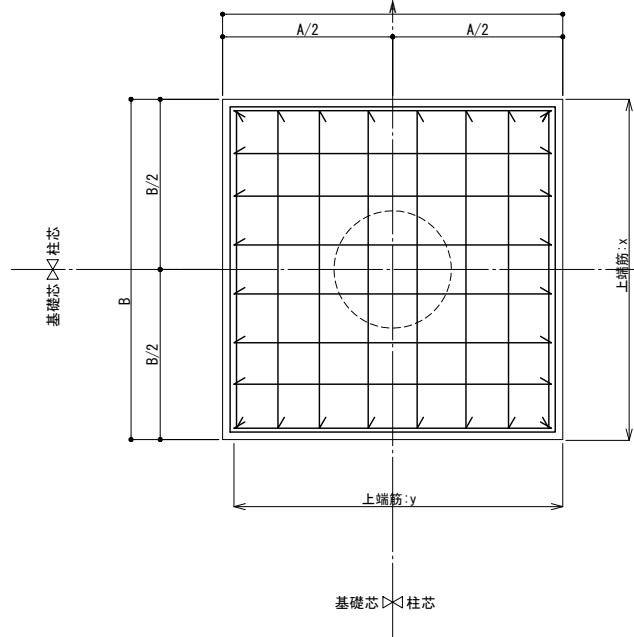
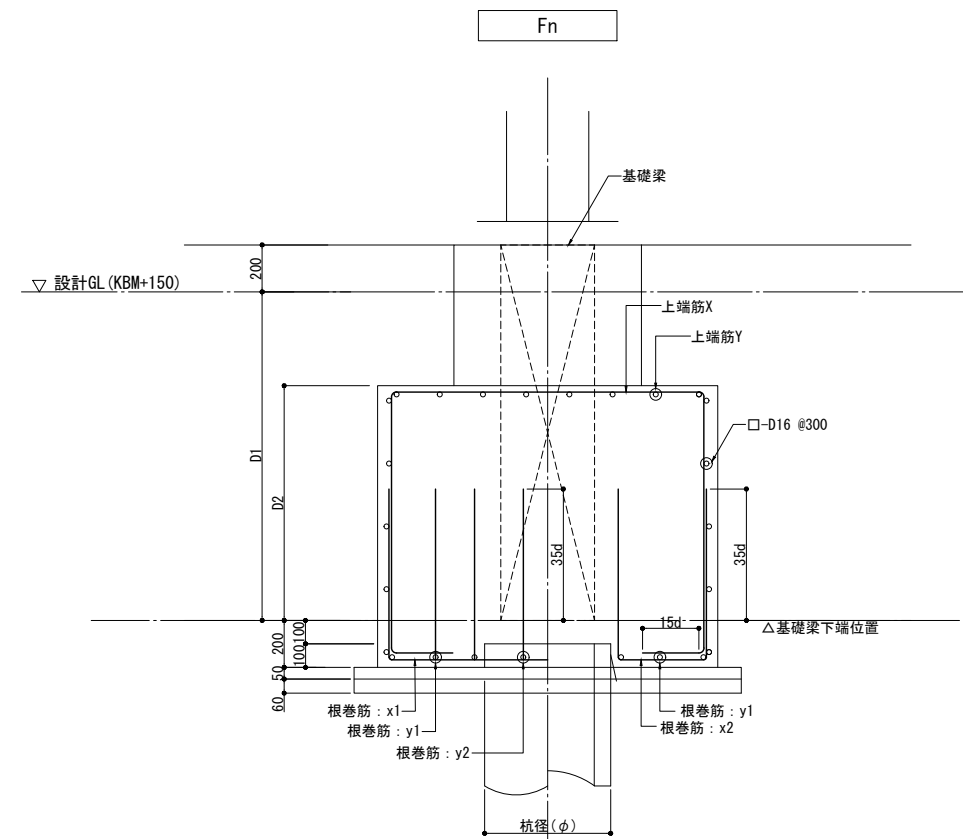
- 1) ▽ 柱芯・基礎芯位置を示す。
特記なきは 通芯＝柱芯・基礎芯とする。

- 2) ▼ 柱芯からの JOINT 位置を示す。

- 2) ▼ 柱芯からの JOINT 位置を示す。

基礎配筋詳細図

配筋要領図



基礎配筋リスト

No.	F50	F50A	F60	F60A
杭本数 (n) - 杭径 (φ)	1-500 φ	1-500 φ	1-600 φ	1-600 φ
A (短辺)	1,450	1,450	1,700	1,700
B (長辺)	1,450	1,450	1,700	1,700
D1	1,400	1,800	1,400	1,800
D2	1,000	1,200	1,000	1,200
上端筋	x -D16	8	8	9
	y -D16	8	8	9
根巻筋	x1+x2+x1 -D16	3+2+3	3+2+3	3+3+3
	y1+y2+y1 -D16	3+2+3	3+2+3	3+3+3
	斜め筋 -D16	4×3	4×3	4×3
備考				

基礎梁断面リスト

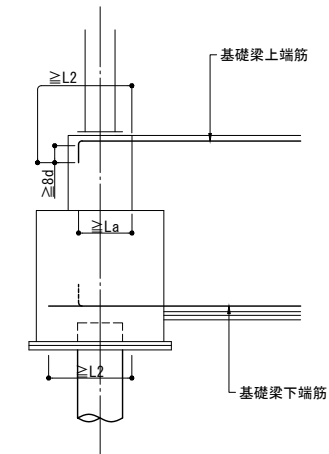
No.	FGX1	FGX2	FGY1		FGY2		FGY3	FGY4
位置	全断面	全断面	Y1 端・中央	Y2 端	Y1 端・中央	Y2 端	全断面	全断面
▽1FL								
断面図								
b × D =	350 × 1,600	350 × 2,000	450 × 1,600	450 × 2,000	400 × 1,600	400 × 2,000	400 × 1,600	450 × 1,600
上端筋	6 - D25	6 - D25	8 - D25	8 - D25	8 - D25	8 - D25	8 - D25	8 - D25
下端筋	6 - D25	6 - D25	8 - D25	8 - D25	8 - D25	8 - D25	8 - D25	8 - D25
腹筋	6 - D13	8 - D13	6 - D13	8 - D13	6 - D13	8 - D13	6 - D13	6 - D13
スラップ	□ - D13 @ 200	□ - D13 @ 200	□ - D13 @ 200		□ - D13 @ 200		□ - D13 @ 200	□ - D13 @ 200
			※ハンチ長=2,000		※ハンチ長=2,000			
No.	FCG1		FCG2		FCG4		FCG3, FCG5	
位置	元端	先端	元端	先端	元端	先端	元端	先端
▽1FL								
断面図								
b × D =	450 × 2,000	450 × 600	400 × 2,000	400 × 600	400 × 1,600	400 × 600	300 × 1,000	300 × 600
上端筋	8 - D25	4 - D25	8 - D25	4 - D25	8 - D25	4 - D25	4 - D25	2 - D25
下端筋	6 - D25	4 - D25	6 - D25	4 - D25	6 - D25	4 - D25	2 - D25	2 - D25
腹筋	2 × D13 @200		2 × D13 @200		2 × D13 @200		4 - D13	2 - D13
スラップ	□ - D13 @ 150		□ - D13 @ 150		□ - D13 @ 150		□ - D13 @ 200	
		※ハンチ長=全長		※ハンチ長=全長		※ハンチ長=全長		※ハンチ長=全長

基礎梁主筋定着要領

基礎梁主筋は、下図要領にて定着を行う。片持梁も同様とする。

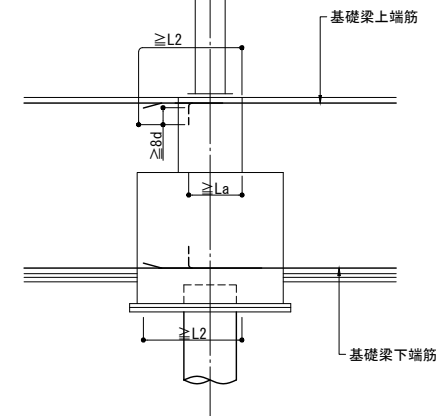
外端部

- は、フーチング幅が狭く、直線定着できない場合を示す。

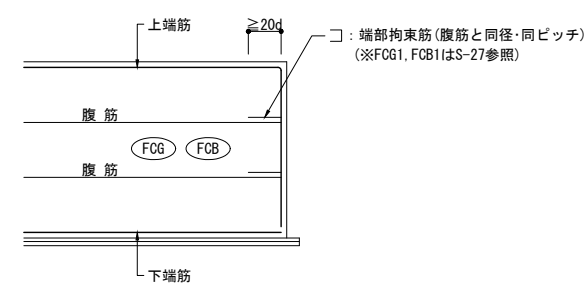


内端部

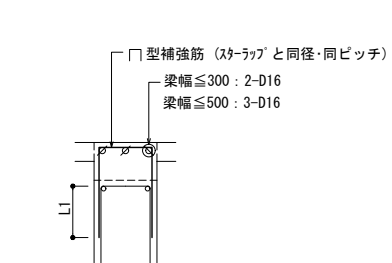
- ・ 梁主筋は隣接梁主筋と連続又は隣接梁内に引き通す。
- ・ ----- は、隣接梁の幅が異なる(狭くなる)、又は、梁レベルが異なり隣接梁内に引通せない場合を示す。
- ・ ----- カットオフ位置を示す。



片持梁端部拘束筋要領

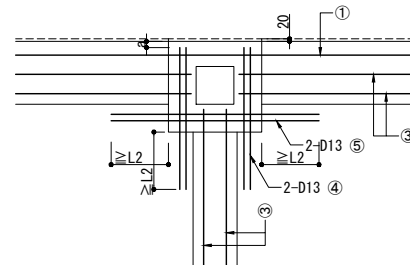


増打補強要領図

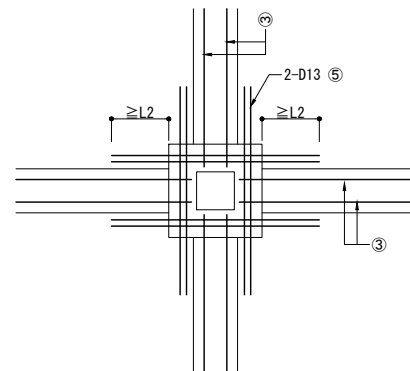


<基礎梁の柱廻り補強要領>

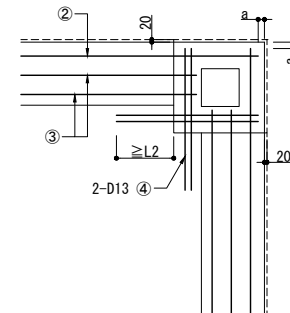
- ① 増打補強筋 (外側連続部)
隣接梁と連続させる。(引通す)
- ② 増打補強筋 (外側外端部)
最小かぶり (a) を確保した位置まで定着させる。
- ③ 増打補強筋 (内側)
鉄骨柱の手前まで定着させる。
- ④ 柱際補強筋 (2-D13) (外端部)
最小かぶり (a) を確保した位置まで定着させる。
- ⑤ 柱際補強筋 (2-D13) (内端部)
両側 L2以上 定着させる。



<Y1/X2~X4, Y2/X1, X5>



<Y2/X2~X4>



<Y1/X1, X5>

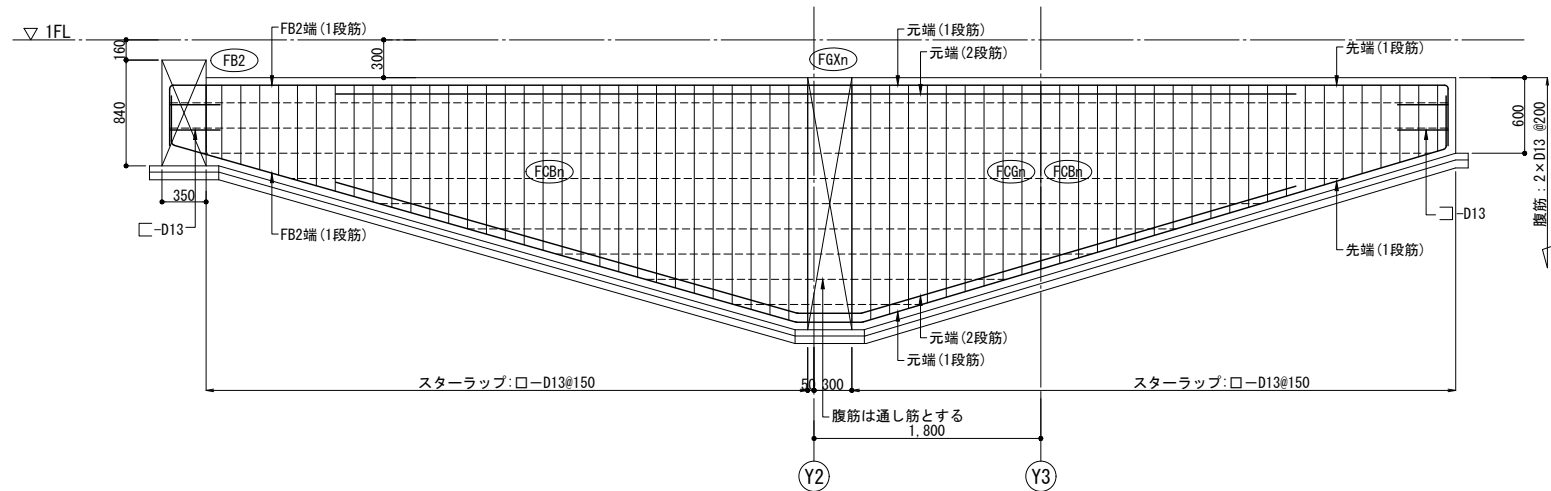
基礎小梁断面リスト

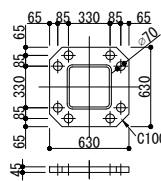
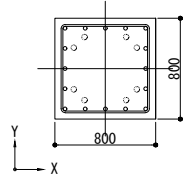
No.	FB1	FB2	FB3	FB4	FB5	FB6						
位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面						
▽1FL												
断 面 図												
	b × D =	300 × 700	350 × 840	300 × 600	300 × 460	300 × 600	450 × 600					
	上 端 筋	3 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D22	4 - D22					
	下 端 筋	3 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D22	4 - D22					
	腹 筋	2 - D13	2 - D13	2 - D13	—	2 - D13	2 - D13					
スターラップ	□ - D10 @ 200	□ - D10 @ 200	□ - D10 @ 200	□ - D10 @ 200	□ - D10 @ 200	□ - D13 @ 200						

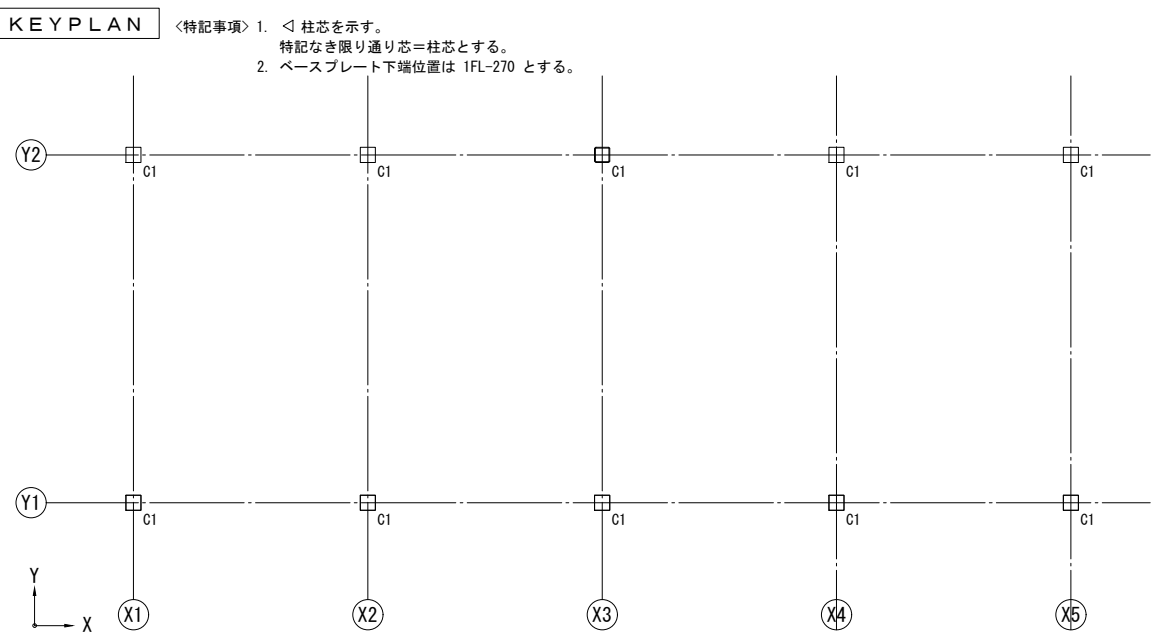
No.	FCB1			FCB2			FCB3			FCB4	
位 置	FB2 端	元 端 (Y2 端)	先 端	FB2 端	元 端 (Y2 端)	先 端	FB2 端	元 端 (Y2 端)	先 端	全 断 面	
▽1FL											
断 面 図											
	b × D =	450 × 700	450 × 2,000	450 × 600	400 × 700	400 × 2,000	400 × 600	400 × 700	400 × 1,600	400 × 600	300 × 460
	上 端 筋	5 - D22	10 - D22	5 - D22	4 - D22	8 - D22	4 - D22	4 - D22	8 - D22	4 - D22	3 - D22
	下 端 筋	5 - D22	7 - D22	5 - D22	4 - D22	6 - D22	4 - D22	4 - D22	6 - D22	4 - D22	3 - D22
	腹 筋	2 × D13 @200			2 × D13 @200			2 × D13 @200			—
スターラップ	□ - D13 @ 150			□ - D13 @ 150			□ - D13 @ 150			□ - D10 @ 200	

FCGn・FCBn配筋要領

- 主筋本数は上記リストを参照
- 2段筋目は直交梁 FGXn面から3ℓ/4+15d以上 とする

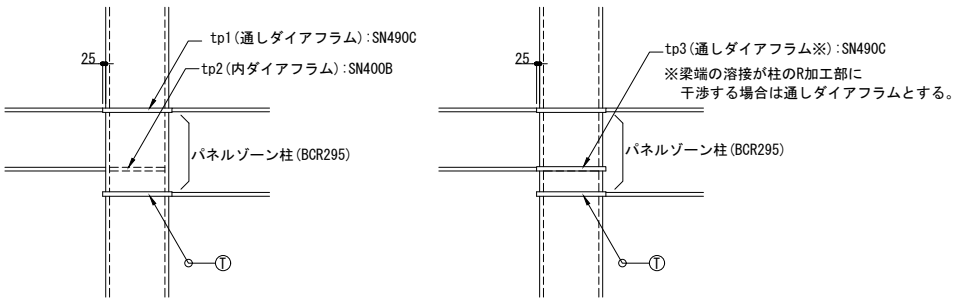


柱断面リスト			〈特記事項〉 1. 特記なき鉄骨材質は、BCR295 とする。 2. 露出柱脚は、ベースバック (大臣認定品) 又は同等品とする。
No.	C1		
3階, 2階	□ - 350×350×12		
1階	□ - 350×350×16		
柱脚断面図			
ベースプレート	B. PL- 45×630×630 (SN490B)		
アンカボルト	8-D38 (BPD-SD390)		
ベースバック記号	35-16R		
RC断面図			
b × D =	800 × 800		
主 筋	16 - D25		
フ ー プ	□ - D13 @ 100		
備 考			



柱パネルゾーン要領図

剛接合の場合

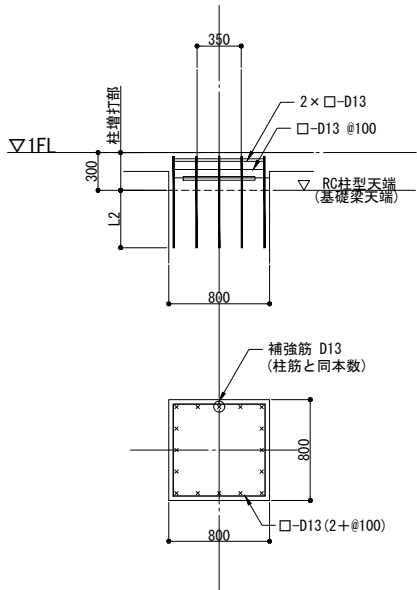


- ・ tp1, tp3 : 取付く梁フランジの2サイズアップ、柱フランジ厚かつ16mm以上とする。
- ・ tp2 : 梁のフランジ厚の2サイズアップかつ12mm以上とする。
- ・ パネルゾーン柱 : 板厚は上下階柱の板厚以上とし、材質は、BCR295とする。

柱脚部 補強要領

〈特記事項〉 ・柱増打高さは、基礎梁天端から柱周辺のスラブ天端までとする。

<柱増打部補強要領>



鉄骨部材リスト

<特記事項> 1. 特記なき鉄骨材質は SS400 とする。 2. 特記なきH.T.B. は S10T（ただし、締付け困難な箇所はF10T）とする。 3. 特記なきジョイントプレートの材質は主材に同じとする。 4. ジョイントボルト本数は、ジョイント1箇所当りの全本数を示す。						
No.	主 材		ジョイント			備 考
GX1	R 階	H—294×200×8×12 (SN400B)	剛接合	フランジ	2PLs— 9×200×410 4PLs— 9× 80×410 H.T.B. 24-M22	
				ウェブ	2PLs— 6×200×170 H.T.B. 4-M22 p2=120	
GX2	3 階	HY—450×250×9×16 (SN400B)	剛接合	フランジ	2PLs—12×250×410 4PLs—12×100×410 H.T.B. 24-M22	
				ウェブ	2PLs—12×260×170 H.T.B. 8-M22	
	2 階	HY—450×250×9×19 (SN400B)	剛接合	フランジ	2PLs—12×250×530 4PLs—16×100×530 H.T.B. 32-M22	
				ウェブ	2PLs—12×260×170 H.T.B. 8-M22	
GY1	R 階	H—450×200×9×14 (SN400B)	剛接合	フランジ	2PLs—12×200×410 4PLs—12× 80×410 H.T.B. 24-M22	
				ウェブ	2PLs—12×260×170 H.T.B. 8-M22	
GY2	3 階	HY—650×250×12×19 (SN400B)	剛接合	フランジ	2PLs—12×250×530 4PLs—16×100×530 H.T.B. 32-M22	
				ウェブ	2PLs—12×440×170 H.T.B. 14-M22	
	2 階	HY—650×250×12×22 (SN400B)	剛接合	フランジ	2PLs—16×250×530 4PLs—16×100×530 H.T.B. 32-M22	
				ウェブ	2PLs—12×440×170 H.T.B. 14-M22	
CG1		H—294×200×8×12	剛接合	フランジ	2PLs— 9×200×410 4PLs— 9× 80×410 H.T.B. 24-M22	元端部は鉄骨詳細図による。
				ウェブ	2PLs— 6×200×170 H.T.B. 4-M22 p2=120	
CG2, CG2K		H—450×200×9×14	剛接合	フランジ	2PLs—12×200×410 4PLs—12× 80×410 H.T.B. 24-M22	
				ウェブ	2PLs—12×260×170 H.T.B. 8-M22	
BS3, BS3K		H—200×100×5.5×8		G.PL- 6 H.T.B. 2-M20		BS3K：はしあき e1=60 とする。
BS3A		H—200×100×5.5×8		Y1, Y2端：G.PL- 9 H.T.B. 4-M20 他端：G.PL- 6 H.T.B. 2-M20		
BS4K		H—250×125×6×9		G.PL- 9 H.T.B. 2-M20 p2=90		BS4K：はしあき e1=60 とする。
BS5		H—300×150×6.5×9		G.PL- 9 H.T.B. 3-M20		
BS5A		H—300×150×6.5×9		X1, X5端：G.PL- 9 H.T.B. 3-M22 他端：G.PL- 9 H.T.B. 3-M20		
BM5		H—340×250×9×14		G.PL-12 H.T.B. 4-M20		
BS6		H—350×175×7×11	剛接合	フランジ	2PLs— 9×175×290 4PLs— 9× 70×290 H.T.B. 16-M20	
				ウェブ	2PLs— 6×260×170 H.T.B. 6-M20 p2=90	
			ピン接合	G.PL- 9 H.T.B. 4-M20		
BS8K		H—450×200×9×14	剛接合	フランジ	2PLs—12×200×410 4PLs—12× 80×410 H.T.B. 24-M22	ピン接合部：はしあき e1=60 とする。
				ウェブ	2PLs—12×260×170 H.T.B. 8-M22	
			ピン接合	G.PL-12 H.T.B. 5-M20		
CP1		H—200×200×8×12		G.PL- 9 H.T.B. 2-M20		
WP1		H—200×200×8×12		G.PL- 9 H.T.B. 2-M20		柱との接合部は鉄骨詳細図参照
HV1		1-M20 (SNR400, ターンバックル付)		G.PL- 9 H.T.B. 1-M20		取付位置：梁上フランジ, JIS規格品とする。
HV2		1-M16 (SNR400, ターンバックル付)		G.PL- 9 H.T.B. 1-M16		取付位置：梁上フランジ, JIS規格品とする。
母屋		C—100×50×20×2.3 @606以下		G.PL- 6 中ボルト 2-M12		

ジョイント要領

梁継手部(剛接合)

【フランジ】

* 100≦幅<300

* 幅=300は千鳥打ちとする。

【ウェブ】

端あき、ピッチ

ボルト径	e1	e1	e2	p1	p2
M16	特記なきは40	40	60	特記なきは60	
M20	特記なきは40	40	60	特記なきは60	
M22	特記なきは40	40	60	特記なきは60	

ゲージ

フランジ幅	100	125	150	175	200	250	300	350	400
e1	60	75	90	105	120	150	150	140	140
e2	—	—	—	—	—	—	40	70	90

梁接合部(ピン接合)

※200mm以下の梁に取り付く場合、G.PL及びスチフナプレートは
スニップカットで処理し溶接で埋めること。

<BS3, BS3A (Y1, Y2端)>

<BS6 (棟部)>

※ G.PL補強用
F.PL-12
W.PL-9 (L=150)

※ 水平ブレースは GX1の
梁上フランジに取付

片持小梁ジョイント位置要領図

<特記事項> 特記なき場合は、L=800 を標準とする。

<ピン接合部>

<連続接合部>

<連続接合部>

* 梁の段差が100未満の場合は、連続接合部をBH材とする。

株式会社 構建設計研究所
一級建築士事務所 東京都知事登録第30337号
一級建築士登録 第 303852 号
構建設計一級建築士 第 3415 号 中川 理

桑田建築設計事務所
A.KUWATA ARCHITECT & ASSOCIATES

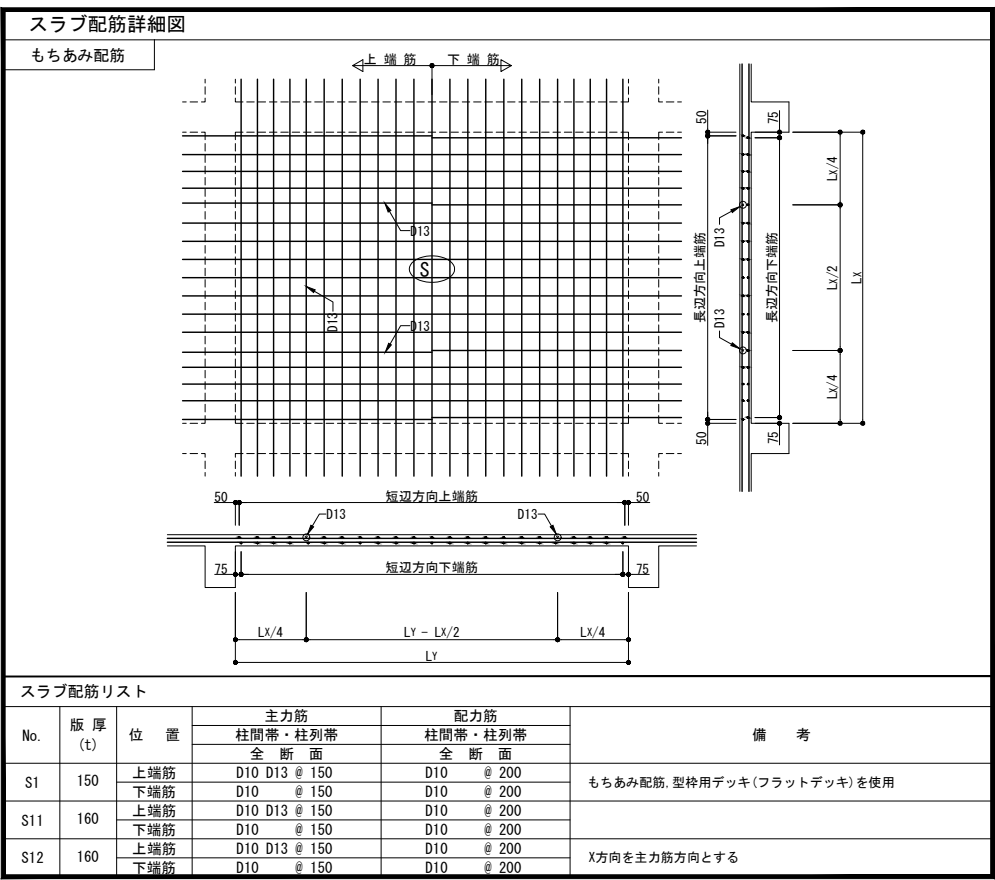
係一級建築士事務所
一級建築士 第128894
安 達 文 宏

	旭第二宿舍建築工事
鉄骨部材リスト	

S-23

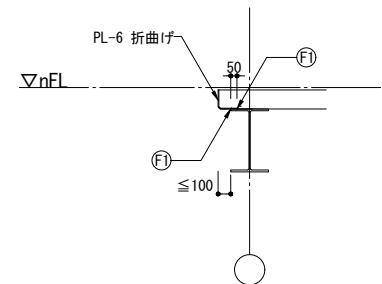
スラブリスト

特記がない場合は、スラブごとの主力筋・配力筋の入れ換えをなくすため、本建物では、Y方向を主力筋方向とする。



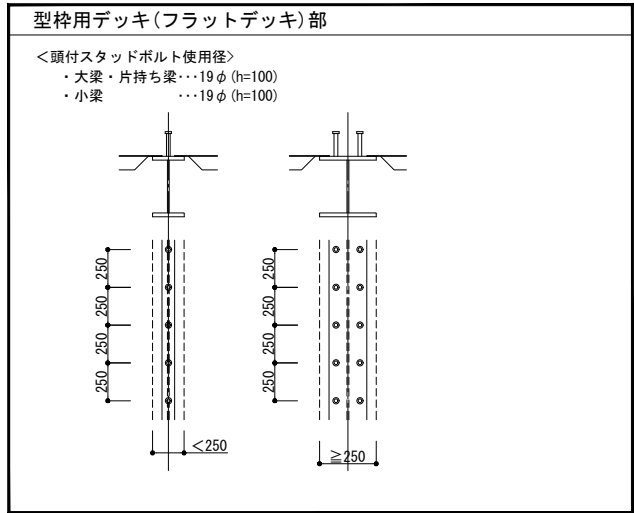
スラブ受け要領

<持出し部>
・持出し部のスラブ筋は連続するスラブ筋に同じとする。

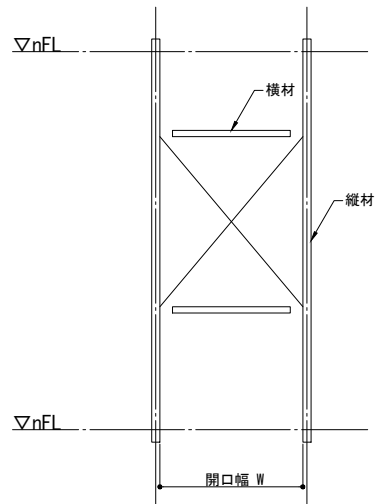


頭付スタッド配置要領図

コンクリートスラブが取付く全ての鉄骨梁に下図要領図によりスタッドボルトを配置すること。
屋外階段付近の梁 BS3K, BS4K, BS8K, CG2KおよびBS6の屋外階段接続部(階段1=1,400, 階段2=1,000)の範囲については、スタッドボルトのピッチを @250→@150とする。



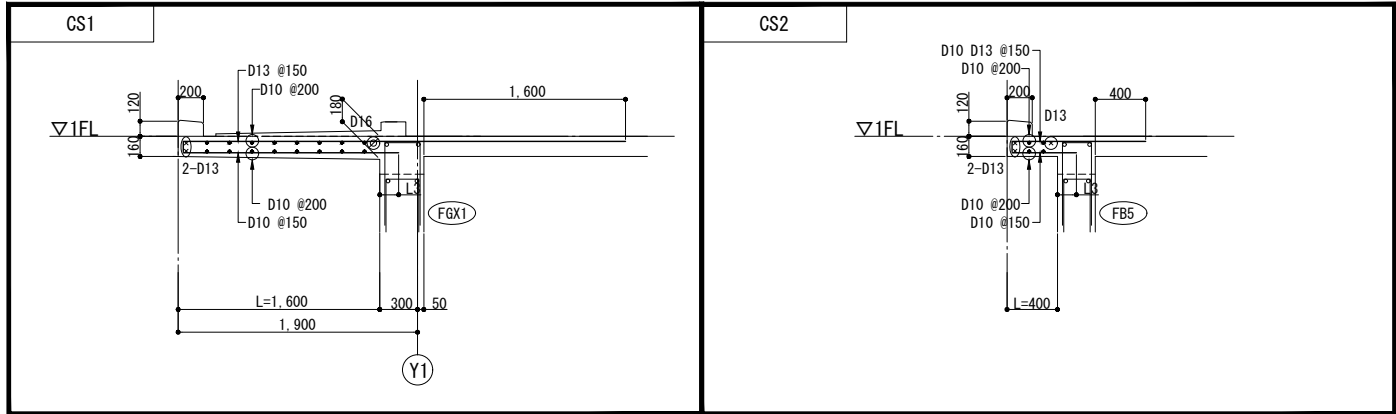
ALC開口補強材



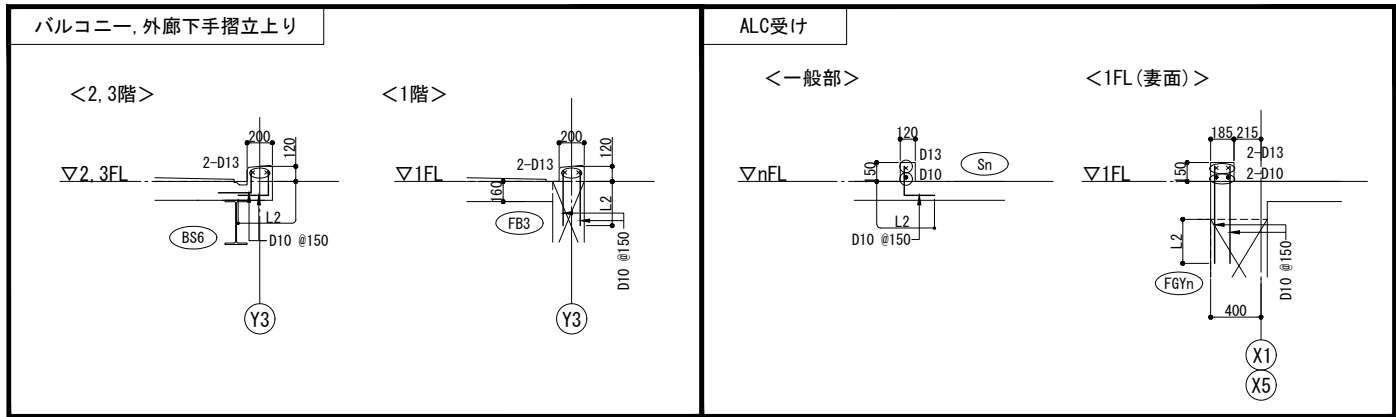
部材	階	開口幅	
		W≦1,200mm	W≦1,800mm
縦材	全階	L-75×75×9	L-75×75×12
横材	全階	L-50×50×6	L-75×75×6

※ジョイントはALC協会や各メーカーの一般仕様による。

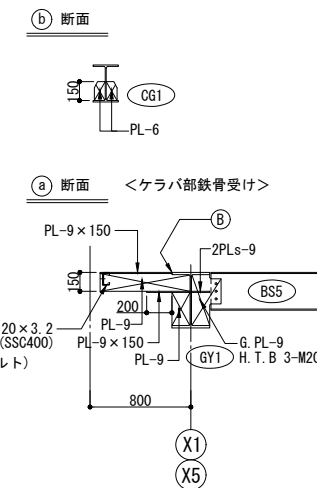
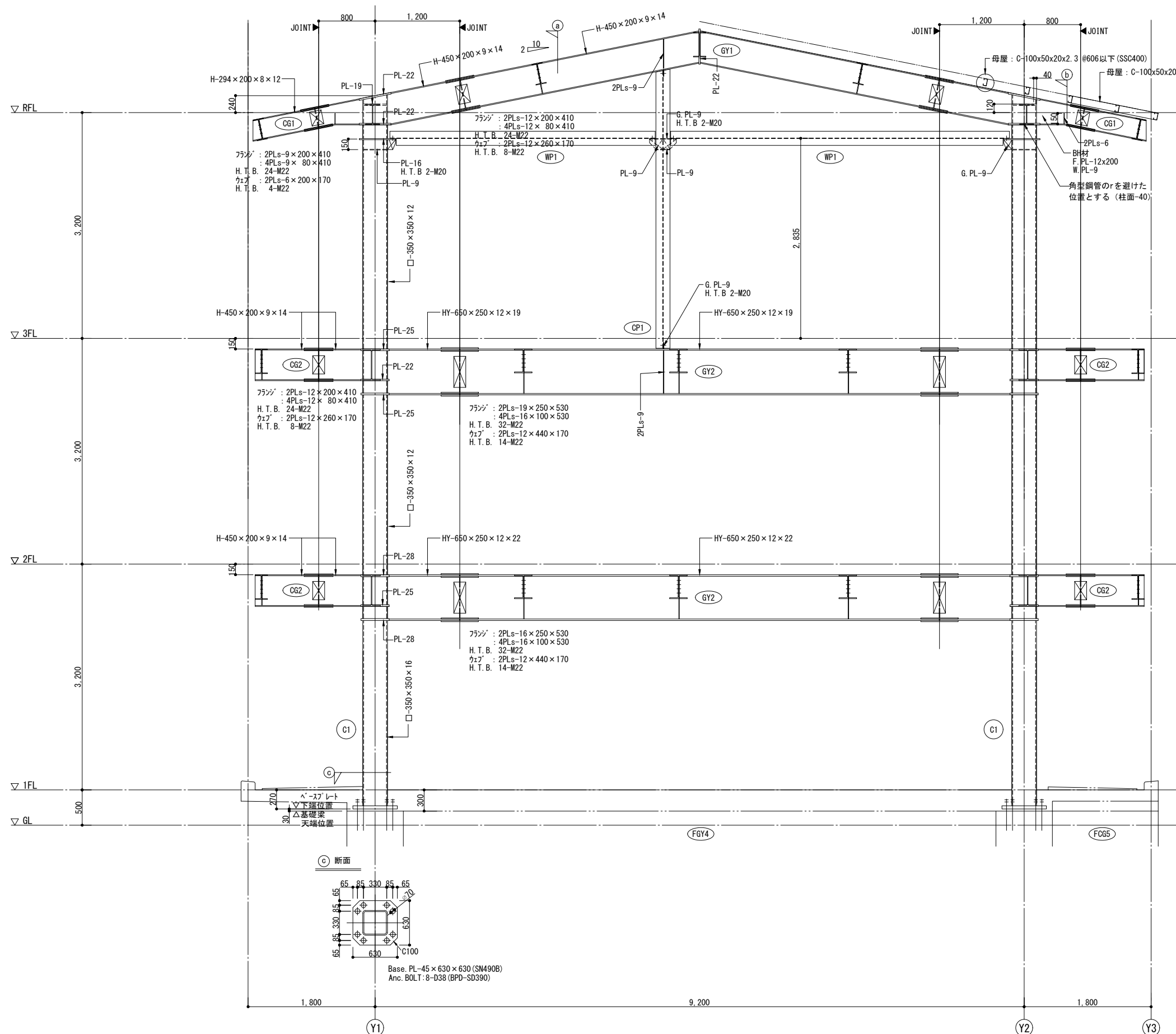
片持ちスラブリスト



雑配筋詳細図



X5通り 鉄骨詳細図

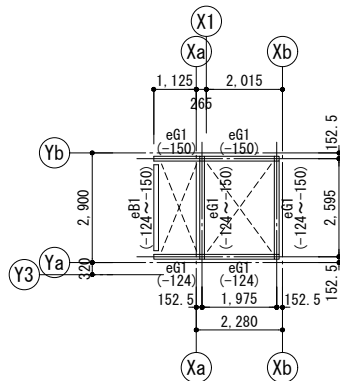


- 鉄骨詳細図共通事項
- 特記なき鉄骨材質は下記による
柱 : BCR295
大梁 : SN400B
通しダイアフラム : SN490C
内ダイアフラム : SN400B
片持梁、小梁 : SS400
ボルト : [屋内] S10T (但し、締付け困難な箇所は F10T とする)
[屋外] F8T (溶融亜鉛めっき高力ボルト: 認定品)
・ガセットプレート、スプライスプレートは、取付く梁材と同材質とする

エントランスホール詳細図 : 上部構造は、適合性判定の対象外

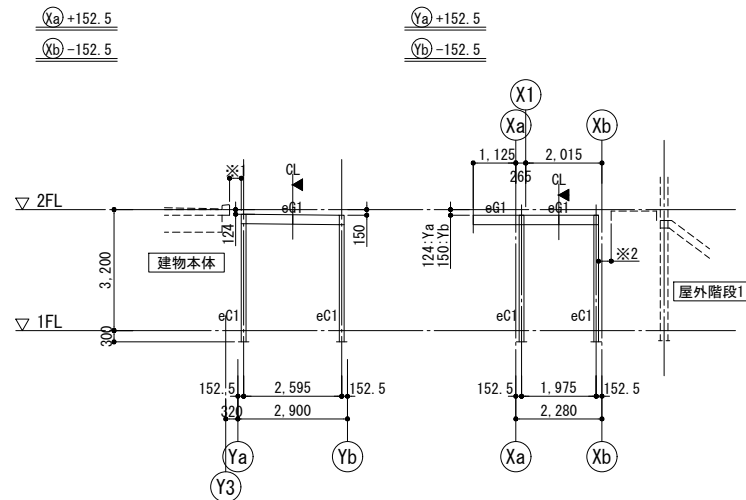
伏図

1. (±n): 2FLからの梁天端位置を示す
2. : 屋根面ブレース eHV1を示す



軸組図

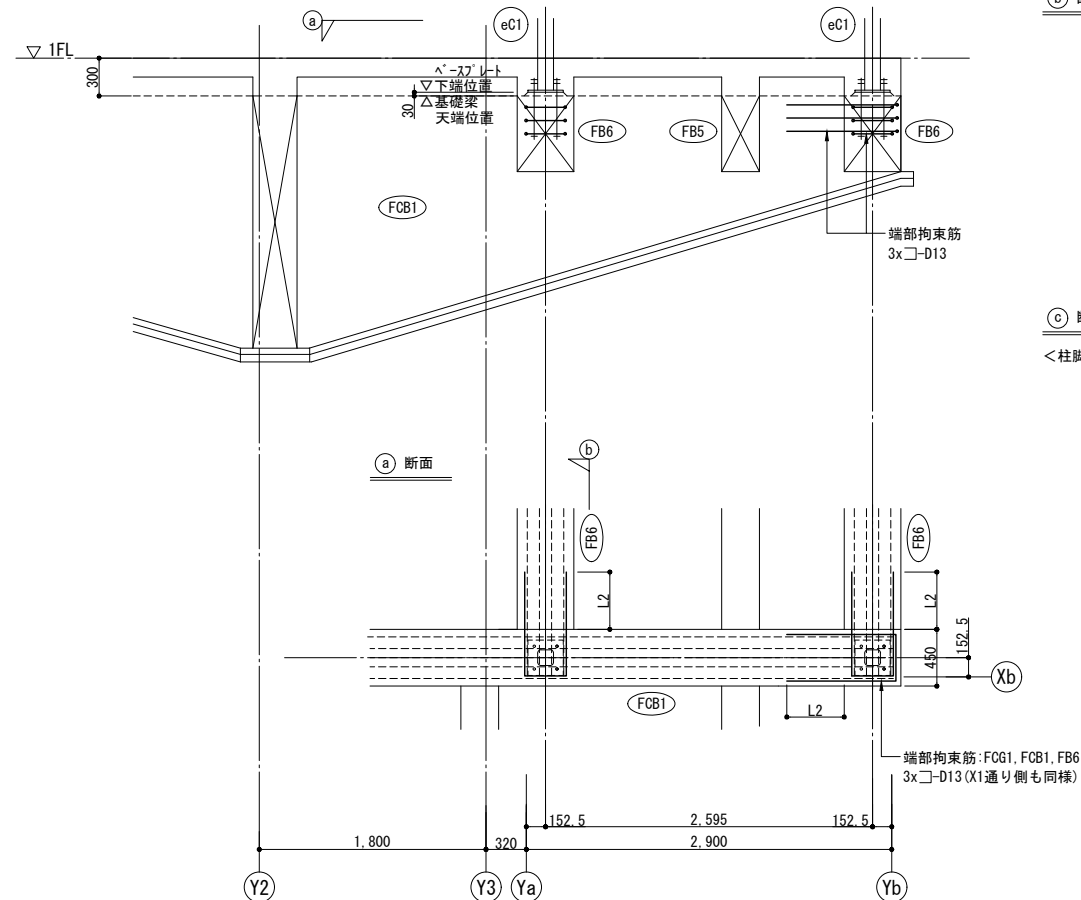
◀ : ジョイント位置を示す



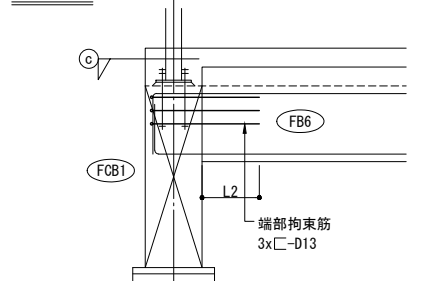
- ※1: 建物本体とエントランスホールとのクリアランス
 ・構造(躯体面): 310mm
 ・意匠(仕上面): 170mm

※2: 屋外階段とエントランスホールとのクリアランス
 ・構造(躯体面): 335mm
 ・意匠(仕上面): 109mm

柱脚部要領

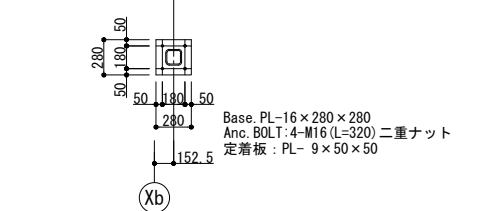


④ 断面



③ 断面

＜柱脚部詳細図＞



鉄骨部材リスト

- ＜特記事項＞
1. 特記なき鉄骨材質は SS400 とする。
 2. 特記なき H.T.B. は S10T (ただし、締付け困難な箇所は F10T) とする。
 3. 特記なきジョイントプレートの材質は主材に同じとする。
 4. ジョイントボルト本数は、ジョイント 1箇所当りの全本数を示す。
 5. 特記なきアンカーボルトは SS400 とする。

No.	主 材	ジョイント		備 考
eC1	□ — 125×125×9 (STKR400)	柱脚部は詳細図参照		
eG1	H—250×125× 6× 9	剛 接 合	フランジ 2PLs—12×125×410 H.T.B. 24-M16	
			カブ 2PLs— 6×170×290 H.T.B. 8-M16 p2=90	
eB1	H—250×125× 6× 9	G.PL- 9 H.T.B. 2-M20 p2=90		
eHV1	1-M16 (SNR400, ターンバックル付き)	G.PL- 9 H.T.B. 1-M16		取付位置：梁上フランジ, JIS規格品とする

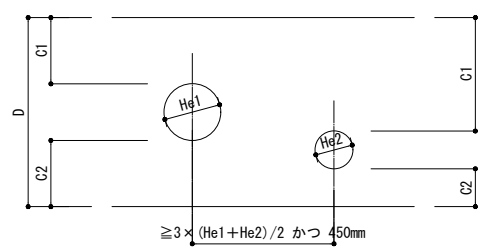
スリーブ補強要領図(1)

＜特記事項＞

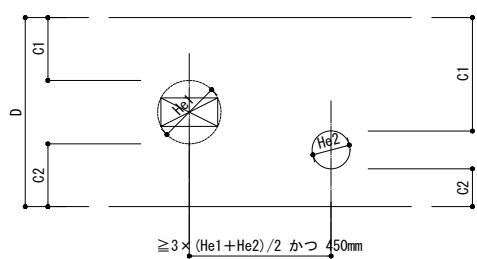
1. 梁貫通孔補強材として、評定取得品を使用する場合は、本図面によらなくてよい。
2. 評定取得品を使用する場合は、評定書及び評定報告書に記載された適用範囲及び、補強筋の算定方法で検討を行い、監督職員の承諾を受けること。

梁 貫通孔補強要領

＜丸孔の間隔＞



＜矩形孔の間隔＞



注意事項

1. 孔の大きさは下式による。

$$C \leq D/3$$
2. C の寸法は下表を最小値とし、主筋及び補強筋等の配筋を考慮して適切に配筋出来ることを確認の上決定する。

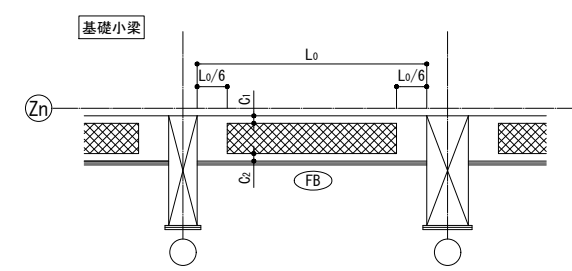
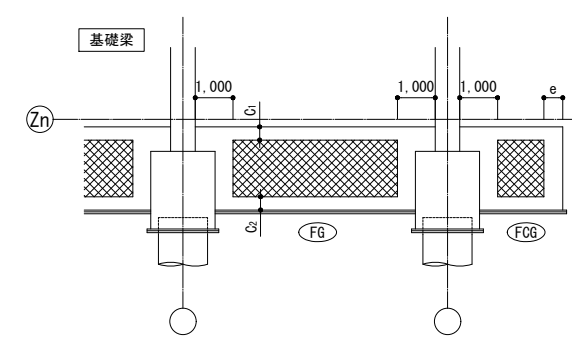
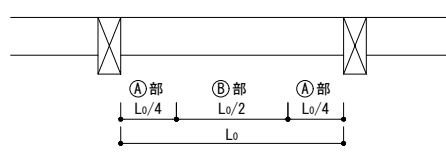
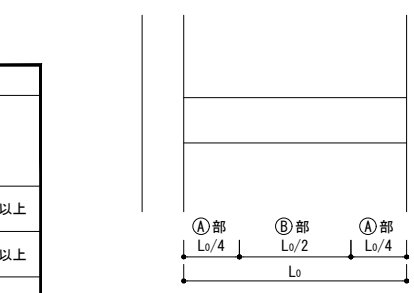
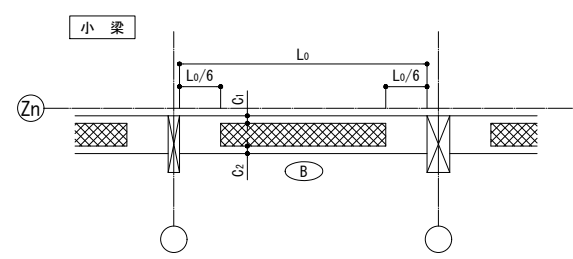
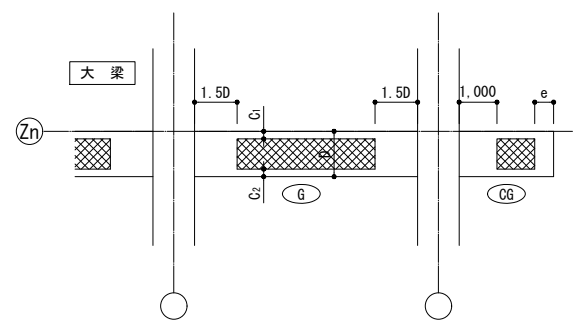
	部 材	C1寸法 (A)・(B)部 ・ C2寸法 (A)部	C2 寸法 (B)部
R C 造	500mm ≦ D < 700mm	175mm 以上かつ He以上	D/3 以上かつ He以上
	700mm ≦ D < 900mm	200mm 以上かつ He以上	
	900mm ≦ D	250mm 以上かつ He以上	
	基礎梁 (D≧1500mm, 主筋2段筋)	300mm 以上かつ He以上	300mm以上, D/3 以上, かつ He以上
	基礎梁 (D≧1500mm, 主筋3段筋)	350mm 以上かつ He以上	350mm以上, D/3 以上, かつ He以上
SRC造	全 て	250mm以上	250mm以上

3. 貫通孔の間隔については、上図によるほか、配筋の施工性に配慮し、適切に配筋出来る寸法とする。

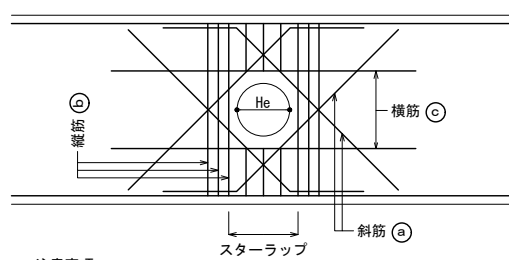
＜貫通孔の位置＞

注意事項

1.  : 貫通孔を設けることが望ましい範囲を示す。
2. e : e 寸法は、片持梁先端に取付く部材及び補強筋の配筋を考慮して寸法を決定する。



<RC造配筋要領>

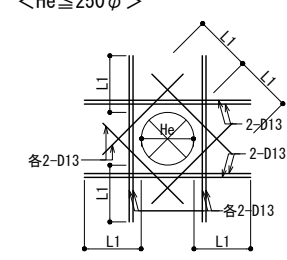


注意事項

1. 孔上下のスタースラップは、スリーブ径(He)に従って下記の本数とする。
- | | |
|----------------|-------------|
| He < 100 | 1×□ -D13 |
| 100 ≤ He < 200 | 2×□ -D13 |
| 200 ≤ He < 300 | 3×□ -D13 |
| 300 ≤ He | □ -D13 @100 |
- 但し、梁スタースラップが D10 の場合は、上記 D13 を D10 に読み替える。
2. 梁貫通孔補強における縦筋で、1組の鉄筋量が梁のスタースラップより下回る場合は、スタースラップと同形状に置き換えるものとする。
- ＜例＞“補強タイプ 6”の梁のスタースラップが“□□-D13@100”の場合、縦筋“2×□-D13”を“2×□□-D13”に置き換える。
3. 梁スタースラップが高強度せん断補強筋の場合は、縦筋も高強度せん断補強筋とする。

壁・スラブ貫通孔補強要領

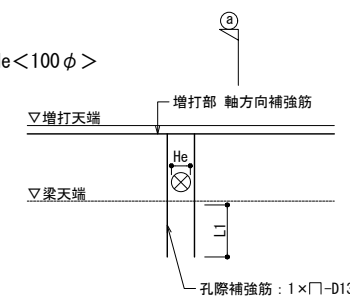
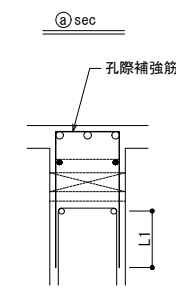
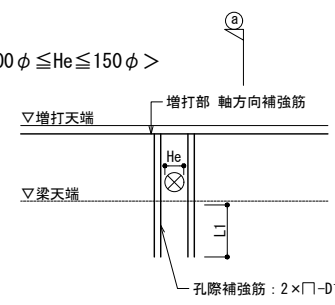
壁は、壁筋がダブル配筋の場合は、両側に下図補強筋を配筋する。
スラブは、スラブの上端及び下端位置に下図補強筋を配筋する。

 $\langle \text{He} \leq 250 \phi \rangle$ 

注意事项

1. 貫通孔の径が壁筋又はスラブ筋の間隔以下で、鉄筋をゆるやかに曲げる事により切断することなく配筋出来る場合は、補強筋を省略可とする。
2. 複数の開口が隣接する場合は、孔の中心間隔距離が孔径の3倍以上となるように配置する。
3倍未満となる場合の補強方法は、監督職員の指示による。

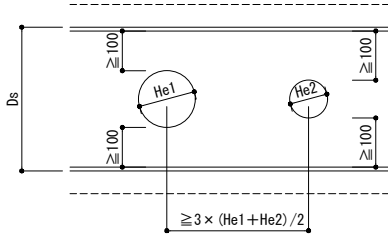
梁増打部 貫通孔補強要領

 $\langle \text{He} < 100 \phi \rangle$ 
$$\langle 100 \phi \leq \text{He} \leq 150 \phi \rangle$$


＜特記事項＞
1. 梁貫通孔補強材として、評定取得品を使用する場合は、本図面によらなくてよい。
2. 評定取得品を使用する場合は、評定書及び評定報告書に記載された適用範囲及び、補強材の算定方法で検討を行い、監督職員の承諾を受けること。

梁 貫通孔補強要領

＜貫通孔の間隔＞



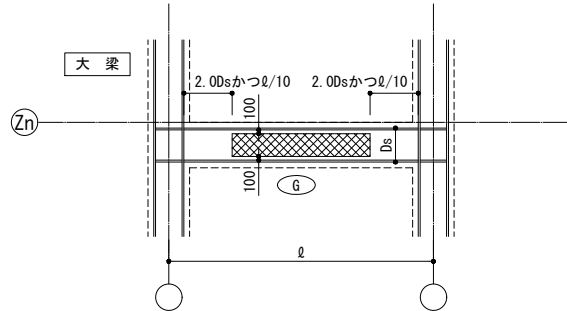
注意事項

1. 孔の大きさは下式による。
 $He \leq 0.4Ds$
2. 貫通孔の間隔及び上下方向の位置については、上図によるほか、施工性に配慮し、適切に補強出来る寸法とする。

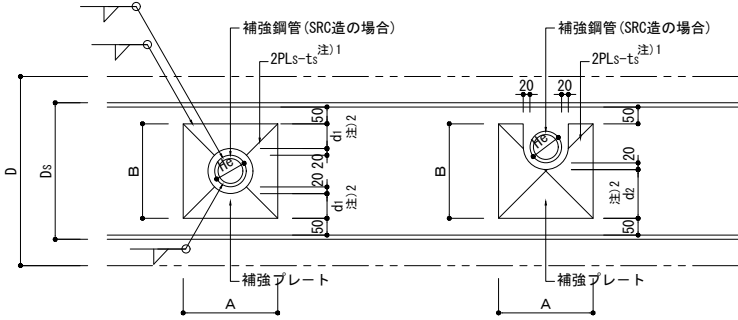
＜貫通孔の位置＞

注意事項

1.  : 貫通孔を設けることが望ましい範囲を示す。

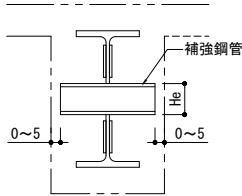


＜補強要領＞

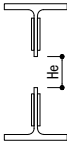


- 注) 1. $ts \geq tw/2$ かつ 6mm以上とする。
材質は、ウェブと同じとする。
Aは、 $3 \times He$ または、Bのうち小さい方とする。
2. $d1 \geq He/2$ $d2 \geq He$
3. 補強プレートと上下フランジとのあき“50”については施工性を考慮し、適切に補強出来る場合は小さくすることができる。

(SRC造)



(S造)



・補強鋼管リスト

貫通孔径	鋼 管 (STK400)	
	外径:He (mm)	厚さ (mm)
100φ	114.3	4.5
125φ	139.8	4.5
150φ	165.2	5.0
175φ	190.7	5.3
200φ	216.3	5.8
250φ	267.4	6.6
300φ	318.5	7.9

100φ未満は、100φに準ずる。

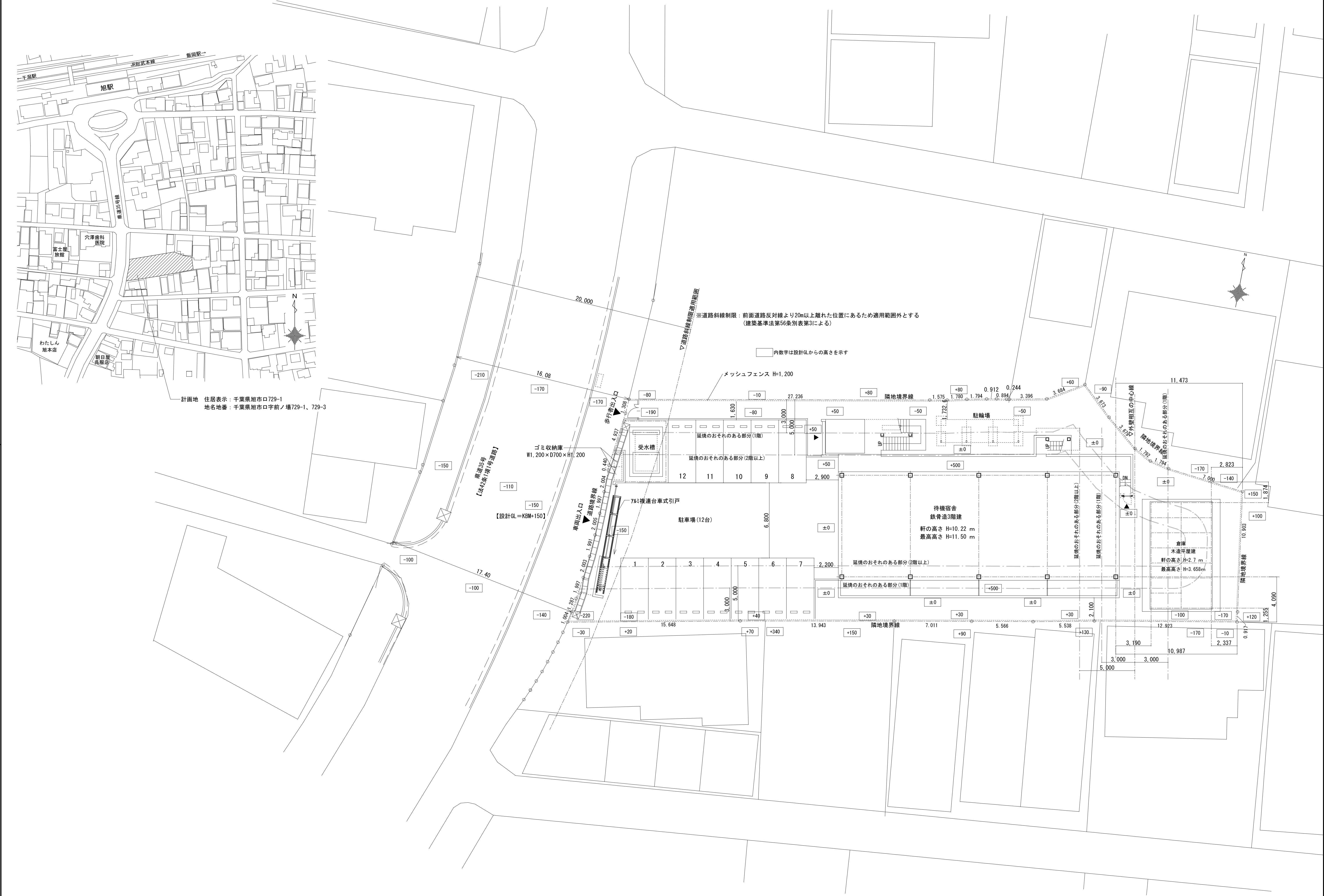
旭第二宿舎建設工事

図 番	図 面 名 称	縮尺・(A1)/(A3)
E-00	図面リスト	—
E-01	電気設備特記仕様書（１）	—
E-02	電気設備特記仕様書（２）	—
E-03	案内図、配置図	(A1) 1/150 (A3) 1/300
E-04	構内配電線路（電力引込、通信引込、外灯設備、動力設備）	(A1) 1/150 (A3) 1/300
E-05	低圧幹線、動力設備 系統図	—
E-06	引込開閉器盤図、共用電灯盤図、弱電引込端子図	—
E-07	低圧幹線設備 １～３階平面図（電力）	(A1) 1/100 (A3) 1/200
E-08	住戸電灯盤結線図・照明器具姿図	—
E-09	電灯コンセント設備（共用部）１～３階平面図	(A1) 1/100 (A3) 1/200
E-10	電灯コンセント設備（住戸内）平面図【共通図】	(A1) 1/50 (A3) 1/100
E-11	通信引込、電話・情報設備（住戸内）系統図	—
E-12	電話、情報設備（共用部）１～３階平面図	(A1) 1/100 (A3) 1/200
E-13	電話、情報設備（住戸内）平面図【共通図】	(A1) 1/50 (A3) 1/100
E-14	テレビ共同受信設備（共用部）系統図、１～３階平面図	(A1) 1/100 (A3) 1/200
E-15	インターホン設備 機器表、系統図、１～３階平面図	(A1) 1/100 (A3) 1/200
E-16	自動火災報知設備 凡例・注記・系統図	—
E-17	自動火災報知設備 １～３階平面図	(A1) 1/100 (A3) 1/200
E-18	ポンプ室 電灯動力設備図	(A1) 1/30 (A3) 1/60

[illegible]

条件明示		 桑田建築設計事務所 A.KUWATA ARCHITECT & ASSOCIATES		 桑田一級建築士事務所 一級建築士 No.128694 安 達 文 宏				工事名		旭第二宿舍建設工事		E - O 1		
						図 名		電気設備工事特記仕様書 (1) R7.11		製 年	図 月		日	・ ・ ・

章		項		目		特		記		事		項		章		項		目		特		記		事		項						
● 一 般 事 項	● 中 間 検 査	○中間検査を実施する。 (回数、実施時期、工事完了時) 中間検査の範囲()														● 共 通 事 項	●	設計用標準水平震度														
	● 中間検査の対象工事	本工事が、低入札価格調査制度調査対象工事(以下「調査対象工事」という。)に該当した場合は、千葉県建設工事検査要綱(検査の区分を規定)及び中間検査実施細則(中間検査実施区分を規定)の定めに関わらず中間検査の指定対象工事として、中間検査を実施する。 1)調査対象工事の中間検査の実施は、「中間検査実施細則」に関わらず原則として2ヶ月に1回、隔月ごと、及び主要工程を考慮し施工上の変化点等で行うが、実施時期は監督職員が指定する。なお、検査日及び検査監氏名は別途通知する。 2)中間検査は、通知日まで完了した出来形部分の出来形確認及び技術の確認等を行うが、給付の対象としない。																設置場所														
		○ 条件明示項目																機器種別														
		○ 施工可能期間 月 日～ 月 日 (期間中も行事等により、短期の施工不能日あり) ○ 改修工事の部分使用 月 日までに下記部分について、部分使用するので協力すること。 部分使用箇所()																特定施設														
		● 施設点検																一般施設														
● そ の 他	● デジタル工事写真 の小黒板情報電子化	本工事に含まれる建築工事、機械設備工事は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様書(令和7年版)に準拠して行う。 情報システム課が設置した機器(アクセスポイント、サーバーラック等)がある場合は、取扱いを監督職員と協議すること。														○ 工 事 前 の 絶 縁 抵 抗 測 定	● 施 工 調 査	【備考】・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4層とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの ・水槽類に燃料小出槽を含む。														
		デジタル工事写真の小黒板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における小黒板の記載情報の電子的記入および、工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。 本工事でデジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得たうえでデジタル工事写真の小黒板情報電子化対象工事(以降、「対象工事」と称する)とすることができる。対象工事では、以下の1)から4)の全てを実施することとする。 1)対象機器の導入 受注者は、デジタル工事写真の小黒板情報電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等(以降「使用機器」と称する)については、営繕工事写真撮影要領2.(3)に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認(改ざん検知機能)を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認(改ざん検知機能)は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC 暗号リスト)」 URL「https://www.cryptrec.go.jp/list.html」に記載している技術を使用していること。また、受注者は監督職員に対し、工事着手前に本工事での使用機器について提示するものとする。 なお、使用機器の事例として、 URL「http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index.html」記載の「デジタル工事写真の小黒板情報電子化対応ソフトウェア」を参照されたい。ただし、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。																重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置(防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視装置 ○														
		2)デジタル工事写真における小黒板情報の電子的記入 受注者は、1)の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黒板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黒板情報の電子的記入を行う項目は、営繕工事撮影要領2.(3)撮影方法)による。 ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。																改修する回路の絶縁抵抗は、比較のため工事の前後で測定すること。														
		3)小黒板情報の電子的記入の取扱い 本工事の工事写真の取扱いは、営繕工事写真撮影要領に準ずるが、2)に示す小黒板情報の電子的記入については、同要領4.で規定されている写真編集には該当しない。																事前調査 ● 本工事 ○ 別途 調査項目 ● 既存資料調査 ○ 調査範囲 ○ 図示 ○ 調査方法 ○ 図示 ○														
		4)小黒板情報の電子的記入を行った写真の納品 受注者は、2)に示す小黒板情報の電子的記入を行った写真(以下、「小黒板情報電子化写真」と称する。)を、工事完成時に監督職員へ納品するものとする。 なお納品時に、受注者は URL(http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index.html)のチェックシステム(信憑性チェックツール)又はチェックシステム(信憑性チェックツール)を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黒板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督職員へ「工事打合せ簿」等により提出するものとする。なお、提出された信憑性確認の結果を、監督職員が確認することがある。																○ はつり工事は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行う。														
● 共 通 事 項	● 金属製露出管路 (至給メッキ面)の塗装	○すべて下地処理の後、塗装(調合ペイント2回塗り)を行う。 ○配線室以外の管路は、すべて下地処理の後、塗装(調合ペイント2回塗り)を行う。 ○ 電線管外面の仕上げは、 ● 溶融亜鉛メッキ ○ 製造者標準 とする。 電線管内部の仕上げは、 ○ 溶融亜鉛メッキ ● 製造者標準 とする。 電線管付属品は、 ● 上記と同等の防食性能を有する防水材 ○ 標準品 とする。 特記あるもの及び特殊なものを除き ○ 砲金製 ○ アルミ合金製 ○ ステンレス製 " ○ 水平高低調整式(空転防止リング付) 0A用インナーコンセント ○ 樹脂製 ● アルミ合金製 ○ ステンレス製 特記あるもの及び特殊なものを除き ● 樹脂製 ○ アルミ合金製 ○ ステンレス製 長さ1m以上の入線しない管路には、1.2mm以上のビニール被覆鉄線を挿入する。 建築工事に伴ってFP板(スタイロホーム等)打ち込みの箇所に取付ける位置ボックス等は、保温、結露防止処理を行う。 合成樹脂製可とう電線管(PF)は、一重管とする。														○ 電 気 方 式	○ 電 気 方 式	○ 電 気 方 式														○ 電 気 方 式
		● 厚鋼電線管及び同附属品																○ 主 導 断 機														
		○ フロープレート フローカバー																○ 設 備 容 量														
		● フラッシュプレート 呼び線 保温・結露防止																○ 進 相 コ ン デ ン サ														
		● 合成樹脂製可とう電線管 ● 屋外プルボックス ○ は っ り																○ 配 電 盤														
● 耐 震 措 置	● 既存躯体への穿孔	○ 再使用機器														○ 絶 縁 ゴ ム マ ッ ト																
		● 耐震措置														○ そ の 他																
		○ 上ガス対策														○ 受 変 電 機 器																
		○ 再使用機器														○ 高 圧																
		● 耐震措置														○ 低 圧																
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 中 間 階															
			● 屋外プルボックス														地 階 ・ 1 階															
			○ は っ り														【備考】・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4層とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの ・水槽類に燃料小出槽を含む。															
			● 既存躯体への穿孔														重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置(防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視装置 ○															
			● 保温・結露防止														2)設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														改修する回路の絶縁抵抗は、比較のため工事の前後で測定すること。															
			● 屋外プルボックス														事前調査 ● 本工事 ○ 別途 調査項目 ● 既存資料調査 ○ 調査範囲 ○ 図示 ○ 調査方法 ○ 図示 ○															
			○ は っ り														○ はつり工事は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行う。															
			● 既存躯体への穿孔														○ 電 気 方 式															
			● 保温・結露防止														○ 主 導 断 機															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 設 備 容 量															
			● 屋外プルボックス														○ 進 相 コ ン デ ン サ															
			○ は っ り														○ 配 電 盤															
			● 既存躯体への穿孔														○ 絶 縁 ゴ ム マ ッ ト															
			● 保温・結露防止														○ そ の 他															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 受 変 電 機 器															
			● 屋外プルボックス														○ 高 圧															
			○ は っ り														○ 低 圧															
			● 既存躯体への穿孔														○ 中 間 階															
			● 保温・結露防止														地 階 ・ 1 階															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														【備考】・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4層とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの ・水槽類に燃料小出槽を含む。															
			● 屋外プルボックス														重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置(防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視装置 ○															
			○ は っ り														2)設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。															
			● 既存躯体への穿孔														改修する回路の絶縁抵抗は、比較のため工事の前後で測定すること。															
			● 保温・結露防止														事前調査 ● 本工事 ○ 別途 調査項目 ● 既存資料調査 ○ 調査範囲 ○ 図示 ○ 調査方法 ○ 図示 ○															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 電 気 方 式															
			● 屋外プルボックス														○ 主 導 断 機															
			○ は っ り														○ 設 備 容 量															
			● 既存躯体への穿孔														○ 進 相 コ ン デ ン サ															
			● 保温・結露防止														○ 配 電 盤															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 絶 縁 ゴ ム マ ッ ト															
			● 屋外プルボックス														○ そ の 他															
			○ は っ り														○ 受 変 電 機 器															
			● 既存躯体への穿孔														○ 高 圧															
			● 保温・結露防止														○ 低 圧															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 中 間 階															
			● 屋外プルボックス														地 階 ・ 1 階															
			○ は っ り														【備考】・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4層とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの ・水槽類に燃料小出槽を含む。															
			● 既存躯体への穿孔														重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置(防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視装置 ○															
			● 保温・結露防止														2)設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														改修する回路の絶縁抵抗は、比較のため工事の前後で測定すること。															
			● 屋外プルボックス														事前調査 ● 本工事 ○ 別途 調査項目 ● 既存資料調査 ○ 調査範囲 ○ 図示 ○ 調査方法 ○ 図示 ○															
			○ は っ り														○ はつり工事は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行う。															
			● 既存躯体への穿孔														○ 電 気 方 式															
			● 保温・結露防止														○ 主 導 断 機															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 設 備 容 量															
			● 屋外プルボックス														○ 進 相 コ ン デ ン サ															
			○ は っ り														○ 配 電 盤															
			● 既存躯体への穿孔														○ 絶 縁 ゴ ム マ ッ ト															
			● 保温・結露防止														○ そ の 他															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 受 変 電 機 器															
			● 屋外プルボックス														○ 高 圧															
			○ は っ り														○ 低 圧															
			● 既存躯体への穿孔														○ 中 間 階															
			● 保温・結露防止														地 階 ・ 1 階															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														【備考】・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4層とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの ・水槽類に燃料小出槽を含む。															
			● 屋外プルボックス														重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置(防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視装置 ○															
			○ は っ り														2)設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。															
			● 既存躯体への穿孔														改修する回路の絶縁抵抗は、比較のため工事の前後で測定すること。															
			● 保温・結露防止														事前調査 ● 本工事 ○ 別途 調査項目 ● 既存資料調査 ○ 調査範囲 ○ 図示 ○ 調査方法 ○ 図示 ○															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 電 気 方 式															
			● 屋外プルボックス														○ 主 導 断 機															
			○ は っ り														○ 設 備 容 量															
			● 既存躯体への穿孔														○ 進 相 コ ン デ ン サ															
			● 保温・結露防止														○ 配 電 盤															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 絶 縁 ゴ ム マ ッ ト															
			● 屋外プルボックス														○ そ の 他															
			○ は っ り														○ 受 変 電 機 器															
			● 既存躯体への穿孔														○ 高 圧															
			● 保温・結露防止														○ 低 圧															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 中 間 階															
			● 屋外プルボックス														地 階 ・ 1 階															
			○ は っ り														【備考】・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4層とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの ・水槽類に燃料小出槽を含む。															
			● 既存躯体への穿孔														重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置(防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視装置 ○															
			● 保温・結露防止														2)設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														改修する回路の絶縁抵抗は、比較のため工事の前後で測定すること。															
			● 屋外プルボックス														事前調査 ● 本工事 ○ 別途 調査項目 ● 既存資料調査 ○ 調査範囲 ○ 図示 ○ 調査方法 ○ 図示 ○															
			○ は っ り														○ はつり工事は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行う。															
			● 既存躯体への穿孔														○ 電 気 方 式															
			● 保温・結露防止														○ 主 導 断 機															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 設 備 容 量															
			● 屋外プルボックス														○ 進 相 コ ン デ ン サ															
			○ は っ り														○ 配 電 盤															
			● 既存躯体への穿孔														○ 絶 縁 ゴ ム マ ッ ト															
			● 保温・結露防止														○ そ の 他															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 受 変 電 機 器															
			● 屋外プルボックス														○ 高 圧															
			○ は っ り														○ 低 圧															
			● 既存躯体への穿孔														○ 中 間 階															
			● 保温・結露防止														地 階 ・ 1 階															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														【備考】・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4層とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの ・水槽類に燃料小出槽を含む。															
			● 屋外プルボックス														重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置(防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視装置 ○															
			○ は っ り														2)設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。															
			● 既存躯体への穿孔														改修する回路の絶縁抵抗は、比較のため工事の前後で測定すること。															
			● 保温・結露防止														事前調査 ● 本工事 ○ 別途 調査項目 ● 既存資料調査 ○ 調査範囲 ○ 図示 ○ 調査方法 ○ 図示 ○															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 電 気 方 式															
			● 屋外プルボックス														○ 主 導 断 機															
			○ は っ り														○ 設 備 容 量															
			● 既存躯体への穿孔														○ 進 相 コ ン デ ン サ															
			● 保温・結露防止														○ 配 電 盤															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 絶 縁 ゴ ム マ ッ ト															
			● 屋外プルボックス														○ そ の 他															
			○ は っ り														○ 受 変 電 機 器															
			● 既存躯体への穿孔														○ 高 圧															
			● 保温・結露防止														○ 低 圧															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 中 間 階															
			● 屋外プルボックス														地 階 ・ 1 階															
			○ は っ り														【備考】・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4層とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの ・水槽類に燃料小出槽を含む。															
			● 既存躯体への穿孔														重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置(防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視装置 ○															
			● 保温・結露防止														2)設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														改修する回路の絶縁抵抗は、比較のため工事の前後で測定すること。															
			● 屋外プルボックス														事前調査 ● 本工事 ○ 別途 調査項目 ● 既存資料調査 ○ 調査範囲 ○ 図示 ○ 調査方法 ○ 図示 ○															
			○ は っ り														○ はつり工事は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行う。															
			● 既存躯体への穿孔														○ 電 気 方 式															
			● 保温・結露防止														○ 主 導 断 機															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 設 備 容 量															
			● 屋外プルボックス														○ 進 相 コ ン デ ン サ															
			○ は っ り														○ 配 電 盤															
			● 既存躯体への穿孔														○ 絶 縁 ゴ ム マ ッ ト															
			● 保温・結露防止														○ そ の 他															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 受 変 電 機 器															
			● 屋外プルボックス														○ 高 圧															
			○ は っ り														○ 低 圧															
			● 既存躯体への穿孔														○ 中 間 階															
			● 保温・結露防止														地 階 ・ 1 階															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														【備考】・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4層とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの ・水槽類に燃料小出槽を含む。															
			● 屋外プルボックス														重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置(防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視装置 ○															
			○ は っ り														2)設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。															
			● 既存躯体への穿孔														改修する回路の絶縁抵抗は、比較のため工事の前後で測定すること。															
			● 保温・結露防止														事前調査 ● 本工事 ○ 別途 調査項目 ● 既存資料調査 ○ 調査範囲 ○ 図示 ○ 調査方法 ○ 図示 ○															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 電 気 方 式															
			● 屋外プルボックス														○ 主 導 断 機															
			○ は っ り														○ 設 備 容 量															
			● 既存躯体への穿孔														○ 進 相 コ ン デ ン サ															
			● 保温・結露防止														○ 配 電 盤															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 絶 縁 ゴ ム マ ッ ト															
			● 屋外プルボックス														○ そ の 他															
			○ は っ り														○ 受 変 電 機 器															
			● 既存躯体への穿孔														○ 高 圧															
			● 保温・結露防止														○ 低 圧															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 中 間 階															
			● 屋外プルボックス														地 階 ・ 1 階															
			○ は っ り														【備考】・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4層とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの ・水槽類に燃料小出槽を含む。															
			● 既存躯体への穿孔														重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置(防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視装置 ○															
			● 保温・結露防止														2)設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														改修する回路の絶縁抵抗は、比較のため工事の前後で測定すること。															
			● 屋外プルボックス														事前調査 ● 本工事 ○ 別途 調査項目 ● 既存資料調査 ○ 調査範囲 ○ 図示 ○ 調査方法 ○ 図示 ○															
			○ は っ り														○ はつり工事は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行う。															
			● 既存躯体への穿孔														○ 電 気 方 式															
			● 保温・結露防止														○ 主 導 断 機															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 設 備 容 量															
			● 屋外プルボックス														○ 進 相 コ ン デ ン サ															
			○ は っ り														○ 配 電 盤															
			● 既存躯体への穿孔														○ 絶 縁 ゴ ム マ ッ ト															
			● 保温・結露防止														○ そ の 他															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 受 変 電 機 器															
			● 屋外プルボックス														○ 高 圧															
			○ は っ り														○ 低 圧															
			● 既存躯体への穿孔														○ 中 間 階															
			● 保温・結露防止														地 階 ・ 1 階															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														【備考】・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4層とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの ・水槽類に燃料小出槽を含む。															
			● 屋外プルボックス														重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置(防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視装置 ○															
			○ は っ り														2)設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。															
			● 既存躯体への穿孔														改修する回路の絶縁抵抗は、比較のため工事の前後で測定すること。															
			● 保温・結露防止														事前調査 ● 本工事 ○ 別途 調査項目 ● 既存資料調査 ○ 調査範囲 ○ 図示 ○ 調査方法 ○ 図示 ○															
● 耐 震 措 置	●	○ 再使用機器	● 合成樹脂製可とう電線管														○ 電 気 方 式															
			● 屋外プルボックス														○ 主 導															



計画地 住居表示：千葉県旭市口729-1
地名地番：千葉県旭市口字前ノ場729-1、729-3

桑田建築設計事務所
A.KUWATA ARCHITECT & ASSOCIATES

桑田一級建築士事務所
一級建築士 No.128694
安達文宏

7・3・
(A1) S=1:150
(A3) S=1:300

旭第二宿舍建設工事
案内図、配置図

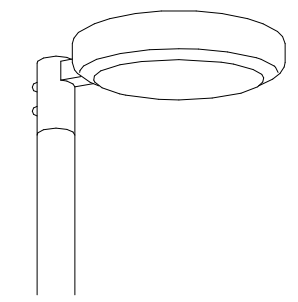
E-03

■ 照明器具姿図

0L1

LED街路灯 水銀灯100形相当

5 台



電源ユニット内蔵、防雨型、ワイド配光、上方光束比0%
光束3490lm、消費電力26.7W、電圧100～242V
昼白色5000K、Ra70、光束維持時間6000時間（光束維持率70%）
本体：アルミ（ミディアムグレイメタリック）
グローブ：アクリル（マット仕上）
アーム：鋼管（ミディアムグレイメタリック）
保護等級：IP23、耐風速60m/s、落下防止ワイヤー付、耐雷サージ：15kV

パナソニック NNY22105ZLE9+DYGX2018

街路灯用ポール（溶融亜鉛めっき仕上げ）

種類	基礎の寸法			
	外灯の高さH	A	B	C
T4	4	600×600	1300	100

重耐塩仕様
塗装仕上げ

点検口
（ブレーカー）

表面モルタル仕上げ
（水勾配をとる。）

埋設保護シート
（2倍折り）

波付硬質合成樹脂管

配線用穴

▽GL

コンクリート
（既製品）

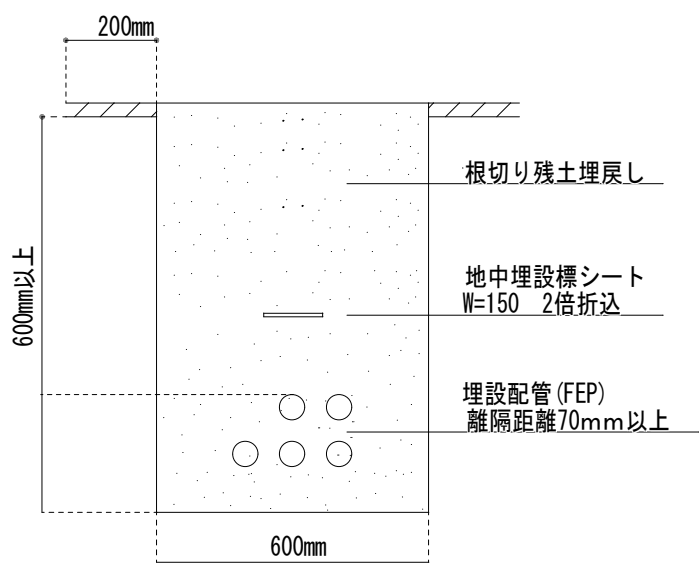
再生砕石RC-40

400 A 400

■ 標準図

構内掘削参考図

(上部舗装工事は別途外構工事)



200mm

600mm以上

600mm

根切り残土埋戻し

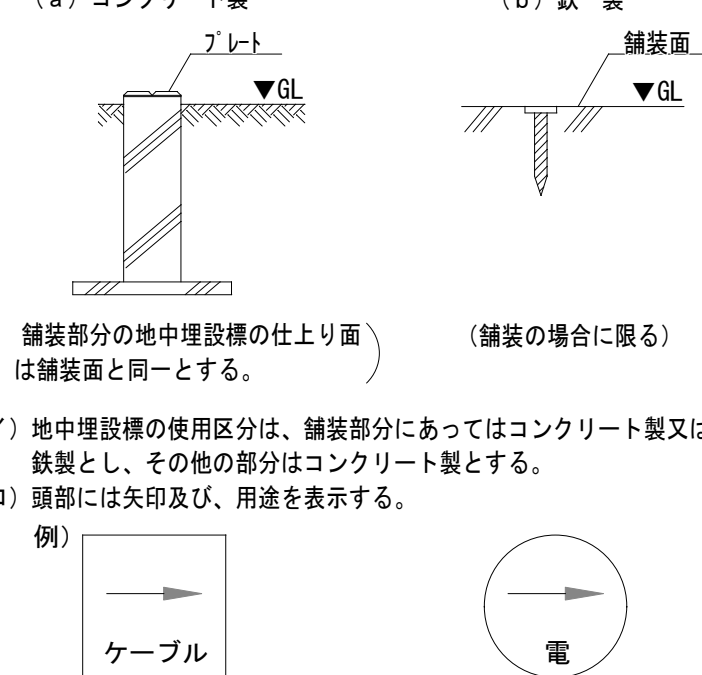
地中埋設標シート
W=150 2倍折込

埋設配管(FEP)
最短距離70mm以上

地中埋設標

(a) コンクリート製

(b) 鉄製



アレット

▽GL

舗装面

▽GL

（舗装部分の地中埋設標の仕上り面は舗装面と同一とする。）

（舗装の場合に限る）

注（イ）地中埋設標の使用区分は、舗装部分にあってはコンクリート製又は鉄製とし、その他の部分はコンクリート製とする。

注（ロ）頭部には矢印及び、用途を表示する。

例

ケーブル

電

※根切り土中の良質土で埋戻し及び突き固めた後、管を布設する

■ 凡例

記号	名称	規格寸法	備考
---	地中埋設管内配線		
⊙	地中埋設標	鉄製	
[H]A	ハンドホール	900×900×900	H2-9 (R8K)
[H]B2/B8	ハンドホール	600×600×900	H1-9 (B2:R2K/B8:R8K)
⊖	接地埋設標	鉄製	
⊙OL1	街路灯	本体、ポール4.0m、基礎	
⊕	接地工事	仕様はE-02による	

P-M 配線表

記号	配線	接地	保護管	備考
(P1)	EM-CE8 ² -3C	EM-1E5.5 ²	(FEP50) 地中 / (G42) ポンプ室	給水ポンプ制御盤
(L14)	EM-CE5.5 ² -3C	(1芯7-ス)	(FEP30) 地中	外灯
(L16)	EM-CE5.5 ² -3C	(1芯7-ス)	(FEP30) 地中	外灯
(L15)	EM-CE5.5 ² -3C	(1芯7-ス)	(FEP30) 地中	ポンプ室電灯コンセント

K-1 配線表

記号	配線	接地	保護管	備考
(K1)	EM-CE2 ² -3C	—	(E25) / (FEP30) / (G22)	給水ポンプ制御盤

■ 強電用接地

※1 (FEP30) GL-600

ハンドホール間に埋設する

ED (ELCB) ED Eo Eo

3m 10m 10m

■ 弱電用接地

※2 ET

※2 (FEP30) GL-600

ELT EA⁺ Eo Eo

3m 10m 10m

注記)
・地中埋設管の土被りはGL-600以上とする。

Ver.20.06.12

桑田建築設計事務所
A.KUWATA ARCHITECT & ASSOCIATES

桑田一級建築士事務所
一級建築士 No.128694
安達文宏

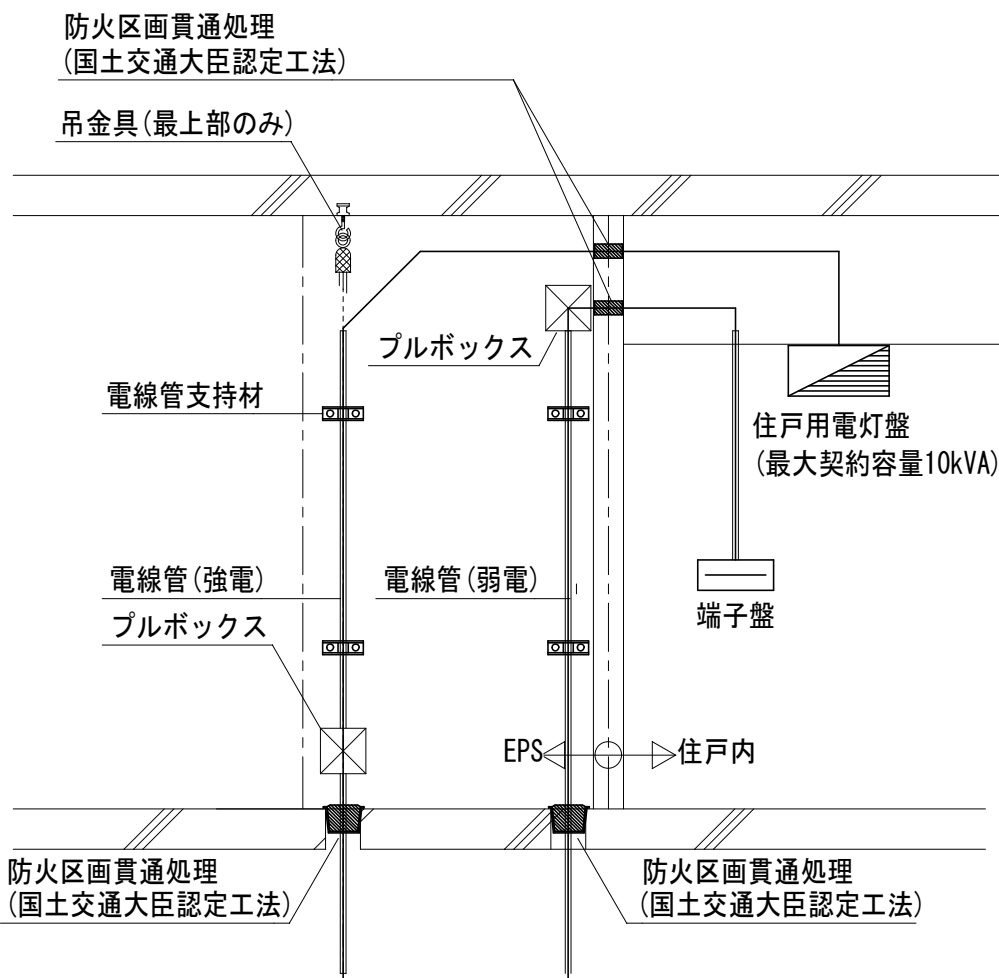
7・3・
(A1) S=1:150
(A3) S=1:300

旭第二宿舍建設工事

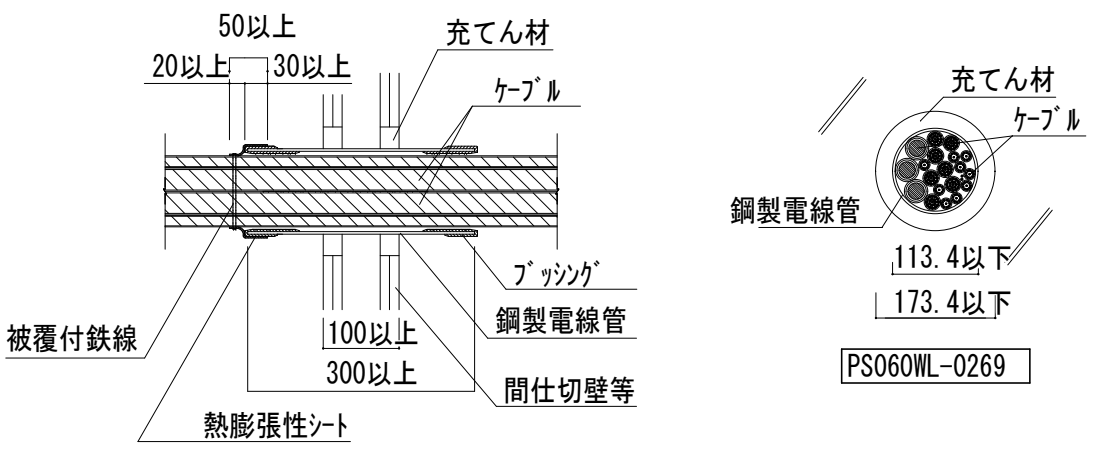
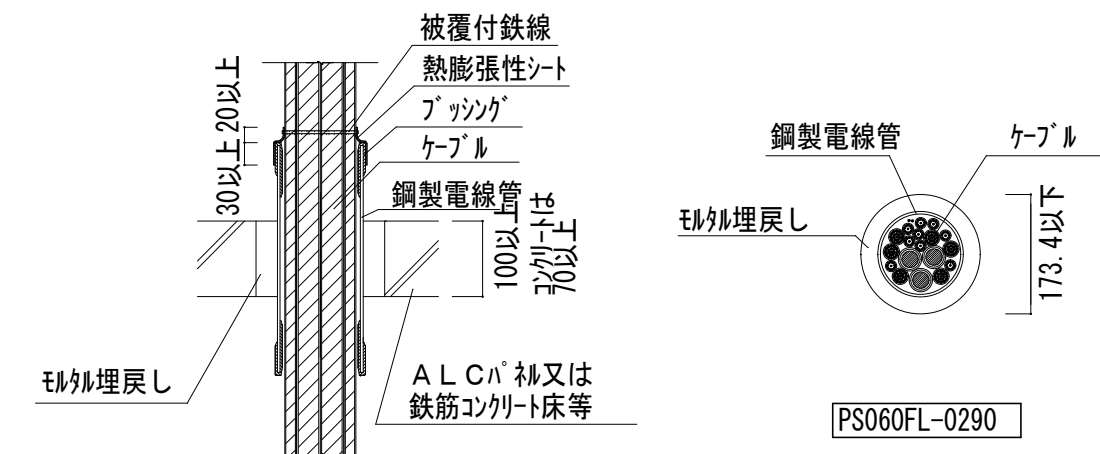
構内配電線路(電力引込、通信引込、外灯設備、動力設備)

E-O4

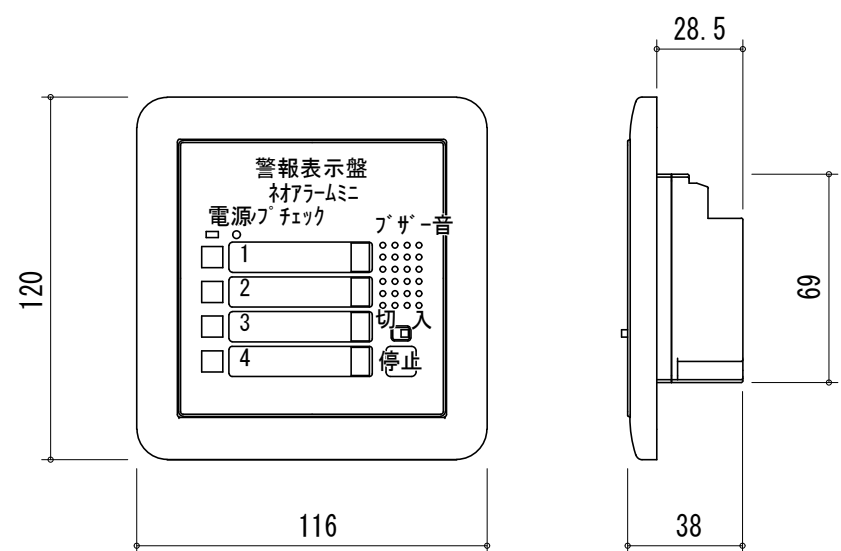
EPS内住戸入線部詳細図(参考図)



防火区画貫通処理工法(参考図)



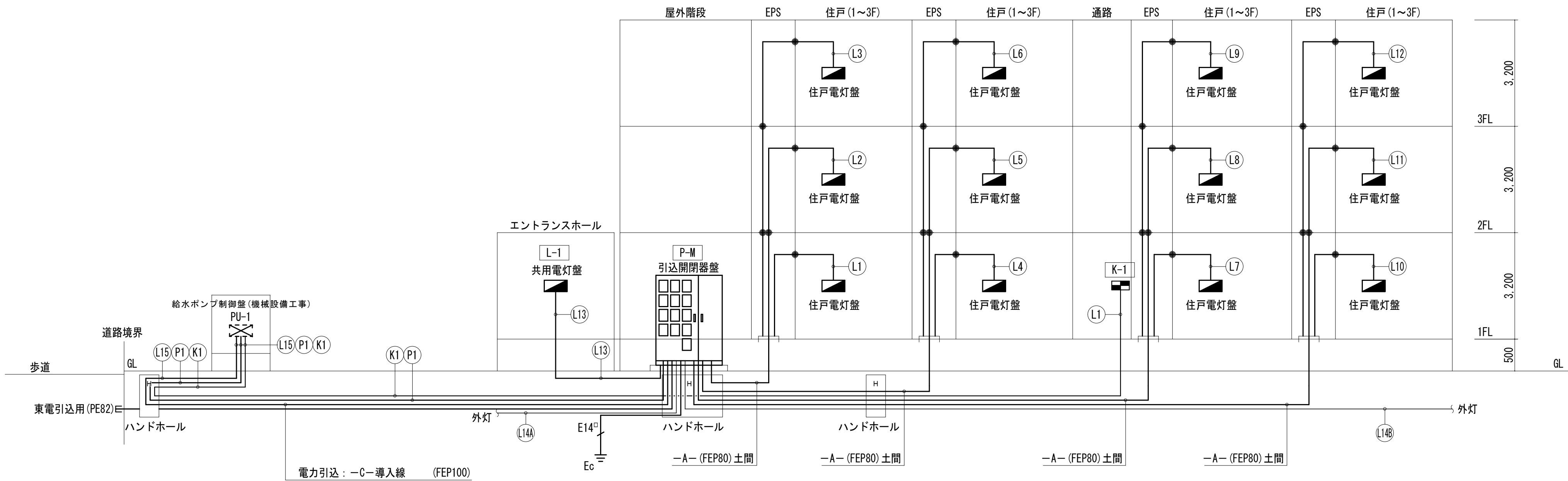
警報盤 [K-A] (参考図)



記号	名 称
(K1)	給水ポンプ制御盤 EM-CE2sq-3C
	予備
	予備
	予備

参考型番 : BRNF102

- 警報信号入力後、ブザー停止印にて一旦鳴動を停止させた後も、別回路への警報入力により再度ブザーが鳴動します。(追鳴動機能)
- 盤面のSWにてブザー鳴動の入切が設定できます。
- ランプチェック印を押すことで、警報表示灯の点灯確認ができます。(上記ブザー鳴動設定が入の場合は同時にブザーも鳴動します。)



低圧幹線設備 系統図

P-M 配線表

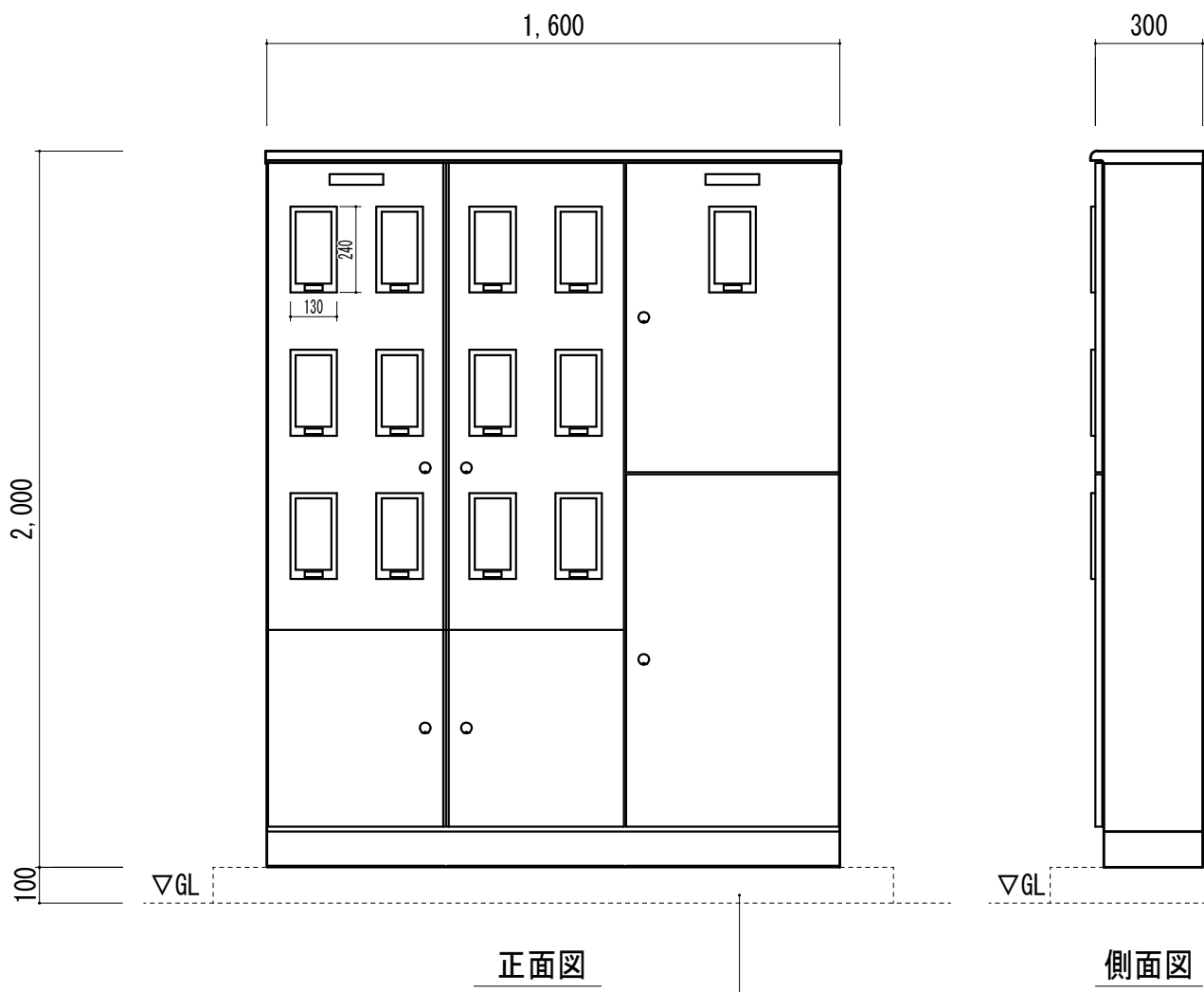
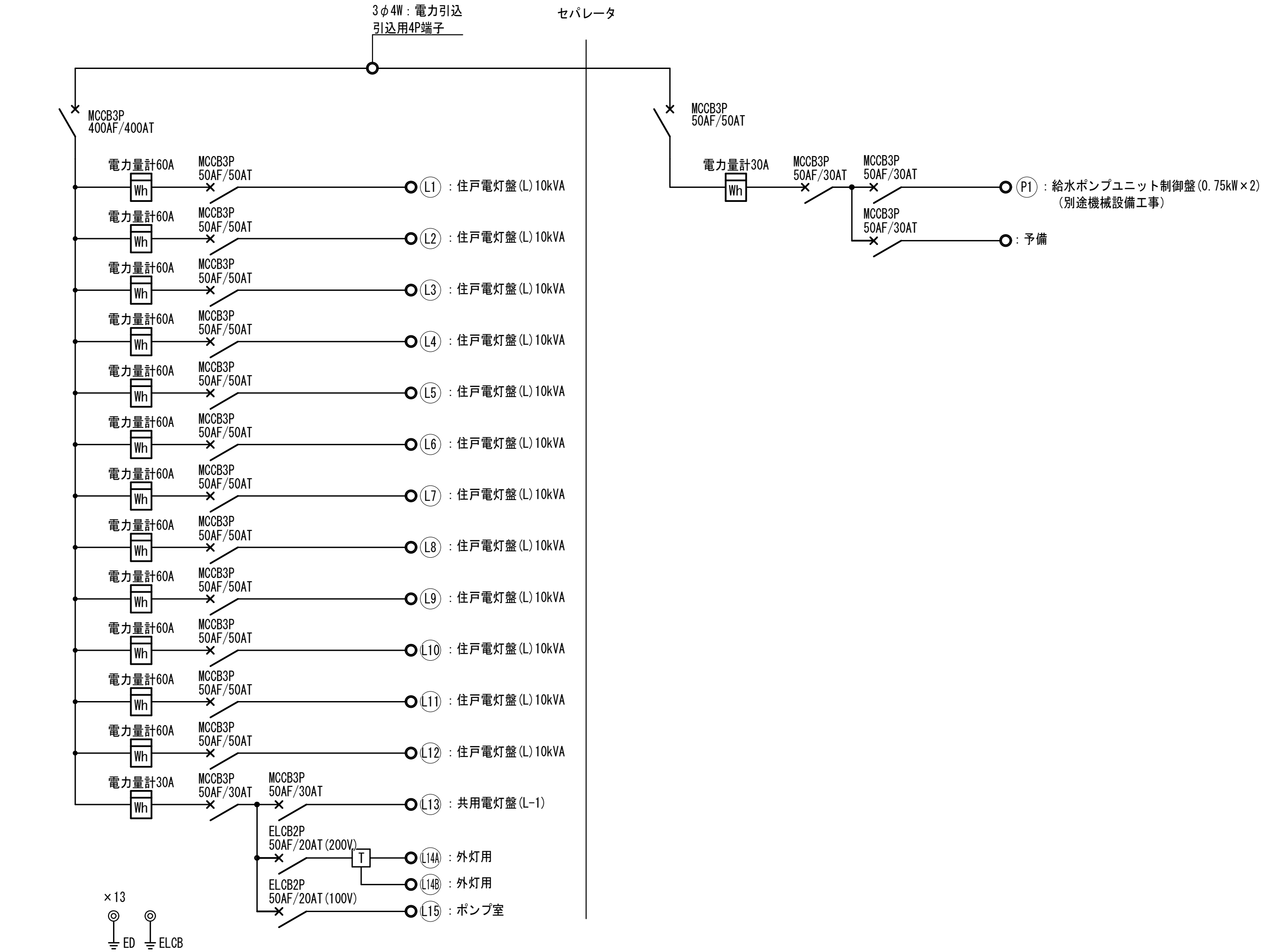
記号	配線	接地	保護管	備考
-A-	EM-CET14 [□] ×3	EM-1E5.5 [□]	(FEP80)土間	住宅分電盤(L)×3戸
(L1)~(L12)	EM-CET14 [□]	EM-1E5.5 [□]	EPS・住戸内:天井内	住宅分電盤(L)×12戸
(L13)	EM-CET14 [□]	EM-1E5.5 [□]	(FEP40)土間/(E51)廊下	共用電灯盤(L-1)
(L14)	EM-CE5.5 [□] -3C	(1芯7-ス)	(FEP30)GL-600	外灯
(L14B)	EM-CE5.5 [□] -3C	(1芯7-ス)	(FEP30)GL-600	外灯
(L15)	EM-CE5.5 [□] -3C	(1芯7-ス)	(FEP30)GL-600	ポンプ室電灯コンセント
(P1)	EM-CE8 [□] -3C	EM-1E5.5 [□]	(FEP50)/(G42)	給水ポンプ制御盤

K-1 配線表

記号	配線	接地	保護管	備考
(K1)	EM-CE2sq-3C	-	(E25)/(FEP30)/(G22)	給水ポンプ制御盤

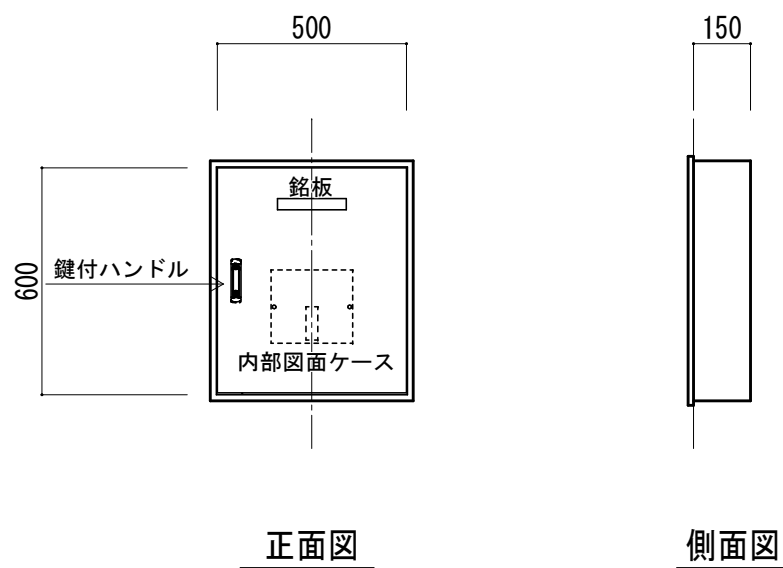
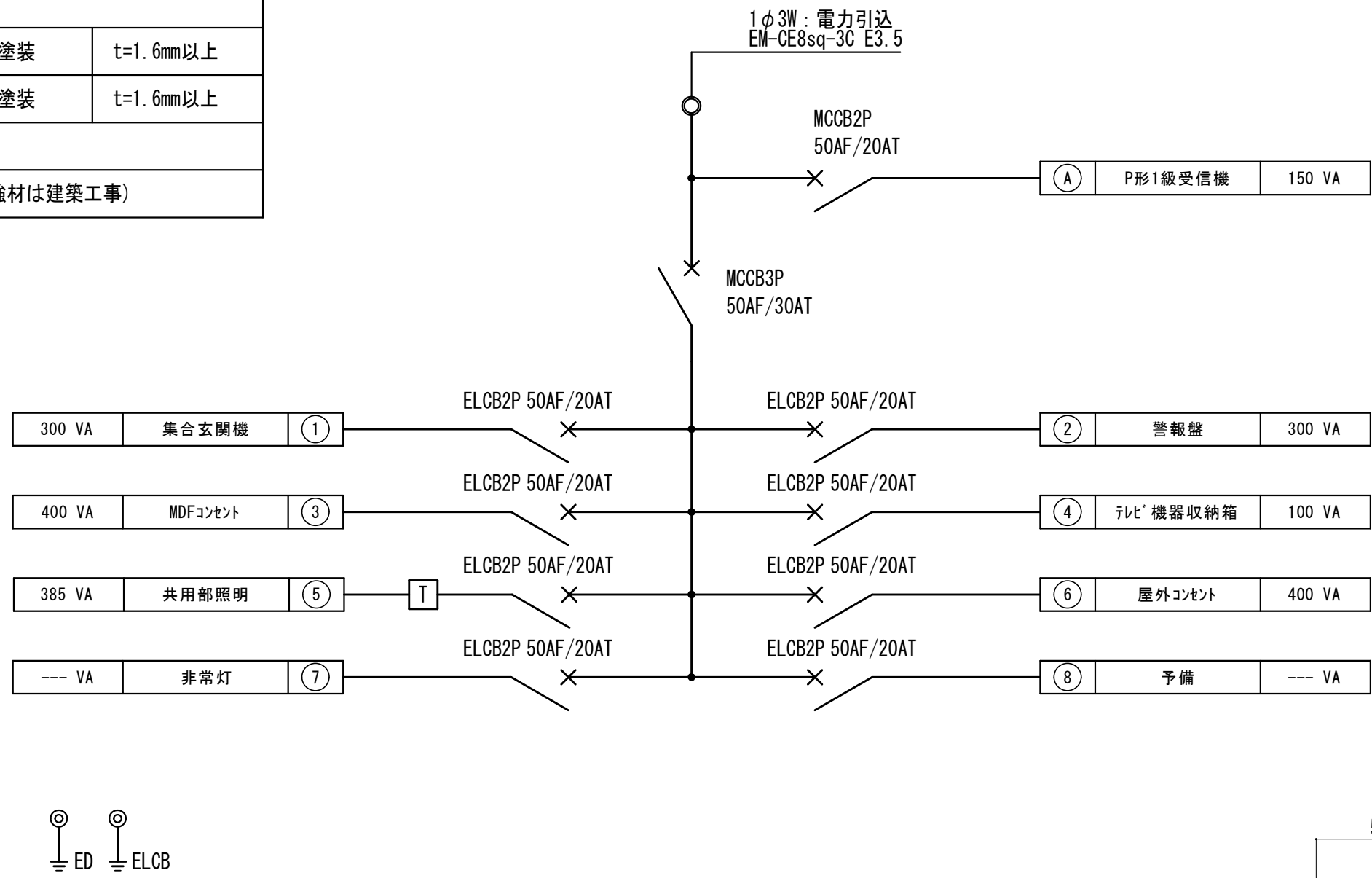
引込開閉器盤 結線図

名称	引込開閉器盤 仕様	
函体	鋼板製 HDZ-35以上	t=1.6mm以上
基板	鋼板製 HDZ-35以上	t=1.6mm以上
用途	屋外用 防水	
形式	自立形(振れ止めを設けること)	



共用電灯分電盤 L-1 結線図

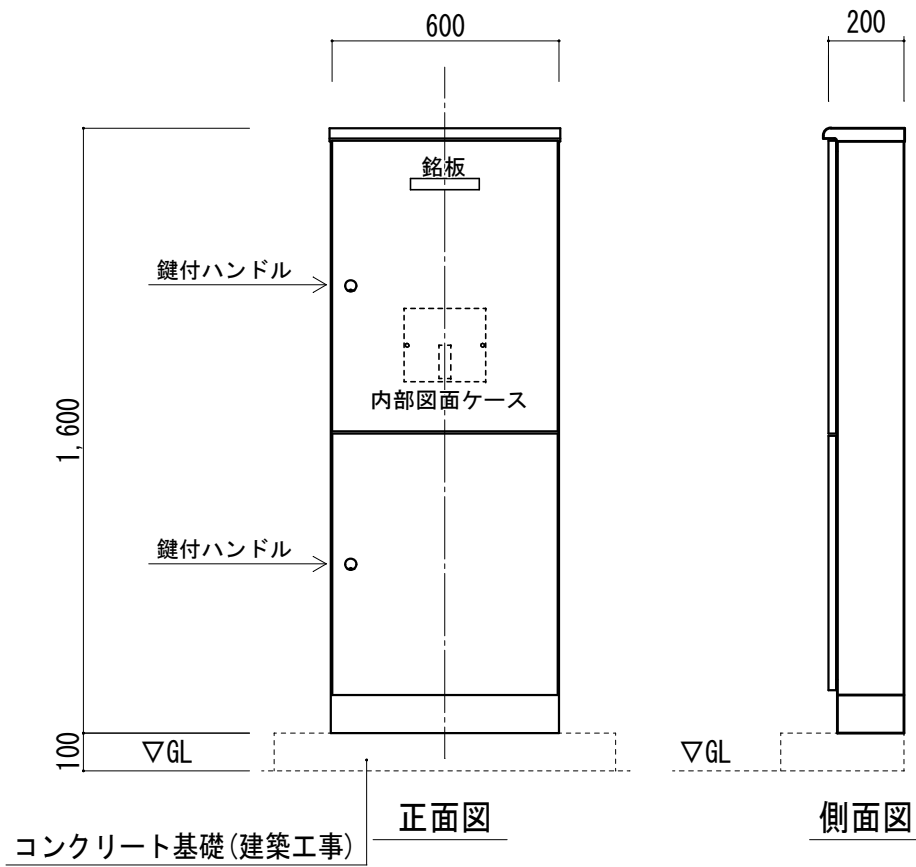
名称	L-1 仕様	
函体	鋼板製 指定色塗装	t=1.6mm以上
基板	鋼板製 指定色塗装	t=1.6mm以上
用途	屋内	
形式	壁掛埋込形(補強材は建築工事)	



弱電引込端子盤 MDF 姿図

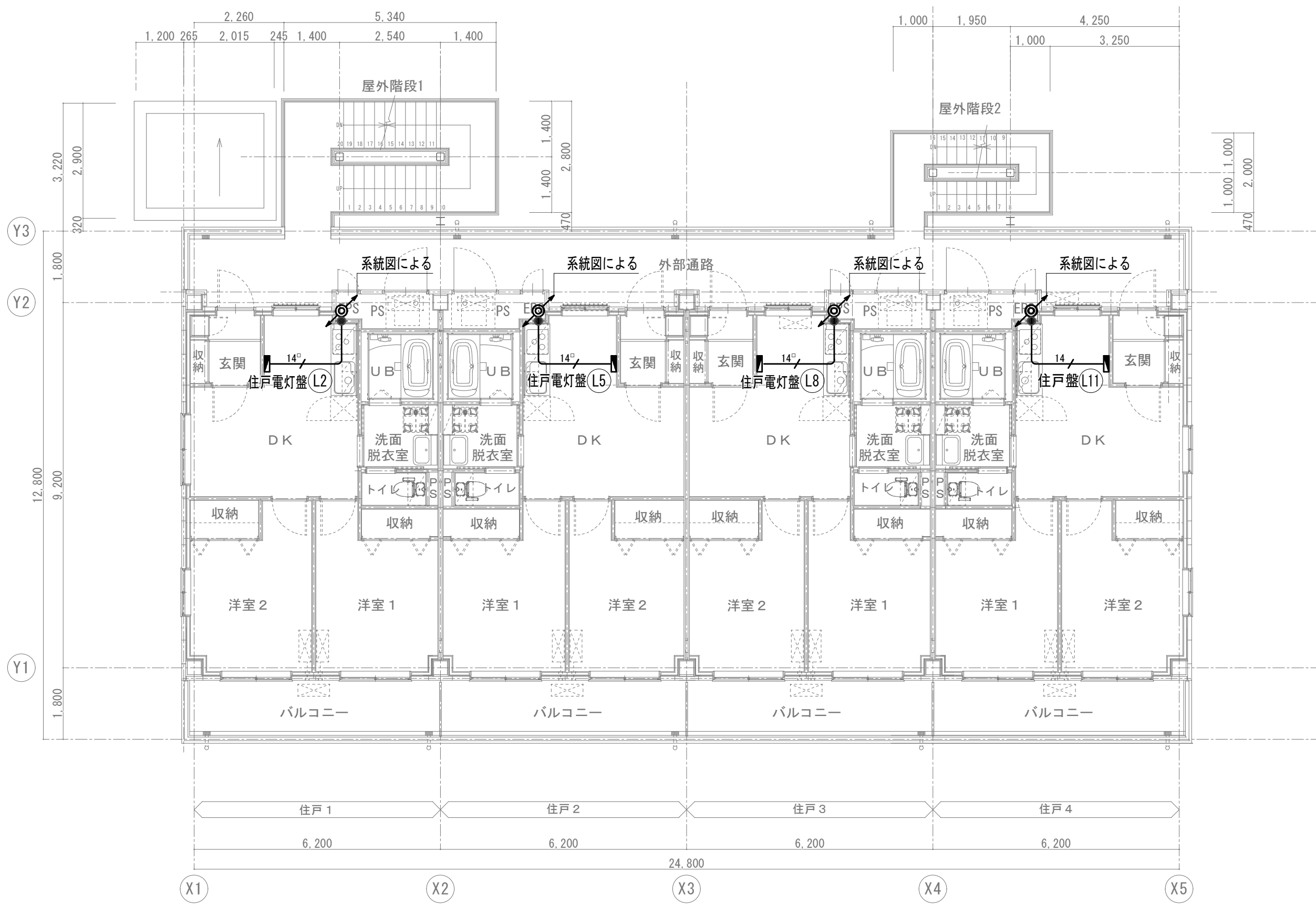
名称	端子盤 (MDF)	
函体	ステンレス製 指定色塗装	t=1.5mm以上
基板	ステンレス製	t=1.5mm以上
用途	屋外	
形式	自立形(振れ止めを設けること)	

対象	内部形式	情報
電話	木板 500W×600H	保安器×12 2A'-ス端子20P収納 木板に取付 接地端子
情報	木板 500W×600H	PT盤 収納スペース 木板に取付



■ 共通事項 盤の構造および機器

- ・ 原則として国土交通省仕様とする。
- ・ 屋内の函体塗装は、メラミン焼付塗装または、粉体塗装とする。
- ・ 尚、屋外の盤は鋼板製に溶融亜鉛めっき仕上げHDZ35又はステンレス製塗装仕上げとする。
- ・ タイマースイッチは手動切替スイッチ付・年間式・2回路用・24時間停電補償付
ソーラー機能付(参考型番：TB855201N)とする。
- ・ 特記なき場合、盤は扉付とし、扉のとしては、非鉄金属製としかぎ付とする。
- ・ 中蓋は片丁番方式とする。
- ・ 特記なきELCBの定格感度電流および動作時間は、30mA、0.1秒とする。
- ・ また、高調波サージ対策品とする。
- ・ 盤(P-M)、盤(MDF)にD種・A種端子のほか、試験用端子Eo×2を設けること。
- ・ 接地端子EDは函体と電氣的に接続し、接地端子ED (ELCB)は函体と絶縁すること。

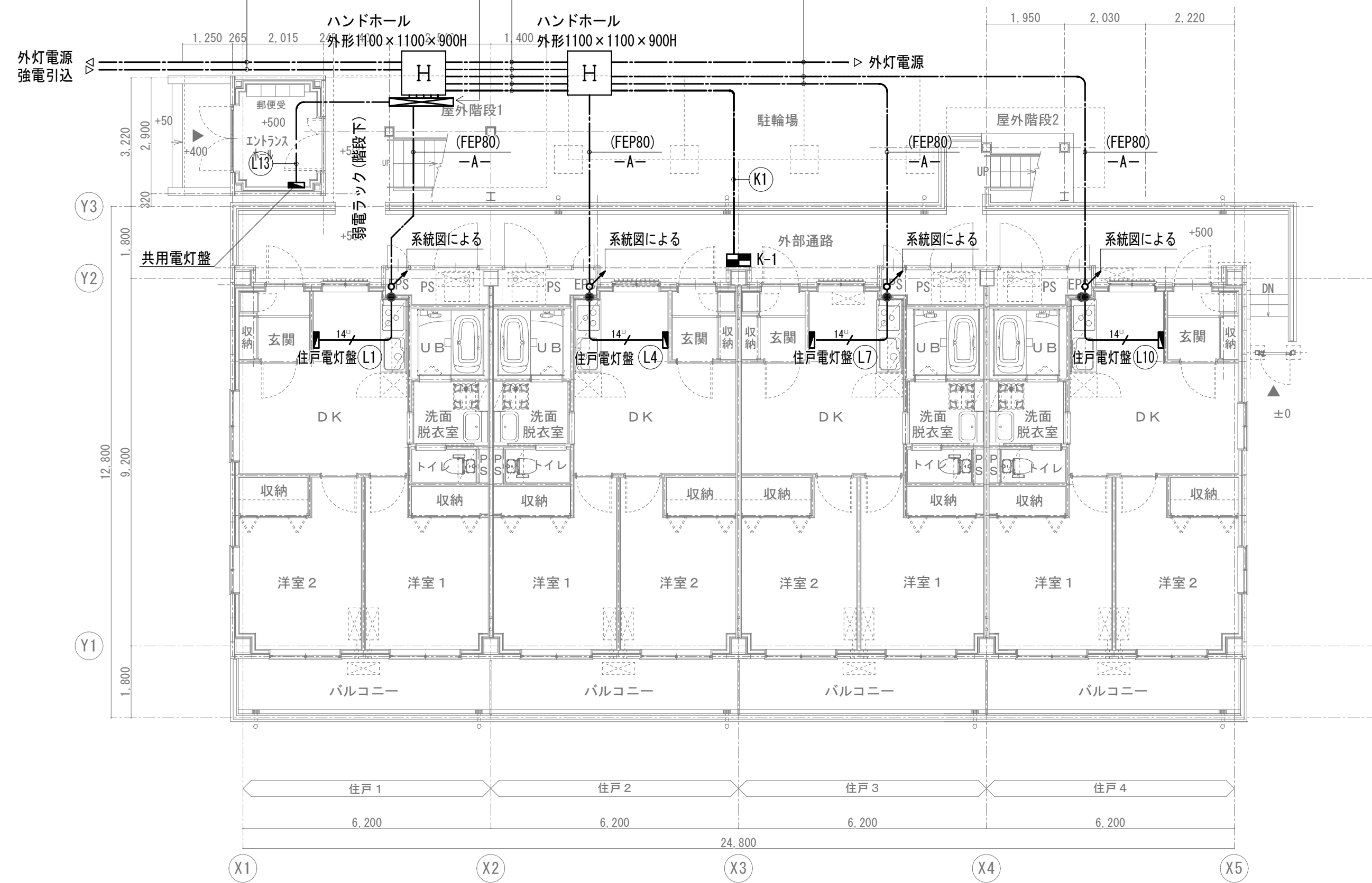


2階平面図 S.1:100

- (L148) : 外灯
 - (L15) : ポンプ室電灯コンセント
 - (P1) : 給水ポンプ制御盤
- 東電引込：三相4線CE060° (FEP100) GL-600

引込開閉器盤
(基礎建築工事)

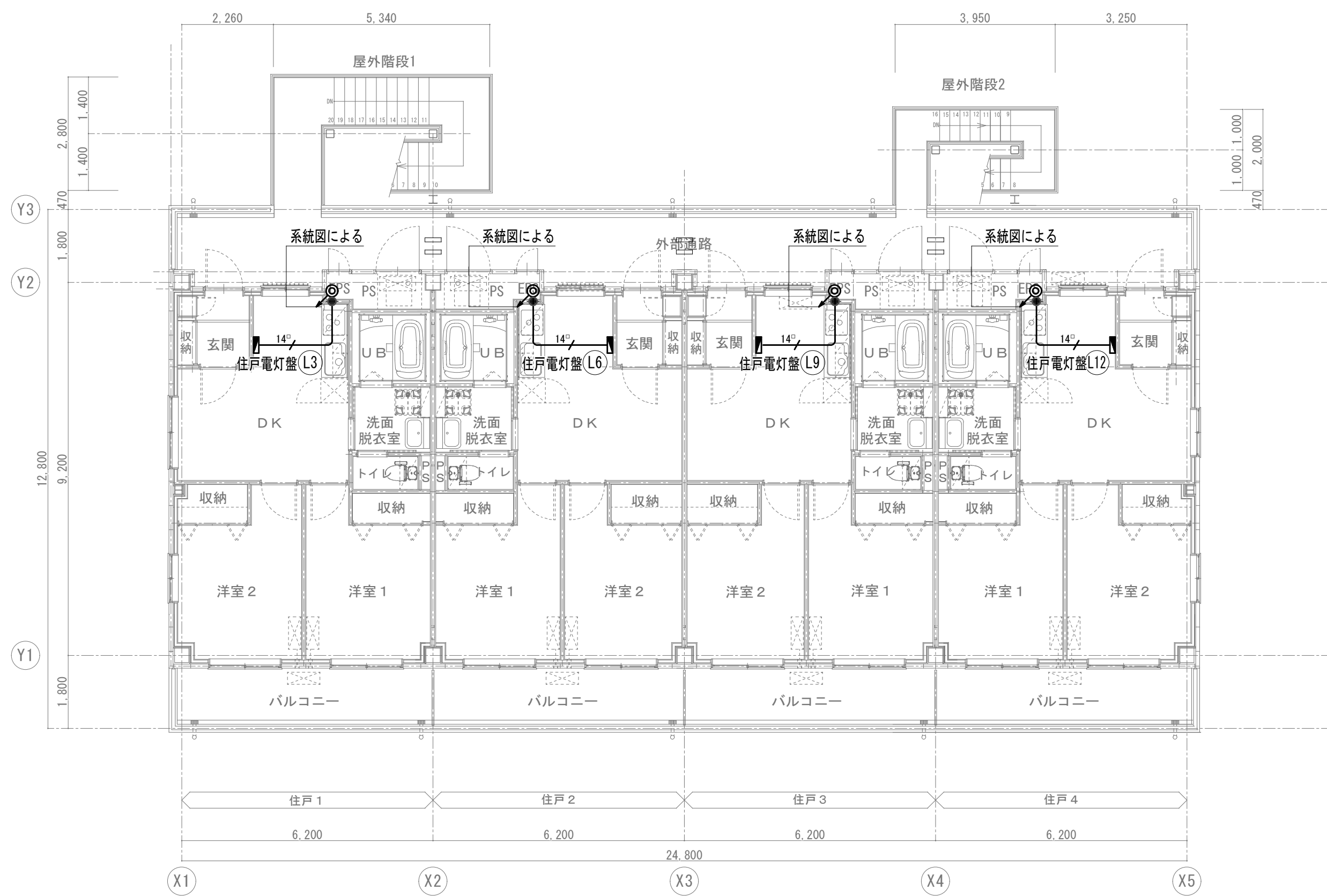
- (L148) : 外灯
- (L4)~(L12) : 住戸電灯盤
- (K1) : 警報
- (L148) : 外灯
- (L7)~(L12) : 住戸電灯盤



1階平面図 S.1:100

P-M 配線表				
記号	配線	接地	保護管	備考
-A-	EM-CET14°×3	EM-1E5.5°	(FEP80)土間	住宅分電盤(L)×3戸
(L1)~(L12)	EM-CET14°	EM-1E5.5°	EPS・住戸内：天井内	住宅分電盤(L)×12戸
(L13)	EM-CET14°	EM-1E5.5°	(FEP40)土間/(E51)廊下	共用電灯盤(L-1)
(L14)	EM-CE5.5°-3C	(1芯7-ス)	(FEP30)GL-600	外灯
(L148)	EM-CE5.5°-3C	(1芯7-ス)	(FEP30)GL-600	外灯
(L15)	EM-CE5.5°-3C	(1芯7-ス)	(FEP30)GL-600	ポンプ室電灯コンセント
(P1)	EM-CE8°-3C	EM-1E5.5°	(FEP50)/(G42)	給水ポンプ制御盤

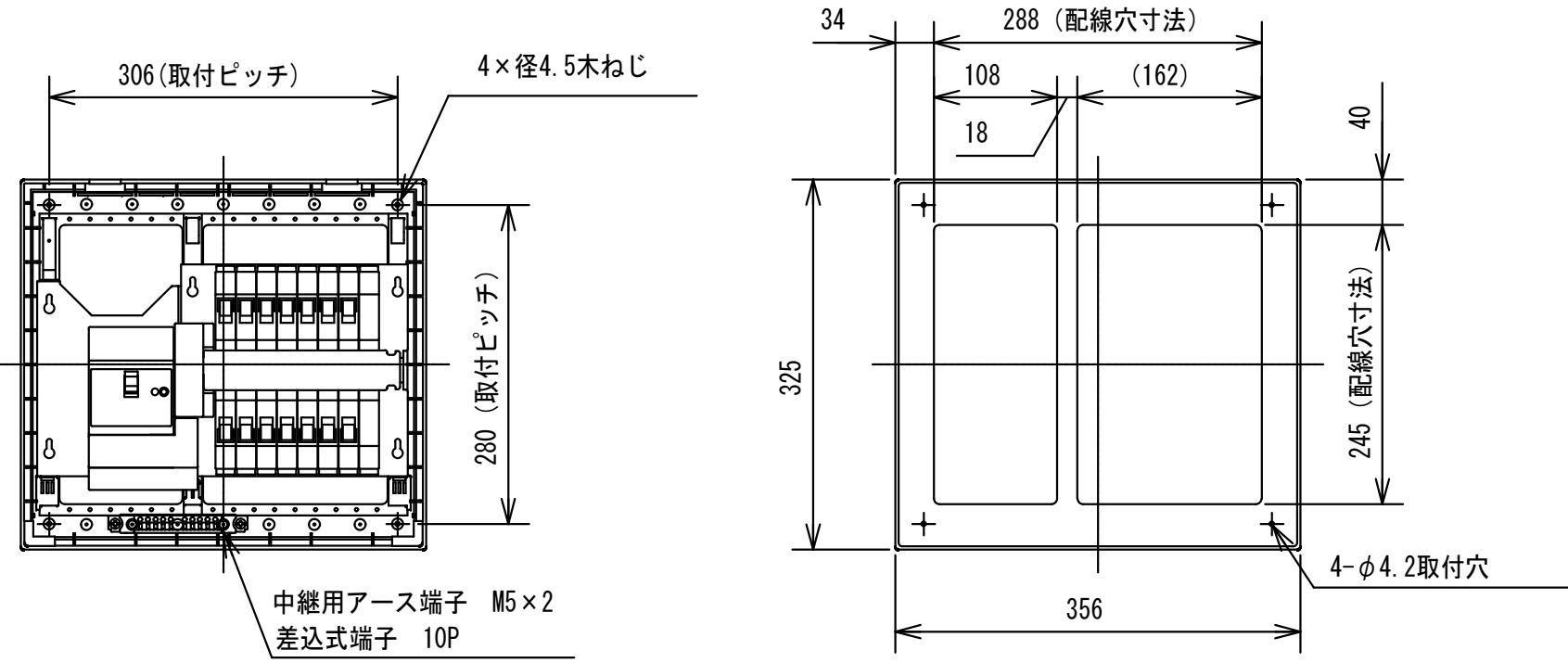
K-1 配線表				
記号	配線	接地	保護管	備考
(K1)	EM-CE2sq-3C	-	(E25)/(FEP30)/(G22)	給水ポンプ制御盤



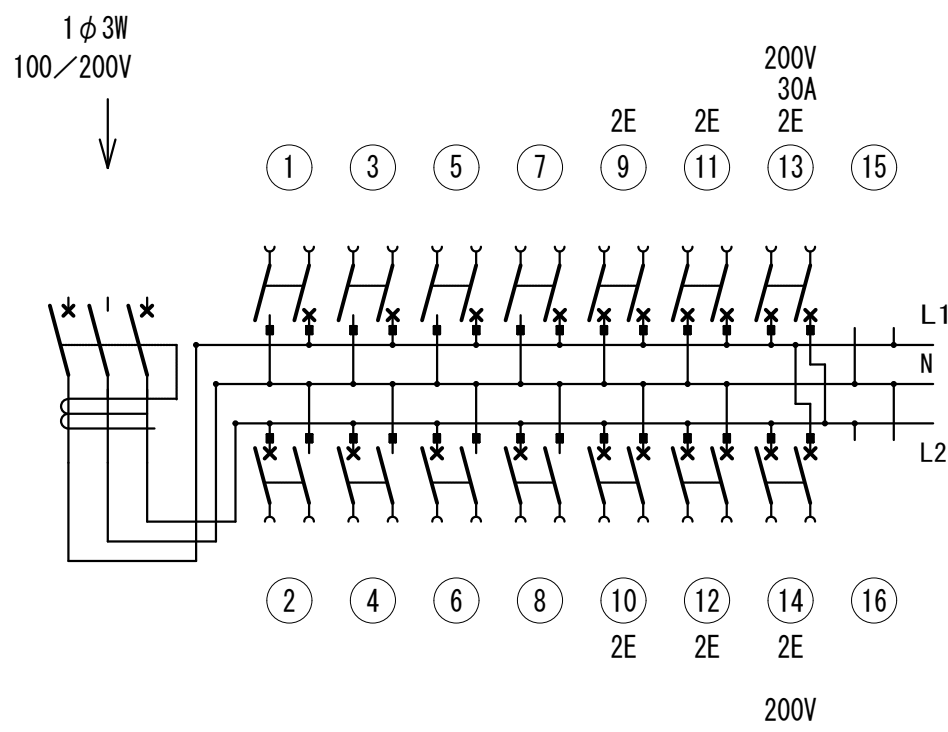
3階平面図 S.1:100

住戸電灯盤(L)

定格電流 60A (母線サイズ - mm ²)	キャビネット仕様		
その他の構成 付属：圧着端子14 - 6キャップ付	形式	露出・半埋込共用型	
	ボデー	プラスチック (難燃性樹脂)	
備考	カバー	プラスチック (難燃性樹脂)	
	ボデー	ホワイト	マンセル値 N-9.5
	カバー	ホワイト	マンセル値 N-9.5

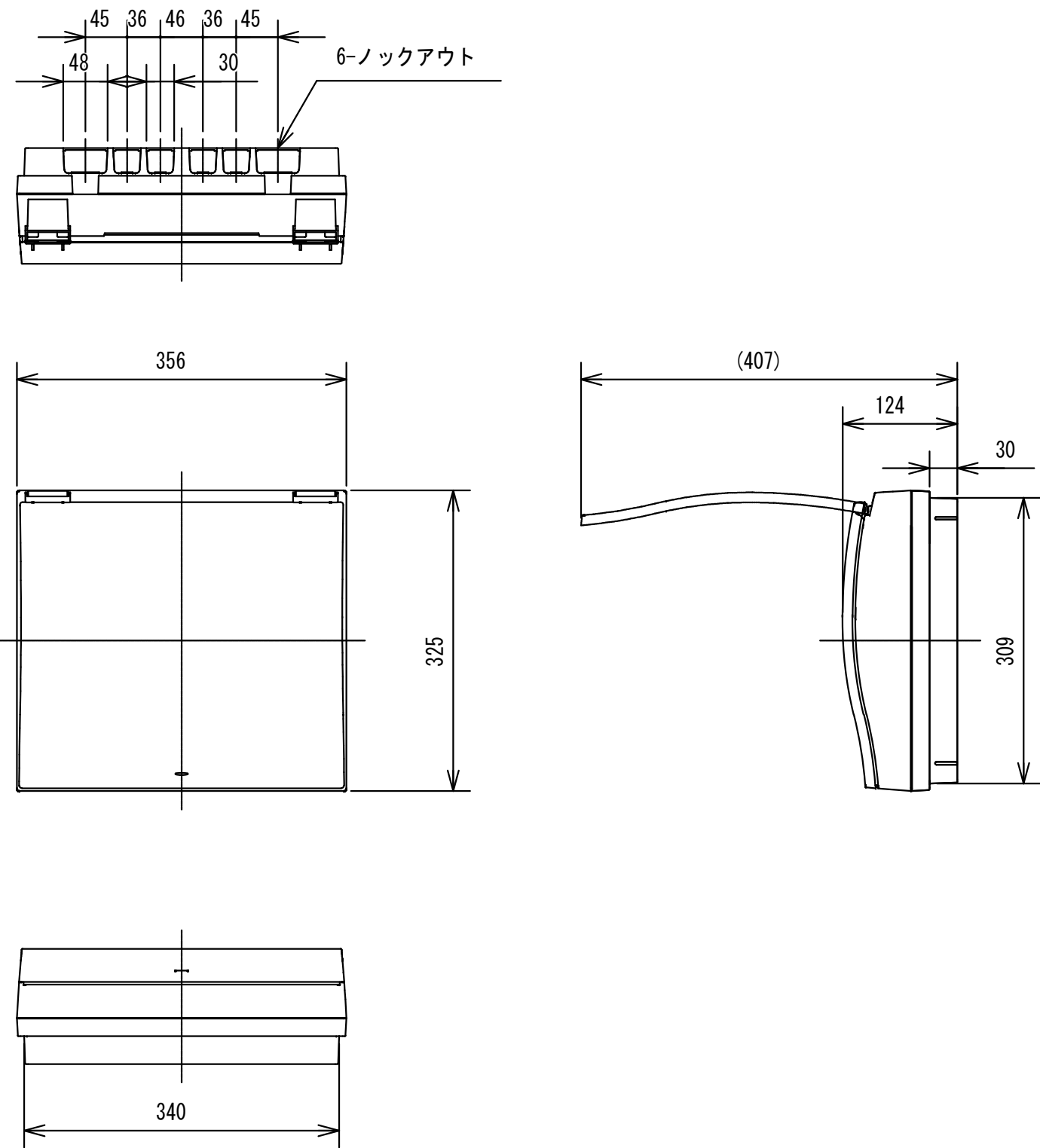


内部構造図 (構造・寸法は参考とする)



主 幹)	ELCB	3P	50AF/50AT	F30mA (中性線欠相保護付)	(GK58W)
分 岐)	PMCB	2P	30AF/20AT	(1E) 100V X 8	(PN31TA)
	PMCB	2P	30AF/20AT	(2E) 100V X 4	(PN32TA)
	PMCB	2P	30AF/20AT	(2E) 200V X 1	(PN32TA)
	PMCB	2P	30AF/30AT	(2E) 200V X 1	(PN32TA) φ2.6単線専用 遠結端子
	PMCB	2P	30AF	スペース	X 2

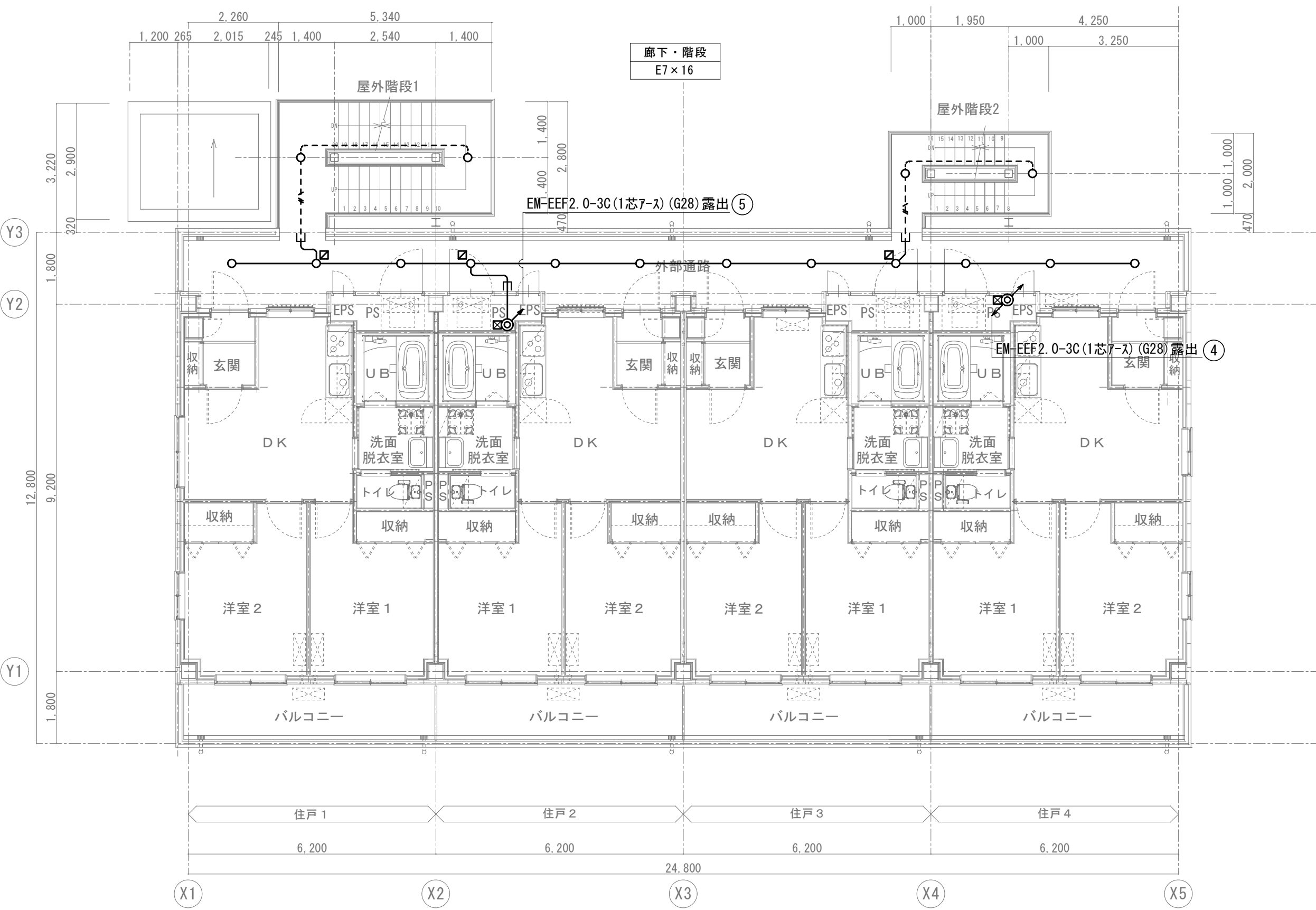
結線図



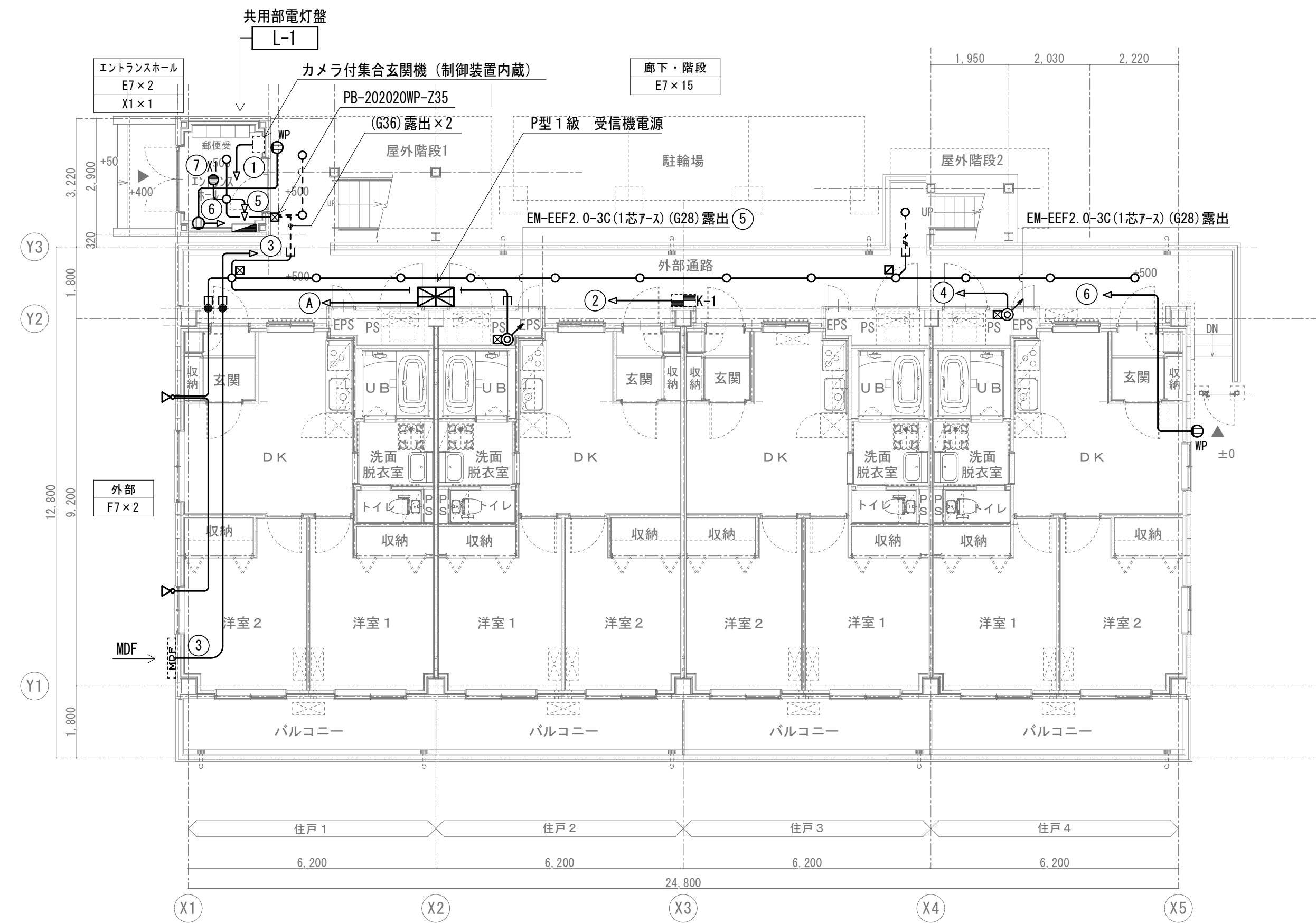
外形図 (構造・寸法は参考とする)

照明器具姿図

※照明器具の消費電力は、JIS C 8105-3の試験方法による			
A	LEDシーリングライト	B	LED流し元灯 壁面取付け形
A8	LED7.3W 625 lm 5000K	B9	LED9.3W 930 lm 5000K
1F～3F 玄関 12台 1F～3F DK 24台 1F～3F 洗面脱衣室 12台 1F～3F トイレ 12台 計 60台		1F～3F キッチン 12台	
東芝：LED687034N-LS 相当品		東芝：LEDB87003N-LS 相当品	
C	LEDシーリングライト 調光・調色	D	LEDミラー灯 天井面・壁面取付け兼用形
C30	LED29.6W 3,699 lm 3000K~6100K ~6畳	D5	LED5.0W 450 lm 3000K
1F～3F DK 12台 1F～3F 洋室1、洋室2 24台 計 49台		1F～3F 脱衣洗面室 12台	
東芝：LEDH8001A01-LC 相当品		東芝：LEDB83016+LDW10SS・L/5/4-01 相当品	
E	LEDシーリングライト	F	ON/OFFセンサー付きLEDスポットライト 壁面取付け専用形
E7	LED7.3W 600 lm 5000K 防湿・防雨	F7	LED8.0W 280 lm 2700K 防雨
1F 廊下・階段 15台 1F エントランスホール 2台 2F 廊下・階段 16台 3F 廊下・階段 16台 計 49台		1F 外部 2台	
東芝：LED687934N (W) -LS 相当品		東芝：LED588900Y (K) M+LDA7L-H-60W/2 相当品	



2階平面図 S.1:100



1階平面図 S.1:100

■ 照明器具姿図 (非常灯)

X1	非常用照明	埋込形 中天井用 φ100	電池内蔵
	消費電力	1.4 W	● 公共施設型番 : K1-LRS11-3

※点検機能付リモコンは必要数納入すること

蓄電池内蔵形・LED光源
リモコン自己点検機能タイプ
非常用照明器具型式評定番号 : LALE-014
本体 : 鋼板・亜鉛めっき鋼板
二種ビニル絶縁電線 架橋ポリエチレン絶縁電線
ニッケル水素蓄電池

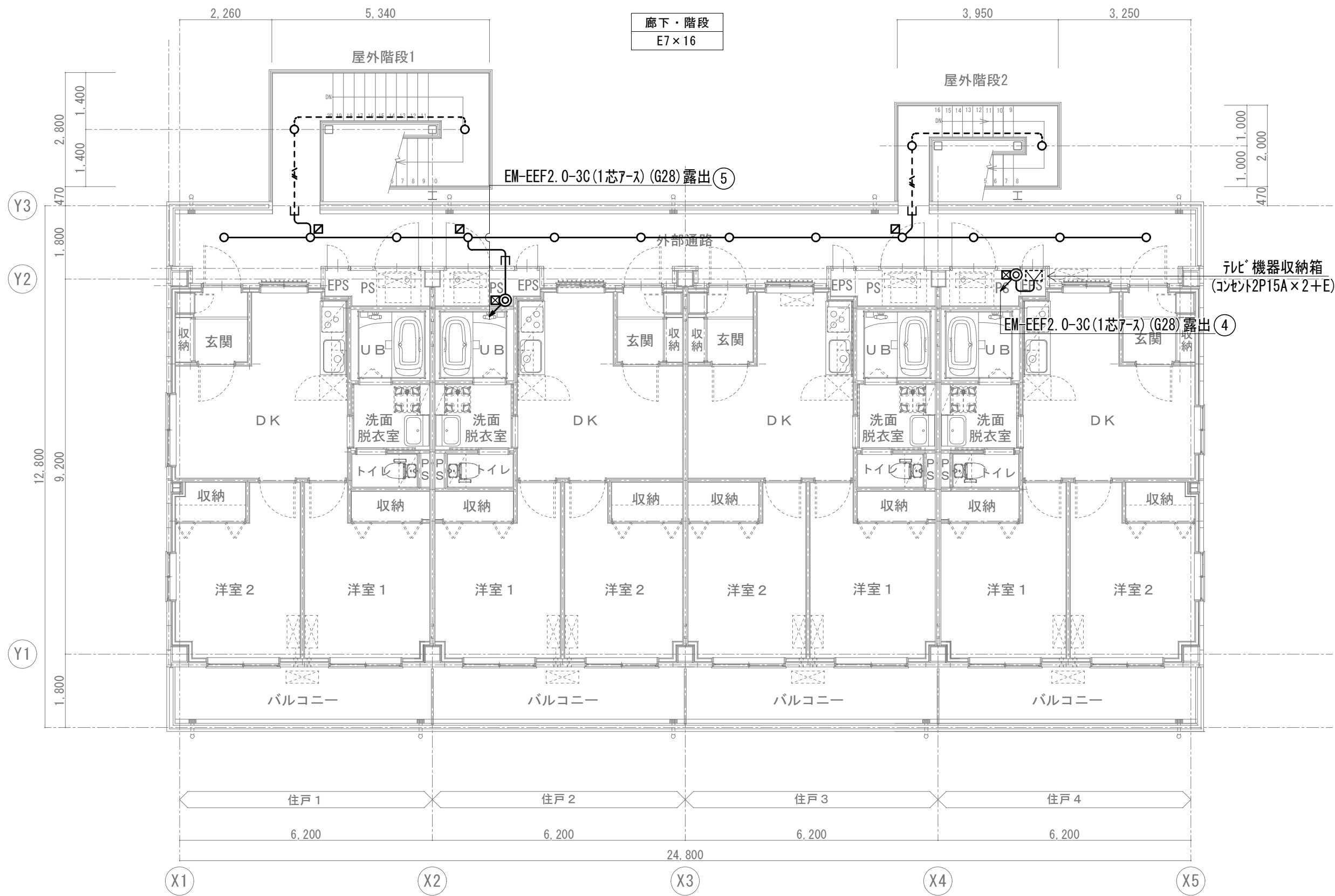
保守率 : 0.93						
器具取付高さ	2.1m	2.4m	2.6m	2.9m	4.0m	5.0m
標準配置	A1	5.6	6.1	6.4	7.0	8.0 8.7

注記) LEDの非常用照明装置は、\$45告示1830号の構造方式に該当しないため
国土交通省大臣認定書を添付すること。

■ 凡例 (電灯設備)			
記 号	名 称	規格寸法	備 考
——	天井隠ぺい配線		
-----	露出管内配線		
	共用部電灯壁		
	アウトレットボックス	中角44 (塗代がー付)	
	ブルボックス	150×150×100	
	その他のブルボックス	PB-XX:幅[cm]、YY:奥行[cm] ZZ:高さ[cm]	WP:防水型 V:ビニル製 Z35:溶融垂れつき仕上
	LEDシーリングライト	姿図参照	
	ON/OFFセンサー付きLEDスポットライト	姿図参照	
	非常灯	姿図参照	

注記) 1. 原則として天井内に使用するジョイントボックスは、配線接続本数が11本以下はOB、
12本を超える場合はブルボックス150×150×100以上を使用する。

■ 配線凡例 (電灯設備 : 一般照明)			
※特記なき配線配管は下記による			
——▶	EM-EEF2. 0-3C	(1芯7-λ)	天井内ころがし／壁立下げ (PF22)
——	EM-EEF2. 0-3C	(1芯7-λ)	天井内ころがし／壁立下げ (PF22)



3階平面図 S.1:100

■ 凡例（電灯設備）			
記 号	名 称	規格寸法	備 考
	天井隠ぺい配線（二重天井内配線）	立下り保護管P管内	
■	住戸電灯盤		
□	アウトレットボックス (OB中)	四角中44 (カバー付き)	
○	LEDシーリングライト	立下り保護管P管内	
○	LEDシーリングライト		
□	流し元灯・ミラー灯		OB中44共
□	換気扇（別途機械設備工事）		
●	スイッチ	1P15A (表示ランプ付き)	OB中44共
●	スイッチ	3W15A (表示ランプ付き)	OB中44共
●	スイッチ	1P15A (表示ランプ付き) × 2	OB中44共

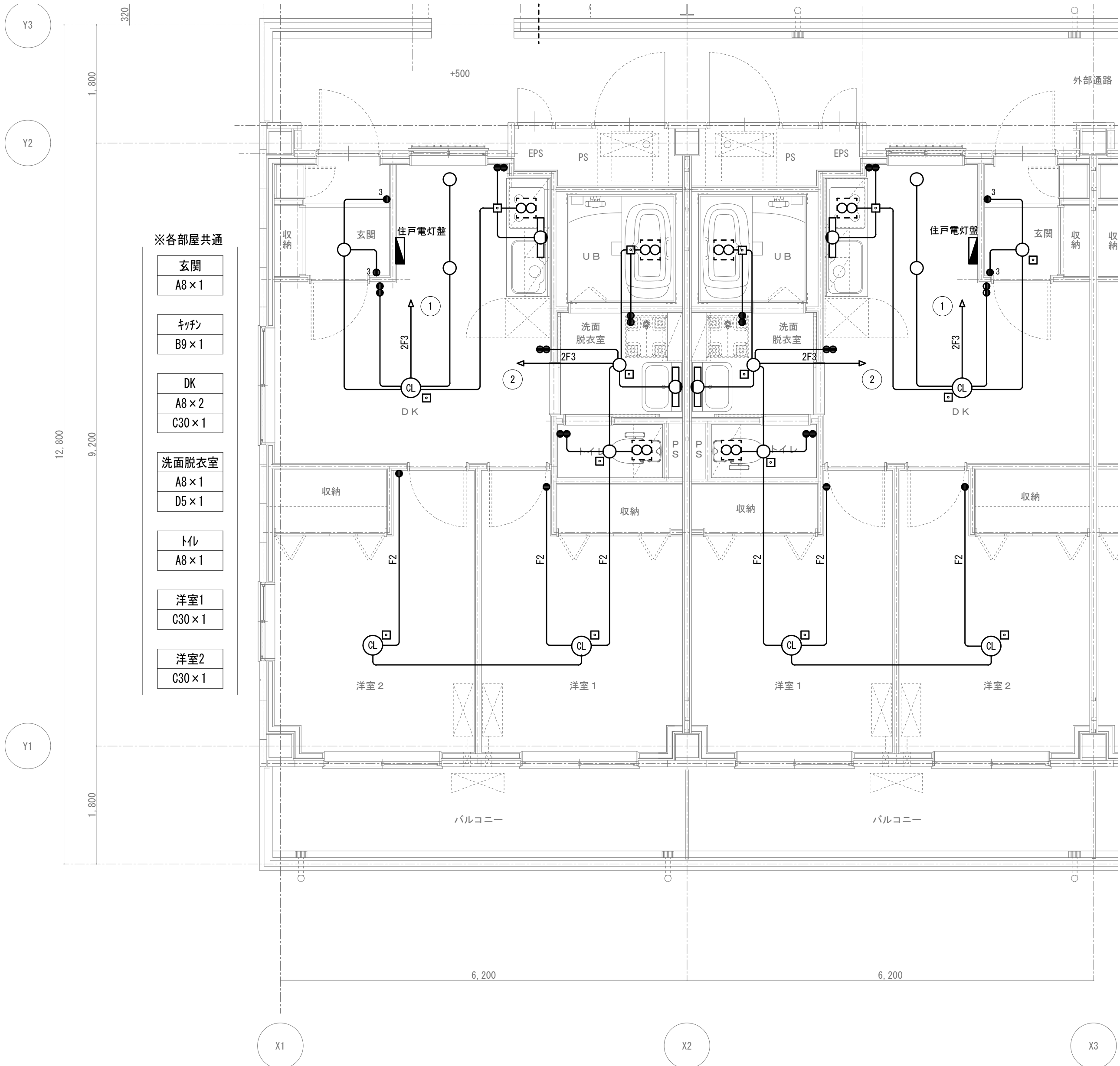
注記）
・記載なき記号は標準図による。
・壁に取付ける配線器具の裏ボックスはアウトレットボックス（四角中浅44（金属製））を使用する。
・露出するブルボックス類は指定色塗装仕上げとする。

■配線凡例（電灯設備）			
※特記なき配線配管は下記による			
→	EM-EEF2. 0-3C	(1芯7-ス)	天井内ころがし／壁立下げ (PF22)
→	EM-EEF1. 6-3C	(1芯7-ス)	天井内ころがし／壁立下げ (PF22)

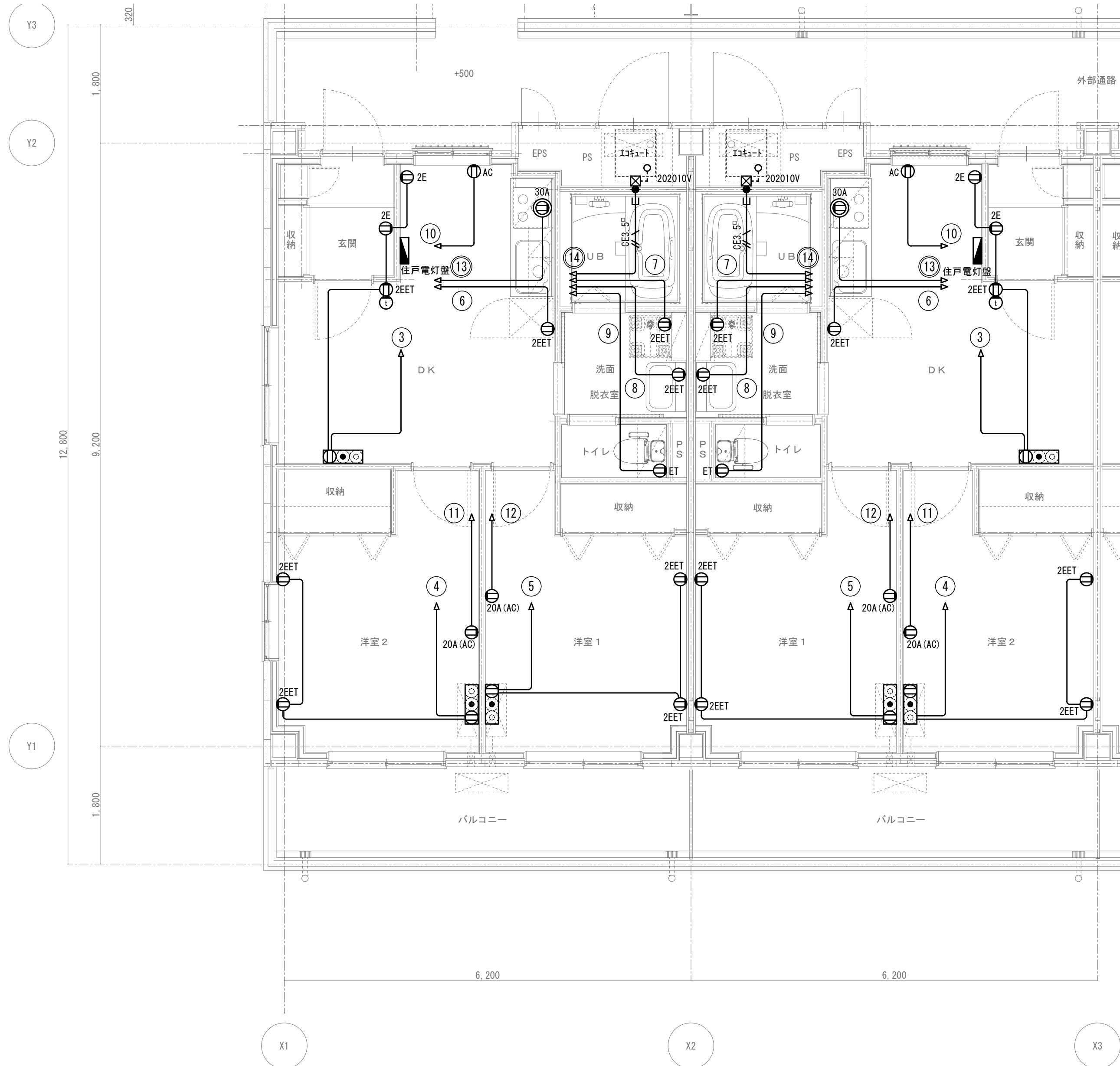
■ 凡例（コンセント設備）			
記 号	名 称	規格寸法	備 考
	天井隠ぺい配線（二重天井内配線）	立下り保護管P管内	
-----	露出管内配線		
-----	隠ぺい配線から配管内へ		
■	住戸電灯盤		
□	ブルボックス	200×200×200	塗装共
□	その他のブルボックス	XX: [cm], YY: [cm], ZZ [cm]	WP: 防水、V: ビニル製 255: 汚損箇所めっき塗装仕上げ
□	アウトレットボックス (OB中)	四角中44 (カバー付き)	
Ⓢ	壁コンセント	2P15AE×2+ET (プレート共)	OB中44共
Ⓢ	壁コンセント	2P15AE×2 (プレート共)	OB中44共
Ⓢ	壁コンセント	2P15AE (引掛) (プレート共)	OB中44共
Ⓢ	壁コンセント	2P20AE (引掛) (プレート共)	OB中44共
Ⓢ	露出コンセント	2P30AE (プレート共)	OB中44共
Ⓢ	防水壁コンセント	2P15AE×2+ET (プレート共)	OB中44共
Ⓢ	壁マルチコンセント	2P15AE×2+ET (プレート共)	専用ボックス
Ⓢ	モニター付き親機	インターホン設備参照	

注記）
・記載なき記号は標準図による。
・壁に取付ける配線器具の裏ボックスはアウトレットボックス（四角中浅44）を使用する。
・露出するブルボックス類は指定色塗装仕上げとする。
・外壁側に取り付けるコンセントボックスは、結露防止ボックスとする。

■配線凡例（コンセント設備）			
※特記なき配線配管は下記による			
→	EM-EEF2. 0-3C	(1芯7-ス)	天井内ころがし／壁立下げ (PF22)
→	EM-EEF2. 0-3C	(1芯7-ス)	天井内ころがし／壁立下げ (PF22)
→	EM-CE3. 5 [□] -3C	(1芯7-ス)	天井内ころがし／(G28)



電灯設備住戸内平面図 S=1:50



コンセント設備住戸内平面図 S=1:50

■凡例 弱電引込

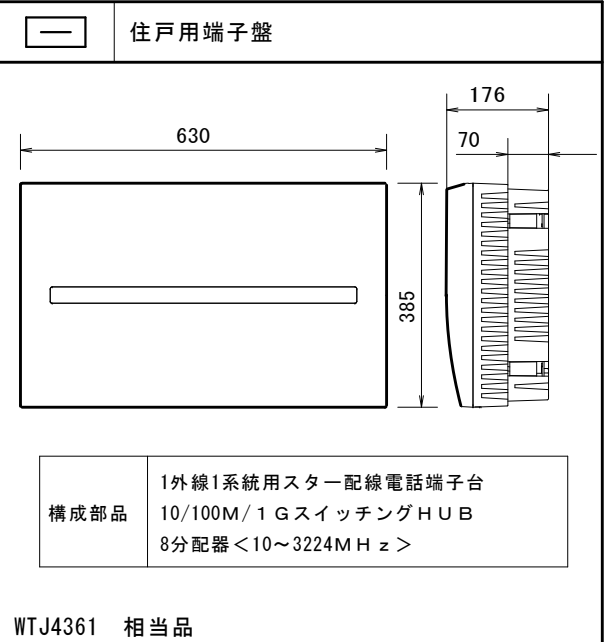
記 号	名 称	規格寸法
MDF	弱電引込主端子盤(MDF)	
	住戸用端子盤(マルチメディアポート)	機器姿図参照
	テレビ機器収納函	増幅器収納(3階のみ)
	接地工事	接地測定板(黄銅製)共
	ハンドホール	国土交通省仕様

■特記なき配線配管は下記による

記号	配 線	配線保護
E14	EM-IE14sq	(PF22)隠ぺい／(FEP30)地中
C	弱電引込用空配管(導入線共)	(PF22)隠ぺい・土間／(G22)EPS内
CC	弱電引込用空配管(導入線共)	[(PF22)隠ぺい・土間／(G22)EPS内] × 2
◆	防火区画貫通処理	認定工法
E	配管突出	

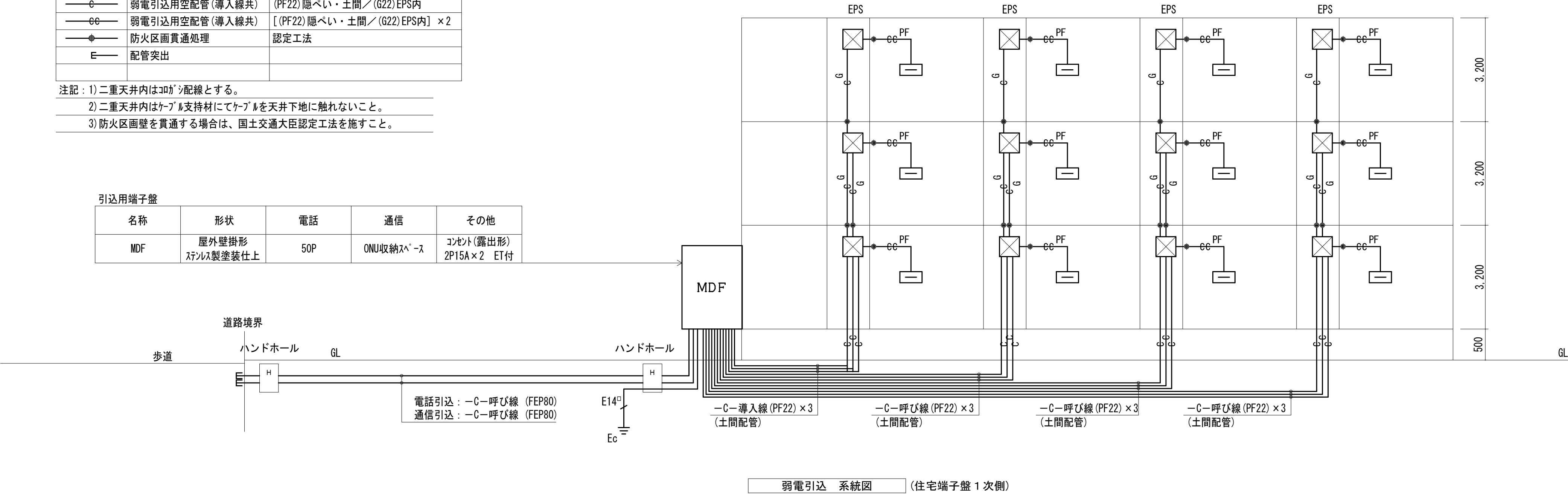
注記：1) 二重天井内はコナシ配線とする。
2) 二重天井内はケーブル支持材にてケーブルを天井下地に触れないこと。
3) 防火区画壁を貫通する場合は、国土交通大臣認定工法を施すこと。

■凡機器姿図



引込用端子盤

名称	形状	電話	通信	その他
MDF	屋外壁掛形 ステン製塗装仕上	50P	ONU収納スペース	コンセント(露出形) 2P15A×2 ET付



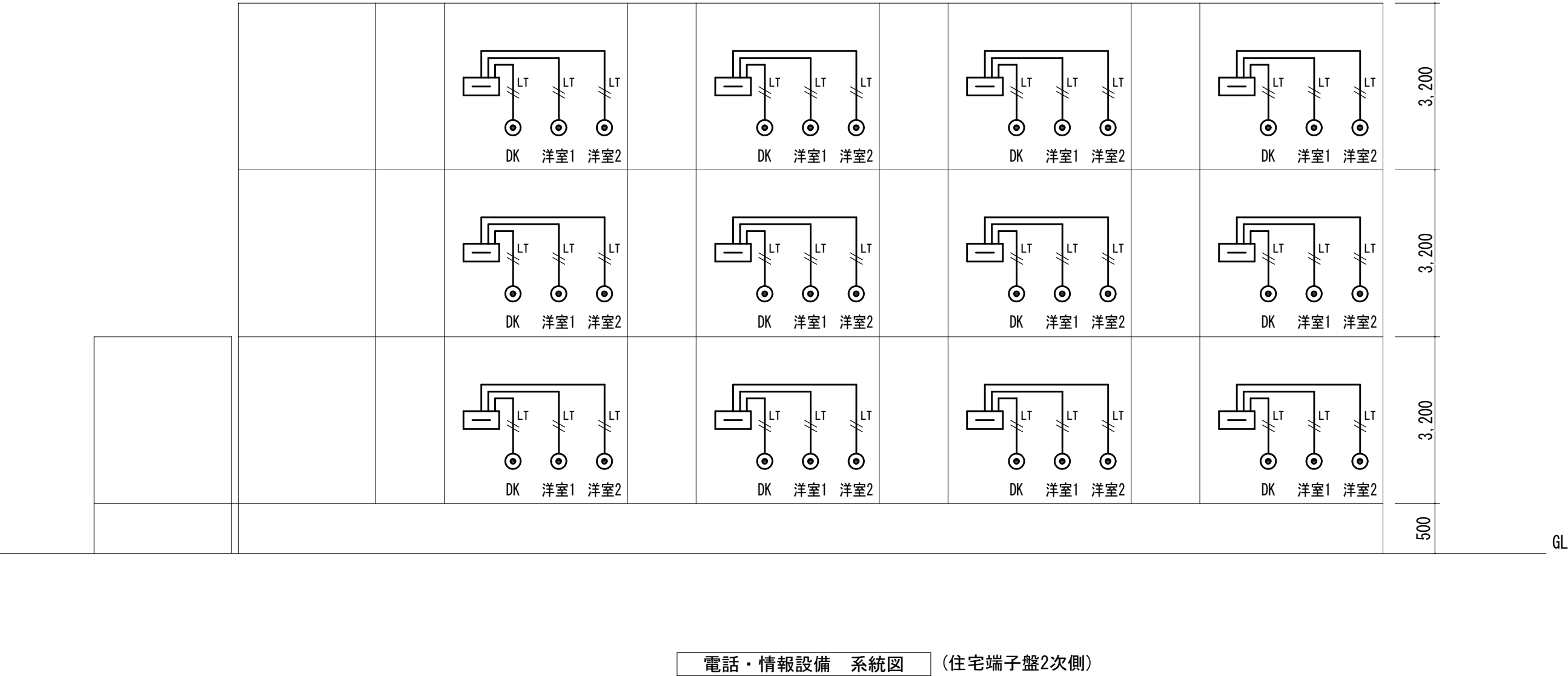
弱電引込 系統図 (住宅端子盤1次側)

■凡例 電話設備、情報設備

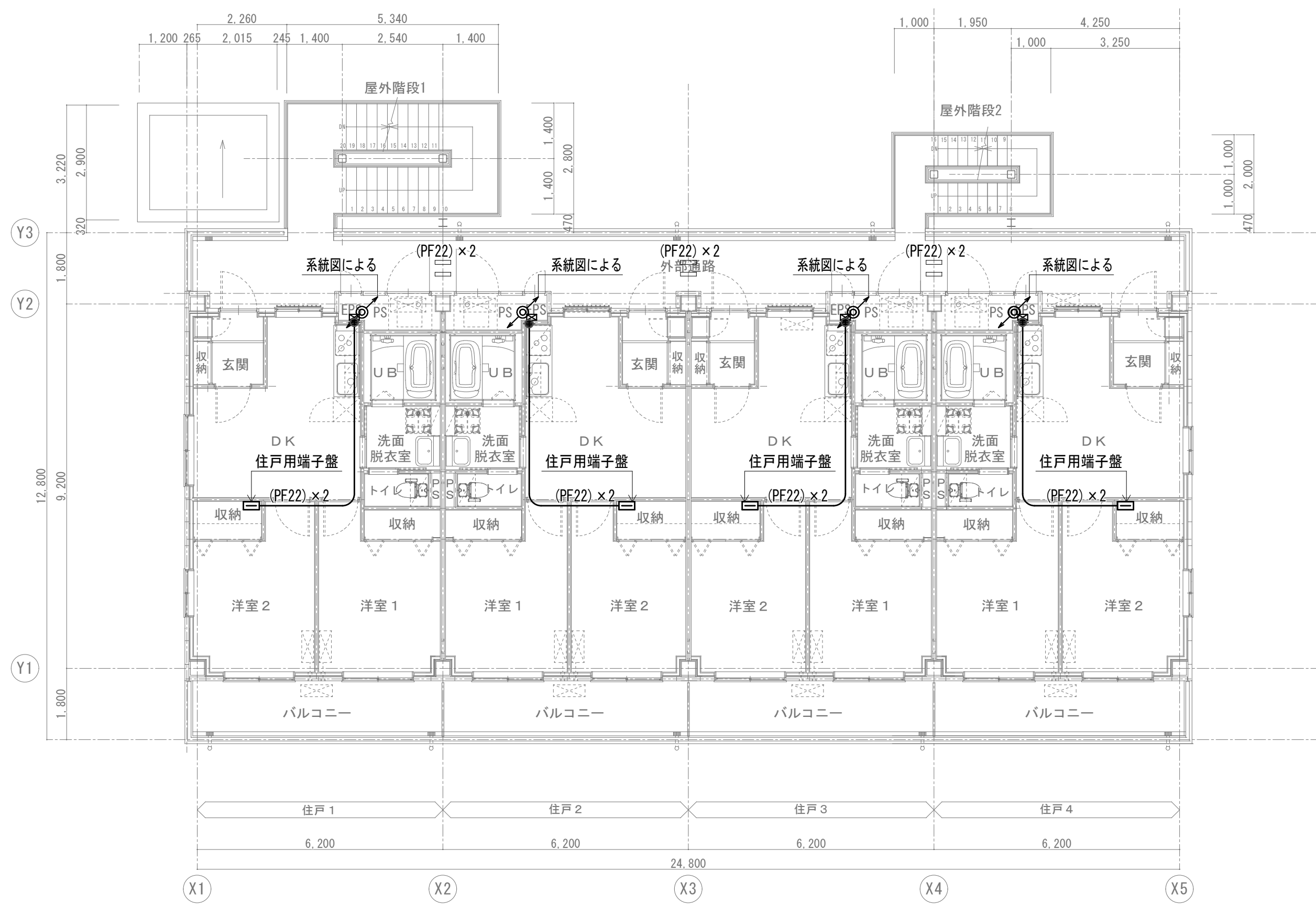
記 号	名 称	規格寸法
	住戸用端子盤(マルチメディアポート)	機器姿図参照
	壁付複合アウトレット(3連プレート共)	2P15AE×2+ET/TV1端子/LAN・TEL

■特記なき配線配管は下記による

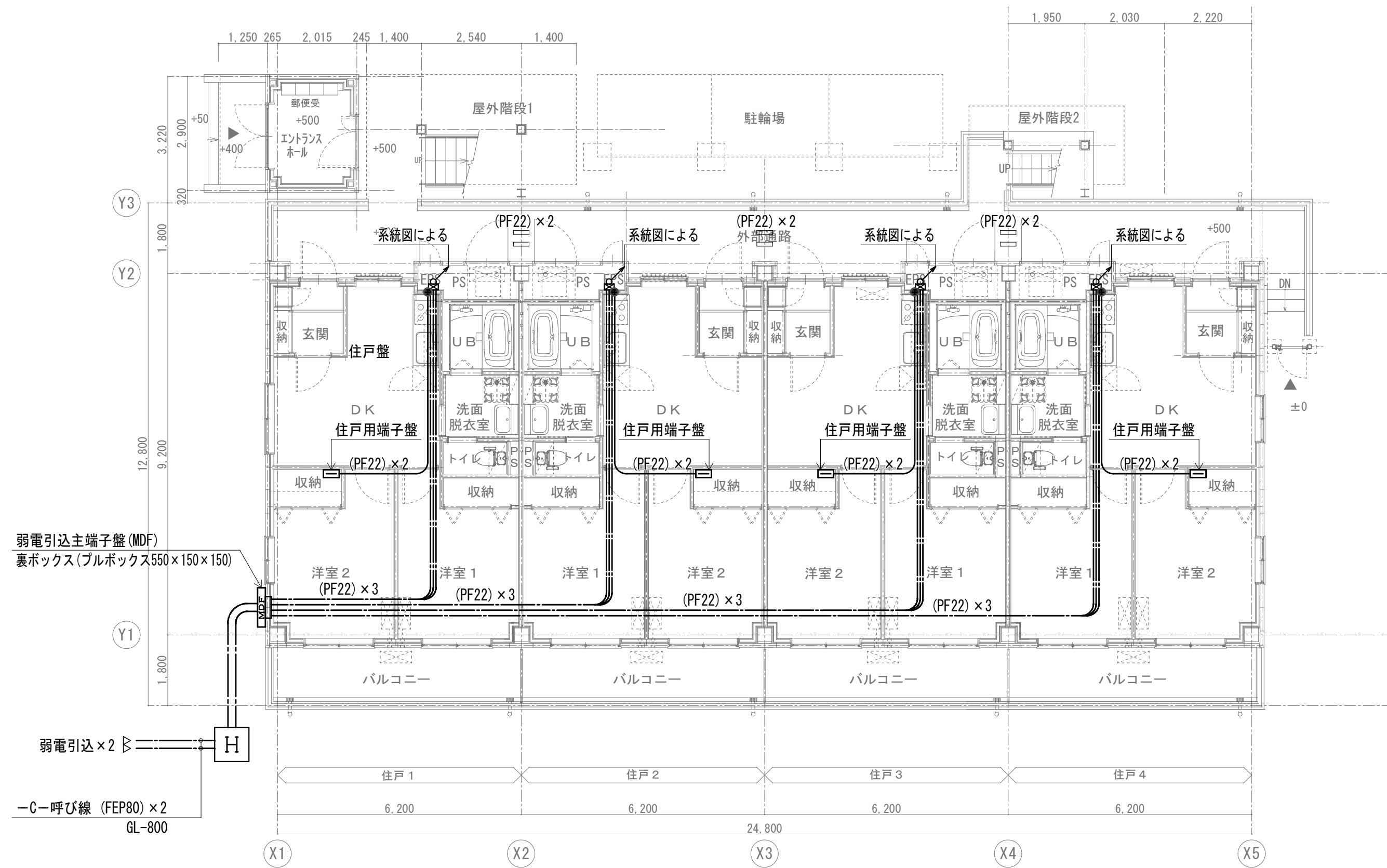
記号	配 線	配線保護
LT	EM-EBT0.5-2P+EM-UTP0.5-4P(Cat6)	天井内ころがし／壁立上げ(PF22)



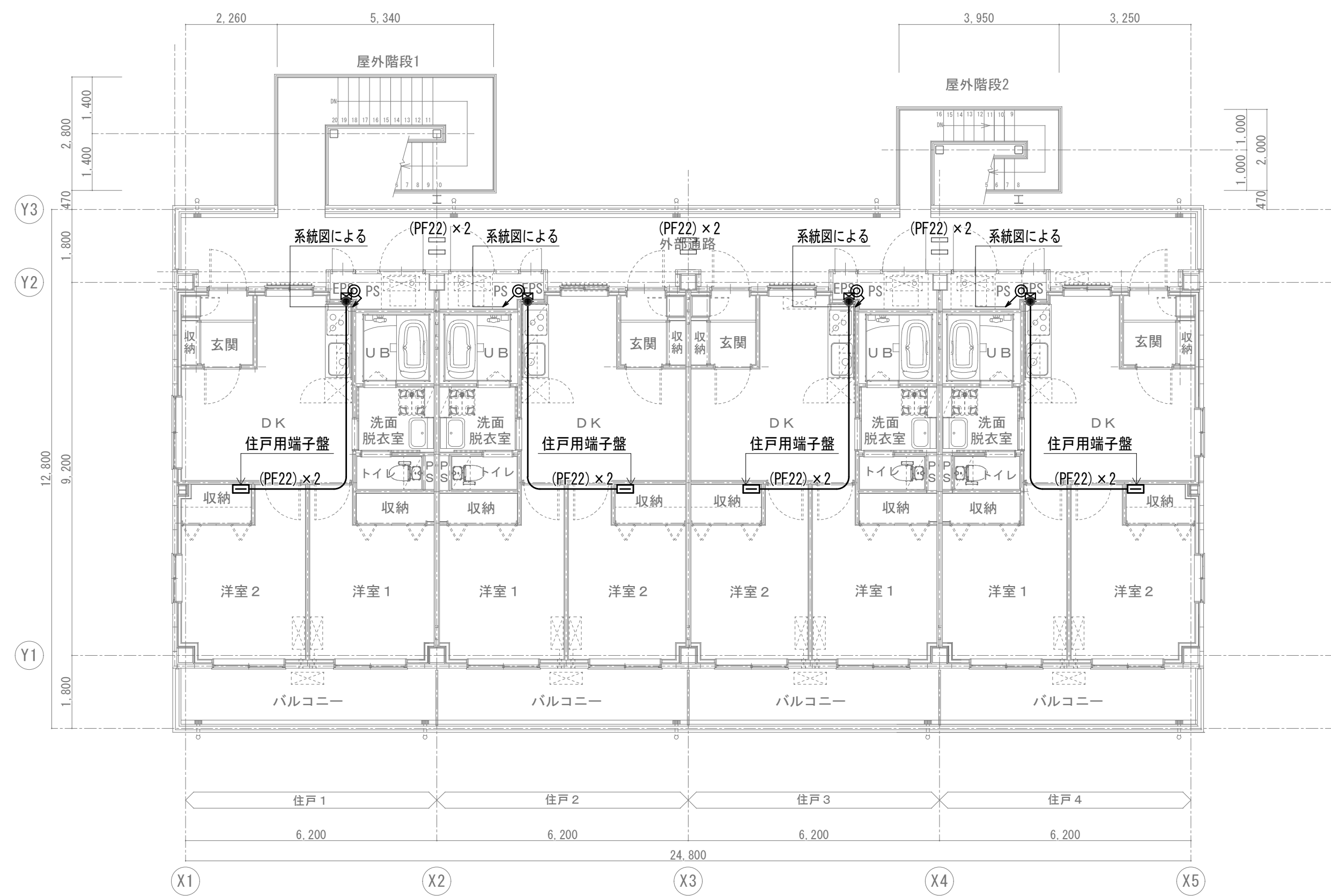
電話・情報設備 系統図 (住宅端子盤2次側)



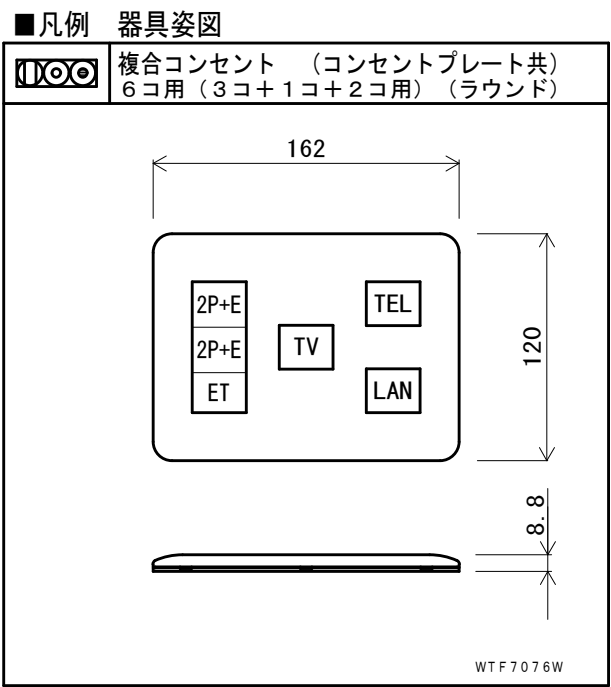
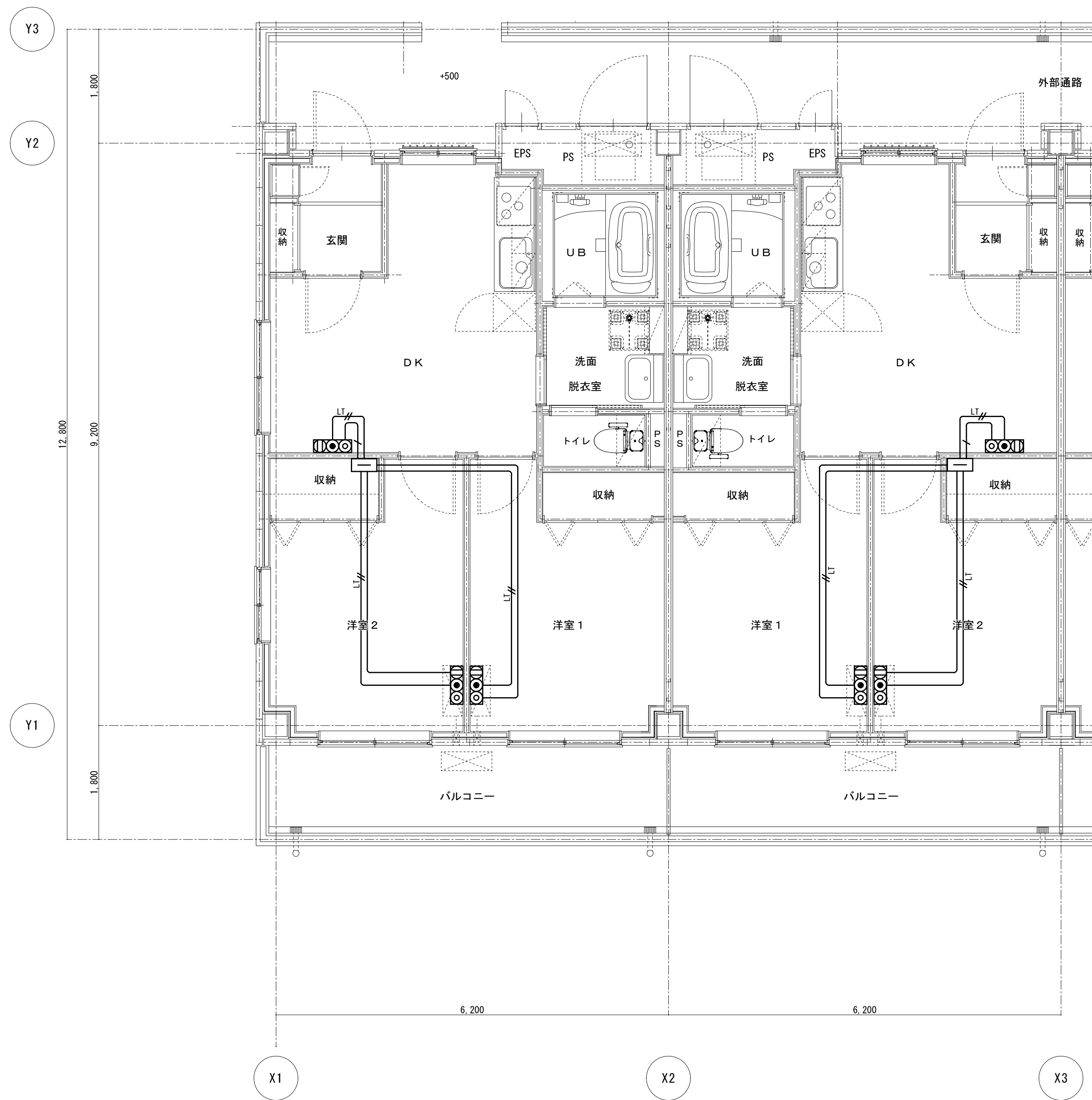
2階平面図 S.1:100



1階平面図 S.1:100



3階平面図 S.1:100

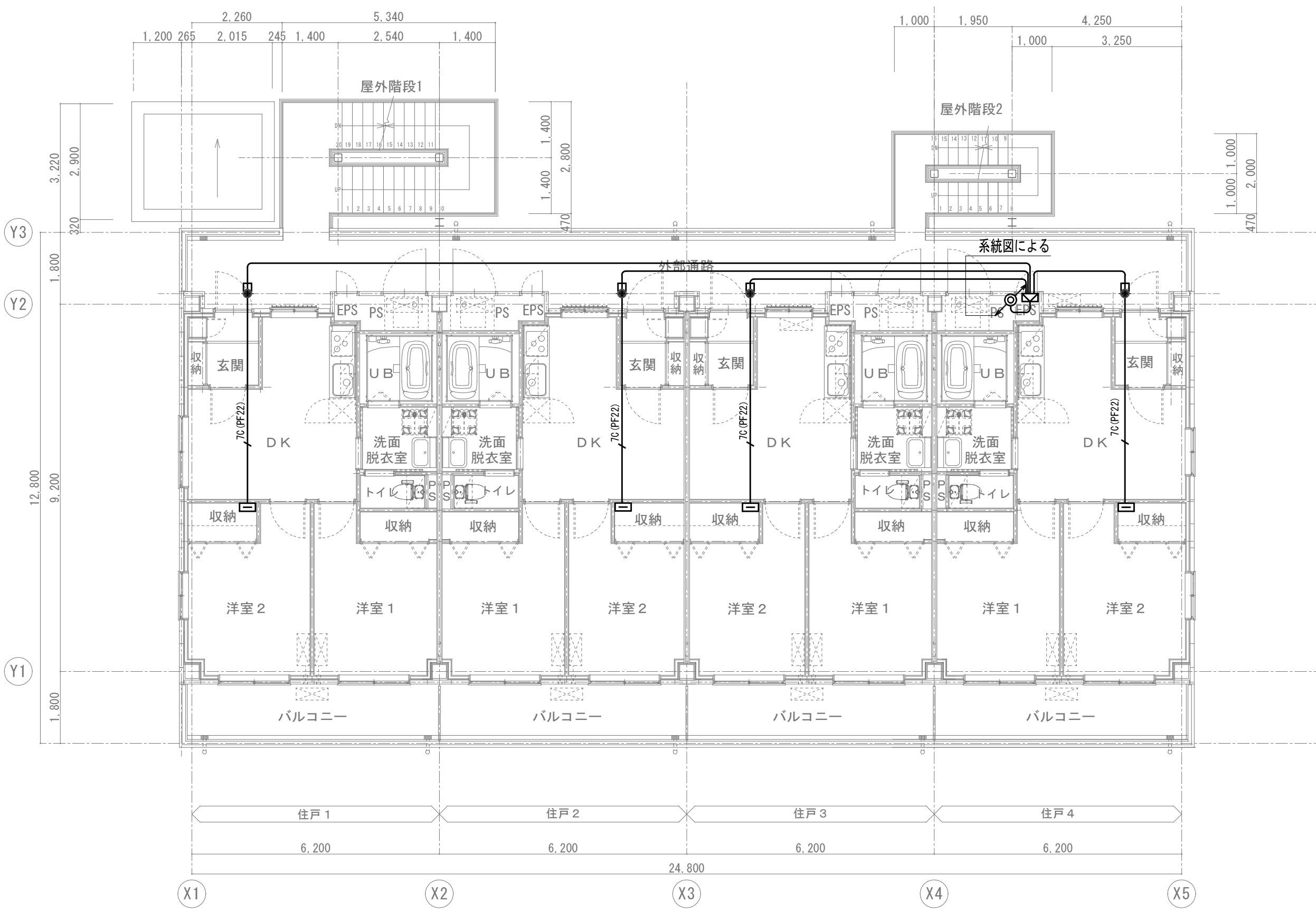


■特記なき配線配管は下記による

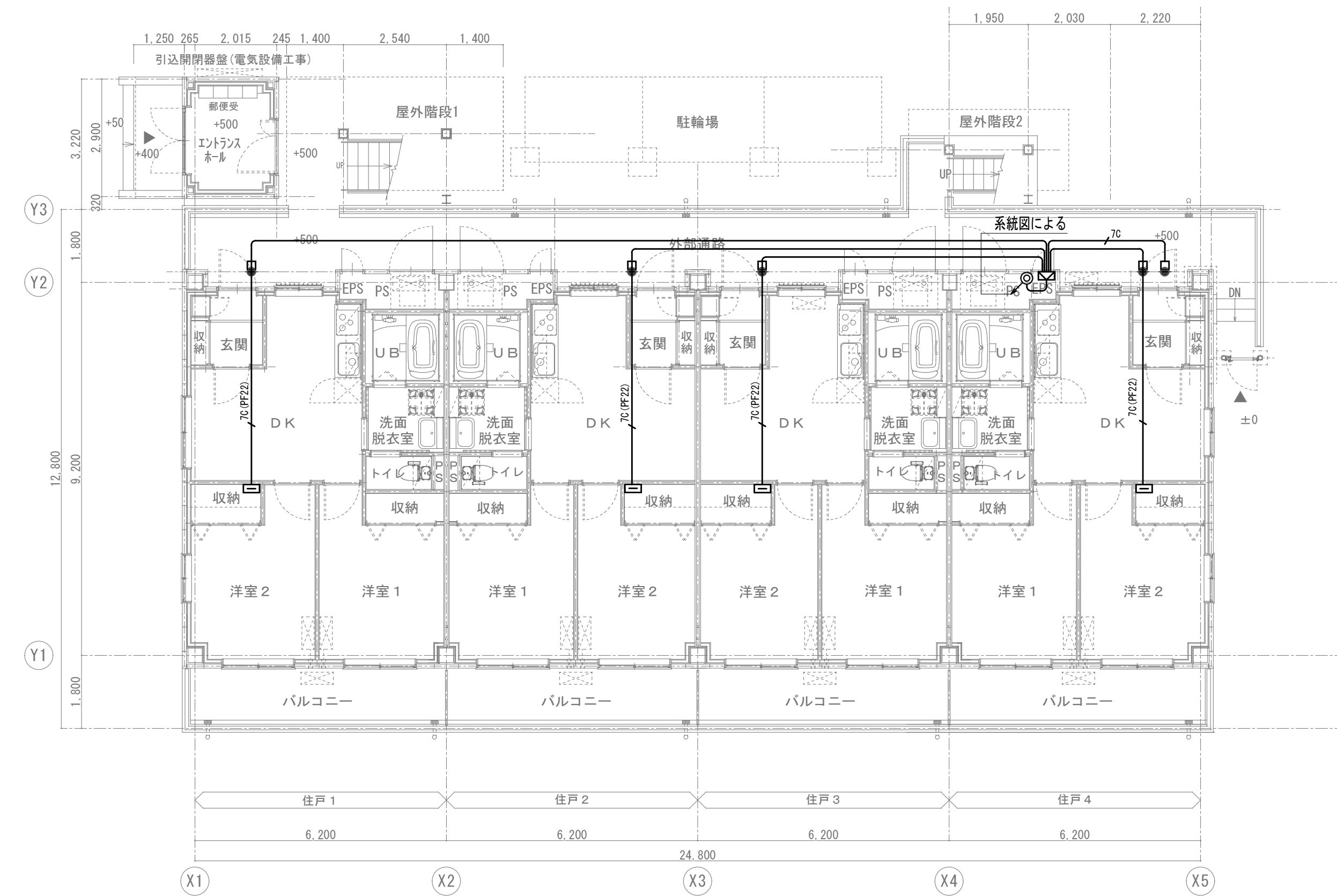
記号	配線	配線保護
EM-EB10, 5-2P+EM-UTP0, 5-4P (Cat6)	天井内ころがし／壁立下げ (PF22)	
EM-S-5C-FB	天井内ころがし／壁立下げ (PF22)	

※コンセント配線は、電灯コンセント設備図による。

電話、情報設備 住戸内平面図 S=1:50



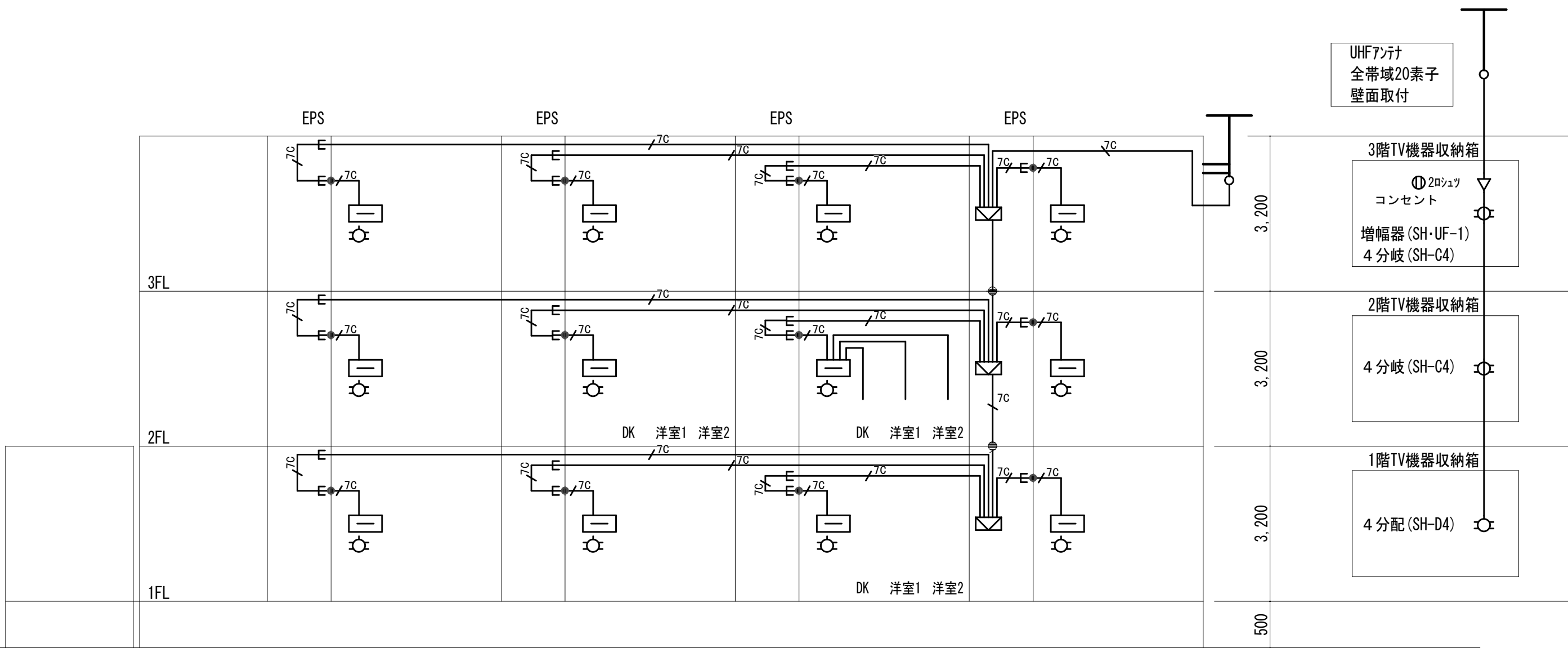
2階平面図 S.1:100



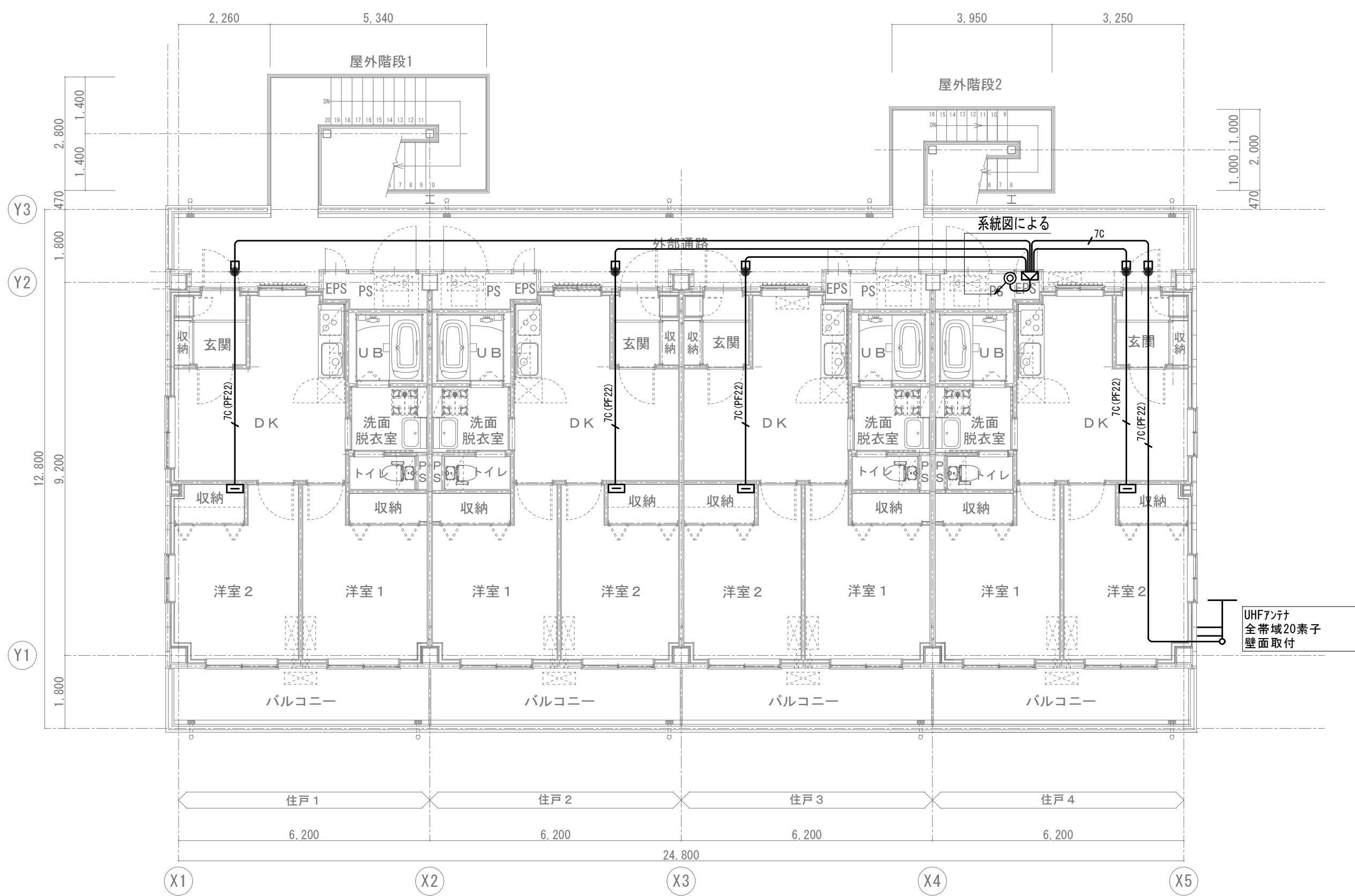
1階平面図 S.1:100

■凡例 テレビ共同受信設備		
記号	名称	規格寸法
□	住戸用端子盤(マルチメディアポート)	機器姿図参照
⊠	テレビ機器収納函	増幅器収納(3階のみ)
▽	線路増幅器(テレビブースター)	SH-UF-1
◇	分岐器	SH-C4 4分岐
①2B/27	コンセント	2P15A×2・接地極付、D27

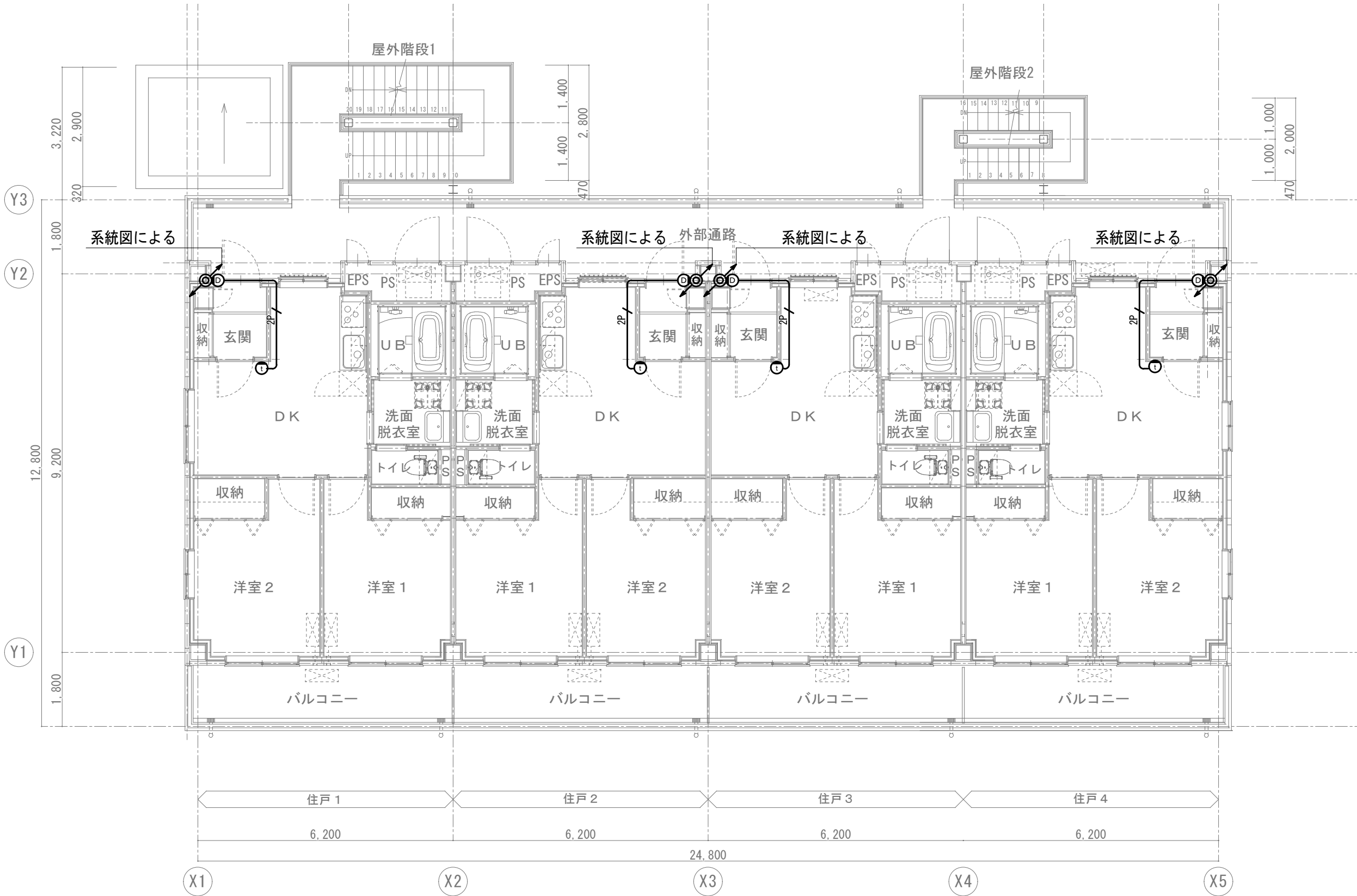
■特記なき配線配管は下記による		
記号	配線	配線保護
—	EM-S-5C-FB	天井内ころがし／壁立下げ(PF22)
—7C	EM-S-7C-FB	天井内ころがし／壁立下げ(PF22)



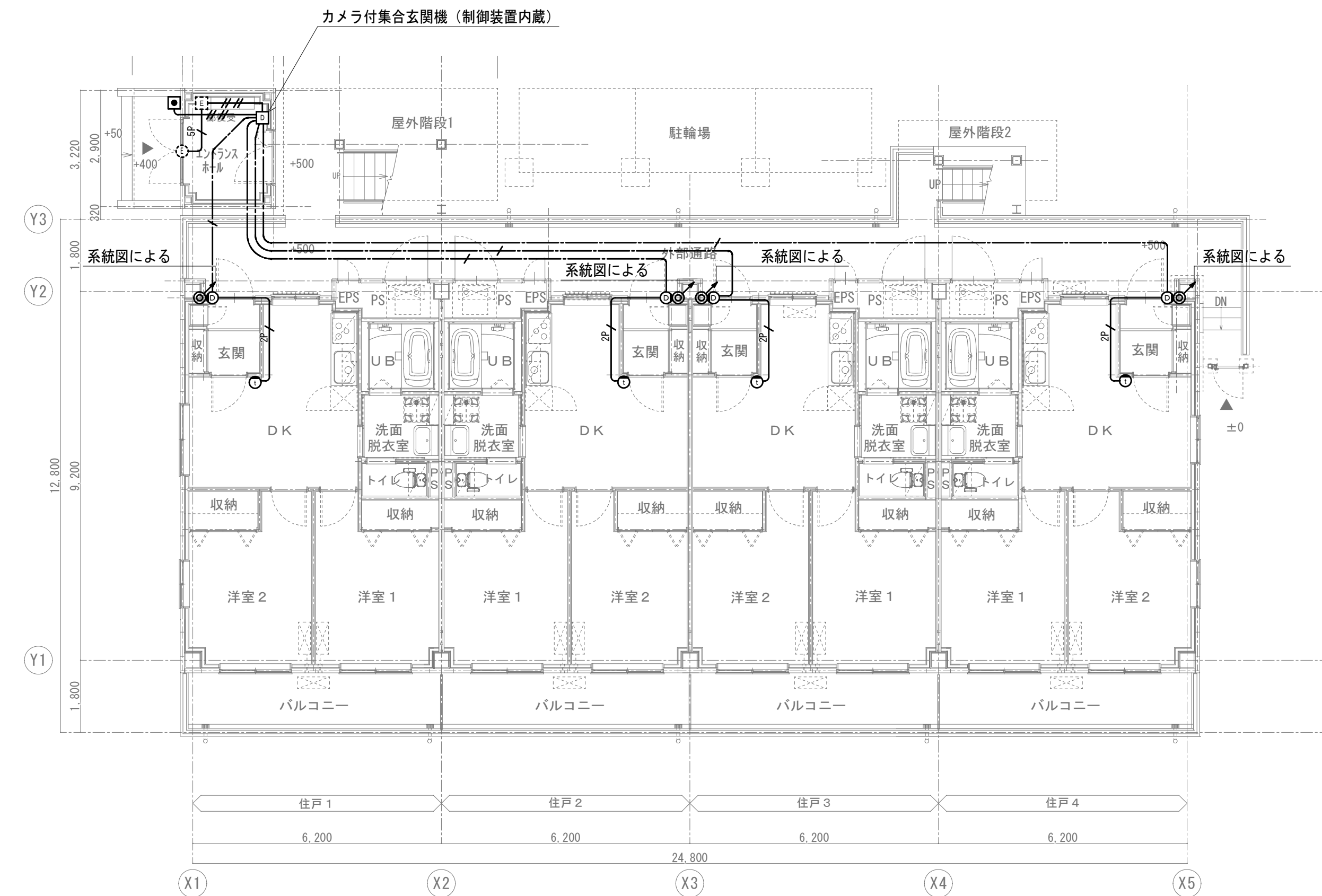
テレビ共同受信設備 系統図 (住宅端子盤2次側)



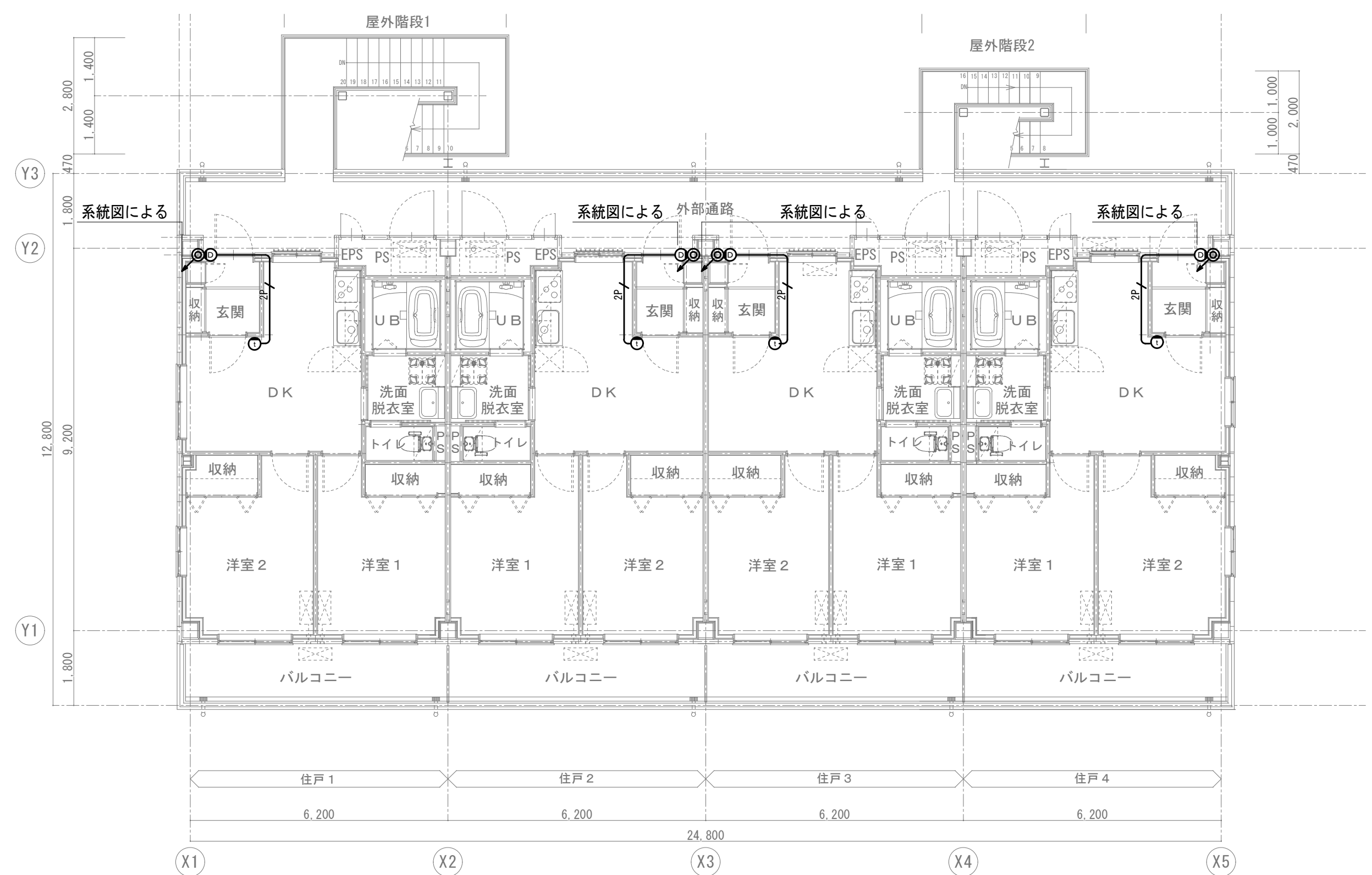
3階平面図 S.1:100



2階平面図 S.1:100



1階平面図 S.1:100



3階平面図 S.1:100

■ 機器姿図

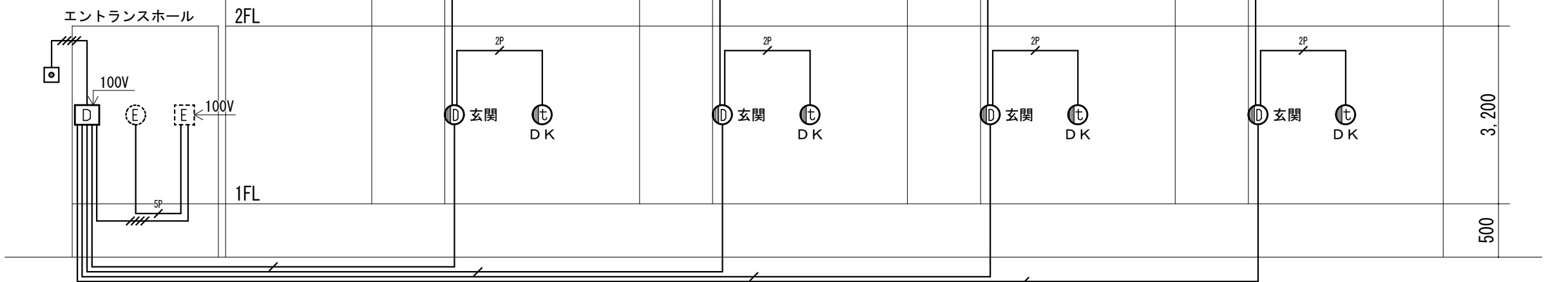
D	カメラ付集合玄関機（制御装置内蔵）	①	カメラ付玄関機	□	非常時解錠押ボタン	①	モニター付親機（録画機能付）
	GBX-DLMUA GBX-4XA-NT GBW-3035P-K 350 300 20 80 機能一覧 1. セキュリティ（非常）・・・有り 2. セキュリティ（火災）・・・無し 3. セキュリティ（ガス）・・・無し 4. セキュリティ（防犯）・・・無し 5. セキュリティ（コール）・・・無し 6. セキュリティ移報・・・無し 7. 集合玄関機通知キー・・・逆ひか 8. 宅配着荷表示・・・無し 9. 管理室親機・・・無し 10. 住戸玄関カメラ・・・有り 11. 室内干機・・・無し 12. 来客録画・・・有り		GB-DA 132 100 38.5 電源電圧 モニター付親機から供給 形 状 壁掛け型（JIS1専用スイッチボックス） 材 質 自己消火性樹脂 カメラ 1/4型カラーCMOS 通話方式 自動双方向通話 備 考 防塵・防まつ形（JIS C 0920 IP54 相当） 住戸アダプター内蔵		JEC-B-119 PW 120 70 12 形 状 埋込形（JIS1専用スイッチボックス） 材 質 樹脂・合金 接点定格 AC250V 6A 備 考 ロック式、引き戻し復帰		GEM-2M7 155 210 26.8 電源電圧 AC100V 50/60Hz モニター 7型TFTカラー液晶 通話方式 音声自動双方向通話/ブレストーク通話 通話方式 1.98Hz TDM-A/NB（時分割多元接続方式） 録画機能 自動・手動録画、再生、保護 形 状 壁掛け型（JIS3専用スイッチボックス+セパレーター） 材 質 本体：自己消火性樹脂、静電スイッチ部：ガラス

■ 凡例 インターホン設備

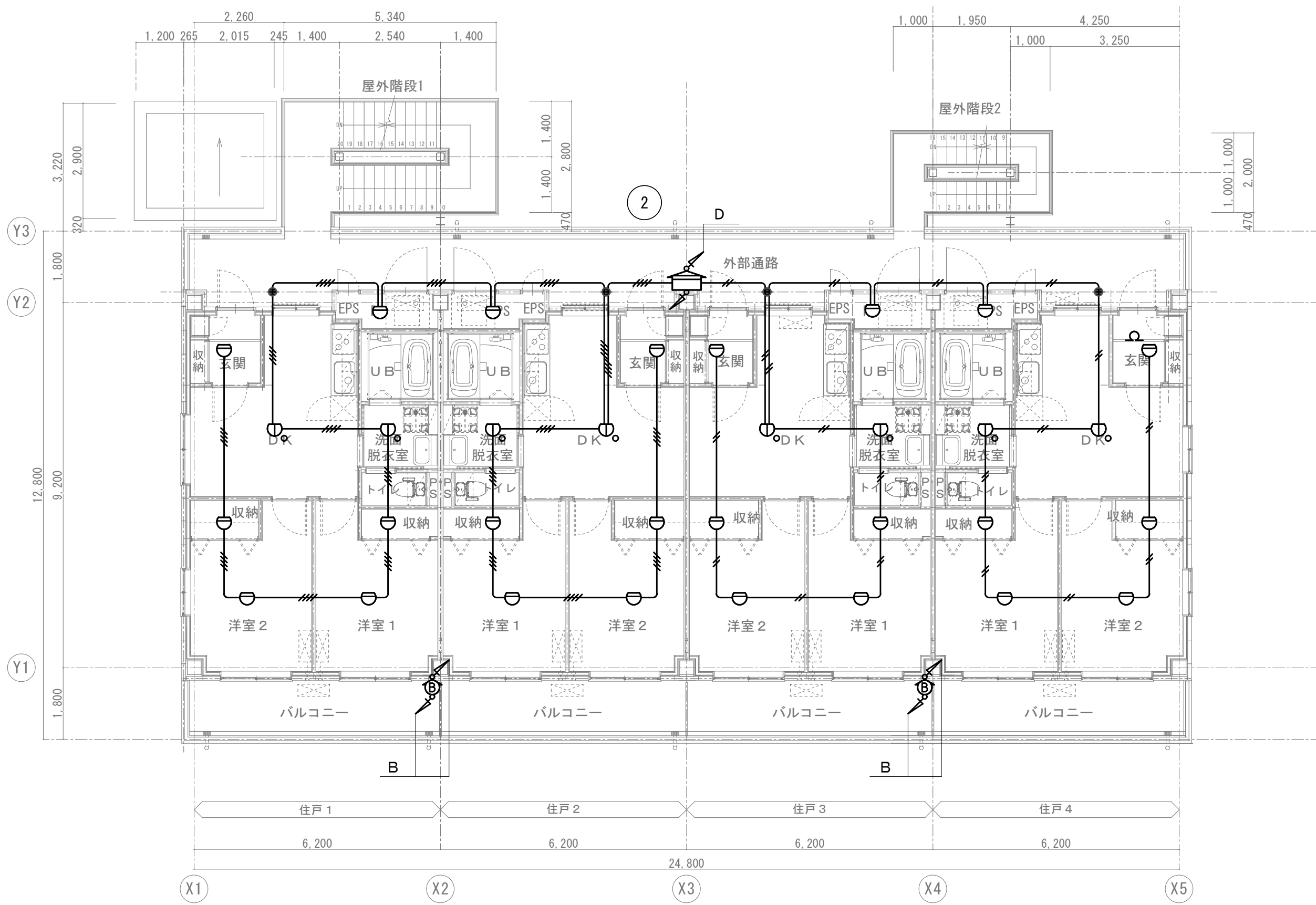
記 号	名 称	規格寸法
— — —	地中埋設管内配線	
— — —	天井壁内隠ぺい配線	壁内・露出部分は配管で保護する
Ⓔ	電気錠制御盤（建築工事）	
Ⓔ	電気錠（建築工事）	

■ 特記なき配線配管は下記による

記号	配 線	配線保護
— — —	EM-AEO. 9-4C	天井内ころがし／壁立下げ (PF16)
— — —	EM-FCPEEO. 9-1P	天井内ころがし／壁立下げ (PF16)
— — —	EM-FCPEEO. 9-2P	天井内ころがし／壁立下げ (PF16)
— — —	EM-FCPEEO. 9-5P	天井内ころがし／壁立下げ (PF22)
— — —	EM-FCPEEO. 9-1P	土間 (PF22)



インターホン設備 系統図

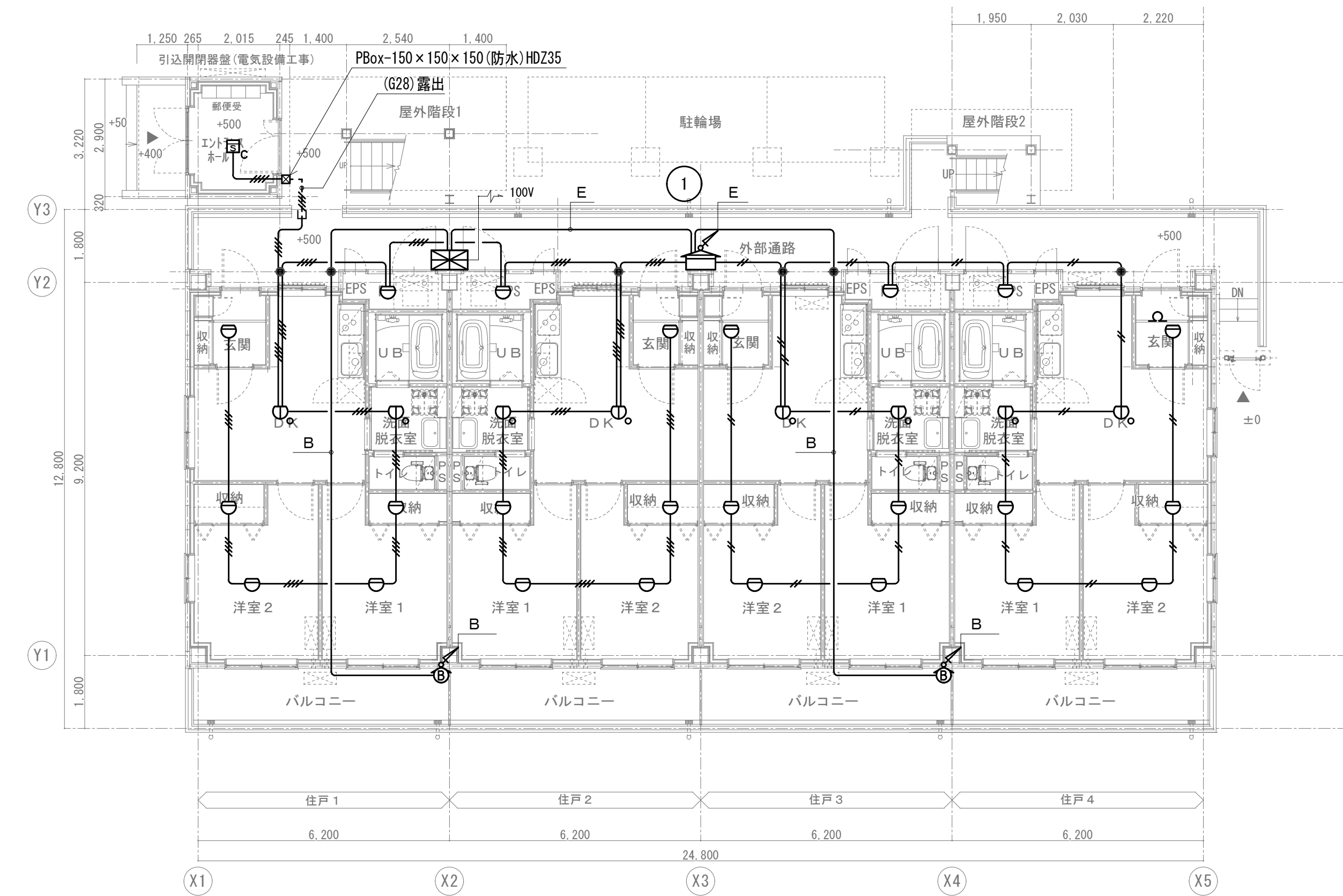


2階平面図 S.1:100

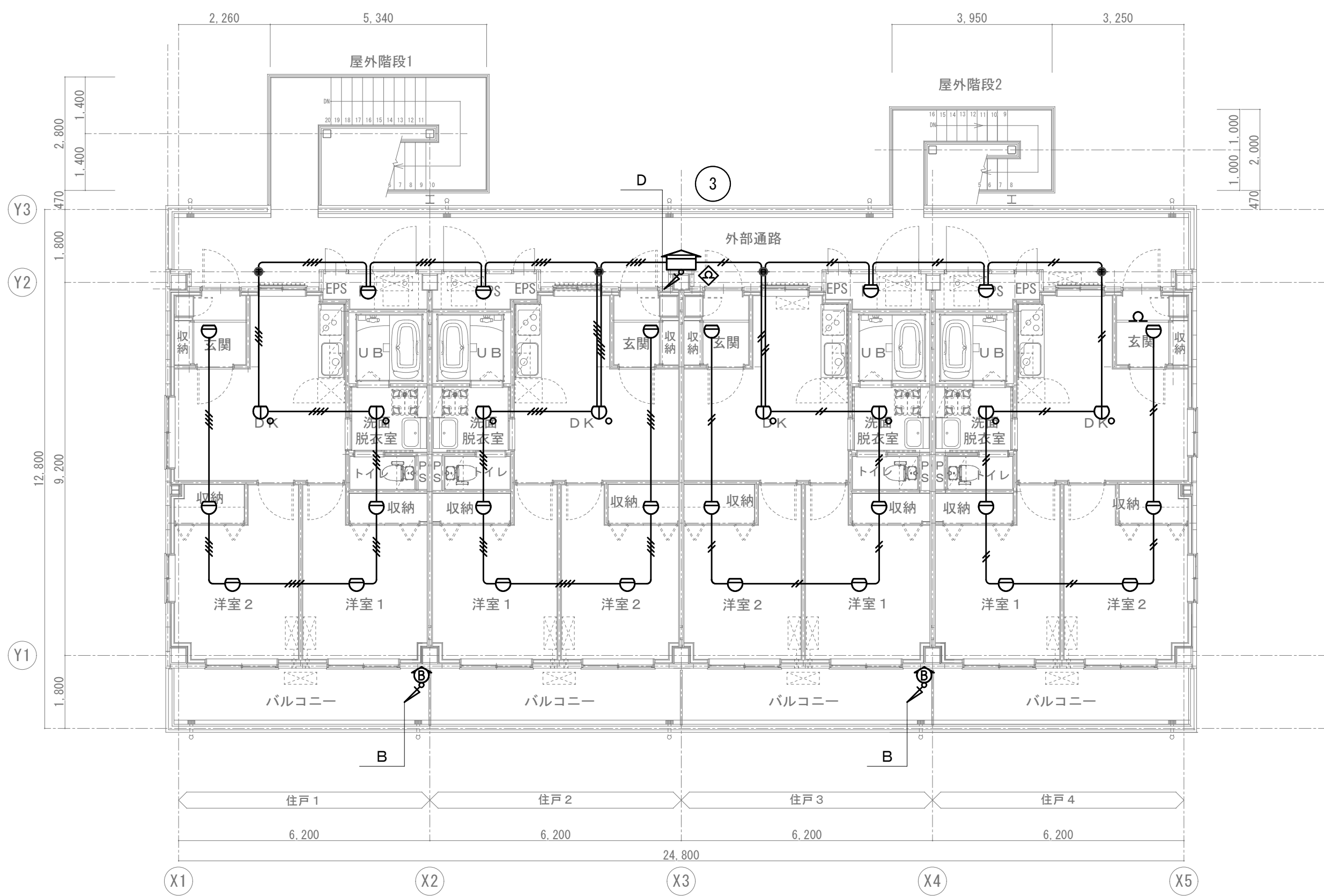
■特記なき配線配管は下記による

記号	配線	配線保護
—	EM-AE0.9-2C	天井内ころがし／壁立下げ(PF16)
—	EM-AE0.9-4C	天井内ころがし／壁立下げ(PF16)
- - -	EM-AE0.9-4C	(G28)露出
B	EM-HP0.9-4C	天井内ころがし／壁立下げ(PF16)
D	EM-HP0.9-5P	天井内ころがし／壁立下げ(E25)
E	EM-HP0.9-10P	天井内ころがし／壁立下げ(E25)

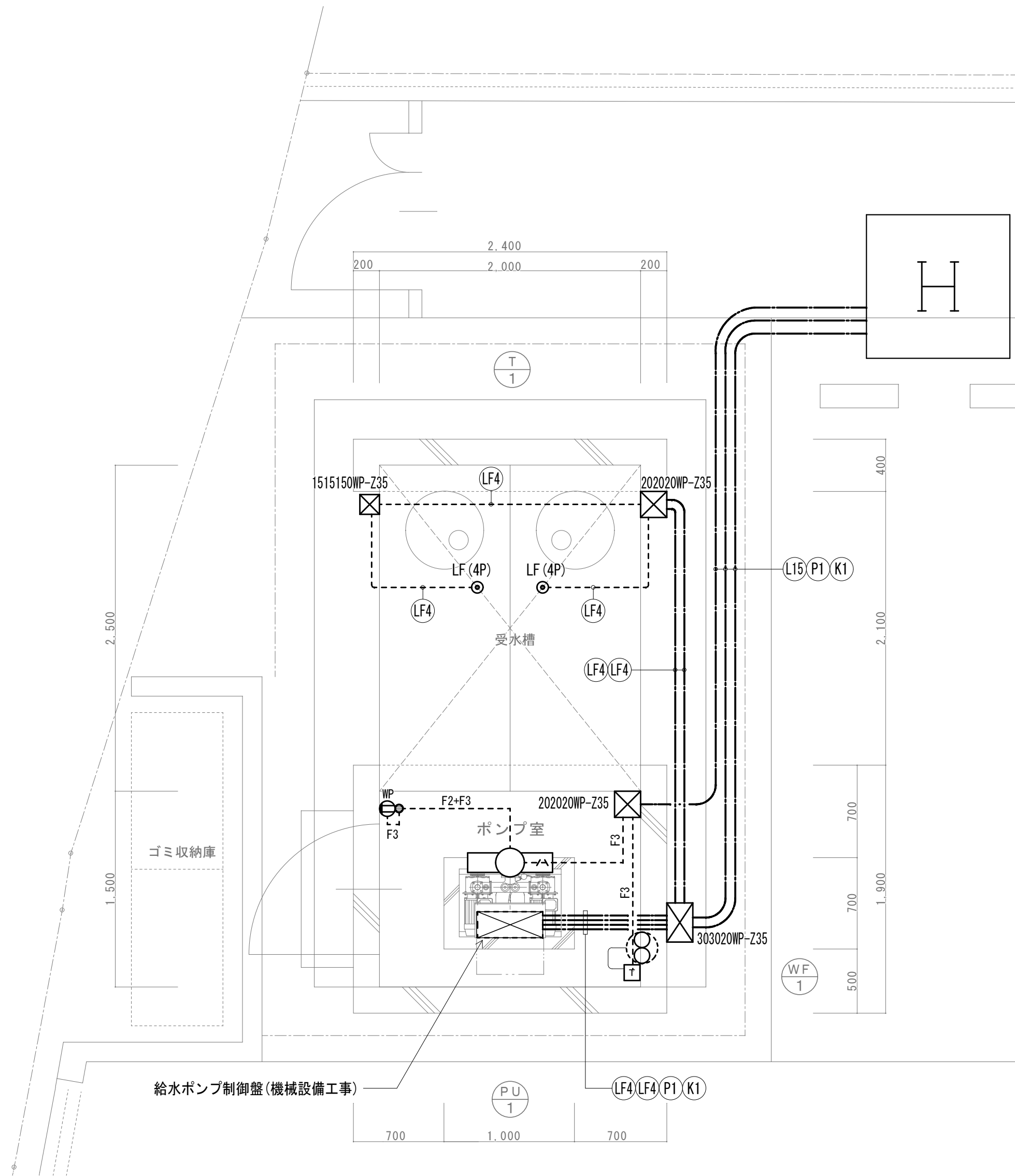
注記) 二重天井内ころがし配線とする。



1階平面図 S.1:100



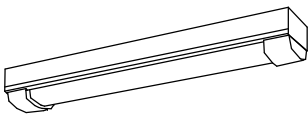
3階平面図 S.1:100



ポンプ室 平面図 S=1:30

LEDベースライト 直付型20形 防湿型・防雨型

公共施設型番：LSS1MP/RP-2-07
消費電力：6.0W



一般タイプ、8001mタイプ
定格出力型、電圧100～242V
本体：ステンレス（高反射白色粉体塗装）
防湿型・防雨型ライトバー：ポリカーボネート（乳白）＋アクリルコーティング
光源寿命40000時間（光束維持率85%）
IP23防湿型、昼白色（5000K）、Ra83
電源装置はライトバー側に内蔵

■凡例 インターホン設備			
記 号	名 称	規格寸法	
——	地中埋設管内配線		
-----	露出配管内配線	壁内・露出部分は配管で保護する	
⌘	給水ポンプ制御盤		(機械設備支給品)
⊙ LF (4P)	電極セット	電極4P	(機械設備支給品)
⌘	照明器具	器具姿図	
⌘ XXYYZZ	ブルボックス	XX:[cm], YY:[cm], ZZ[cm]	WP:防水、V:ビニル製 Z35:溶融重合めっき仕上げ
Ⓛ 2EET	壁コンセント	2P15AE×2+ET (プレート共)	露出スイッチボックス1方出
⦿	防水壁スイッチ	1P15A	露出スイッチボックス2方出

■特記なき配線配管は下記による			
記号	配 線	接地	配線保護
----- F3	EM-EEF1.6-3C	(1芯7-ス)	(G28) 露出
----- F2+F3	EM-EEF1.6-3C + 2C	(1芯7-ス)	(G28) 露出
(P1)	EM-OE8 ² -3C	E5.5 ²	(G42) 露出／(FEP50) 地中GL-600
(K1)	EM-OE2 ² -3C	—	(G22) 露出／(FEP30) 地中GL-600
(L15)	EM-OE5.5 ² -3C	(1芯7-ス)	(G28) 露出／(FEP30) 地中GL-600
(LF4)	EM-OEE2 ² -4C		(G22) 露出／(FEP30) 地中GL-600

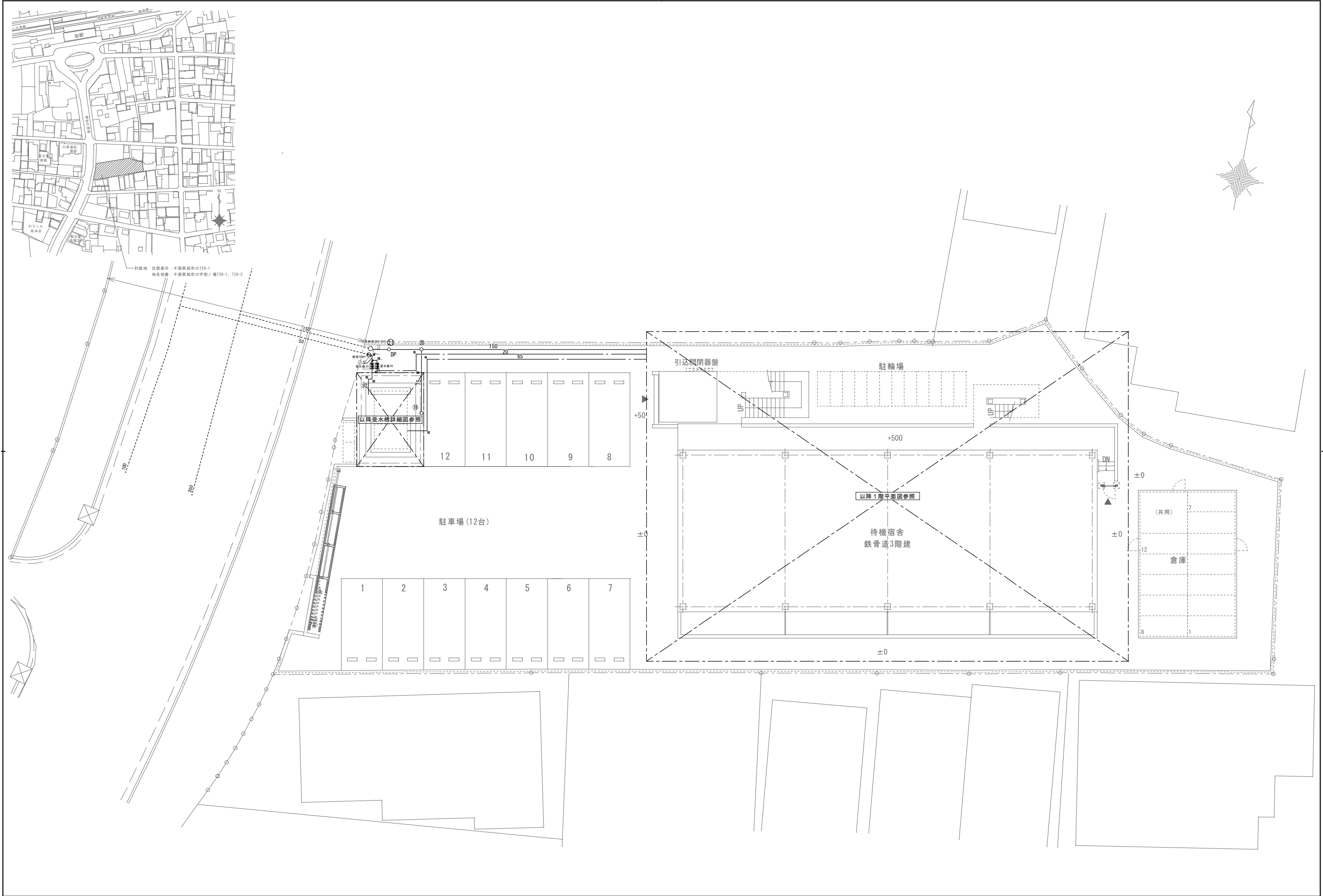
旭第二宿舎建設工事

図面番号	図面名称	縮尺		図面番号	図面名称	縮尺	
		A 1	A 3			A 1	A 3
M-00	図面リスト	—	—	M-11	給排水設備 2階3階平面詳細図	1:50	1:100
M-01	機械設備工事特記仕様書 (1)	—	—	M-12	受水槽詳細図	1:30	1:60
M-02	機械設備工事特記仕様書 (2)	—	—	M-13	換気設備 平面詳細図	1:50	1:100
M-03	機械設備工事特記仕様書 (3)	—	—	M-14	計装設備 1階平面詳細図	1:50	1:100
M-04	案内図・配置図	1:100	1:200	M-15	計装設備 2階3階平面詳細図	1:50	1:100
M-05	凡例 樹リスト	—	—				
M-06	機器表	—	—				
M-07	器具表	—	—				
M-08	給排水設備 系統図	—	—				
M-09	給排水設備 1階～3階平面図	1:100	1:200				
M-10	給排水設備 1階平面詳細図	1:50	1:100				

[illegible]

[illegible]

表－2 保温工事仕様		* 適用する保温区分（●印の付いたものを適用し、○印のものは適用しない。）									
区 分	項 目	施 工 箇 所	保 温 材			保 温 仕 様			外 装 材		
給排水衛生設備配管	給水管		GW	RW	PSF					ｶﾞｰ・SUS・AL	
	給水管・通気管	室内露出（一般居室、廊下）	●	○	○	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）				＋合成樹脂防水カー	
	給湯管		○	○	○						
	給水管		○	○	○	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）					
	給水管・通気管	機械室、書庫、倉庫	○	○	○	＋原紙＋アルミガラスクロス					
	給湯管		○	○	○						
	給水管含む。	天井内、パイプシャフト内、 空腔壁中	●	○	○	アルミガラスクロス化軽保温筒					
	排水管・通気管		○	○	○	＋アルミガラスクロス粘着テープ					
	給湯管		○	○	○						
	給水管・消火管	屋外露出 （バルコニー、開放廊下含む）	○	○	●	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）			○	●	
通気管 （屋外露出、床下、 暗渠内は除く。） （排水管の分岐点 より100mm以下の 部分）	給水管	浴室、厨房等の多湿箇所 （厨房の天井内は含まない）	●	○	○	＋ポリエチレンフィルム＋外装材			○	●	
	給湯管		○	○	○						
	給水管	暗渠内（ピット内含む）	○	○	○	●	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）				
	給湯管		○	○	○	＋ポリエチレンフィルム ＋着色アルミガラスクロス					
	給水管		○	○	○						
	給湯管		○	○	○						
	給水管		○	○	○						
	給湯管		○	○	○						
	給水管		○	○	○						
	給湯管		○	○	○						
給排水衛生設備機器	鋼製タンク	室内	○	○	○	鉄（PSFの場合紙又は接着剤）			○	○	
	排水筒	屋外	○	○	○	＋保温板（厚さ25mm）					
	貯湯タンク	室内	○	○	○	＋ポリスチレンフィルム＋鉄線＋外装材			○	○	
	貯湯タンク	屋外	○	○	○	紙＋保温板（厚さ25mm）＋鉄線＋外装材					
	排水筒		○	○	○						
	排水筒		○	○	○	保温帯（厚さ50mm）＋鉄線					
	排水筒		○	○	○	＋アルミガラスクロス＋金網					
	排水筒		○	○	○						
	排水筒		○	○	○						
	排水筒		○	○	○						
空気調和設備配管	温水管	室内露出（一般居室、廊下）	○	○	○	保温筒＋鉄線＋合成樹脂防水カー					
	蒸気管		○	○	○						
	温水管	機械室、書庫、倉庫	○	○	○	＋アルミガラスクロス					
	蒸気管		○	○	○						
	温水管	天井内、パイプシャフト内、 空腔壁中	○	○	○	アルミガラスクロス化軽保温筒					
	蒸気管		○	○	○	＋アルミガラスクロス粘着テープ					
	温水管	屋外露出 （バルコニー、開放廊下含む）	○	○	○	保温筒＋鉄線			○	○	
	蒸気管	浴室、厨房等の多湿箇所 （厨房の天井内は含まない）	○	○	○	＋ポリエチレンフィルム＋外装材					
	温水管	暗渠内（ピット内含む）	○	○	○	●	保温筒＋鉄線＋ポリエチレンフィルム ＋アルミガラスクロス				
	蒸気管		○	○	○						
高気管 （低圧（0.1MPa未 満）の蒸気）	保温層	グラスウール保温層（GW） ロックウール保温層（RW）				温水管 25A以下：20mm、32A～50A：30mm、65A 以上：40mm					
	冷水管		○	○	○						
	冷水水管	室内露出（一般居室、廊下）	○	○	○	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）					
	冷媒管		○	○	○	＋ポリエチレンフィルム ＋着色アルミガラスクロス					
	冷水水管		○	○	○						
	冷媒管		○	○	○						
	冷水水管		○	○	○						
	冷媒管		○	○	○						
	冷水水管		○	○	○						
	冷媒管		○	○	○						
冷水管 （廊下管含む）	冷水管	室内露出（一般居室、廊下）	○	○	○	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）					
	冷水水管		○	○	○	＋ポリエチレンフィルム ＋着色アルミガラスクロス					
	冷媒管		○	○	○						
	冷水水管		○	○	○						
	冷媒管		○	○	○						
	冷水水管		○	○	○						
	冷媒管		○	○	○						
	冷水水管		○	○	○						
	冷媒管		○	○	○						
	冷水水管		○	○	○						
冷媒管	冷媒管	室内露出（一般居室、廊下）	○	○	○	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）					
	冷水水管		○	○	○	＋ポリエチレンフィルム ＋アルミガラスクロス					
	冷媒管		○	○	○						
	冷水水管		○	○	○						
	冷媒管		○	○	○						
	冷水水管		○	○	○						
	冷媒管		○	○	○						
	冷水水管		○	○	○						
	冷媒管		○	○	○						
	冷水水管		○	○	○						
ガス管	ガス管保温層 （20mm以上）					保温層保温層 10mm以上					
	屋内露出（一般居室、廊下）	○	○	○	○	○	合成樹脂防水カー	○	○	○	
	機械室、書庫、倉庫	○	○	○	○	○	合成樹脂防水カー	○	○	○	
	屋外露出	○	○	○	○	○	ステンレス鋼板	○	○	○	
	屋外露出	○	○	○	○	○	保温化熱ケース（○樹脂製 ○ 製）				
	屋外露出	○	○	○	○	○	保温化熱ケース（○樹脂製 ○ 製）				
	屋外露出	○	○	○	○	○	保温化熱ケース（○樹脂製 ○ 製）				
	屋外露出	○	○	○	○	○	保温化熱ケース（○樹脂製 ○ 製）				
	屋外露出	○	○	○	○	○	保温化熱ケース（○樹脂製 ○ 製）				
	屋外露出	○	○	○	○	○	保温化熱ケース（○樹脂製 ○ 製）				
空気調和設備機器	冷水水ヘッダー	室内	○	○	○	紙（PSFの場合紙又は接着剤）			○	○	
	冷水水ヘッダー	室内	○	○	○	＋保温板（厚さ50mm）					
	冷水水タンク	室内	○	○	○	＋ポリスチレンフィルム＋鉄線＋外装材					
	冷水水タンク	室内	○	○	○						
	冷水水タンク	室内	○	○	○						
	冷水水タンク	室内	○	○	○						
	冷水水タンク	室内	○	○	○						
	冷水水タンク	室内	○	○	○						
	冷水水タンク	室内	○	○	○						
	冷水水タンク	室内	○	○	○						
空気調和設備配管	熱交換器	室内	○	○	○	紙＋保温板（厚さ25mm）＋鉄線＋外装材					
	膨張タンク	室内	○	○	○						
	膨張タンク	室内	○	○	○	紙＋保温板（厚さ50mm）＋鉄線＋外装材					
	膨張タンク	室内	○	○	○						
	膨張タンク	室内	○	○	○						
	膨張タンク	室内	○	○	○						
	膨張タンク	室内	○	○	○						
	膨張タンク	室内	○	○	○						
	膨張タンク	室内	○	○	○						
	膨張タンク	室内	○	○	○						
空気調和設備配管	長方形ダクト （全熱交換器用 ダクトは、保温 厚25mmとする）	機械室、書庫、倉庫、屋内 廊下、ダクトシャフト内	○	○	○	紙＋アルミガラスクロス化軽保温 （厚さ25mm）＋アルミガラスクロス粘 着テープ					
	長方形ダクト （全熱交換器用 ダクトは、保温 厚25mmとする）	屋外露出 （バルコニー、開放廊下含む）	○	○	○	紙＋保温板（厚さ50mm）					
	長方形ダクト （全熱交換器用 ダクトは、保温 厚25mmとする）	浴室、厨房等の多湿箇所 （厨房の天井内は含まない）	○	○	○	＋ポリスチレンフィルム＋鉄線＋外装材					
	長方形ダクト （全熱交換器用 ダクトは、保温 厚25mmとする）	厨房の天井内は含まない）	○	○	○						
	長方形ダクト （全熱交換器用 ダクトは、保温 厚25mmとする）	室内露出（一般居室、廊下）	○	○	○	●	保温筒（厚さ50mm）＋外装材				
	長方形ダクト （全熱交換器用 ダクトは、保温 厚25mmとする）	天井内、パイプシャフト内	○	○	○	アルミガラスクロス化軽保温筒（厚 さ25mm）＋アルミガラスクロス粘 着テープ					
	長方形ダクト （全熱交換器用 ダクトは、保温 厚25mmとする）	屋外露出 （バルコニー、開放廊下含む）	○	○	○	保温板（厚さ50mm）					
	長方形ダクト （全熱交換器用 ダクトは、保温 厚25mmとする）	浴室、厨房等の多湿箇所 （厨房の天井内は含まない）	○	○	○	＋ポリスチレンフィルム＋鉄線＋外装材					
	長方形ダクト （全熱交換器用 ダクトは、保温 厚25mmとする）		○	○	○						
	長方形ダクト （全熱交換器用 ダクトは、保温 厚25mmとする）		○	○	○						
消音内張り	消音チャンバー	室内	○	○	○	紙＋保温板（厚さ50mm）					
	消音チャンバー	室内	○	○	○	＋ガラスクロス＋鋼きつ甲金網					
	消音チャンバー	室内	○	○	○	紙＋保温板（厚さ25mm）＋ガラスクロス					
	消音チャンバー	室内	○	○	○	紙＋アルミガラスクロス化軽保温 （厚さ25mm）＋アルミガラスクロス粘 着テープ＋きつ甲金網					
	消音チャンバー	室内	○	○	○						
	消音チャンバー	室内	○	○	○						
	消音チャンバー	室内	○	○	○						
	消音チャンバー	室内	○	○	○						
	消音チャンバー	室内	○	○	○						
	消音チャンバー	室内	○	○	○						
排煙ダクト	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
煙道	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						
	長方形	室内廊下、	○	○	○						



凡 例

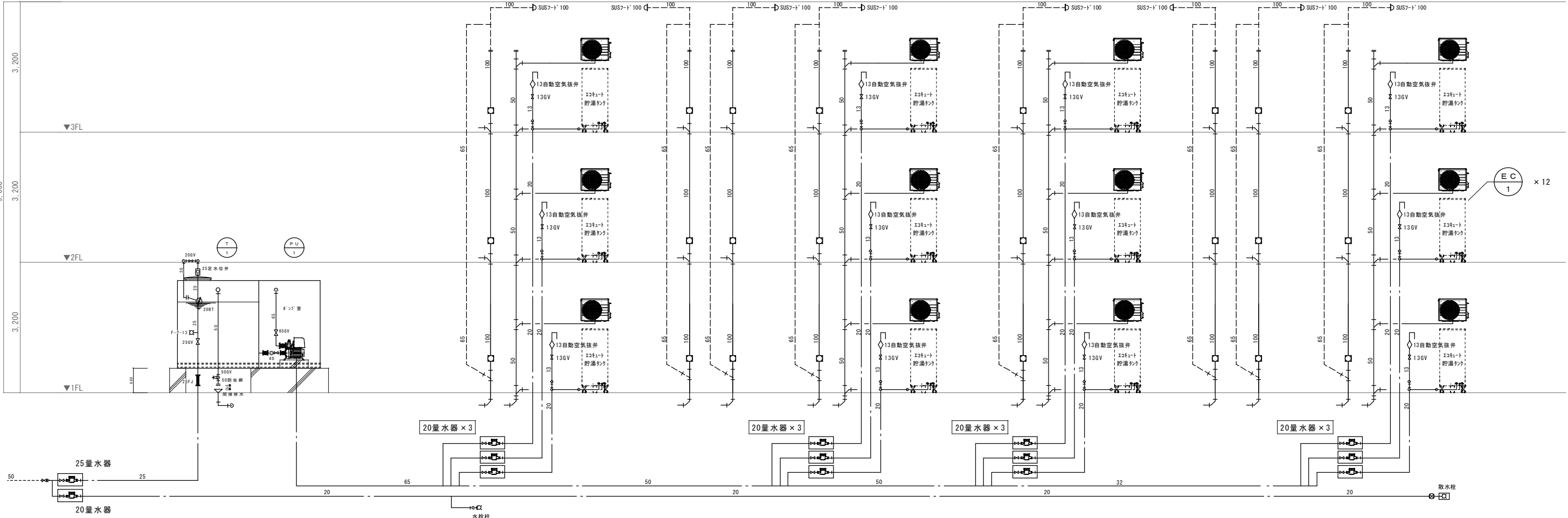
記号	名称	使用材料	規格	備考
—— ○ ——	ドレン管	硬質ポリ塩化ビニル管 (屋内一般部分)	JIS K 6741	VP
		耐熱性硬質ポリ塩化ビニル管 (エキート排水部分)	JIS K 6776	HTVP
—— ⊥ ——	汚水管	耐火二層管 (一般部分)	JIS K 6741	VP
	〃	硬質塩化ビニル管 (ビット・土間・土中埋設部分)	JIS K 6741	VP
—— ⊥ ——	排水管	耐火二層管 (一般部分)	JIS K 6741	VP
	〃	硬質塩化ビニル管 (ビット・土間・土中埋設部分)	JIS K 6741	VP
—— - ——	給水管	ビニルライニング鋼管 (一般部分)	JWWA K 116	SGP-VB
	〃	ビニルライニング鋼管 (土間・土中埋設部分)	JWWA K 116	SGP-VD
—— ——	給湯管	耐熱ビニルライニング鋼管 (一般部分)	JWWA K 140	H-VA
		耐熱ビニルライニング鋼管 (土中埋設部分)	JWWA K 140	H-VD
		架橋ポリエチレンパイプ (ふろ配管部分)	JIS K 6769	XPEP
⊠ ⊠	ゲートバルブ	JIS-5kgf (一般部) JIS-10kgf (直結部) 給水用コア付		
⊠ ⊠	ハタフラハルフ	JIS-10kg 65A以上 ステンレス製		
N	チャッキバルブ	JIS-10kgf (一般部) SUS製 65A以上		
⊙	床上掃除口			
⊙	床・流し排水金物			
⊠	給水栓			
⊠	給湯栓			
⊠	混合水栓			
⊠	シャワー水栓			
⊠	散水栓			
⊠ ⊠	ガスカラン			
⊠ ⊠	汚水樹	塩ビ製既製樹		
⊠ ⊠	雨水樹	樹脂製既製樹		

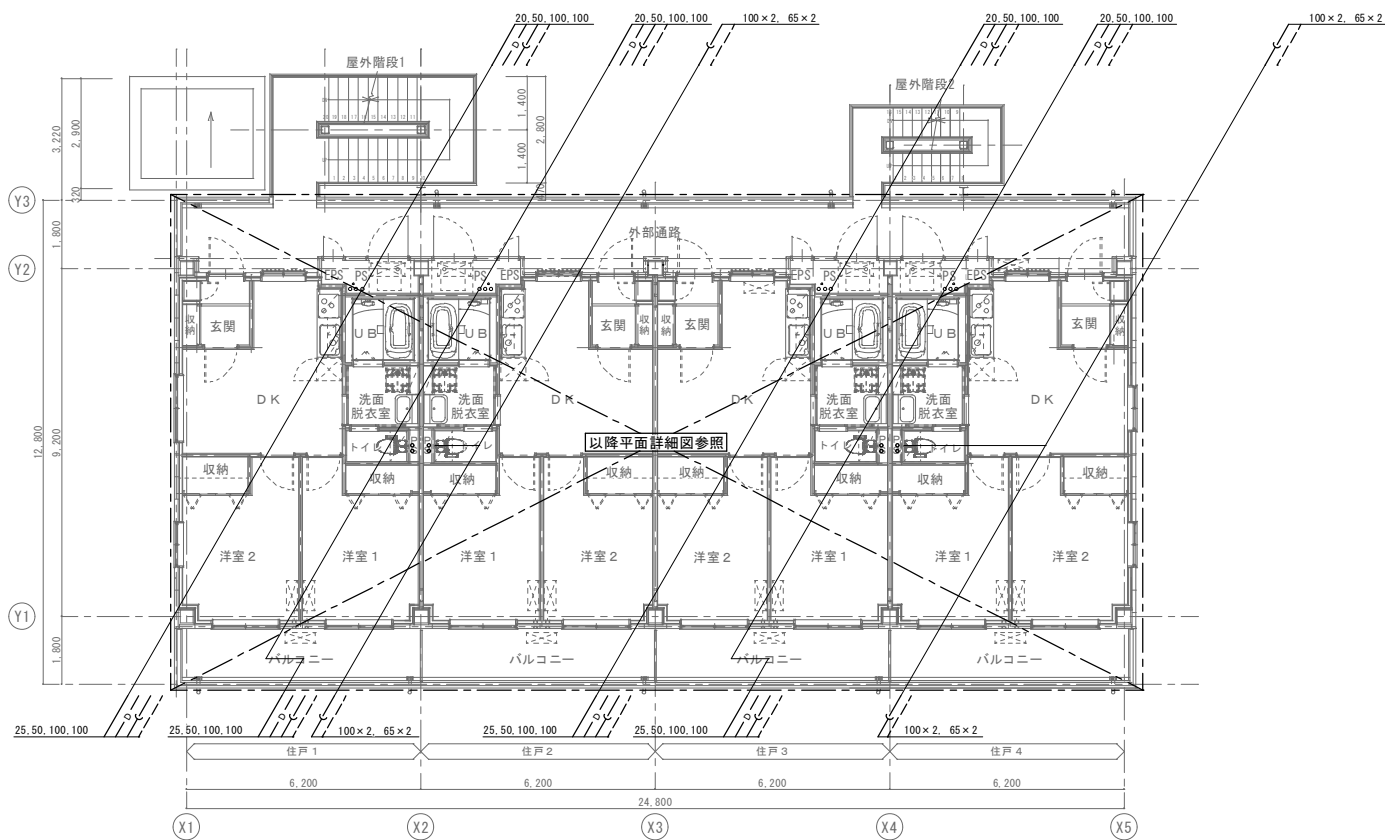
樹 リ ス ト

[illegible]

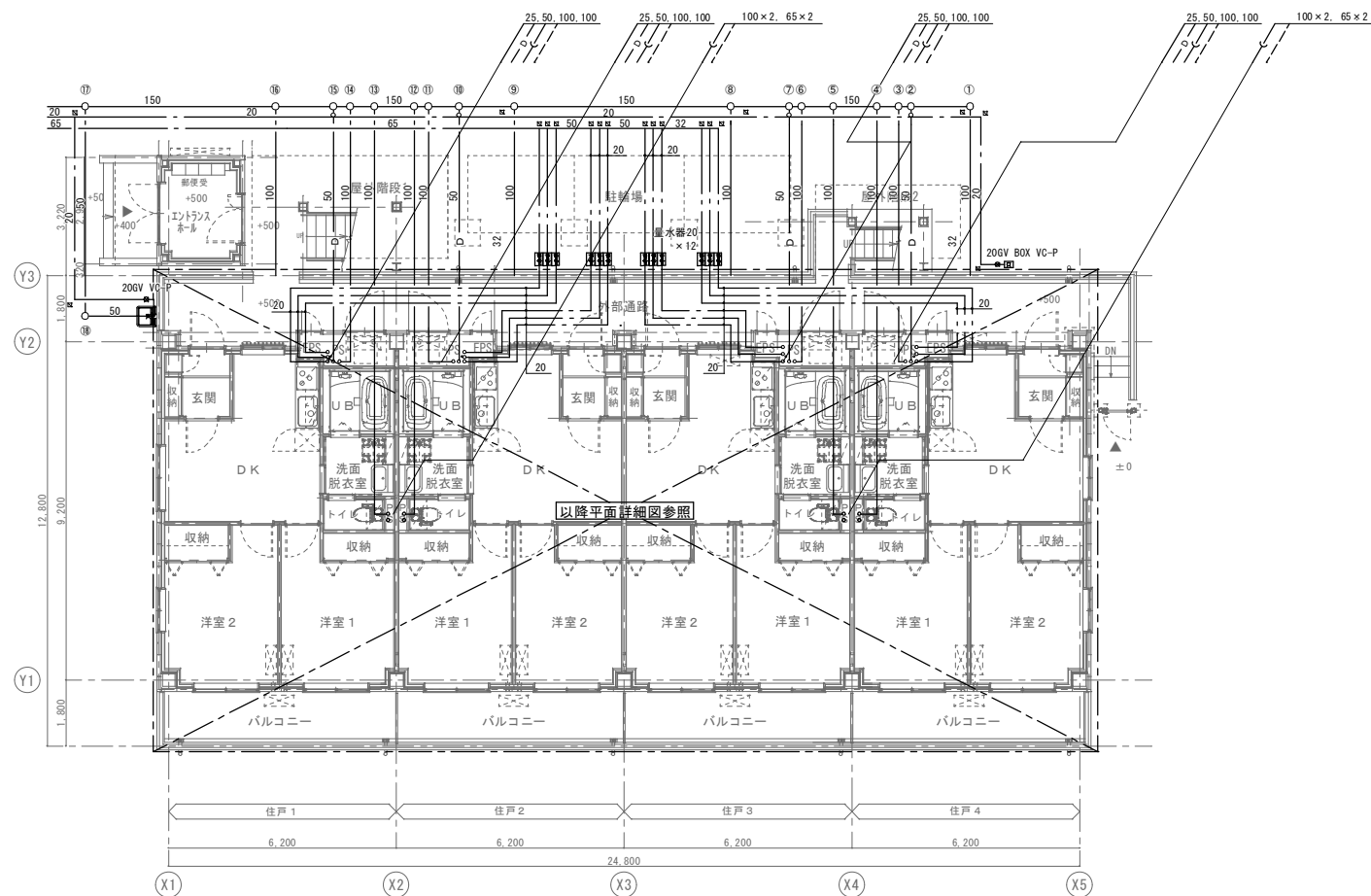
衛生器具表

名 称	TOTO参考品番	LIXIL参考品番	仕 様	1 F								2 F								3 F								屋外								合 計	備 考			
				住								住								住																				
				居								居								居																				
洋 風 便 器	CS215BPR & SH215BAS TCF6623	BC-Z30PM & DT-Z380PM CW-KB31	床給水 手洗付密結タンク 温水暖房便座	4								4							4																	1 2	付属品共			
紙 巻 器	YH701	CF-63HST	SUS製 スペアー付	4								4							4																		1 2	付属品共		
洗 濯 機 パ ン	PWP640N2W & PJ2008NW	PF-6464AC & TP-52	640×640	4								4							4																			1 2		
洗 濯 機 用 水 栓	TWAS10A1A	LF-54RHQ-DS	(緊急止水)	4								4							4																			1 2		
散 水 栓	T28UNH13	LF-33-13-CV	自動接手 SUS BOX共																																		1	1		
水 栓 柱			合成樹脂製 H1200																																		1	1		
横 水 栓	T200SNR13	LF-7R-13	F7-13																																		1	1		
屋 外 流 し	550-G型		ポリプロピレン製 専用樹脂製スタンド共																																		1	1		
シャワー水栓			ユニットバス付属品 (混合水栓)	4								4							4																			1 2	建築工事 接続のみ機械設備工事	
洗面器水栓			洗面化粧台付属品 (混合水栓)	4								4							4																			1 2	建築工事 接続のみ機械設備工事	
台所流し水栓			システムキッチン付属品 (混合水栓)	4								4							4																			1 2	建築工事 接続のみ機械設備工事	

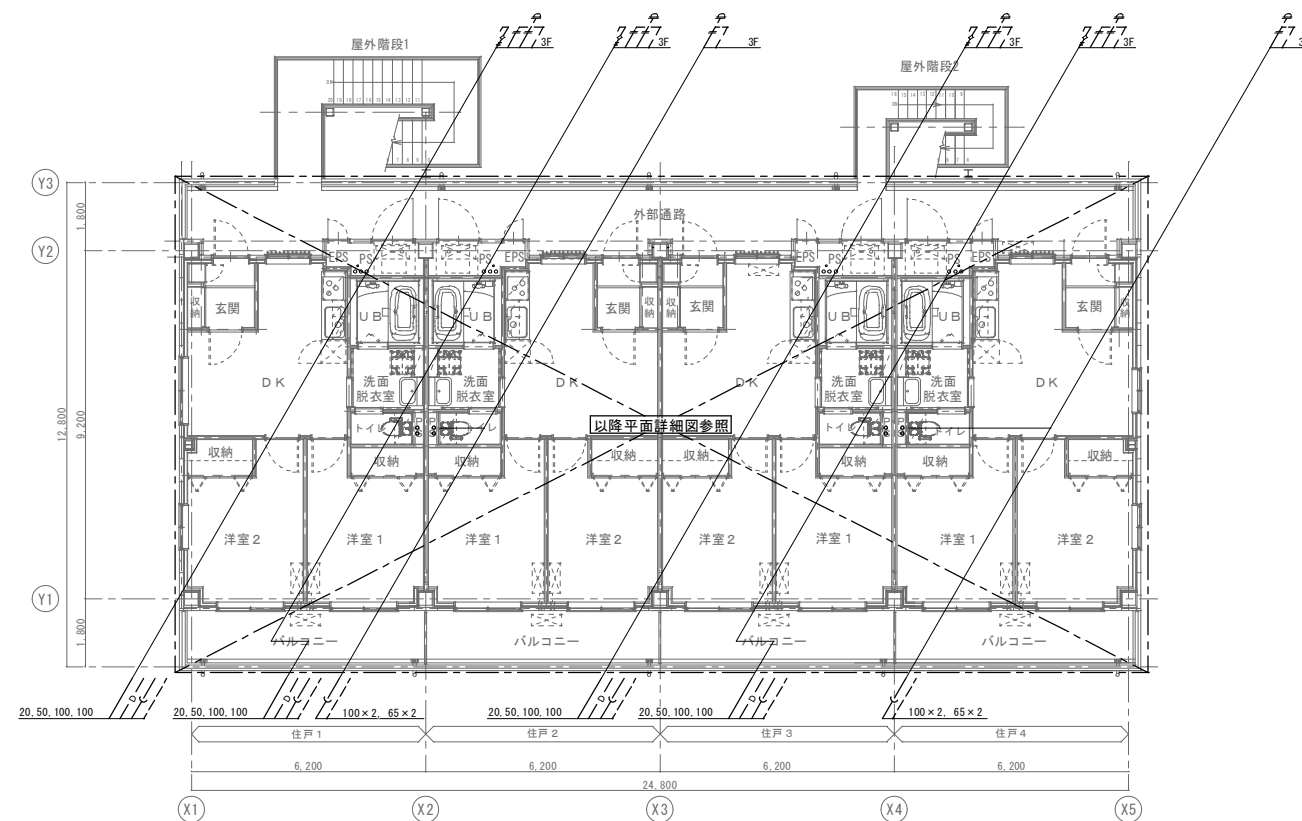




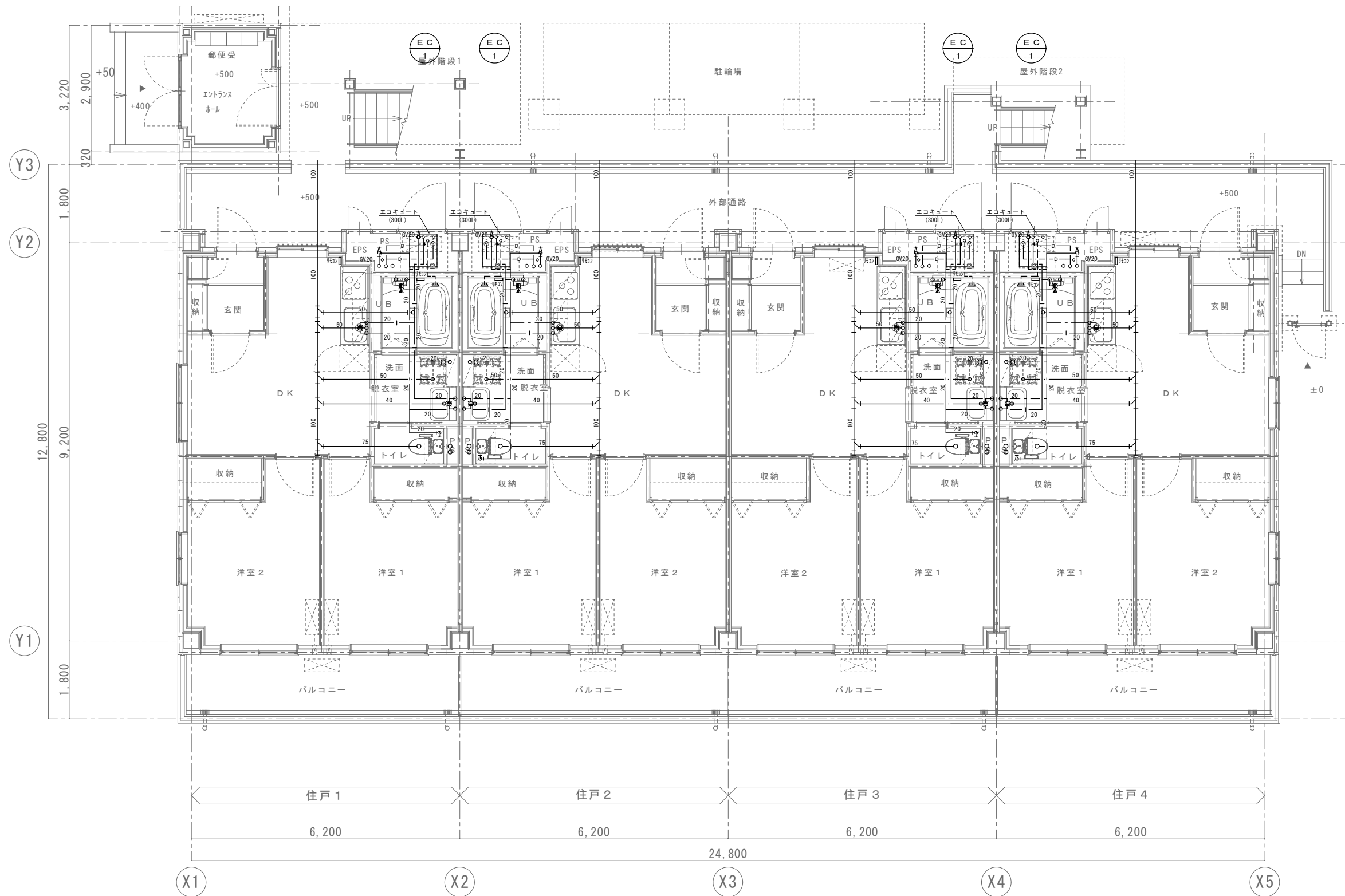
2階平面図 S. 1:100



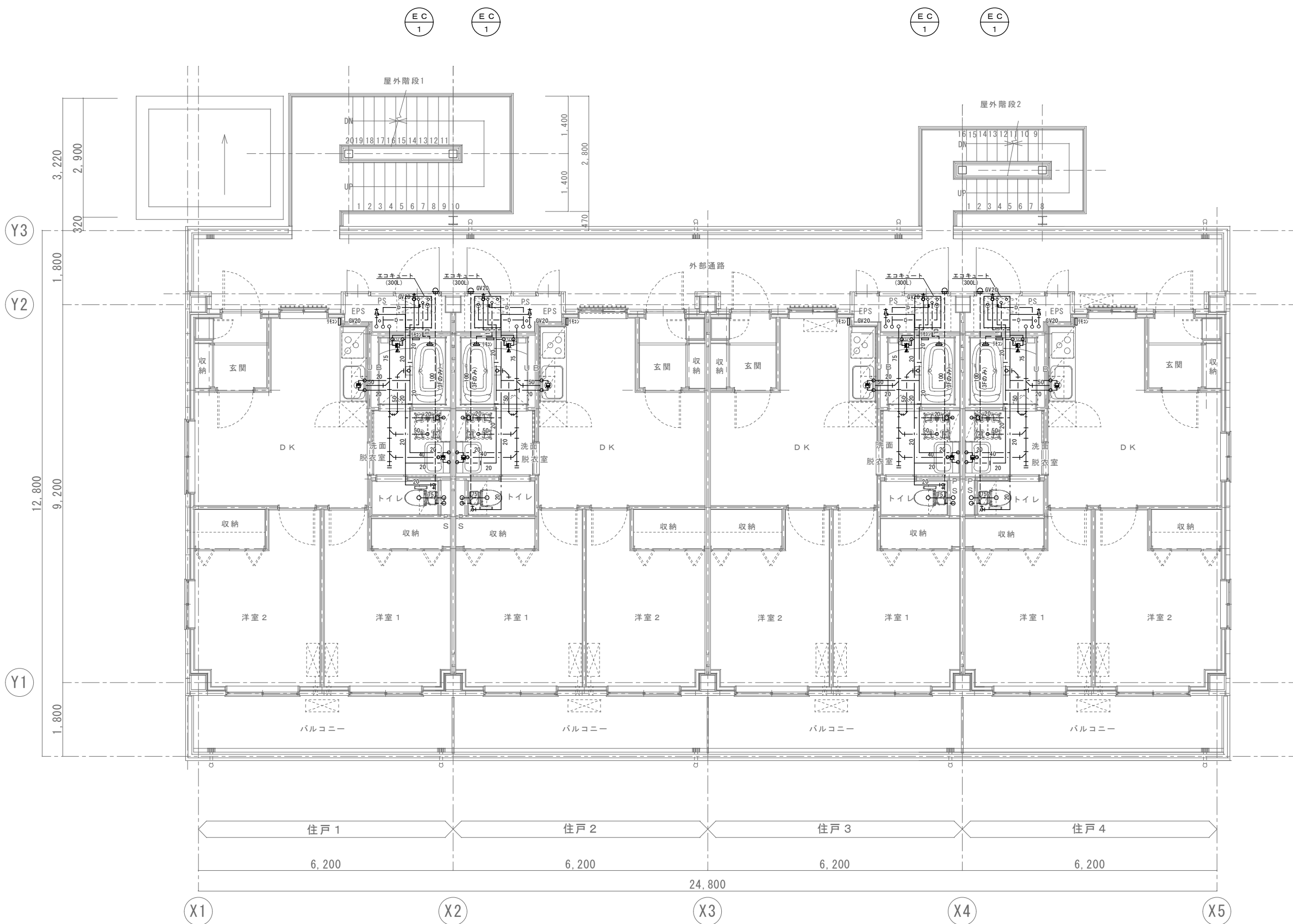
1階平面図 S. 1:100



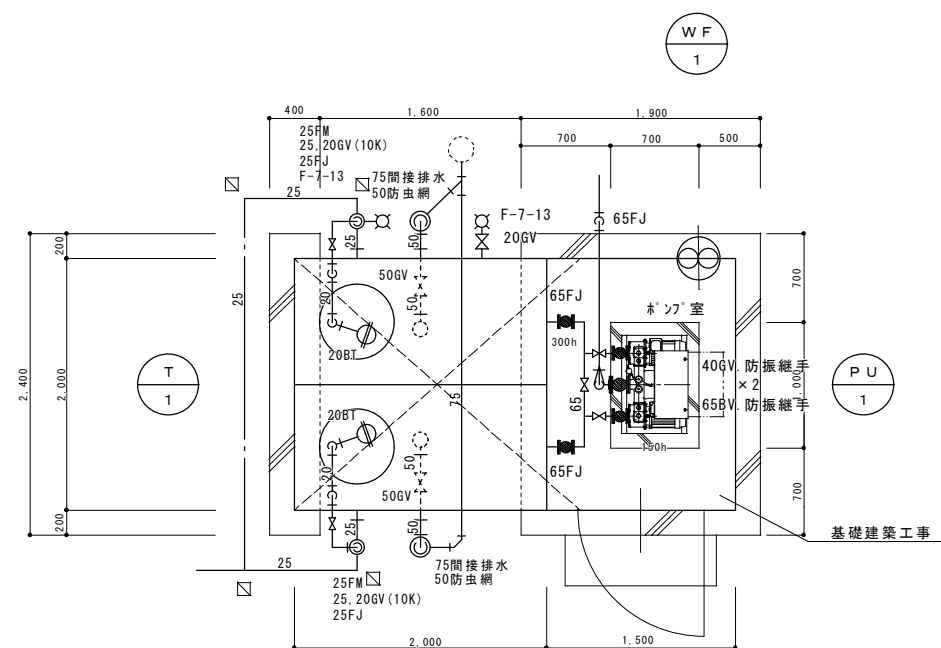
3階平面図 S. 1:100



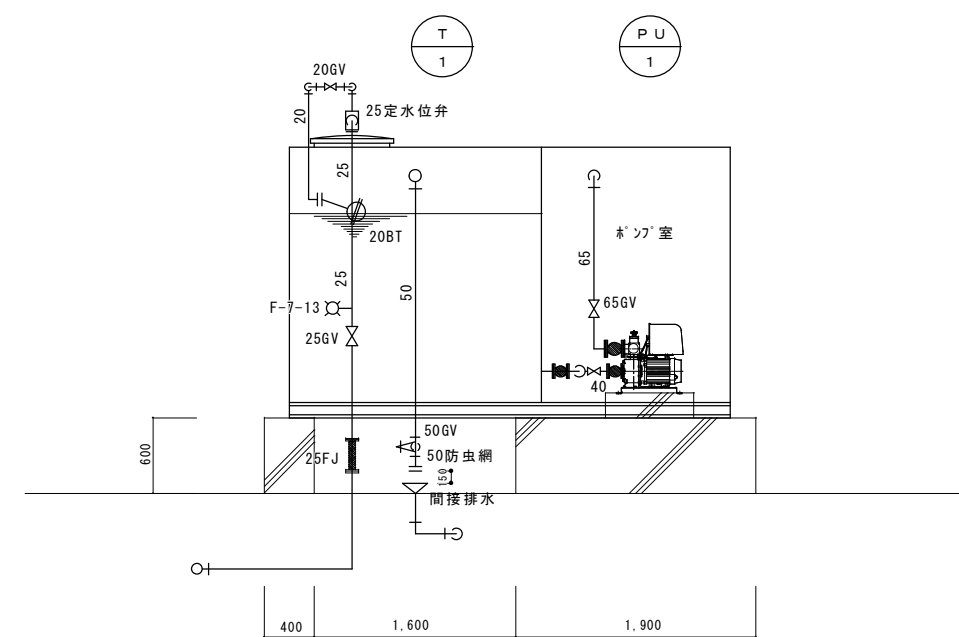
1階平面図 S. 1:50



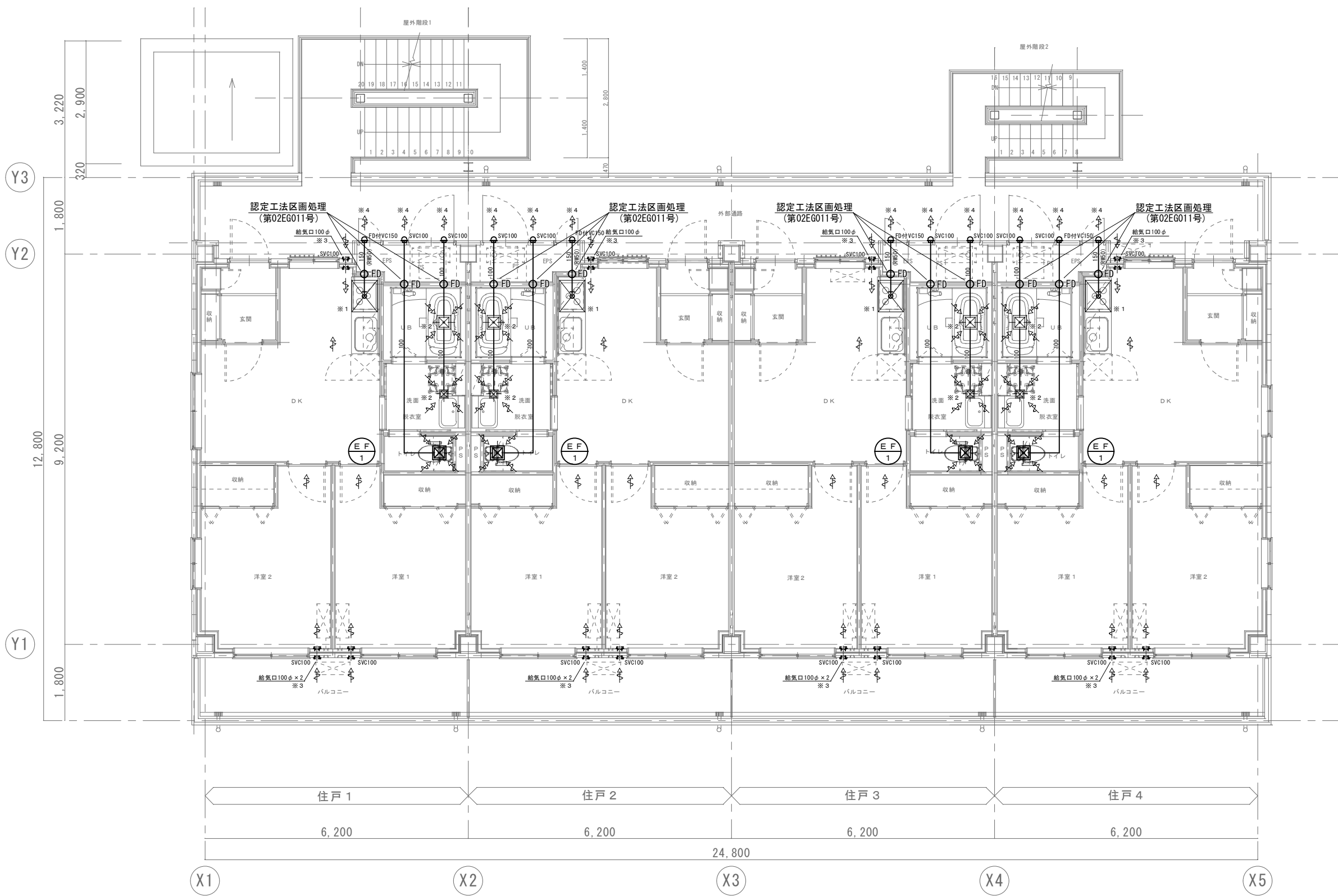
2 階 3 階 平面図 S.1:50



受水槽詳細図 S=1:30



受水槽断面図 S=1:30



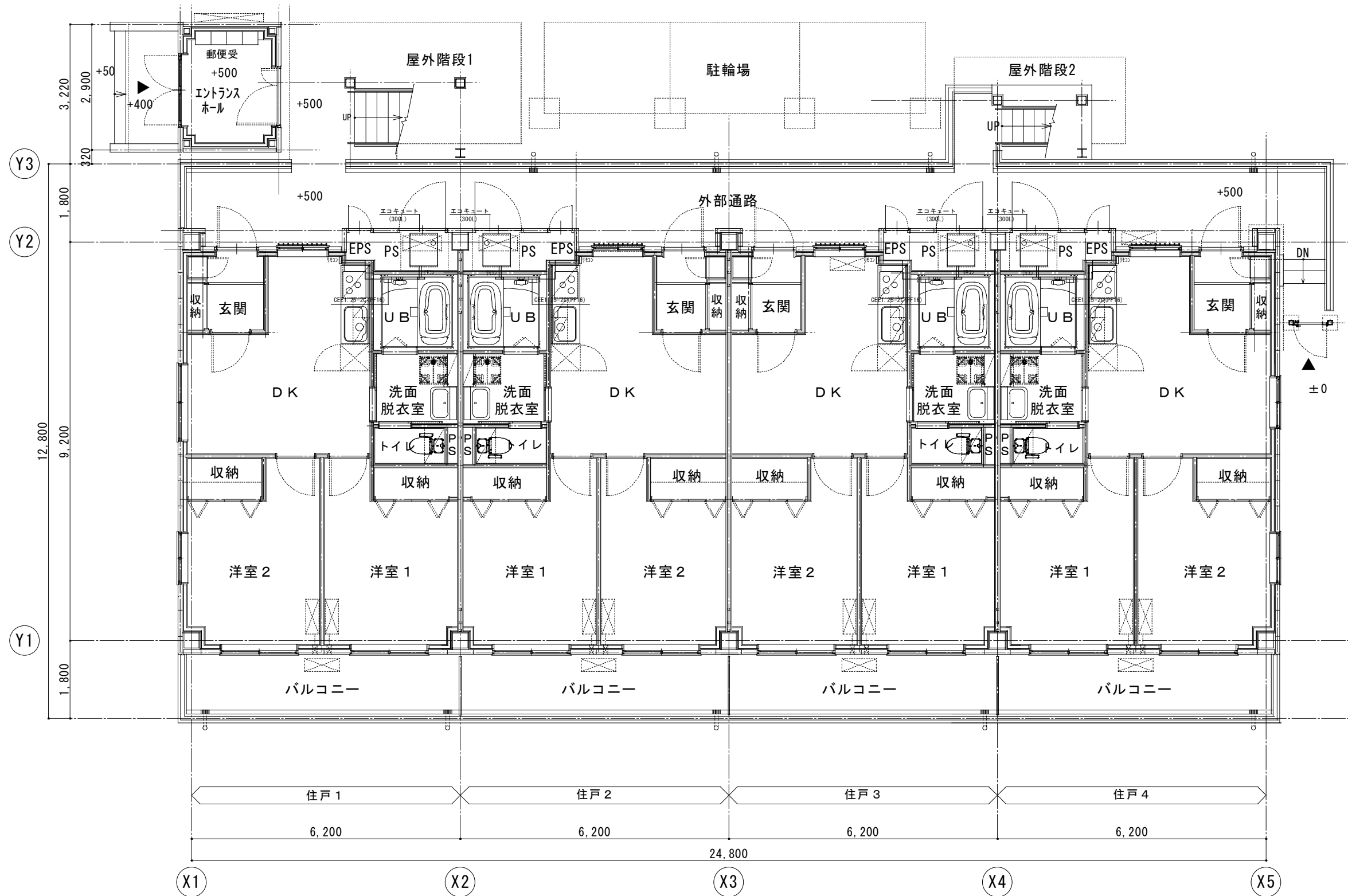
- ※ 1 D K レンジフードは建築工事
- ※ 2 U B 洗面脱衣室の2室換気扇は建築工事
- ※ 3 給気口は建築工事
- ※ 4 V Cより1 mスパイラルダクト保温

桑田建築設計事務所
A.KUWATA ARCHITECT & ASSOCIATES

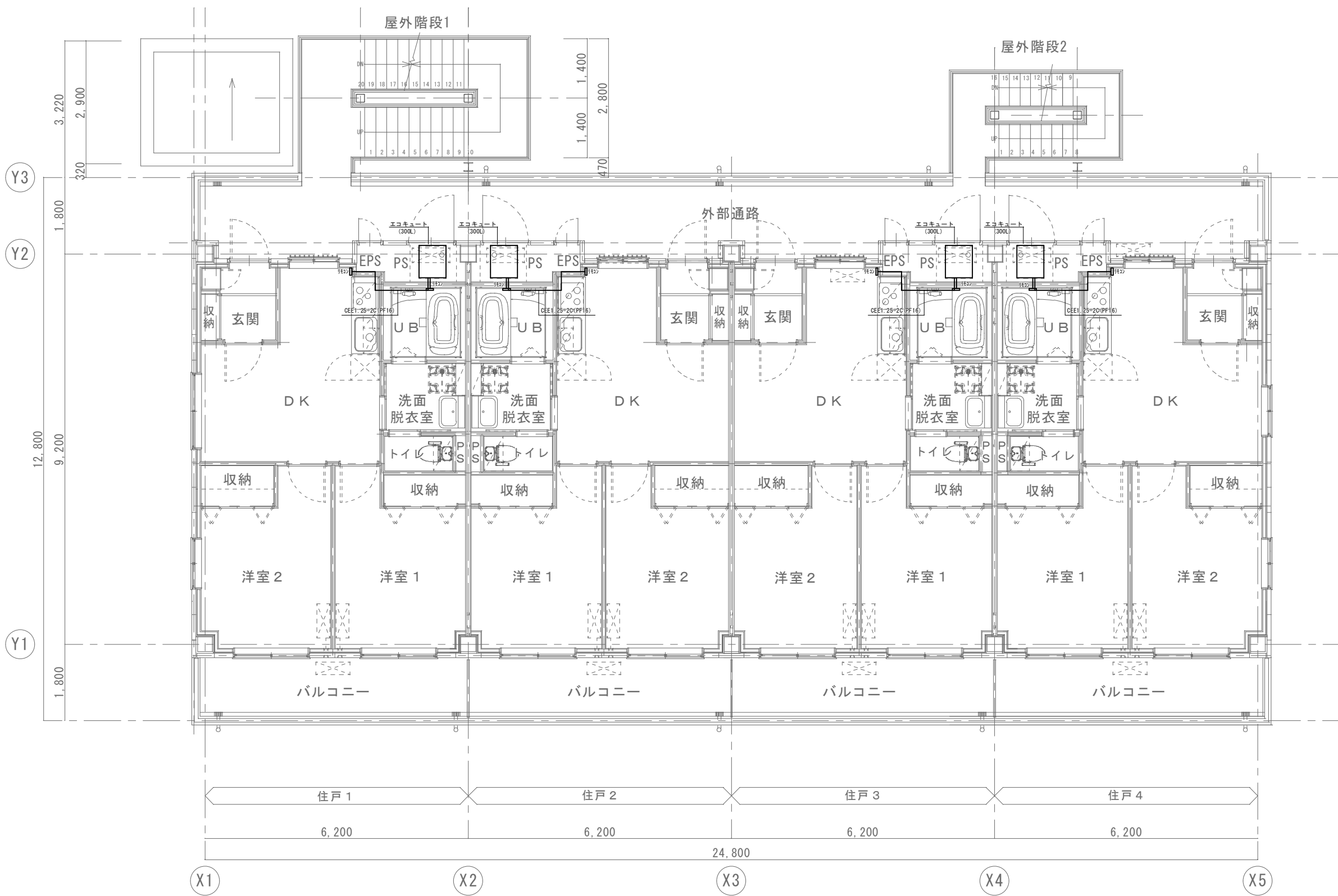
旭第二宿舎建設工事
一般建築士事務所
安達 文 宏

7・3・
(A1) S=1: 50
(A3) S=1:100

旭第二宿舎建設工事
換気設備 平面詳細図



1階平面図 S. 1:50



2 階 3 階 平面図 S. 1:50